千葉県文化財センター調査報告第488集

芝山町御田台遺跡

―代替地用地内埋蔵文化財調査報告書―

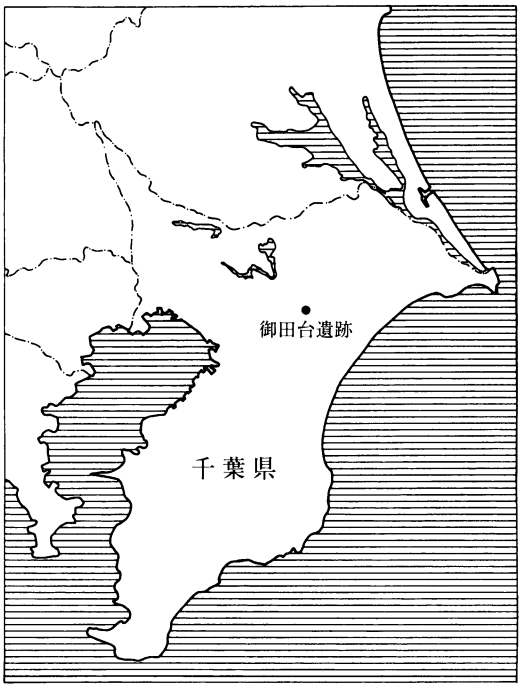
平成16年3月

新東京国際空港公団

財団法人　千葉県文化財センター

芝山町御田台遺跡

―代替地用地内埋蔵文化財調査報告書―



序　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第488集として，新東京国際空港公団の空港関連代替地造成事業に伴って実施した山武郡芝山町御田台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，古墳時代から奈良時代にかけての多くの竪穴住居跡や掘立柱建物跡とともに，多量の土器が検出されており，この地域の当該期の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また郷土史の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成16年３月25日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　清　水　新　次

凡　例

1　本書は，新東京国際空港公団による空港関連代替地造成事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県山武郡芝山町小池元高田字荒追1357ほかに所在する御田台遺跡（遺跡コード409－020）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，新東京国際空港公団の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者及び実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆・編集は，主席研究員栗田則久が担当した。土器の実測は木島桂子が担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化財課，新東京国際空港公団，芝山町教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は，以下のとおりである。

第２図　国土地理院発行　1/25,000地形図　「多古」（NI－54－19－10－２）

第３図　芝山町発行　　1/2,500都市計画図　「芝山町」（23・27）

8　周辺地形の航空写真は，京葉測量株式会による平成５年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。測量については，日本測地系に基づいている。

10　本書で使用した遺構の種別・番号は，調査時の番号を踏襲した。

本文目次

序　文

凡　例

第1章　はじめに ……1

第1節　調査の概要 ……1

1　調査の経緯と経過 ……1

2　調査の方法と概要 ……2

第2節　遺跡の位置と環境 ……2

1　遺跡の位置 ……2

2　遺跡の歴史的環境 ……5

第2章　検出した遺構と遺物 ……8

第1節　竪穴住居跡 ……8

第2節　掘立柱建物跡 ……115

第3節　土坑 ……118

第4節　柵列状遺構 ……124

第5節　溝状遺構 ……125

第6節　グリッド出土遺物 ……125

第3章　まとめ ……127

第1節　出土土器について ……127

第2節　集落の変遷について ……129

報告書抄録……巻末

挿図目次

第１図　グリッド名称例
第２図　御田台遺跡の位置と周辺の遺跡
第３図　御田台遺跡の調査範囲と周辺の地形
第４図　遺構配置図
第５図　確認調査トレンチ及びグリッド配置図
第６図　SI001～005，008
第７図　SI009・011
第８図　SI010・015・022
第９図　SI013・014・016
第10図　SI017・018・019
第11図　SI020・021・023
第12図　SI024・026
第13図　SI025・027・028・051
第14図　SI029・030・032
第15図　SI031・033・035
第16図　SI034・038・050・052
第17図　SI037・039
第18図　SI040～042，044
第19図　SI046・047
第20図　SI053～055
第21図　SI058・059
第22図　SI060～062
第23図　SI063・064・069
第24図　SI065・068
第25図　SI070～072
第26図　SI073～075
第27図　SI076～078，080
第28図　SI081・082
第29図　SI001・002・004・005・008～010出土土器
第30図　SI010・011・013・出土土器
第31図　SI014～017出土土器
第32図　SI017～020出土土器
第33図　SI020出土土器
第34図　SI020出土土器
第35図　SI020出土土器
第36図　SI020～024出土土器
第37図　SI024～028出土土器
第38図　SI029出土土器
第39図　SI030～033出土土器
第40図　SI034・035，037～039出土土器
第41図　SI039出土土器
第42図　SI040・041出土土器
第43図　SI042・044・046・047出土土器
第44図　SI051～053出土土器
第45図　SI054出土土器
第46図　SI055・058・059出土土器
第47図　SI060～065，068出土土器
第48図　SI068～070，072・073出土土器
第49図　SI074～076出土土器
第50図　SI077・078，080～082出土土器
第51図　竪穴住居跡出土鉄製品
第52図　竪穴住居跡出土石製品・土製品
第53図　竪穴住居跡出土支脚
第54図　竪穴住居跡出土砥石・軽石
第55図　SB001・002
第56図　SB001出土土器
第57図　SB005～007
第58図　SK006・010・016・020・024・025
第59図　SK021・023
第60図　SK015・026・027
第61図　SK015・016・017・020・021・023・027
出土土器
第62図　SA001
第63図　SD007・009出土土器
第64図　SD007出土鉄斧
第65図　グリッド出土土器
第66図　グリッド出土支脚
第67図　グリッド出土石鏃
第68図　御田台遺跡集落変遷図（１）
第69図　御田台遺跡集落変遷図（２）

図版目次

図版１　遺跡周辺航空写真(平成５年１月22日撮影)
図版２　遺跡航空写真（北西から）
遺跡航空写真（南西から）
遺跡航空写真（南東部分）
図版３　SI001全景
SI002全景
SI003全景
図版４　SI004全景
SI008全景
SI009全景
図版５　SI010全景
SI010カマド付近遺物出土状況
SI013全景
図版６　SI014全景
SI015全景
SI016全景
図版７　SI017全景
SI017遺物出土状況
SI017貯蔵穴付近遺物出土状況
図版８　SI018全景
SI019全景
SI020全景
図版９　SI021全景
SI022全景
SI023全景
図版10　SI024全景
SI025全景
SI026全景
図版11　SI027全景
SI028全景
SI029全景
図版12　SI029カマド付近遺物出土状況
SI030・032全景
SI031全景
図版13　SI033全景
SI033カマド状況
SI034全景
図版14　SI035全景
SI037全景
SI038全景
図版15　SI039全景
SI039カマド付近遺物出土状況
SI040全景
図版16　SI041全景
SI042全景
SI044全景
図版17　SI046全景
SI047全景
SI050全景
図版18　SI051・028全景
SI052全景
SI053・SK015全景
図版19　SI054全景
SI055全景
SI058全景
図版20　SI059全景
SI061全景
SI062全景
図版21　SI063全景
SI064全景
SI065・068全景
図版22　SI068全景
SI069全景
SI070全景
図版23　SI071全景
SI072全景
SI073全景
図版24　SI074全景

SI075全景
SI076全景
図版25　SI077・082全景
SI078全景
SI080全景
図版26　SI081全景
SI082全景
SB001全景
図版27　SB006全景
SK010全景
SD007全景
図版28　竪穴住居跡出土土器（1）
図版29　竪穴住居跡出土土器（2）
図版30　竪穴住居跡出土土器（3）
図版31　竪穴住居跡出土土器（4）
図版32　竪穴住居跡出土土器（5）
図版33　竪穴住居跡出土土器（6）
図版34　出土鉄製品

表　目　次

第1表　竪穴住居跡観察表
第2表　竪穴住居跡出土土器観察表
第3表　竪穴住居跡出土金属製品観察表
第4表　竪穴住居跡出土土製品・石製品観察表
第5表　掘立柱建物跡観察表

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査の経緯と経過

新東京国際空港公団は，空港整備の一環として，用地内に所在する宅地の移転に伴う代替地を計画し，その造成工事が行われることとなった。

実施にあたって，新東京国際空港公団から事業用地内の「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会文書が，千葉県教育委員会あてに提出された。千葉県教育委員会ではこれを受けて，事業地内の現地踏査を実施し，事業地内に埋蔵文化財が所在する旨の回答を行った。その取扱いについて，千葉県教育委員会と新東京国際空港公団との慎重な協議が重ねられた。その結果，現状保存が困難な地点については，やむを得ず記録保存の措置を講ずることで協議が整い，財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査は，平成13年８月から開始され，平成14年３月にすべての発掘調査が終了した。整理作業は，平成14年度・平成15年度の２か年にわたって行われた。

発掘調査及び整理作業に関わる各年度の組織・担当職員及び作業内容は以下のとおりである。

（１）発掘調査

平成13年度

調査期間：平成13年８月１日～平成14年３月29日

内容：（上層）確認調査　10,135㎡のうち1,014㎡

本調査　10,135㎡

（下層）確認調査　10,135㎡のうち203㎡

本調査　なし

組織：東部調査事務所長　折原　繁

担当者：上席研究員　遠藤治雄　　研究員　城田義友

（２）整理作業

平成14年度

内容：水洗注記の一部から挿図作成の一部まで

組織：資料部整理課長　石田廣美

担当者：主席研究員　栗田則久

平成15年度

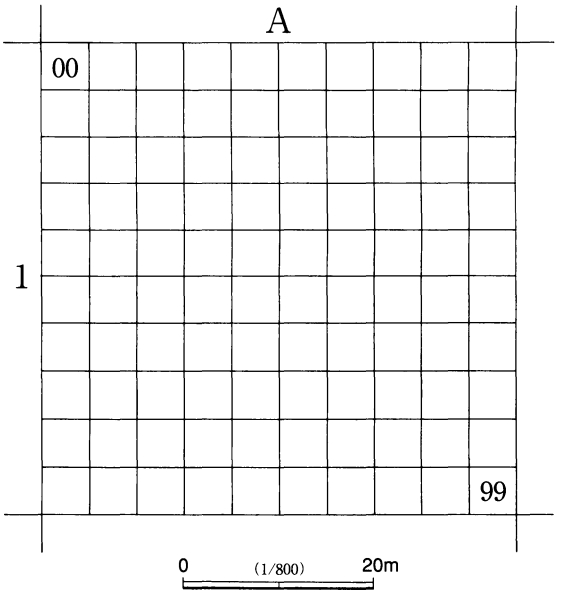
内容：挿図作成の一部から原稿執筆まで

組織：調査部副部長兼整理課長　深澤　克友

担当者：主席研究員　栗田則久

2　調査の方法

調査にあたっては，国土方眼座標（第Ⅸ座標系）に基づいたグリッドの設定を行っている。調査対象範囲を覆うように，50×50mの方眼網を設定し，これを大グリッドとした。大グリッドの名称は，南北方向を北から1，2，3・・・・・，東西方向は西からA，B，C・・・・・とし，この数字とアルファベットを組み合わせて大グリッド名とした。さらに，この大グリッドを5m×5mの小グリッドに100分割し，北から00～90，西から00～09とした。この大グリッドと小グリッドを組み合わせて，例えば3D－45のように呼称した（第1図）。



第1図　グリッド名称例

上層の確認調査は，まず調査対象面積の10%について，トレンチを設定して遺構の種類や時期及び遺構の広がりを知るために確認調査を行った。このトレンチは，調査地の地形や調査範囲などにあわせて設定した。その結果，ほぼ調査対象範囲全域に古墳時代から奈良・平安時代の集落が存在していることが明らかとなり，調査対象範囲全域について本調査を実施することとなった。本調査の結果，古墳時代から奈良時代にかけての竪穴住居跡69軒，奈良時代の掘立柱建物跡5棟などが検出された。なお，本調査にあたっては，各遺構に種別ごとの通し番号を付し，整理作業においても調査時の遺構番号を踏襲している。遺構の種別については，アルファベットの略称で，竪穴住居跡をSI，掘立柱建物跡をSB，井戸を含む土坑をSK，溝状遺構をSDとし，これに通し番号を付した。

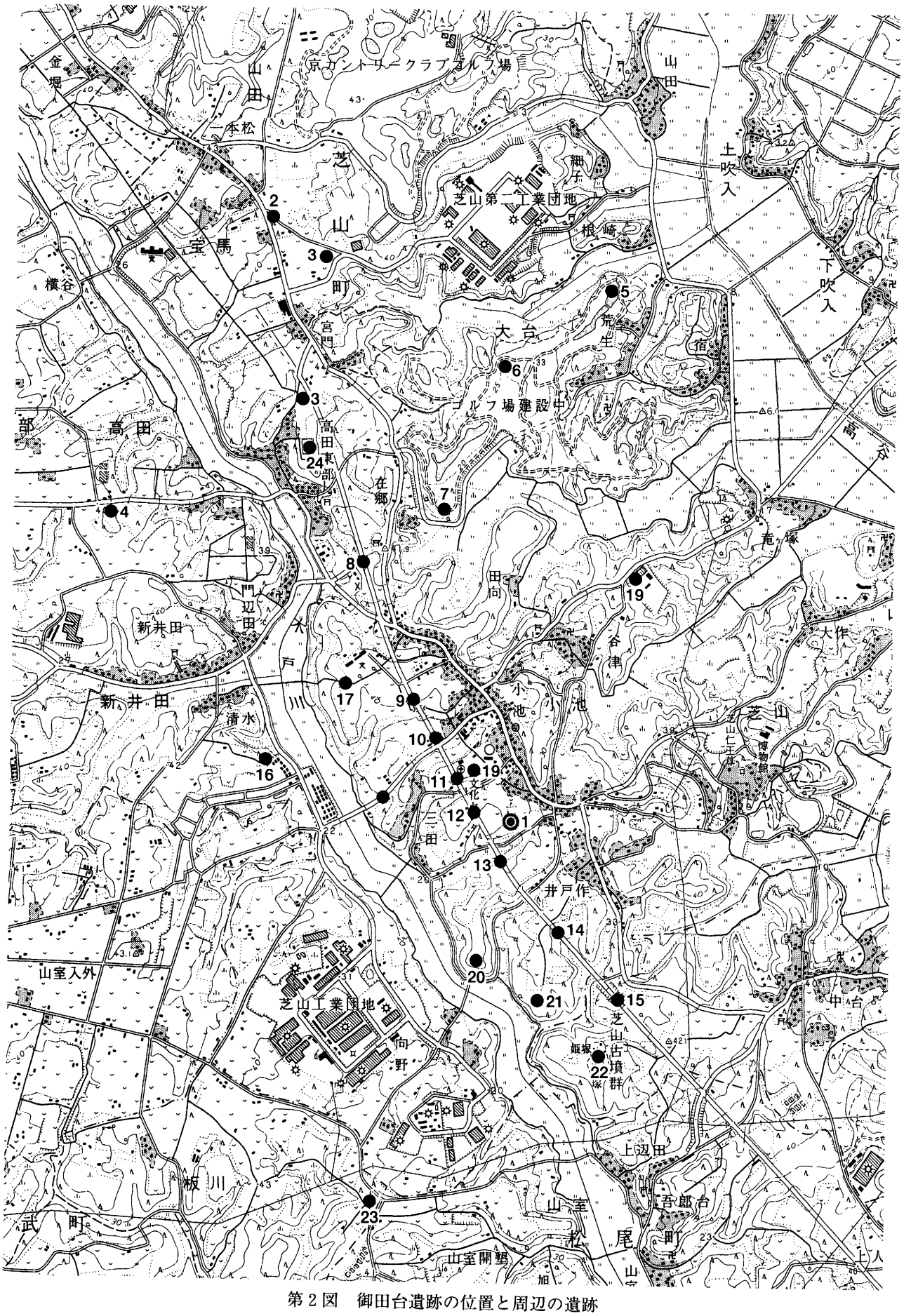
上層の本調査終了後，調査対象面積の4%について2m×2mのグリッドを設定し，一部重機（クラムシェル）を併用して，下層の確認調査を行った。その結果，遺物の出土が確認されなかったため，本調査は行わず，確認調査で終了とした。

第2節　遺跡の位置と環境（第2・3図）

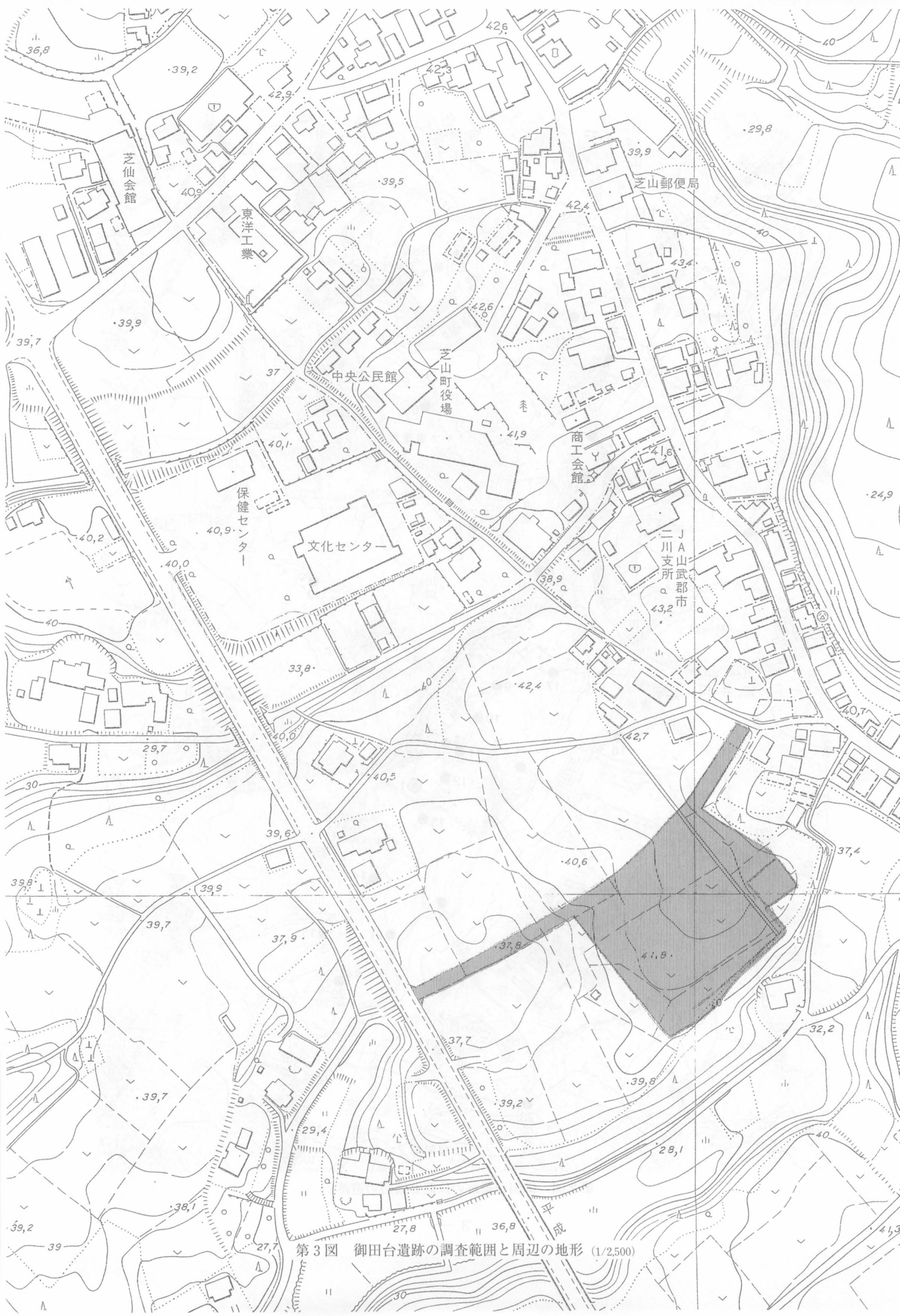
1　地理的環境

御田台遺跡の所在する芝山町は，下総台地のほぼ中央にあり，太平洋に流入する木戸川及び栗山川の支流である高谷川によって開析された下総台地及び沖積地で構成されている。この木戸川及び栗山川に挟まれた台地は，成田市から松尾町へ続く北西から東南方向に延びる細長い舌状台地をとして形成される。この台地を流域ごとに概観すると，高谷川に面する台地は，多くの小支谷が台地奥まで細長い舌状台地を呈し，かなり複雑な地形となっている。一方，木戸川流域側の台地は開析が奥まで至らず，平坦な小台地が並ぶ状況を呈している。

御田台遺跡は，この木戸川流域に面する小さな台地の奥部に位置し，高谷川から延びる支谷との分水界付近に相当する。調査地は，木戸川から延びる小支谷によって台地南側が開析された東西300mほどの東西方向に長い舌状台地の東側半分程度である。南側は谷に面する部分になるため若干傾斜しているが，ほとんどは平坦地で，標高41m，南側の谷からの比高差は約12mである。



第２図　御田台遺跡の位置と周辺の遺跡



第3図　御田台遺跡の調査範囲と周辺の地形 (1/2,500)

2　歴史的環境

御田台遺跡の所在する木戸川及び高谷川流域には，殿塚・姫塚古墳に代表されるように，数多くの遺跡が確認されている。ここでは，古墳時代以降の主な遺跡を取り上げて，歴史的様相を概観してみる。

古墳時代の集落に目を向けると，前期に相当する遺跡は現在のところ確認されておらず，中期になってようやく姿を現すようになる。芝山町では多くの集落が調査されているが，中期の遺構が調査されているのは，宮門遺跡（8）などで中期後半の竪穴住居跡が数軒検出されている程度である。このような状況は芝山町に限らず，九十九里沿岸の一般的な様相といっても過言ではない。

ところが，後期になるとそれまでとは様相が異なり，急激に集落が広範囲に展開するようになる。この時期の最も大きな集落は，芝山町教育委員会によって調査された三田遺跡（18）である。5世紀末から7世紀末までのほぼ200年間に継続して106軒の竪穴住居跡が営まれており，大規模な集落である。三田遺跡と至近距離にある今回報告する御田台遺跡も69軒の竪穴住居跡が調査されており，芝山市内の他の遺跡と比較しても傑出した遺構数であり，この付近一帯が拠点的な集落を形成していたことが伺える。他には，成田松尾線の道路工事に伴う調査で，小池麻生遺跡（9）・小池地蔵遺跡（10）・小池新林遺跡（11）・御田台遺跡（12）（平成4年報告）において後期の竪穴住居跡が検出されている。

古墳をみてみると，木戸川及び高谷川流域にはきわめて多くの古墳が存在していることが知られている。時期的には，前期及び中期の古墳はみられず，後期の埴輪を有する古墳が多いことが特徴である。この状況は，前述した集落において前期及び中期の集落がほとんどなく，後期になって爆発的に集落が増大する傾向と共通するものがある。

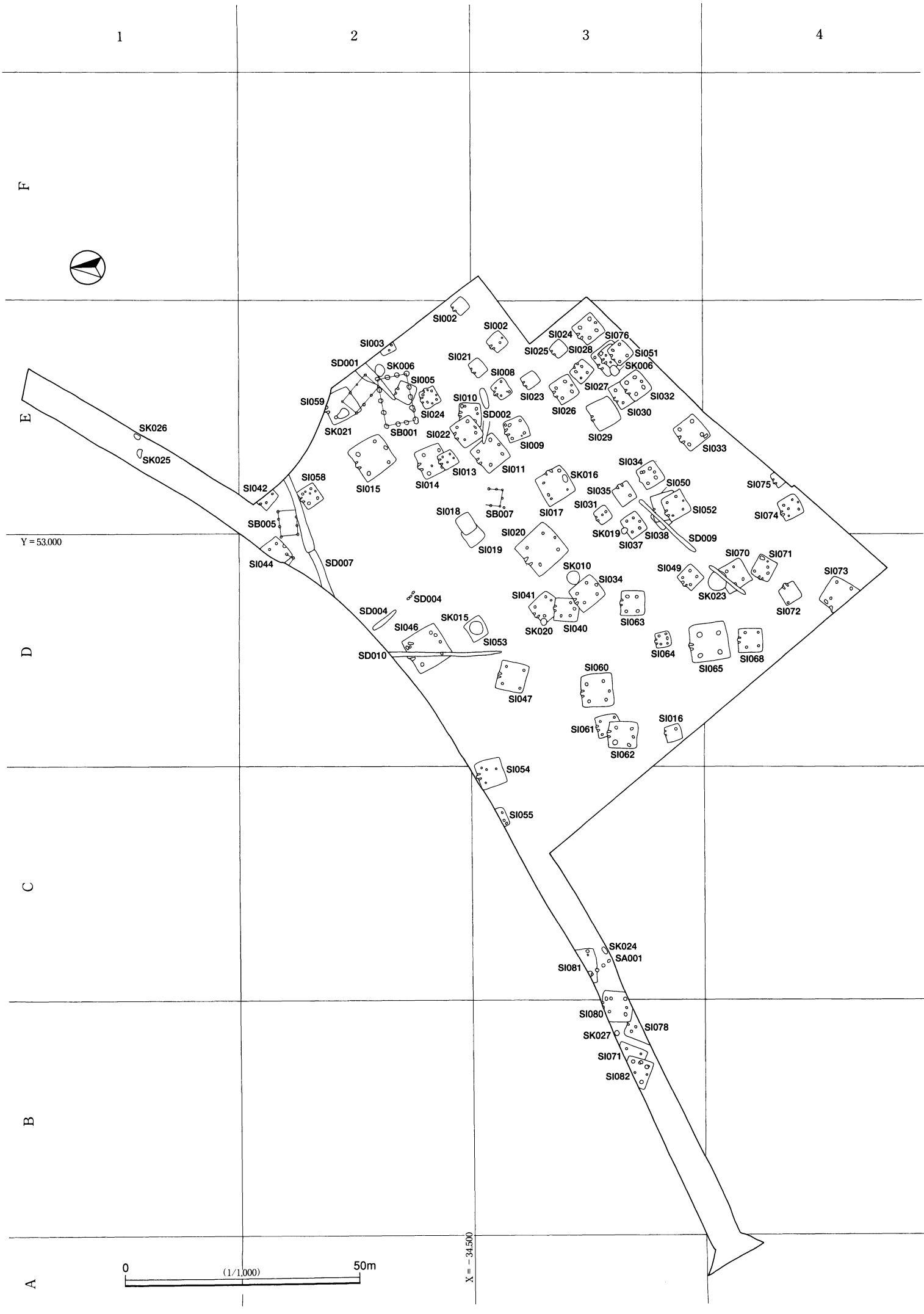
そのなかでも，横芝町中台古墳群（22）に含まれる殿塚古墳・姫塚古墳が傑出した存在である。殿塚古墳は，全長88m，高さ10m，姫塚古墳は全長58m，高さ6mを測る前方後円墳で，ともに円筒埴輪や形象埴輪が出土し，埋葬施設として横穴式石室を採用している。また，山田宝馬古墳群（2）は，木戸川上流域において最大の規模を誇る古墳群であり，前方後円墳14基，円墳178基，方墳3基の合計195基の所在が確認されている。他にも，高田古墳群（4）・三田古墳群（18）・舟塚古墳群（21）などが木戸川流域にそって展開している。

奈良・平安時代になると．御田台遺跡周辺では古墳時代のような大きな規模の集落は認められない。成田松尾線の道路工事に伴って調査された宮門遺跡で竪穴住居跡15軒，小池麻生遺跡で奈良時代を主体とした竪穴住居跡15軒などが目立つ程度である。

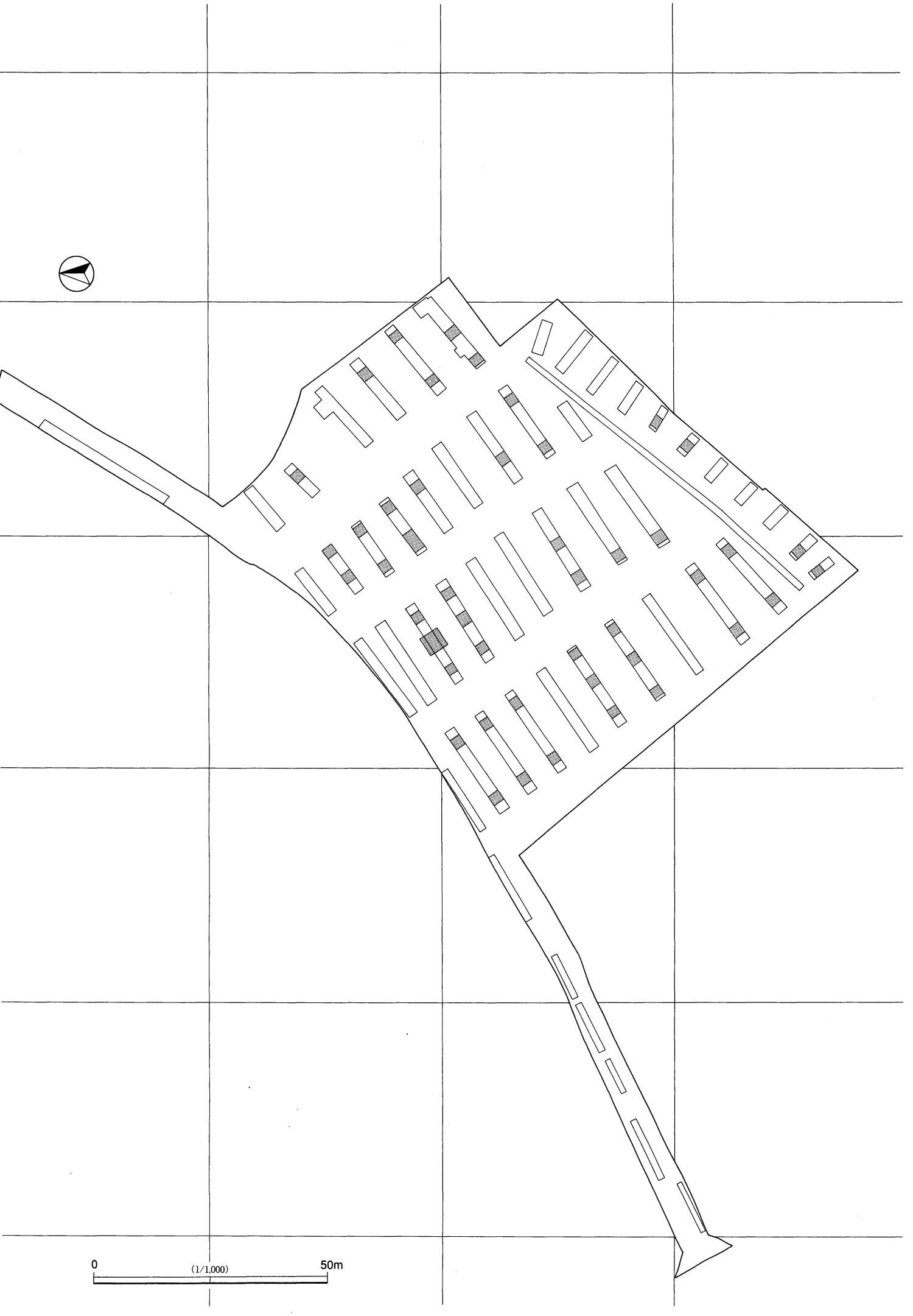
御田台遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時　代	備　考
1	御田台遺跡	古墳時代・奈良時代	本報告書
2	山田宝馬古墳群	古墳時代後期	
3	宝馬にわとり塚	古墳時代後期	
4	高田古墳群	古墳時代後期	
5	仲ノ台遺跡	古墳時代後期・平安時代	
6	寺ノ内遺跡	古墳時代後期	
7	清水遺跡	古墳時代後期～平安時代	
8	宮門遺跡	古墳時代中期～平安時代	
9	小池麻生遺跡	古墳時代後期～平安時代	
10	小池地蔵遺跡	古墳時代後期～平安時代	
11	小池新林遺跡	古墳時代後期～奈良時代	
12	御田台遺跡	古墳時代後期～奈良時代	

番号	遺跡名	時　代	備　考
13	小池元高田遺跡	奈良時代～平安時代	
14	小池向台遺跡	奈良時代～平安時代	
15	鯉ヶ窪遺跡	古墳時代後期	円墳3基
16	清水台遺跡	古墳時代後期	
17	下ノ内古墳群	古墳時代後期	
18	三田遺跡	古墳時代中期～奈良時代	
19	小池麻生古墳群	古墳時代後期	
20	三田古墳群	古墳時代後期	
21	舟塚古墳群	古墳時代後期	
22	中台古墳群	古墳時代後期	芝山古墳群
23	中津田古墳	古墳時代後期	
24	高田権現遺跡	古墳時代後期～平安時代	


1
2
3
4
F
E
D
C
B
A
SI002
SI002
SI003
SD001
SK006
SI005
SI021
SI008
SI024
SI025
SI028
SI076
SI051
SK006
SI027
SI032
SI023
SI026
SI030
SI059
SI024
SI010
SD002
SK021
SB001
SI022
SI009
SI029
SI033
SK026
SK025
SI015
SI014
SI013
SI011
SI034
SK016
SI050
SI075
SI042
SI058
SI035
SI052
SI074
SI031
SI018
SB007
SI017
SB005
SI020
SK019
SI038
SD009
SI037
Y = 53,000
SI019
SI044
SD007
SI070
SI071
SI049
SK010
SI073
SI034
SK023
SD004
SI041
SI072
SD004
SK015
SI063
SI046
SK020
SI040
SI053
SI064
SI068
SD010
SI065
SI060
SI047
SI016
SI061
SI062
SI054
SI055
SK024
SA001
SI081
SI080
SI078
SK027
SI071
SI082
0
(1/1,000)
50m
X = −34,500

第４図　遺構配置図



第５図　確認調査トレンチ及びグリッド配置図

第２章　検出した遺構と遺物

第１節　竪穴住居跡

SI001（第６・29図，図版３）

調査区東端，2E－99グリッド内に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は，3.1m×3.0m，確認面からの深さ0.4mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－46°－Wを指し，床面積は6.2㎡を測る。床面は平坦で，中央部分を中心に良好に踏み固められている。壁溝はカマド西側を除き，幅10～20cm，深さ５cm程で巡る。柱穴は攪乱が激しいためか検出されなかった。カマドは北東壁の北側に寄った位置に設けられる。全体に遺存は良好である。煙道部は，壁を30cm程三角形状に掘り込んでいる。袖は山砂と褐色土の混合土で構築されている。覆土は自然堆積の様相を呈する。

出土土器

出土土器は少ない。１は杯の底部片で，推定底径6.6cmを測る。内外面ともミガキ調整が施され，黒色処理される。

SI002（第６・29図，図版３）

調査区東側，SI001の南西８m程に位置し3E－18グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は，3.7m×3.7m，確認面からの深さ0.4mを測り，やや歪んだ正方形を呈する。主軸方向はN－45°－Wを指し，床面積は10.6㎡を測る。床面は平坦で，ハードローム中に形成され，全体に良く踏み固められている。壁溝はカマド東側と南東壁を除き，幅20cm，深さ５cm程で巡っているが，南東壁に沿って攪乱があるため，本来は全周していた可能性が考えられる。柱穴は確認されていない。中央部分のピットは浅いため性格不明である。南東壁側のピットは深さ0.5m程あり，その位置から出入り口に伴うピットと判断される。カマドは北西壁中央に設けられる。攪乱により遺存はあまり良好ではない。煙道部は，壁を20cm程半円状に掘り込んでおり，袖は山砂と褐色土の混合土で構築されている。燃焼部の掘り込みは小さいが，燃焼部から煙道部にかけて良く焼けている。覆土は暗褐色土主体で，ローム粒を若干含むものの，自然堆積の様相を呈する。

出土土器

出土土器は少ない。１は須恵器の杯の体部片で，推定口径14.5cmを測る。体部外面に細かいロクロ目が明瞭に残る。２は須恵器の高台付杯の高台部で，推定高台径10.0cmを測る。底部は回転ヘラ切りで，ナデ調整される。高台の接地面と底部が同じ高さのタイプである。３は高杯であろう。杯部内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリが施される。

SI003（第６図，図版３）

調査区東端，2E－67付近に所在するが，住居の東側半分が調査区域外となる。規模は，現存する南北長で3.3mを測り，確認面からの深さ５～10cmと浅い。主軸方向はN－26°－Wを指す。床面は平坦で，壁溝は検出されなかった。ピットは２か所確認されているが，東側のピットは深さ1.08mあり，柱穴となる可能

性がある。南側のピットは深さ23cmを測り，その位置から出入り口に伴うものと考えられる。カマドは調査区外に存在するものと思われる。

出土土器

遺物の出土はなかった。

SI004（第６・29図，図版４）

調査区東側，2E－85グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は，4.0m×3.9m，確認面からの深さ0.4mを測り，やや歪んだ正方形を呈する。主軸方向はN－17.5°－Wを指し，床面積は12.7㎡を測る。床面は平坦でハードローム中に形成され，柱穴間が良好に踏み固められている。壁溝はカマド部分を除き，幅20cm，深さ５cm程で全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。深さは30～50cmで，南東の柱穴が規模も大きく，一段深く掘り込まれている。南壁と西壁の柱穴間に位置するピットは，規模も小さく，深さ15cm程で出入り口に伴うものと思われる。後述するカマドの新旧関係から，当初西側のピットが掘り込まれ，カマド位置を北側に移動するに伴い，出入り口ピットを南側に移した可能性が強い。すなわち，出入り口を西から南に造り替えたものと判断される。カマドは，北壁中央と東壁やや北側に寄った位置の２か所に設けられる。いずれもトレンチャーによる攪乱が激しいが，遺存している状況から，東側より西側の方が新しい時期と判断される。西カマドは，壁を８cm程半円状に掘り込んで短い煙道が形成される。袖は山砂と褐色土の混合土で構築され，幅広となっているが，これは，カマド移築時に人為的に削平されたためと思われる。燃焼部の掘り込みは浅い。北カマドは，壁を10cm程掘り込んでいる。袖は直線的に床側に延び，焚き口部が一段深く掘り込まれる。覆土は自然堆積の様相を呈する。

出土土器

出土土器は床面全体に散在しており，特に集中する傾向はみられない。１は須恵器の高台付杯で，推定口径16.2cm，底径10.6cmを測る。口縁部内面に浅い沈線状の凹みが巡る。底部は突出気味となり，高台底面と底部が同様の高さとなるタイプである。体部はロクロ目が残り，体部下端から底部全面に回転ヘラケズリが加えられる。灰白色の色調を呈し，全体に軟質である。６～10は土師器の杯である。６・７は口縁部片であるが，底部が丸底となるタイプであろう。７は推定口径16.2cmを測る大形品と思われ，内外面とも丁寧なミガキが施される。８～10は底部が平底あるいは平底状を呈するものである。体部外面にヘラケズリ，内面にミガキ調整が加えられ，胎土中に砂粒を多く含む。11は全体に粗雑な造りで，器肉が厚くなる。小形の鉢となろうか。体部外面から底部全面に粗いヘラケズリが認められる。12は推定口径13.9cm，器高17.4cmを測る小形の甕である。胴部外面にはヘラケズリ後ミガキが加えられる。内外面とも被熱による器面の荒れが顕著である。

SI005（第６・29図）

調査区東側，3E－16グリッド付近に所在する。SI004の北東に近接し，SB001と重複する。切り合い関係から，SB001の方が新しい時期の遺構である。また，SD001により北側が切られている。全体に遺存は不良である。規模は，現存している東西長で4.5mを測り，確認面からの深さはきわめて浅い。全体的にやや歪んだ正方形を呈すると思われる。主軸方向はN－23°－Eを指す。床面は平坦であるが，トレンチャーによる攪乱が激しく，詳細は不明である。壁溝・柱穴は確認されなかった。カマドは北壁に設けられてい

たものと思われるが，溝により削平されたようである。

出土土器

出土土器は少ない。13は須恵器の高台付杯で，推定口径13.9cmを測る。高台は低く，底部の外周に削りされたものである。口縁部の内面に沈線状の凹みが巡っている。14は丸底状となる杯で，推定口径12.3cmを測る。内外面とも丁寧なナデが施される。15は造りの粗い杯であろうか。体部から底部にかけて手持ちヘラケズリがみられる。

SI008（第６・29図，図版４）

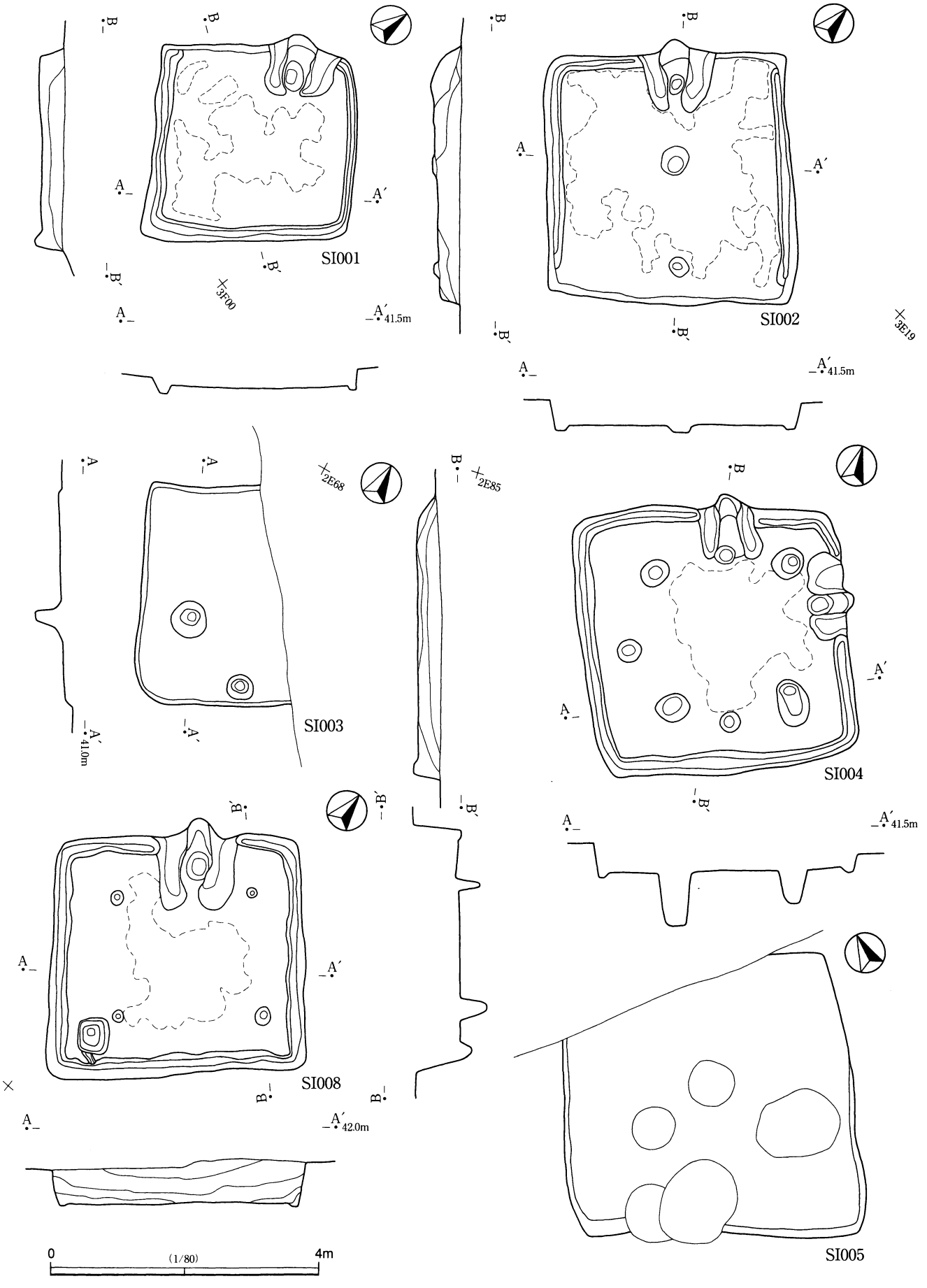
調査区東側，3E－16グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は，4.0m×3.6m，確認面からの深さ0.6mを測り，やや東西に長い方形を呈する。主軸方向はN－37°－Wを指し，床面積は8.0㎡を測る。床面は平坦で，ハードローム中に形成され，カマド前面から柱穴間にかけて良く踏み固められている。壁溝はカマド部分を除き，幅20～30cm，深さ５cm程で全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。径20cm前後，深さは30～40cmを測る。床面南コーナーには，長方形を呈する深さ18cmの貯蔵穴が設けられる。２段に掘り込まれ，底面は小さくなる。カマドは北西壁ほぼ中央に設けられる。攪乱を受けているが，遺存は比較的良好である。煙道部は，壁を30cm程三角形状に掘り込まれる。袖は壁から１m程長く床側に延びており，山砂と褐色土の混合土で構築されている。燃焼部から煙道部にかけて良く焼けており，焼土の堆積が厚く観察される。覆土は暗褐色土主体で，ローム粒を若干含むものの，自然堆積の様相を呈する。

出土土器

出土土器はあまり多くないが，壁に沿って出土する傾向がある。16は須恵器の蓋で，口径15.6cmと比較的大形である。天井部には回転ヘラケズリが加えられる。17は小形甕の口縁部片である。口縁部外面の横ナデは強く，胴部外面には幅広の縦位ヘラケズリが施される。18は甕の口縁部，19・20は底部片である。18の口縁部は長く立ち上がり，口唇部で外側に屈曲する。

SI009（第７・29図，図版４）

調査区東側，3E－24グリッド付近に所在し，SI008の東側５m程に位置する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は，4.9m×4.8m，確認面からの深さ0.2mを測り，やや不整な正方形を呈する。主軸方向はN－19°－Wを指し，床面積は19.5㎡を測る。床面は平坦で，全体に堅緻であるが，特に柱穴間が良好に踏み固められている。壁溝は全周するものではなく，部分的に途切れている。柱穴は対角線上に４本配置される。径30cm前後，深さは50～70cm程と比較的深い。北東側の柱穴は２本重複して掘り込まれているが，内側の方が浅く，補助的な柱として機能していたようである。南壁外側に接して深さ27cmのピットがみられる。その位置から，出入り口施設に伴うピットと考えられる。床面北東コーナー部には，1辺60cm程の正方形を呈する貯蔵穴が位置する。深さは23cmを測る。カマドは北壁中央に設けられる。攪乱を受けているため，遺存状況は不良である。煙道部は，壁を20cm程半円状に掘り込んで設けられ，燃焼部の掘り込みは比較的広い。袖は攪乱のためか若干残っているにすぎない。覆土は暗褐色土主体で，自然堆積の様相を呈する。



第6図　SI001～005，008

出土土器

出土土器は，トレンチャーによる攪乱のため小破片となるものが多く，床面全体に散在している。21～23は口縁下端に強い稜を有する須恵器模倣の杯で，口縁部は21・22が内傾，23が直立する。体部外面の調整はヘラケズリが主体となるが，22はミガキが加えられる。22は内外面黒色処理，23は口縁部内面から体部にかけて赤彩が施される。推定口径は，21が13.6cm，22が14.4cm，23が11.0cmを測る。24は推定口径11.7cmを測る小形の丸底を呈する杯である。体部外面はヘラケズリ後ミガキ，内面はミガキ調整となる。25～27は甕の口縁部及び底部片である。25は口縁部がコの字状を呈する大形の甕となろう。26は口縁部が短く，甑となる可能性もある。

SI010（第８・29・30図，図版５・28）

調査区東側，2E－95グリッド付近に所在し，東側でSI022と重複するが，切り合い関係から，本住居の方が古い時期の構築である。規模は，確認される南北長で4.7mを測り，東西長もほぼ同様と思われる。確認面からの深さは0.4mを測り，主軸方向はN－８°－Eを指す。床面は平坦で，全体に堅緻であるが，特に貯蔵穴からカマド前面及び柱穴間にかけて良好に踏み固められている。壁溝は，カマド及び貯蔵穴部分を除き全周するものと思われる。柱穴は対角線上に４本配置される。北西の柱穴はSI022の床面下から検出されている。径30cm前後，深さは50～60cm程と比較的深い。南壁側の柱穴間に位置するピットは，深さ30cmと柱穴に比べて浅く，その位置からみて出入り口に伴うピットと思われる。床面北東コーナー部には，1.0m×0.8mの規模で，深さ25cm程の不整な方形を呈する貯蔵穴が設けられている。カマドは北壁中央に所在する。煙道部は，壁を45cm程掘り込んで，本遺跡の中では比較的長く壁外に延びている。燃焼部の掘り込みは比較的広く，底面は床面より10cm程低くなる。袖の遺存はあまり良くないが，山砂を主体とした土で築かれる。底面には焼土の堆積，上層には天井部の崩落と思われる焼土化した山砂の堆積がみられる。覆土は暗褐色土主体で，ローム粒や焼土粒を含み，自然堆積の様相を呈する。

出土土器

比較的多くの土器がカマド周辺を主体に床面上より出土している。カマド左側の壁沿いに31の杯と38の甑が倒位で，29の杯が正位，34の甕が横位で検出された。また，カマド右袖に接して37の甕が正位で出土している。28は須恵器の蓋で，推定口径14.9cmを測る。天井部上部には回転ヘラケズリが施される。本住居の出土土器より新しい様相があり，混入品と思われる。29～31は土師器の杯である。29は完形品で，口径12.6cm，器高4.8cmを測る。口縁部が内傾し，口縁下の稜が強く形成される。全体に丁寧に調整され，体部外面はヘラケズリ，口縁部から体部内面は丁寧にナデ調整される。胎土中に砂粒を多く含む。30・31は口縁部が外反するタイプで，31は口縁下の稜が下方にあるため，口縁部が長くなる。30は推定口径15.0cmを測り，内外面ともミガキが施される。31は完形品であるが，被熱による器面の荒れが顕著である。内面はミガキ調整が加えられていたものと思われる。口径14.8cm，器高4.7cmを測る。30・31とも29より胎土中の砂粒の量が多い。32は高杯で，推定口径15.2cm，器高11.9cmを測る。外面は丁寧なヘラケズリ，杯部内面は丁寧なミガキが施され，黒色処理される。外面の色調は，赤彩が認められないものの，赤褐色を呈する。33は高杯の短い脚部片である。34～37は甕である。34は口径14.9cmとやや小形となる。胴部外面はヘラケズリ後粗いミガキが加えられる。赤褐色の色調を呈し，カマド構築材の付着と被熱による器面の荒れが観察される。36・37は胴部上位に最大径を有する長胴のタイプである。胴部外面はヘラケズリ，内面は丁寧

なヘラナデが施され，37の外面には弱いミガキが加えられる。また，37の底部付近にはカマド構築材の付着がみられる。38は口径23.3cm，器高23.7cmを測る完形の甑で，砲弾型を呈する。胴部外面には縦方向の幅広のヘラケズリ，内面にはナデ後ミガキが加えられ，平滑な器面となる。胎土中に砂粒を多く含む。

SI011（第７・30図，図版28）

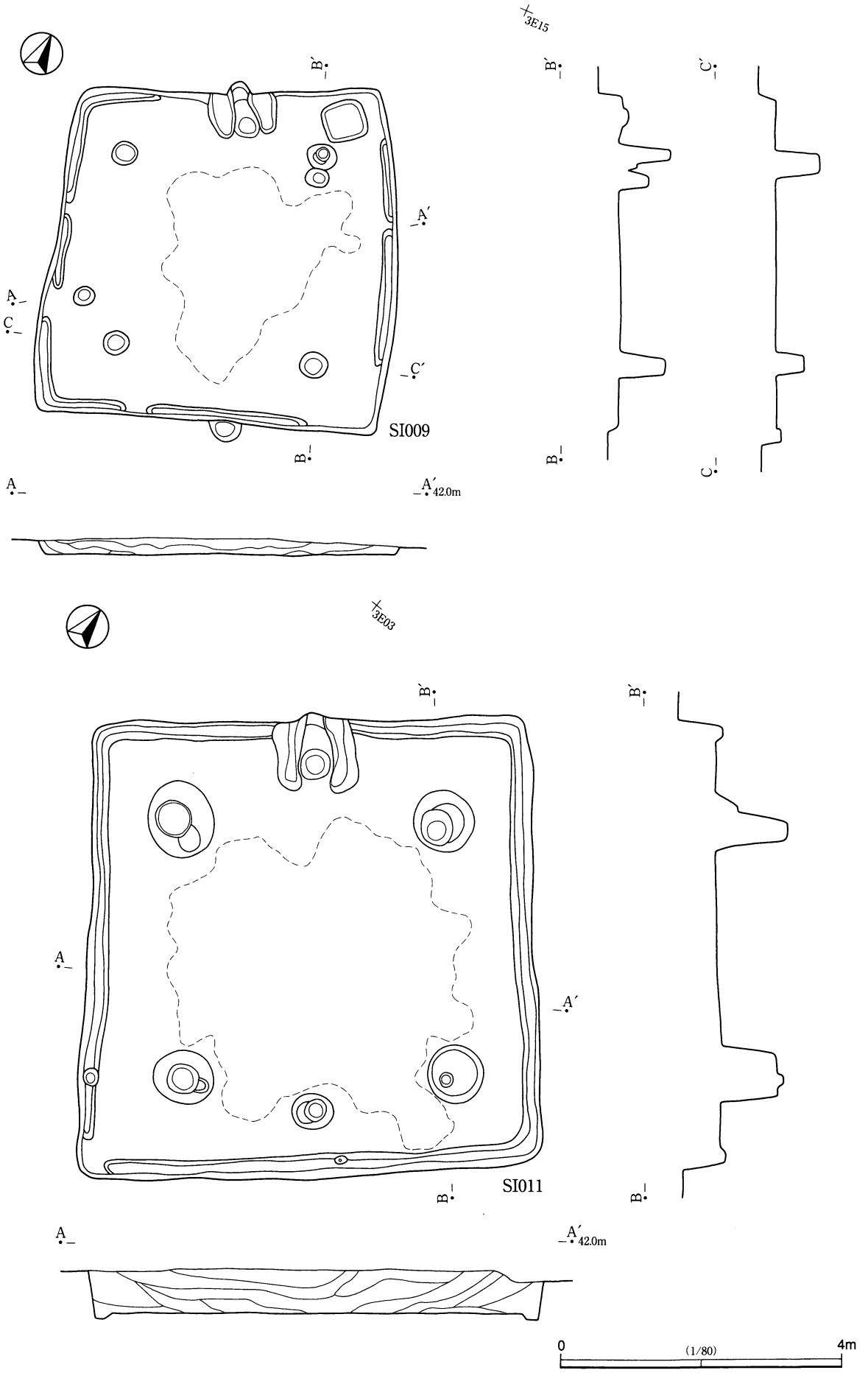
調査区東側，3E－03グリッド付近に所在し，南側でSI009と近接する。規模は，南北長・東西長ともほぼ6.4mを測り，正方形を呈する。確認面からの深さは0.6～0.7mと比較的深い掘り込みである。主軸方向はN－40°－Wを指し，床面積は33.7㎡を測る。床面は平坦で，全体に堅緻であるが，特に柱穴間が良好に踏み固められている。壁溝は，カマド及び南西コーナー部分を除き全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。掘り方の径は0.8～1.0mと広く，深さも北西側が0.7m，他が0.9～1.0mと深い。２段の掘り方を有していることから，抜き取りが行われたものと考えられる。南側の柱穴間に位置するピットは，径0.5m程，深さ0.4mを測り，その位置から出入り口に伴うものと判断される。カマドは北壁中央に所在する。煙道部の壁への掘り込みはほとんどないため，煙道の立ち上がりは急となる。燃焼部の掘り込みも小さい。袖は直線的に壁から1.0m程長く延びるが，焼土化による崩落が顕著で遺存は不良である。覆土は暗褐色土主体で，ローム粒や焼土粒を含み，自然堆積の様相を呈する。

出土土器

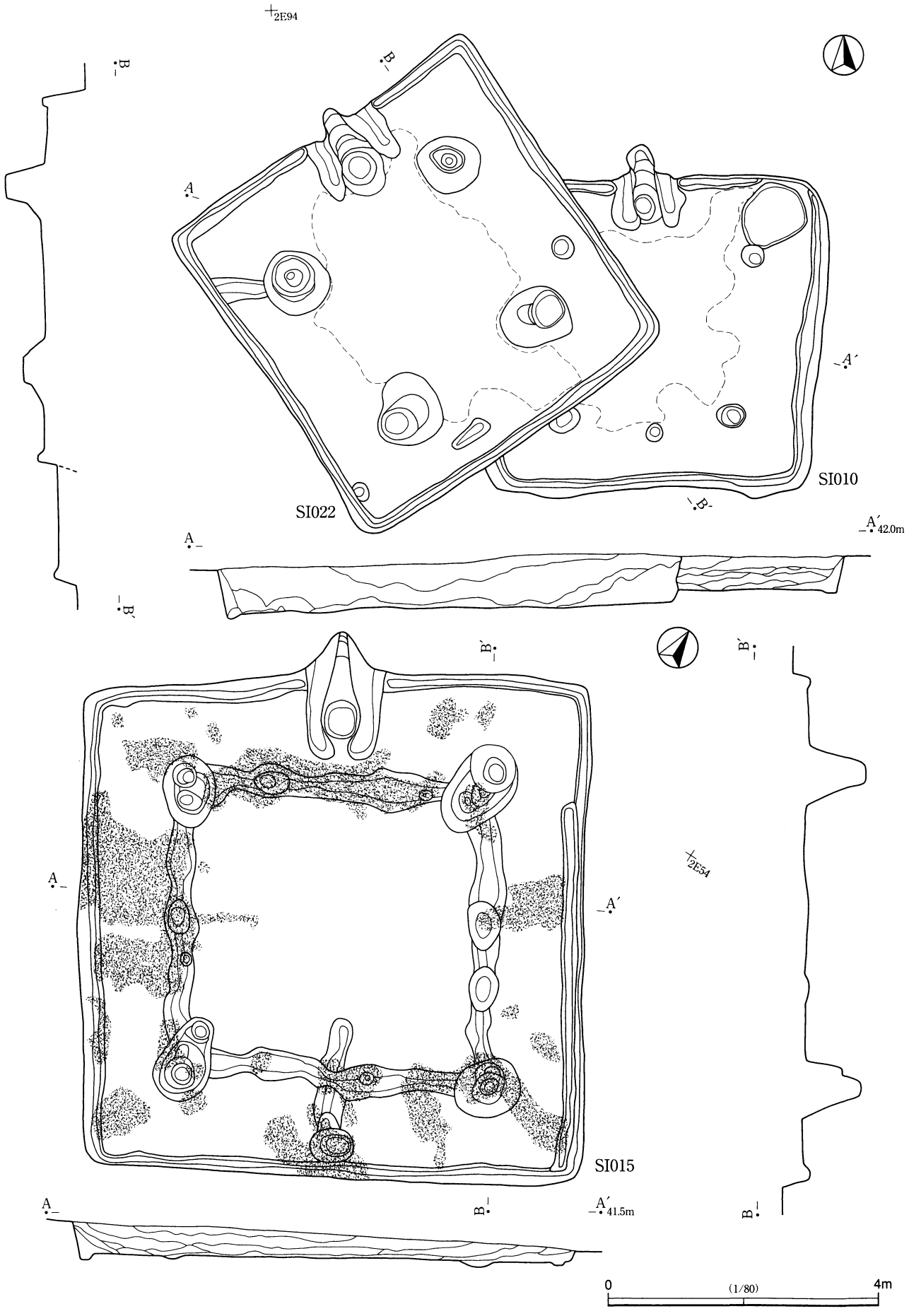
本住居跡からの出土土器は，須恵器が多いのが特徴的であるが，集中する傾向はなく，床面全体に散在している。39～42は須恵器の高台付杯で，高台と底部の接地面がほぼ同じ高さのタイプである。39は口径15.1cm，器高5.1cmを測る。口唇部が若干肥厚し，高台が底部周縁に貼り付けられ，底部は回転ヘラケズリで，体部は丁寧にナデ調整される。胎土中に長石等の小砂粒を含む。40は推定口径15.5cm，器高4.9cmを測る。体部は直線的に立ち上がり，高台は底部周縁に貼り付けられる。42は推定口径14.0cm，器高4.9cmと他に比べて小さくなる。体部は内湾気味に立ち上がり，高台の高さも低い。内外面とも丁寧にナデ調整される。39～41は常陸産，42は東海産と思われる。43～45は須恵器の蓋である。43・44は扁平なつまみが貼り付けられ，天井部外面上位に回転ヘラケズリが施される。胎土中に長石等の砂粒を含む。常陸産であろう。46は推定口径16.1cmを測る比較的大形の蓋で，つまみを欠損する。天井部は扁平で，かえりが直角に折り返されるタイプである。東海産と思われる。48は土師器の高杯で，全体に赤褐色を呈する。外面はヘラケズリが施され，脚部内面には粘土の接合痕がみられる。胎土中に石英等の砂粒を多く含む。

SI013（第９・30図，図版５）

調査区東側，3E－93グリッド付近に所在し，北側でSI014を切る。規模は，南北長3.5m，東西長3.8mを測り，やや横長の長方形状を呈する小形の住居である。確認面からの深さは0.4m程である。主軸方向はN－23°－Wを指し，床面積は9.0㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻であるが，特に柱穴間が良好に踏み固められている。壁溝は，カマド部分を除き全周する。ピットは床面上に３本確認されているが，南壁中央よりのピットは深さ0.2mと浅く，出入り口に伴うものであろう。東側の２本のピットは柱穴となろう。西側にも同様の柱穴があったものと思われるが，攪乱等により確認されなかった。柱穴の掘り方は小さいが，深さは0.5～0.7mと比較的深い。カマドは北壁中央に所在する。煙道部の壁への掘り込みはほとんどないため，煙道の立ち上がりは急となる。燃焼部の掘り込みも小さい。焼土化による崩落が顕著で一



第7図　SI009・011



第8図　SI010・015・022

部攪乱もあり，遺存は不良である。覆土は暗褐色土主体であるが，ローム粒を多く含み，人為的に埋め戻された可能性が高い。

出土土器

本住居跡からの出土土器は小片となるものがほとんどである。48の杯は床面中央，49の甑はカマド右側からの検出である。47・48は土師器の杯である。47は推定口径10.6cmを測り，内面にミガキが施される。48は推定口径12.8cm，器高7.6cmを測る。内面は放射状のミガキ，外面にはヘラケズリ後ミガキが加えられる。49は胴下半部を欠くが，内面に縦位の粗いミガキが施されていることから，甑と考えられる。50・51は小形の甕，52～54は大形の甕であろう。

SI014（第9・31図，図版6）

調査区東側，3E－93グリッド付近に所在し，南側でSI013により一部切られる。規模は，長軸6.2m，短軸5.9mを測り，やや主軸方向の長い方形を呈する。確認面からの深さは0.5m前後を測る。主軸方向はN－20.2°－Wを指し，床面積は一部切られるが30.2㎡程と推測される。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻であるが，特に柱穴間が良好に踏み固められている。壁溝は，カマド部分を除き全周するものと思われる。柱穴は対角線上に4本配置される。規模は大きく，深さは0.7m～0.95mと比較的深い。4本の柱穴とも内側に広げられた掘り方が認められる。柱穴の土層からは柱の抜き取りが確認されないため，柱を切る際に広げられた可能性が考えられる。また，柱穴から壁に向けて溝が掘り込まれている。間仕切り溝であろう。カマドは北壁ほぼ中央に位置する。煙道部の壁への掘り込みはほとんどないが，燃焼部の掘り込みが床面側にあるため，煙道の立ち上がりは緩やかである。燃焼部から煙道にかけて焼土や灰の厚く堆積しており，使用頻度は多かったものと推測される。覆土は暗褐色土主体であるが，特に上層部分にローム粒を多く含み，人為的に埋め戻された可能性が高い。東側の床面上には炭化材が多く遺存しているが，焼土がほとんどみられないため，埋め戻しの段階で炭化材が廃棄されたものと思われる。

出土土器

本住居跡からの出土土器は小片となるものがほとんどであり，その分布も床面全体に散在している。55～57は土師器の杯である。55は推定口径11.2cmを測る小形品で，内外面とも黒色処理される。56はやや器肉が厚くなり，体部内面のミガキが丁寧に施される。不鮮明であるが，55同様内外面黒色処理されるものであろう。57は推定口径13.2cm，器高59cmを測り，深くなるタイプである。内面黒色処理される。55～57とも胎土中に小砂粒を多く含み，ザラついた感がある。58は胎土が緻密で，焼成も良好である。内外面とも丁寧なミガキが施され，漆と思われる黒色処理が観察される。高杯の杯部の可能性もあるが，口縁部に段を有しない杯と思われる。59は高杯の脚部から杯部にかけての破片で，杯部内面が丁寧にヘラミガキされる。60は小形甕で，赤褐色を呈し，胎土中に砂粒を多く含む。61は，胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる形態から甑となる可能性がある。内外面のヘラケズリは幅広となる。62はミニチュア土器である。胎土中に砂粒を多く含む。

SI015（第8・31図，図版6・28）

調査区北東側，2E－53グリッド付近に所在する。規模は，長軸7.6m，短軸7.5mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－30.5°－Wを指し，床面積46.3㎡を測る大形の竪穴住居である。確認面からの深さ

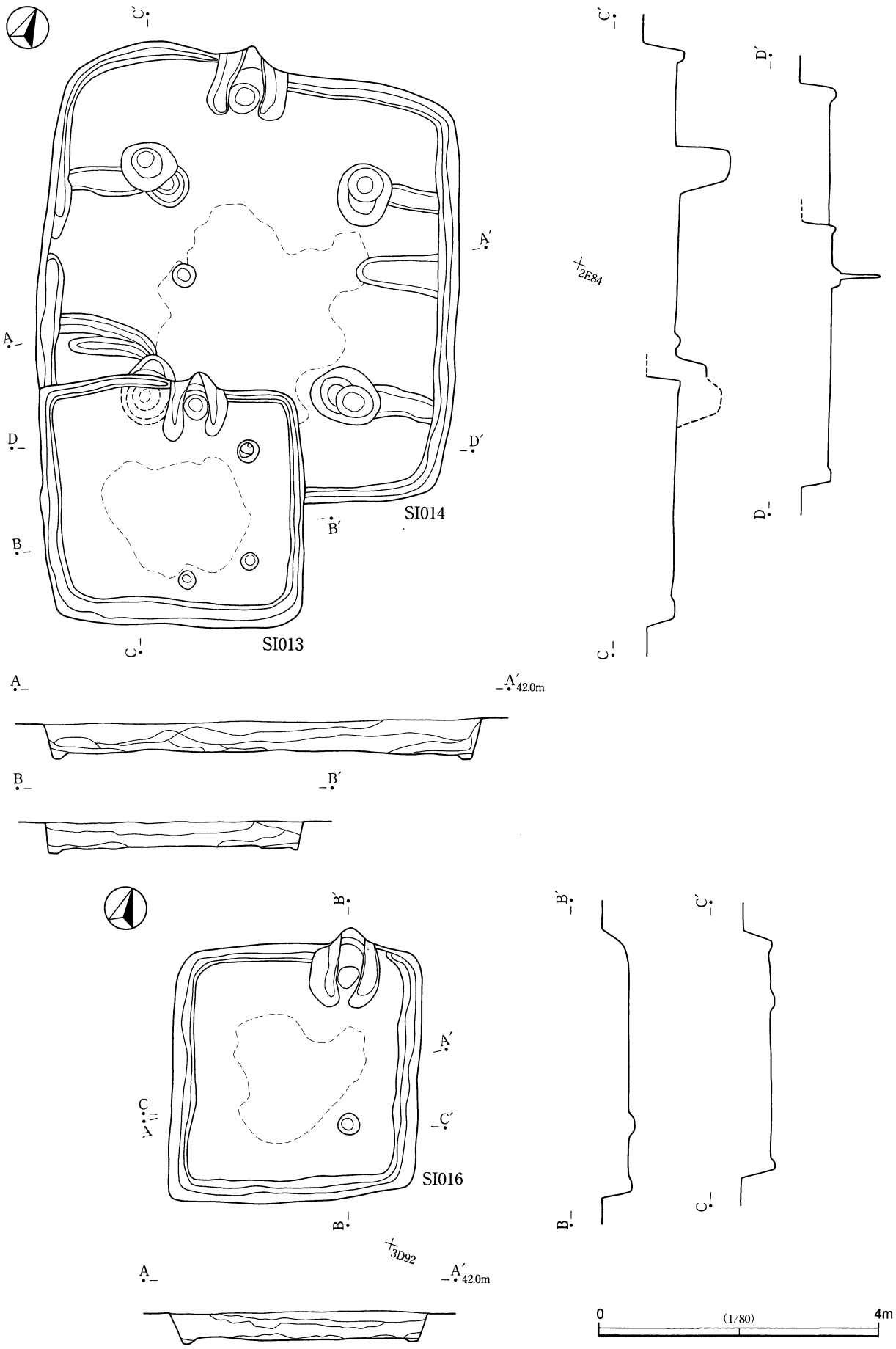
は0.5m前後と比較的深い。拡張住居と思われる。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は，カマド部分を除き全周する。床面内側に１辺５ｍ程の溝が方形に巡っているが，この溝は拡張前の住居プランを示す壁溝と思われる。柱穴は対角線上に４本配置される。柱穴の掘り方は，床面中央に向かって長くなる楕円形を呈し，長軸で１ｍ以上を測る。２段に掘り込まれているが，土層からは柱の抜き取りが行われた痕跡はなく，柱の切り取りに伴って広げられた可能性が高い。柱穴の深さは0.8m～1.3mと深い。カマド対壁中央に接して掘り込まれているピットは深さ0.4mと比較的深いが出入り口に伴うものと思われる。また，ピットから床面側に延びる溝も出入り口施設に伴う可能性がある。カマドは北西壁ほぼ中央に位置し，遺存状況は良好である。煙道部の壁への掘り込みは0.6mと三角形状に比較的長く掘り込まれている。袖は壁から1.5mと長く延び山砂によって構築されている。燃焼部の掘り込みが床面側にあるため，煙道の立ち上がりは緩やかである。焼土は燃焼部の掘り込み内に堆積しているが，煙道部にはほとんど確認されない。覆土は暗褐色土主体であるが，全体にローム粒を多く含んでおり，人為的に埋め戻された可能性が高い。壁に沿った床面上に焼土が厚く堆積しているが，炭化材がほとんど遺存していないため，焼失ではなく住居廃絶時に焼土が投棄され，その後埋め戻しが行われたものと推定される。

出土土器

本住居跡からは比較的多くの土器が出土している。64の杯は出入り口ピット付近，65の杯はカマド左袖外側，71の甕はカマド右袖外側，72の甕はカマド内からの検出で，他は小片が多く，その分布も床面全体に散在している。63は須恵器の蓋で，推定口径15.1cmを測る。天井部外面には回転ヘラケズリが施され，胎土中に長石粒を多く含む。その特徴から常陸産と考えられる。64～69は土師器の杯である。64は口径14.3cmを測り，器肉が厚い。内外面ともヘラケズリ後丁寧にナデ調整され，胎土中に砂粒を多く含む。65は口径12.3cm，器高3.3cmを測る。口縁部が長く立ち上がり，器高が浅いタイプである。内外面とも丁寧なミガキが施され，黒色処理が加えられる。66は内傾する短い口縁部がつくもので，不鮮明ながら内外面とも黒色処理される。胎土は砂質を帯びる。67は器高が浅い。器表面の荒れが顕著であるが，内面は丁寧に磨かれているようである。やはり内外面黒色処理される。68は胎土中に比較的粒の大きな砂粒を多く含み，ザラついた感がある。69は底部片で，内面に放射状暗文が観察される。70は推定口径15.3cmを測る高杯で，内面黒色処理される。長脚の脚部がつくタイプであろう。胎土中に長石や雲母の小砂粒を多く含む。71は完形の小形甕で，口径13.6cm，器高10.1cmを測る。外面のヘラケズリ，内面のナデとも丁寧である。胎土中に小砂粒を多く含む。72は球形胴を呈する甕で，胴部外面下半部にカマド構築材の砂が付着している。73・74は甕の上部と底部片である。同一個体となる可能性がある。75は扁平な手捏土器である。

SI016（第９・31図，図版６・28）

調査区西側，3D－81グリッドに所在する。規模は，長軸3.7m，短軸3.5mを測り，ほぼ正方形に近い小形の住居である。主軸方向はN－12.7°－Wを指し，床面積8.2㎡を測る。確認面からの深さは0.45m前後である。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻であるが，特に中央部分が良好に踏み固められている。壁溝は，カマド部分を除き全周する。柱穴と思われるピットは南東コーナー付近に１本のみ確認される。柱穴の規模は，径0.3m，深さ0.7m程と比較的深い。カマドは北壁東側に設けられ，遺存状況は比較的良好である。煙道部の壁への掘り込みは少ない。燃焼部の掘り込みが床面側にあるため，煙道の立ち上がりは緩やかである。焼土は燃焼部から煙道部にかけて厚く堆積しており，使用頻度の多さを伺わせる。覆土は暗褐色土主



第9図　SI013・014・016

体で，ローム粒の混入も少なく，自然堆積の様相を呈する。床面上に焼土が散在しているが，焼失家屋となるものではない。

出土土器

本住居跡からの土器の出土は少ない。76の杯は南壁中央付近の床面上から検出された。口径9.3cm，器高3.1cmと小形の杯である。底部は平底となり，作りは丁寧である。不鮮明であるが，内外面とも黒色処理される。黄褐色の色調を呈する。77は大形の杯の破片であろう。器面の荒れが顕著であるが，内面は丁寧にヘラミガキされる。胎土中に小砂粒を多く含む。78は大形の甕の底部片である。図示できなかったが，他に須恵器の透かしのある長脚高杯の脚部片が出土している。この須恵器の年代は，7世紀後半と考えられる。

SI017（第10・31・32図，図版7・28）

調査区中央付近，3E－31グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が顕著である。規模は，長軸6.8m，短軸6.5mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－58.0°－Eを指し，床面積40.6㎡を測る比較的大形の竪穴住居である。確認面からの深さは0.1～0.3mと比較的浅い。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻であるが，攪乱により硬化面や壁溝は確認されなかった。柱穴は対角線上に4本配置される。柱穴の掘り方は，径0.5m前後，深さ0.6～0.7mを測る。北西壁の柱穴間に位置するピットは深さ0.3m程で，出入り口に伴うものかもしれない。カマド右側，北西コーナーに設けられたピットは，その位置から貯蔵穴になると思われる。貯蔵穴は不整な円形を呈し，長径0.9m，短径0.8m，深さ0.8mを測る。覆土はロームブロックを多く含み，底面には良く締まったローム主体土が厚さ0.2m程で堆積している。その状況からは，貯蔵穴底面にローム土を意識的に敷いたことが想定される。カマドは北東壁中央よりやや南側に寄った位置に設けられる。やはり攪乱により遺存状況は不良である。煙道部の壁への掘り込みは小さく，袖も短い。燃焼部の掘り込みは床面側にあり，煙道の立ち上がりは緩やかである。覆土は暗褐色土主体であるが，床面よりやや浮いた状態で炭化物や焼土粒がみられており，焼失家屋となる可能性が高い。

出土土器

本住居跡からは攪乱が激しいにもかかわらず多くの土器が出土している。カマド内からは79・80の杯，カマド右袖外側から95の甑，貯蔵穴南側から83の杯と91の甕が出土している。他は床面南東壁側に集中して散在している。79～89は土師器の杯である。79～83は口縁部が内傾するタイプである。79は口径11.2cm，器高5.4cmを測る完形の杯である。ヘラケズリ後弱いミガキが施される。胎土中に砂粒を多く含み，赤褐色を呈する。赤彩が内面及び外面上半部に観察される。80は推定口径13.3cm，器高5.4cmを測り，79より大きく全体に扁平となる。外面ヘラケズリ内面ナデ調整でミガキはみられない。内外面とも上半部に赤彩が施される。81は小片であるが，内外面とも丁寧にミガキ調整がなされ，黒色処理される。82は薄手で丁寧な作りである。砂粒の混入も少なく，外面のミガキも丁寧である。内外面とも赤彩が施される。83は口径13.6cmを測り，底部を欠く。内外面ともヘラケズリ後丁寧にナデ調整され，赤彩が施される。84～86は口縁部が外反気味に直立するタイプで全体に深くなる。いずれも体部外面はヘラケズリ後ミガキ，口縁部外面から体部内面には丁寧なナデ調整が施される。胎土中に長石や雲母の小砂粒を含む。赤彩は，底部内面を除く全面にみられる。84は小片で，推定口径13.4cm，85は推定口径.7cm，器高5.6cm，86は口径13.4cm，器高5.2cmを測る。87は推定口径15.4cmを測る大形の杯である。口縁部は内湾気味に立ち上がるが，有段口縁状を呈する。赤彩が底部内面以外に施される。88も推定口径16.4cmを測る大形の杯で，口縁部が外反気味に外

傾する。全体に丁寧に調整され，赤彩が加えられる。胎土は軟質で，赤色粒を多く含み，黄褐色の色調を呈する。89も大形の杯で，調整・胎土・色調は88と共通する。90～94は甕である。90は球形胴を呈し，幅広のヘラケズリ及びヘラナデが施される。胎土中に小砂粒を多く含み，カマド構築材が若干付着している。91は小形の甕で，胎土中に比較的大きな長石粒を含み，赤褐色を呈する。92・93は大形の甕の口縁部及び底部片で，同一個体となる可能性がある。胴部内面の器壁の剥落が激しく，底部外面周縁の磨滅も顕著である。胎土中に長石や雲母粒を多く含み，黒褐色を呈する。95は大形の甑の底部片である。下端部は内外面ともヘラケズリ調整で，胴部外面はミガキが施される。胎土中に小砂粒を多く含み，外面にはススの付着が観察される。

SI018（第10・32図，図版８）

調査区中央付近，2E－90グリッド付近に所在し，西側でSI019を切る。トレンチャーによる攪乱が顕著である。規模は，長軸6.8m，短軸6.5mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－28.5°－Wを指し，床面積10.5㎡を測る。確認面からの深さは0.1m～0.3mと比較的浅い。床面はほぼ平坦であるが，攪乱により硬化面は検出されなかった。周溝は全周する。床面ほぼ中央に深さ0.8mのピットが掘り込まれているが，性格不明である。カマドは確認されなかった。覆土は自然堆積の様相を呈する。

出土土器

96は推定口径11.6cmを測る小形の杯である。外面には粗いヘラケズリ，内面にはミガキ調整後炭素吸着による黒色処理が施される。

SI019（第10・32図，図版８・28）

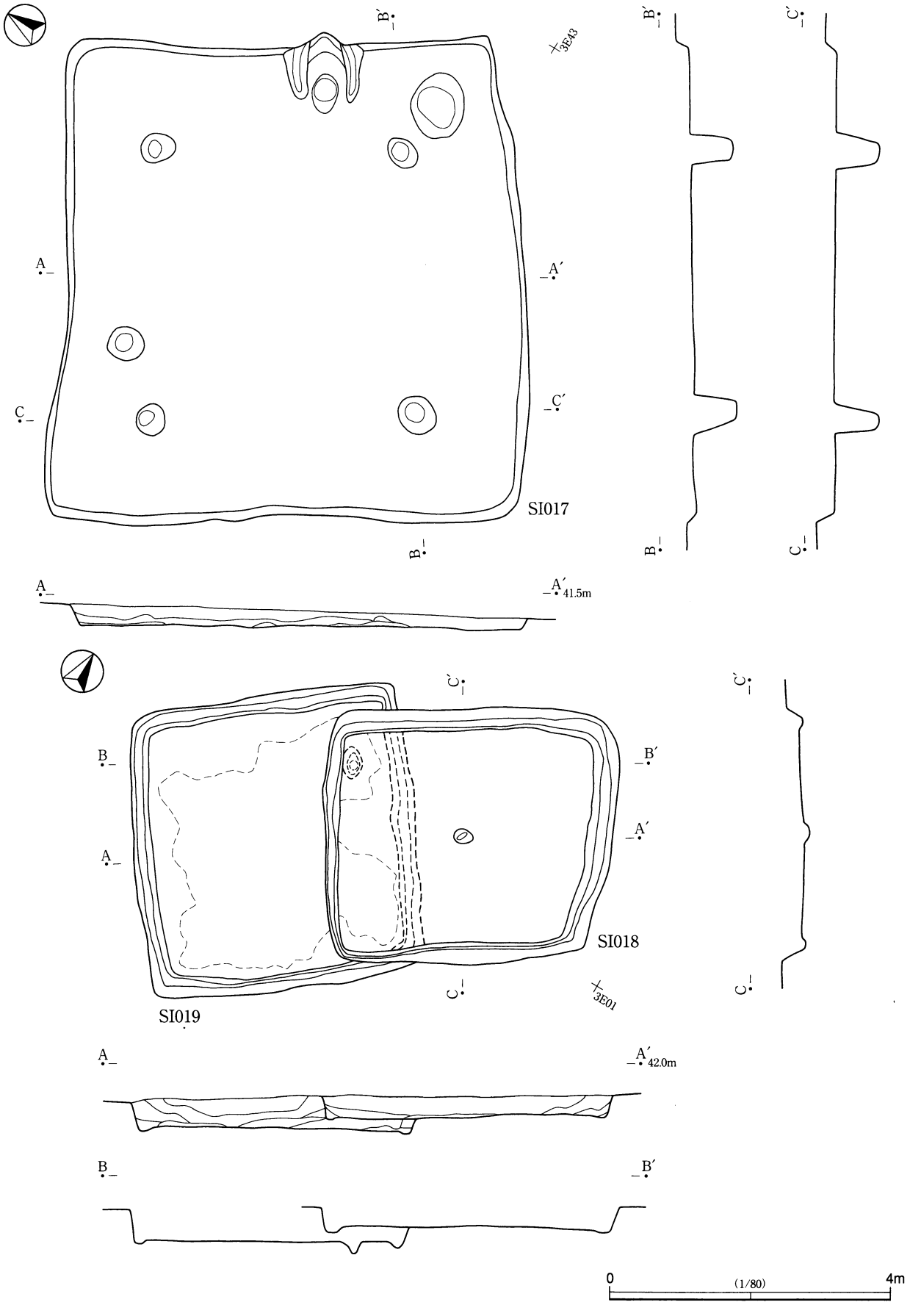
調査区中央付近，3E－00グリッド付近に所在し，東側でSI018に切られる。規模は長軸4.2m，短軸4.06mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－36.0°－Wを指し，床面積は12.4㎡を測る。床面はほぼ平坦で，全体に堅緻である。壁溝は全周している。ピットは北東隅に１本のみの検出である。カマドはSI018側の壁面に設置されていたのではないだろうか。

出土土器

97は完形の甑で，口径22.6cm，器高20.0cmを測る。口唇部は摘み上げられる。胴部外面は幅広のヘラケズリ後ミガキ，内面はナデ後ミガキが施される。胎土中に小砂粒を含み，外面下部は被熱による荒れが顕著で，焼成時の黒斑が観察される。

SI020（第11・32～36図，図版８・28～30）

調査区中央の3E－40グリッド付近に所在し，規模は長軸8.4m，短軸7.7mを測り，本遺跡最大で61.9㎡の床面積である。主軸方向はN－41°－Wを指す。ピットは６本検出されたが，柱穴には対角線上に４本配置される。柱穴の掘り方は，径0.4m～0.5mで，深さ0.7m～0.8m程度を測る。南西に位置するピットは，深さ0.16m程度で出入り口に伴うものかもしれない。カマド正面にあるピットは深さ0.22mほどであるが，用途不明である。カマドは北東壁中央の位置に設けられる。遺存状態は良好であるが，屋外の煙道部の一部が攪乱を受けている。遺物出土状況は，床面または床面からやや浮いた状態で全体にまんべんなく分布している。その中で住居跡のほぼ中央から須恵器の甕が１点，南西の角から土師器の甕１点，その他，土師器



第10図　SI017・018・019

の甕や杯など南東壁側から個体ごとにまとまった状態で出土している。南隅からは刀子が出土している。

出土土器

本住居跡からは大量の土器が検出された。98～102は須恵器の杯身である。98～100は器受け部を有する小形品で，底部は丸底あるいは小さな平底を呈する。調整もほぼ同様で，体部下端に回転ヘラケズリが施される。98は口径10.3cm，器高3.9cmを測り，底部外面に焼成前のヘラ記号が刻まれる。99は口径10.5cm，器高4.3cm，100は口径9.2cm，器高3.9cmを測る。99は柔らかい胎土で，内面茶褐色，外面は黄色みがかった褐色を呈する。いずれも東海産と考えられる。101・102は高台付き杯の底部片で，高台が底部外周に貼り付けられるタイプである。体部は不明であるが，101は丸みを持って立ち上がり，102は直線的に立ち上がるものと思われる。やはり東海産であろう。103～107は須恵器の杯蓋である。103は口縁部を欠くが，天井部は平坦で，体部が直線気味に開き，口縁部が内湾するものである。胎土中に小砂粒や白色針状物を多く含む。天井頂部には，「井」状の焼成前ヘラ記号が刻まれる。104～106はカエリの付く蓋で，104は浅く，扁平な摘みが付く。105・106はやや深くなり，摘みを欠損する。調整はほぼ同様で，天井部には回転ヘラケズリが施される。104は推定口径10.6cm，器高2.4cmを測る小形品である。外面全体に自然釉がみられる。107は推定口径15.1cm，器高4.4cmを測るやや大形の蓋である。摘みはやや扁平な擬宝珠状を呈し，口縁部が折り返される。天井部外面には回転ヘラケズリが施される。104は東海産，105～107は常陸産と思われる。108～125は土師器の杯である。108・109は口縁部が内傾するタイプで，108は口径11.4cm，器高4.0cmを測る。調整は丁寧で，内外面とも平滑である。遺存は良くないが，内外面とも黒色処理されるものと思われる。109は小形品で，内外面ともミガキ調整が加えられる。不鮮明であるが，やはり内外面黒色処理される。110～114は口縁部が直立するタイプである。110はほぼ完形で，口径12.8cm，器高3.7cmを測る。器肉がやや分厚いが，全体に丁寧なナデ調整が施される。胎土中に小砂粒を多く含む。111・112は小破片で，111は不鮮明ながら内外面黒色処理される。113・114は器高がやや深くなり，内外面黒色処理がみられる。調整は丁寧で，特に内面は平滑である。113は口径12.4cm，器高3.9cm，114は口径12.2cm，器高4.8cmを測る。115～119は口縁部に明瞭な稜を有さず，全体に半球形状を呈する杯である。調整は，外面ヘラケズリ，内面ナデで，116の内面にはミガキが加えられる。115は口径10.3cm，器高4.3cmと器高が深くなる。118は口径9.2cm，器高3.5cmを測る小形品で，胎土中に小砂粒を多く含み砂質を帯びる。口唇部の摩耗が著しい。120は平底となる杯で，内面に丁寧なミガキが施される。胎土中に赤色粒を多く含む。121は推定口径9.0cmを測る小形品で，内面に丁寧なミガキが施され，内外面黒色処理がみられる。胎土も緻密で丁寧な作りである。122・124は丸底気味の平底で，外面に粗いヘラケズリが加えられ，全体に粗雑な作りである。胎土中に小砂粒を多く含む。123は鉢状を呈する大形の杯である。口径15.0cm，器高7.2cmを測る。口縁部は稜を有して外反気味に直立し，底部は平底となる。125～128は手捏ね状を呈する杯である。器肉が厚く，粘土の輪積み痕が部分的に観察される。外面は粗いヘラケズリであるが内面の調整は比較的丁寧である。125の底部は木葉痕をヘラケズリで擦り消している。胎土中に小砂粒を多く含む。129～131は手捏ね土器で，130の底部には木葉痕が観察される。132・133は鉢で，133の胴部外面にはススの付着がみられる。134～139は高杯である。134・135は杯部片で，内面黒色処理，外面赤彩が施される。口径が大きく，口縁部が大きく外反するタイプで，138のような長い脚部が付くものであろう。杯部内面のミガキは丁寧である。136～139は脚部片である。136・137は短い脚で，調整は丁寧である。138・139は外面に赤彩が施される。138の胎土中に赤色粒が多く含まれる。140・141は須恵器の大甕である。140は推定口径43.0cmを測る。胴部外面には格子叩

き目，内面には同心円文が明瞭に残る。口頸部外面には縦位のカキ目を地文とし，2条の沈線と3条の波状文が巡る。頸部下位は強いナデにより擦り消されている。内面にも部分的に横位のカキ目がみられる。胎土中の砂粒の混入は少なく，やや軟質である。色調は，灰白色を呈する。141は口径25.0cm，胴部最大径47.5cm，器高51.5cmを測る。最大径を胴部上半に有し，底部は丸底となる。胴部外面には140より目の細かい格子叩きが施され，部分的にカキ目状の浅い沈線が巡っている。内面には同心円文がみられ，上部にはナデにより部分的に同心円文が擦り消されている。140より硬質の胎土で長石等の小石や白色針状物を含む。色調は青灰色を呈し，肩部に自然釉が観察される。142～165は甕である。142～144は球形胴を呈する一群である。142・143は小片で，外面にススの付着が認められる。144はほぼ完形で，口径15.4cm，器高28.8cmを測り，最大径を胴部中位に有する。胴部外面は被熱による荒れが顕著であるが，ヘラケズリ後下半部に粗いミガキが加えられる。胎土中に雲母や長石等の小砂粒を多く含む。145～153は長胴となるタイプである。145～149は胴部中位に最大径を有する。147・148はほぼ完形で，それぞれ口径20.2cm，器高29.4cm，口径14.5cm，器高20.7cmを測る。胴部外面上部には縦位，下位には横位の幅広のヘラケズリが施される。胎土中に小砂粒を含み，赤褐色の色調を呈する。外面にはススやカマド部材の付着が観察される。150～152は口唇部が摘み上げられ，胴下半部にミガキが施される一郡である。胎土中に雲母や長石等の砂粒を多く含み，黄褐色の色調を呈する。いわゆる「常総型」の甕である。154～165は小形の甕である。165は完形で無頸となり，上位に輪積み痕が観察される。胴部中央には焼成後の穿孔があり，内側から開けられているようである。

SI021（第11・36図，図版9・30）

調査区東側，3E－17グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は3.28m×3.68mのほぼ正方形を呈すると思われる。主軸方向はN－44.5°－Wを指し，床面積は9.5㎡を測る。攪乱が著しく周溝等の施設は確認されなかった。カマドが北西壁に設けられる。

出土土器

本住居跡から出土した土器は少ない。166・167は杯である。166は口径13.1cm，器高5.1cmを測る半球形状を呈する。内外面とも丁寧な調整で，黒色処理される。胎土中に赤色粒を多く含む。167は粗いヘラケズリが施され，胎土中に雲母や長石等の小砂粒を多く含む。

SI022（第8・36図，図版9・30）

調査区南東側，2E－94グリッド付近に所在する。規模は5.47m×5.34m，確認面からの深さ0.6mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－35°－Wを指し，床面積は28.4㎡を測る。床面は平坦で，中央が堅緻に踏み固められている。壁溝はカマド部分を除き，幅0.1～0.2mで全周している。柱穴は対角線状上に4本配置されている。径0.4m～0.6m，深さは0.6m～0.8mを測る。カマドは北東壁に設けられており遺存状態は良好である。袖は1m弱と長く延びているが，袖の上部は住居廃絶時に破壊されたものと考えられる。燃焼部から煙道部にかけてよく焼けている。

出土土器

168は須恵器の杯で，推定口径12.8cmを測る。底部は平底となろう。体部のロクロ目は明瞭に残る。胎土中の砂粒の混入は少なく，やや軟質である。黒灰色を呈する。169は扁平な摘みが付く須恵器蓋の小片で，

天井部には回転ヘラケズリが施される。胎土中に小砂粒を若干含み，灰白色の色調を呈する。170～172は杯である。170は完形で，口径8.4cm，器高3.4cmを測る丸底の小形品である。器肉がやや厚く，体部外面はヘラケズリ後ミガキが加えられる。胎土中に小砂粒を多く含む。171・172は平底状を呈する杯で，内面がミガキにより平滑に仕上げられる。171は漆による黒色処理，172は炭素吸着による黒色処理が施される。173は杯部を欠く高杯で，杯部内面が黒色処理される。脚部外面のヘラケズリは幅広で，雑な仕上げである。胎土はやや軟質を帯び，赤色粒を多く含む。174は口縁部に最大径を有する甕か甑の小片である。

SI023（第11・36図，図版9・30）

調査区東側，3E－26グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は3.68m×3.2m，やや南北に細長い長方形を呈しているようだが，不明瞭である。主軸方向はN－37°－Wを指す。柱穴などの施設は確認できなかった。カマドが北東壁に確認できたが，遺存状態が悪く詳細は不明である。しかし燃焼部は良く焼けており，比較的良く残っている。

出土土器

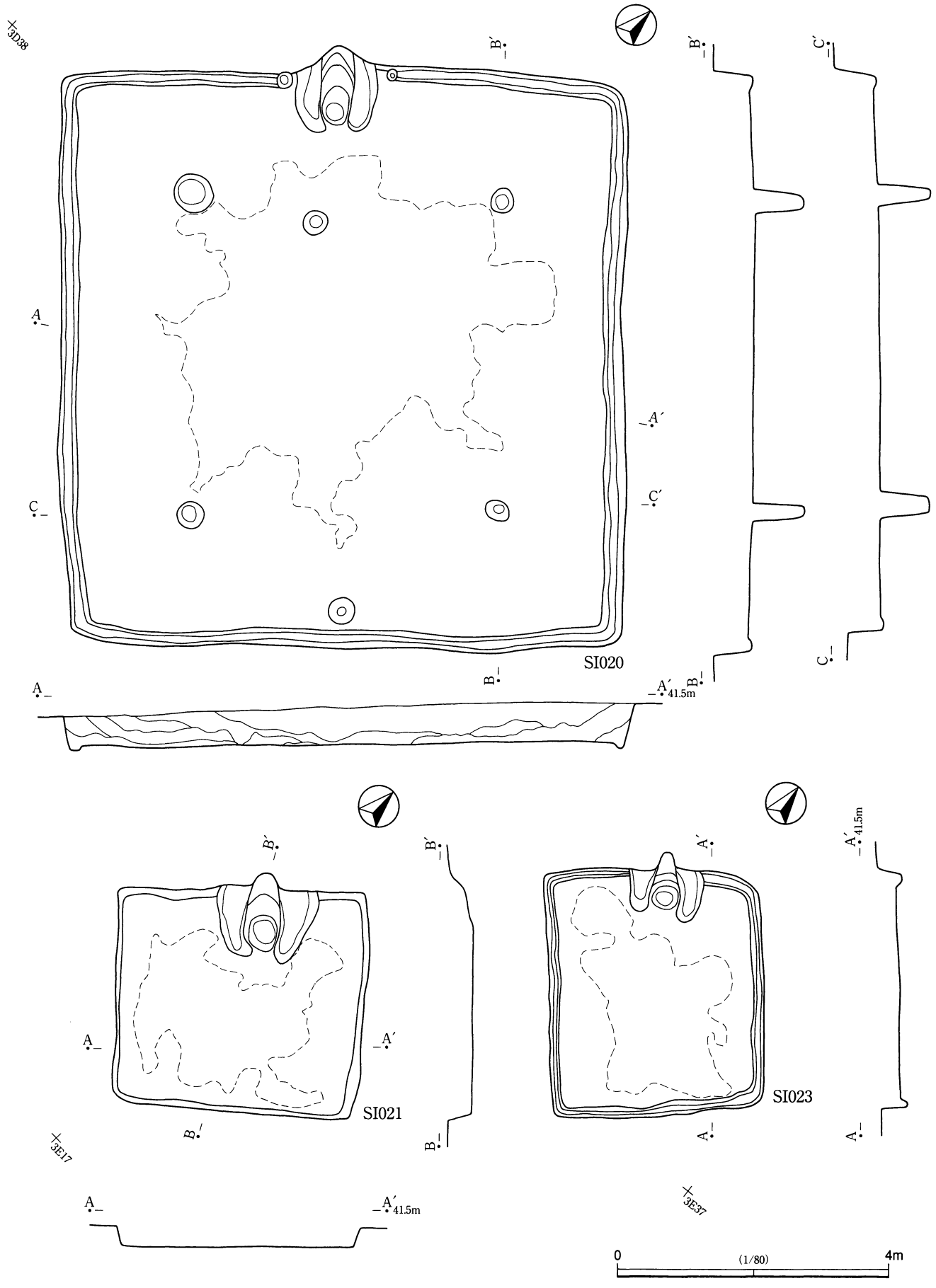
本住居跡からの出土土器は少ない。173は高杯の脚部である。杯部内面黒色処理，脚部外面赤彩が施される長脚の高杯のタイプである。脚部外面はヘラケズリ後丁寧なナデが加えられる。内面には粘土の接合痕が明瞭に観察される。胎土はやや軟質で，長石等の小砂粒を多く含む。176は甕の底部片で，胴部外面には粗いミガキがみられ，底部には木葉痕が残る。胎土中に長石や雲母の砂粒を多く含むことから，常総型となるものであろう。

SI024（第12・36・37図，図版10・30）

調査区東端，3E－58グリッド付近に所在する。規模は5.86m×5.56m，カマド部分を除き壁溝が全周し，ほぼ正方形を呈している。カマド前面から柱穴間は良く踏み固められている。ピットは5本あり，柱穴は対角線上に4本配置される。径は0.6m～1.0m，深さは0.9m～1.0mを測る。南東壁に近い深さ0.4mのピットは入り口に伴うものと思われる。主軸方向はN－38.8°－Wを指し，床面積は24.1㎡を測る。カマドは北西壁のほぼ中央に設けられる。遺存は良好である。

出土土器

177～179，181・182は杯である。177・179は小片であるが内外面黒色処理される。178は推定口径12.2cm，器高3.5cmを測る丁寧な作りの杯である。口唇部は薄く仕上げられ，内面に沈線状の浅い凹みが巡る。外面はヘラケズリ後ナデ，内面はナデ後放射状のミガキが施される。胎土は緻密で小砂粒を含み，赤褐色の色調を呈する。181は体部が直線的に開くもので，外面のケズリは粗い。182は小形品で，口唇部を欠くもののほぼ完形である。器面の荒れが目立つが，全体に調整は丁寧である。内外面黒色処理される。183は上部を欠くが，椀となるものであろう。器肉が厚く，外面のヘラケズリは粗い。粘土の接合痕が観察される。180・184は高杯の杯部片と脚部片である。180は口縁部が肥厚して大きく外反し，内面黒色処理される。184は長脚となる高杯であろう。外面赤彩，杯部内面黒色処理がみられる。185～189は甕である。遺存状況は良くないが，185は口縁部が大きく外反し，武蔵型に近い形状を呈する。胎土中に小砂粒を多く含み，外面下半部にカマド部材の付着が観察される。185～187は二次的に被熱したため，器面の荒れが顕著である。



第11図　SI020・021・023

SI025（第13・37図，図版10・30）

調査区東端，3E－47グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は3.18m×2.92m，確認面からの深さ0.4mを測り，やや北西に長い長方形を呈している。カマドの部分を除き壁溝が全周している。主軸方向はN－41°－Wを指す。ピットは確認されなかった。カマドは北西壁の中央に設けられる。トレンチャーにより一部攪乱しているものの全体として遺存は良い。袖は壁から1m程長く床側に延びている。

出土土器

出土土器は少ないが，図示した2点の土器は完形に近い。2点とも二次的に火を受けススの付着がみられる。190は丸底を呈する鉢で，口径13.0cm，器高9.2cmを測る。器面が荒れているため調整は不明であるが，内面はヘラナデ，外面はヘラケズリ後ナデが施されているようである。胎土中に小砂粒を多く含む。191は平底状を呈する小形の鉢で，口径9.4cm，器高5.3cmを測る。器肉が厚く，外面に輪積み痕や強いナデによる粘土のひずみがみられることから，手捏ねに近いものであろう。

SI026（第12・37図，図版10）

調査区東側，3E－45グリッド付近に所在している。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は5.42m×5.20m，確認面からの深さは0.2mを測り，正方形を呈している。主軸方向はN－30.5°－Wを指し，床面積は21.5㎡を測る。ピットは5本確認された。柱穴は対角線上に4本配置される。径0.7m～0.9m，深さは0.7m前後を測る。壁溝は攪乱されているもののカマドの部分を除き全周していると思われる。カマドは北西壁の中央に設けられる。袖は0.7m程延びている。煙道部は攪乱を受けており詳細は不明である。

出土土器

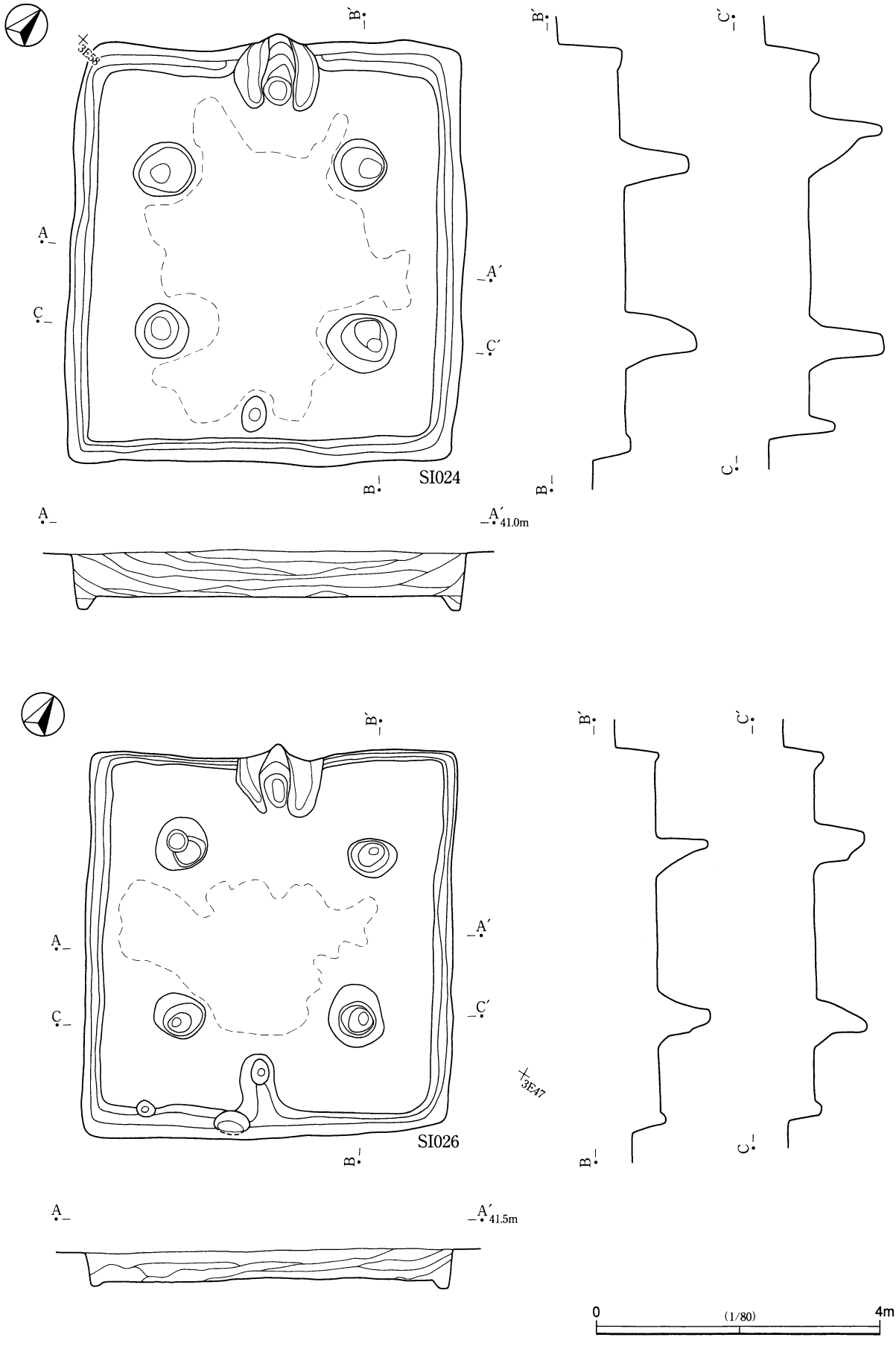
192は須恵器のカエリの付く蓋片で，推定口径13.0cmを測る。外面には自然釉がかかる。胎土は硬質で灰白色を呈する東海産と思われる。193は半球形状を呈する杯で，口径12.2cmを測る。器面が荒れているが，内面はミガキ後黒色処理が施される。胎土中に小砂粒を多く含み，口縁部付近に粘土の接合痕がみられる。194～198は甕で，194･195は小形となる。195は二次的に火を受け器面が荒れている。胎土中に小砂粒を多く含み，砂質を帯びる。196・197は口縁部及び底部の小破片で，外面にミガキが施される。

SI027（第13・37図，図版11・30）

調査区東側，3E－47グリッド付近に所在している。トレンチャーにより激しく攪乱している。規模は3.76m×4.58mを測り東西にやや長い長方形を呈する。主軸方向はN－42.5°－Eを指し，床面積は12.3㎡を測る。壁溝はカマドの部分を除き全周している。柱穴は対角線上に4本配置される。径0.4m～0.5m，深さ0.45m～0.5mを測る。カマド前から柱間は堅く踏み固められている。カマドは北東壁中央にに設けられる。袖は壁より0.9m程長く床側に延びており，焼土ブロックが厚く堆積している。煙道部は壁を円形に掘り込んで造られている。

出土土器

199・200は須恵器の蓋である。199は完形で，口径9.4cm，器高2.9cmを測る小形品である。カエリは比較的高いが，摘みは小さく扁平である。全体に丁寧なナデ調整で，天井部には回転ヘラケズリが施される。胎土は緻密で砂粒の混入も少ないが，全体に軟質であるため，常陸産の可能性が高い。灰白色の色調を呈



第12図　SI024・026

する。200は天井部片で，199同様小さな摘みが貼り付けられる。外面全体に自然釉が認められるため，調整は不明であるが，摘み部周辺に回転ヘラケズリが施されるものであろう。201は鉢の口縁部片，202・203は甕の口縁部片である。

SI028（第13・37図，図版11・30）

調査区東端，3E－57グリッド付近に所在する。SI051に南側を切られる。規模は6.26m×5.86m，南北にやや長い方形を呈する。主軸方向はN－41.5°－Wを指し，床面積は29.6㎡を測る。ピットは4本確認されている。3本が柱穴で深さは0.6m程である。カマドの東横にあるピットは貯蔵穴と考えられる。壁溝は北東壁に一部切れる部分があるものの全周すると思われる。カマドの袖は0.6m程延び，煙道は壁を短く円形に掘り込んで造られている。

出土土器

204・205は須恵器の杯身である。204は口径11.8cm，器高3.7cmを測る。体部下半に回転ヘラケズリが施される。胎土中に白色針状物を含み，灰白色の色調を呈する。205は口縁部を欠く。器肉が厚く，胎土中に白色の小砂粒を多く含む。器肉及び内面の色調は茶褐色を呈する。206・207は高杯である。206は口径15.4cm，器高11.0cmを測り，内面黒色処理，外面赤彩が施される。207も206と類似したタイプで，外面に赤彩が加えられる。208は底部を欠く甕である。胴部外面にループ状の粗いミガキが施される。胎土中に長石・雲母粒を多く含み，黄褐色の色調を呈する。常総型の甕である。

SI029（第14・38図，図版11・12・30）

調査区東側，3E－55グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が顕著である。規模は6.0m×6.1mでほぼ正方形である。主軸方向はN－26°－Wを指し，床面積は32.0㎡を測る。全体に焼土と炭化材が存在することから焼失住居と考えられる。カマドは北西壁の中央に設けられ，煙道は壁を円形に小さく掘り込んで造られている。燃焼部は比較的袖の入り口部に近く残存している。

出土土器

本住居からは比較的多くの土器が出土している。床面全体に分布している。210～223は土師器の杯で，すべて内外面黒色処理される。210～215は口縁部が内傾するタイプである。210は完形品で，口径13.0cm，器高4.8cmを測る。このタイプ中では最も器高が深くなる。他は口径12.0～13.6cmを測る。口縁部外面から体部にかけてミガキ，体部外面はヘラケズリ調整となるが，一部外面にミガキが加えられるものも認められる。216は口縁部がほぼ直立するタイプで，口径14.2cm，器高4.4cmと口縁部が内傾するタイプよりやや大形となる。217～221は半球形状を呈し，短い口縁部が弱い稜を有して摘み上げられるタイプである。このタイプは，体部外面ヘラケズリ，内面ヘラナデ調整を基本としており，一部を除いてミガキ調整は加えられない。220が推定口径12.8cmとなる以外は口径13.6～13.8を測る。222・223は体部下端に稜を有して長い口縁部が内湾気味に外傾するタイプである。内外面とも丁寧にヘラミガキ調整が施される。223は口径14.2cm，器高4.2cmと比較的大形である。この2点はいわゆる東北系土器の範疇に含まれるものであろう。224は口径19.1cm，器高11.7cmを測る大形の鉢である。調整は丁寧で，内外面ともミガキが施され，器面はきわめて平滑である。砂粒の混入は少なく，焼成も良好である。225は口径19.8cmを測る大形の高杯である。長脚が付くタイプであろう。杯部外面は丁寧なヘラケズリ，内面はミガキ調整が施され，外面赤彩，内面黒

色処理が加えられる。胎土中に長石や雲母粒を多く含む。226～229は甕である。226は口唇部を摘み上げ，肩部にヘラのあたりが観察される。胴部に粗いミガキが施される常総型の甕であろう。227・228はほぼ完形で，ヘラケズリ調整が主体である。いずれも二次的に被熱しており，227の胴部下半にはカマド部材の付着がみられる。230・231は小破片であるが，同一個体となる甑と思われる。胴部下端内面のミガキは丁寧である。

SI030（第14・39図，図版12）

調査区の東側，3E－75グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が著しい。南側をSI032に切られる。主軸方向はN－37.5°－Wを指す。北西壁とSI032に切られている壁以外には壁溝が残っている。床面は良く踏み固められ，ピットが2本確認され柱穴と思われる。深さ0.6m程である。

出土土器

本住居からの出土土器は少なく，杯1点と甑1点のみである。232は平底となる杯の破片である。推定口径14.4cmを測る。体部外面には雑なヘラケズリが施されるが，以外は丁寧にナデ調整される。胎土中に小砂粒を多く含むが焼成良好である。233は砲弾型を呈する甑である。外面ヘラケズリ，内面ナデ調整で外面に黒斑がみられる。黄褐色の色調を示す。

SI031（第15・39図，図版12）

調査区のほぼ中央に位置し，3E－50グリッド付近に所在する。トレンチャーにより攪乱されている。規模は長軸3.2m，短軸3.1mを測り，正方形に近い小形の住居である。主軸方向はN－34°－Wを指し，床面積は7.8㎡を測る。壁溝は南西と北東の一部に存在する。ピットが2本確認されているが，柱穴ではない。南東壁に近いピットは入り口に伴うものかもしれない。カマドが北西壁に設けられ，煙道部は壁を小さく掘り込んで造られている。

出土土器

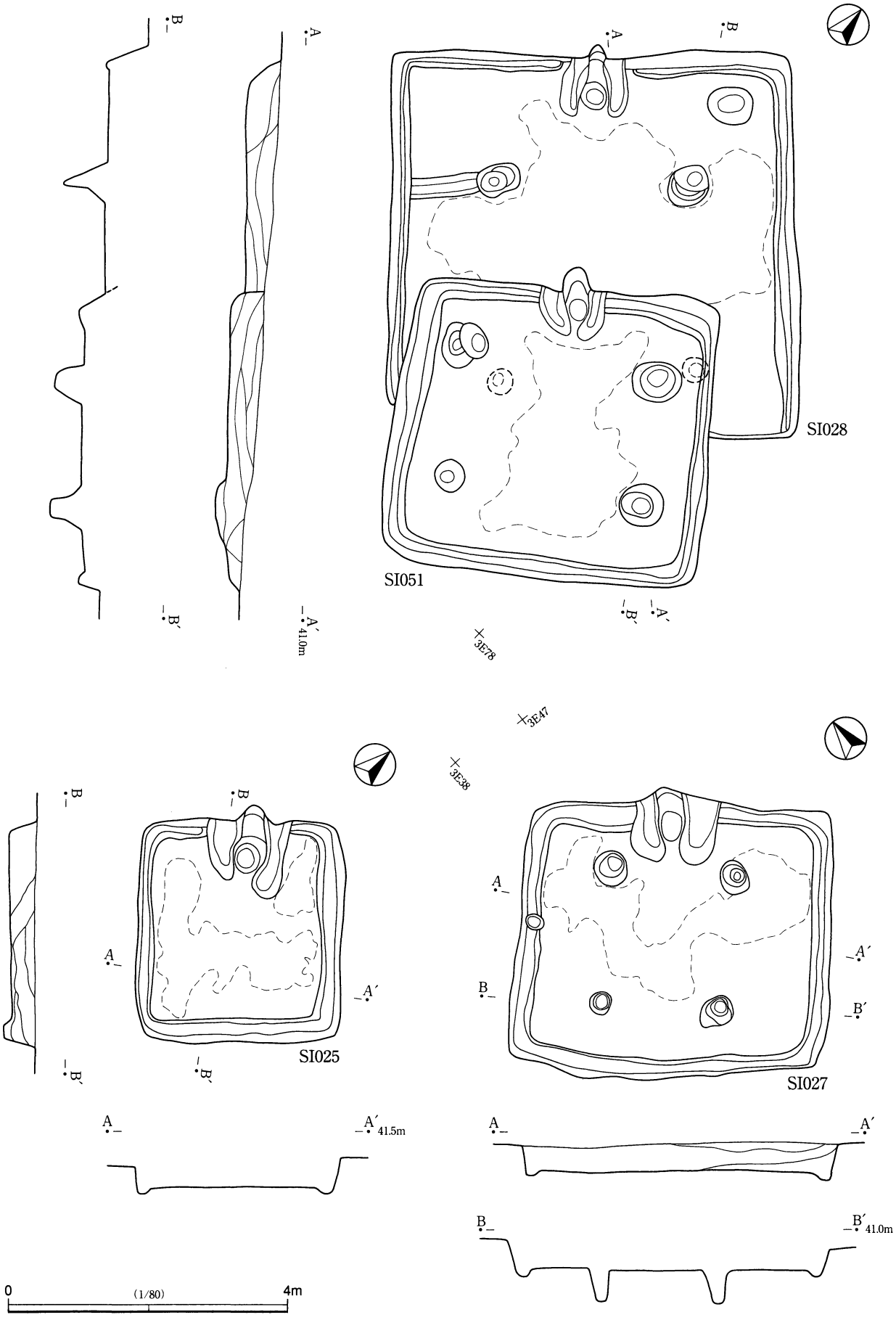
本住居からの出土土器は少なく，図示できた土器は甑1点のみである。234は筒状を呈する甑で，口径16.0cm，器高18.0cmと小形となる。胎土中に小砂粒を多く含み，全体にザラついた感がある。内面のナデは比較的丁寧であるが，作りはやや雑である。

SI032（第14・39図，図版12）

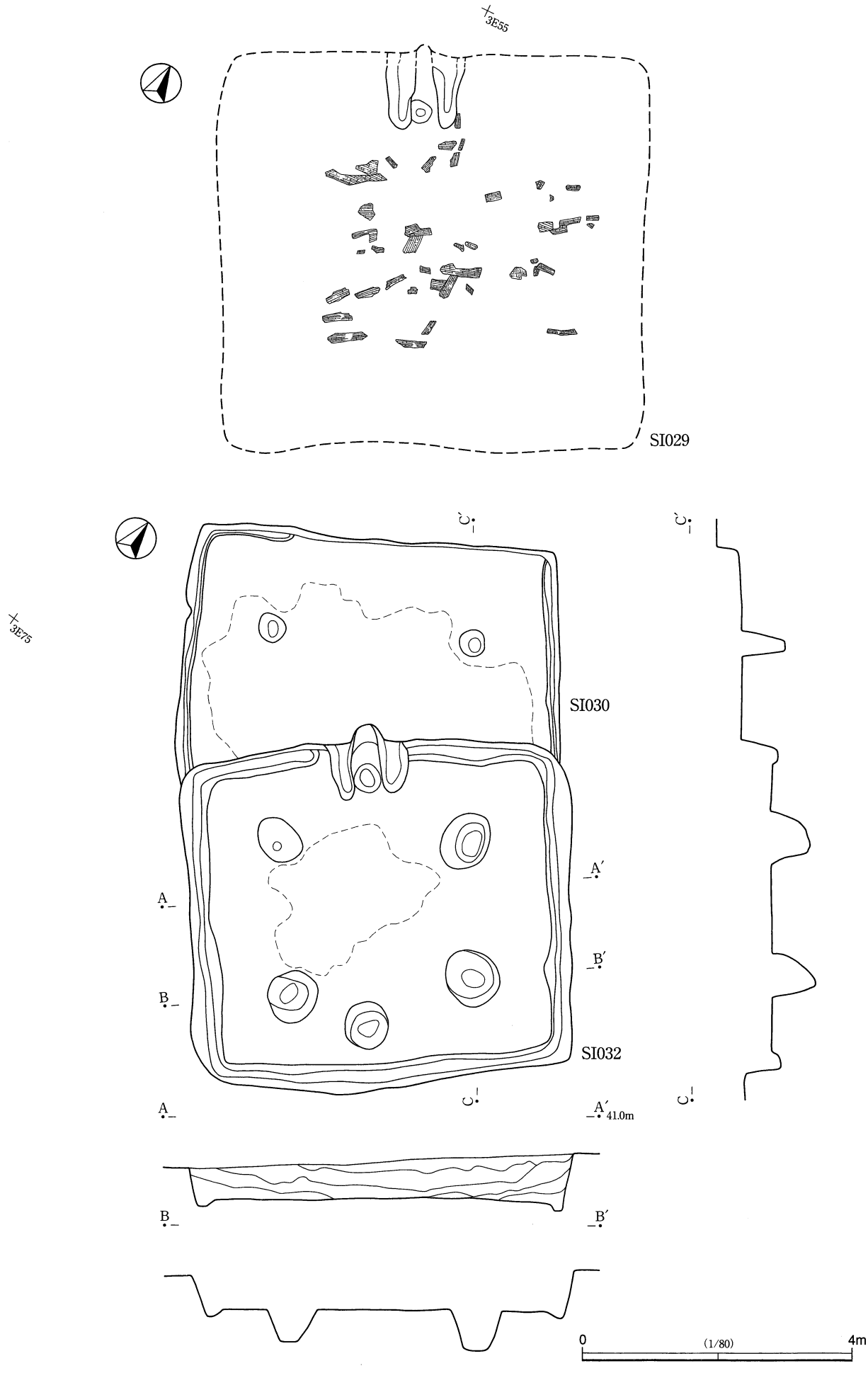
調査区東端，3E－76グリッドに所在する。SI030を切る。規模は長軸5.7m，短軸4.8mを測り東西に長い方形を呈する。主軸方向はN－38.5°－Wを指し，床面積20.1㎡を測る。床面は平坦でハードローム中に形成され，確認面から0.7mと比較的深い。カマド前面から柱穴間は堅く踏み固められている。ピットは5本確認されており，柱穴は対角線上に4本設けられている。径0.7m程で，深さは0.5m～0.66m程を測る。カマドとの対面の壁際中央に位置するピットは，深さ0.44mで入り口に伴うものと思われる。壁溝はカマドの部分を除き幅0.1m～0.2mで全周している。カマドは北西壁に設けられている。煙道部は壁を半円形に掘り込んで造られているが，袖部は攪乱により残存していない。

出土土器

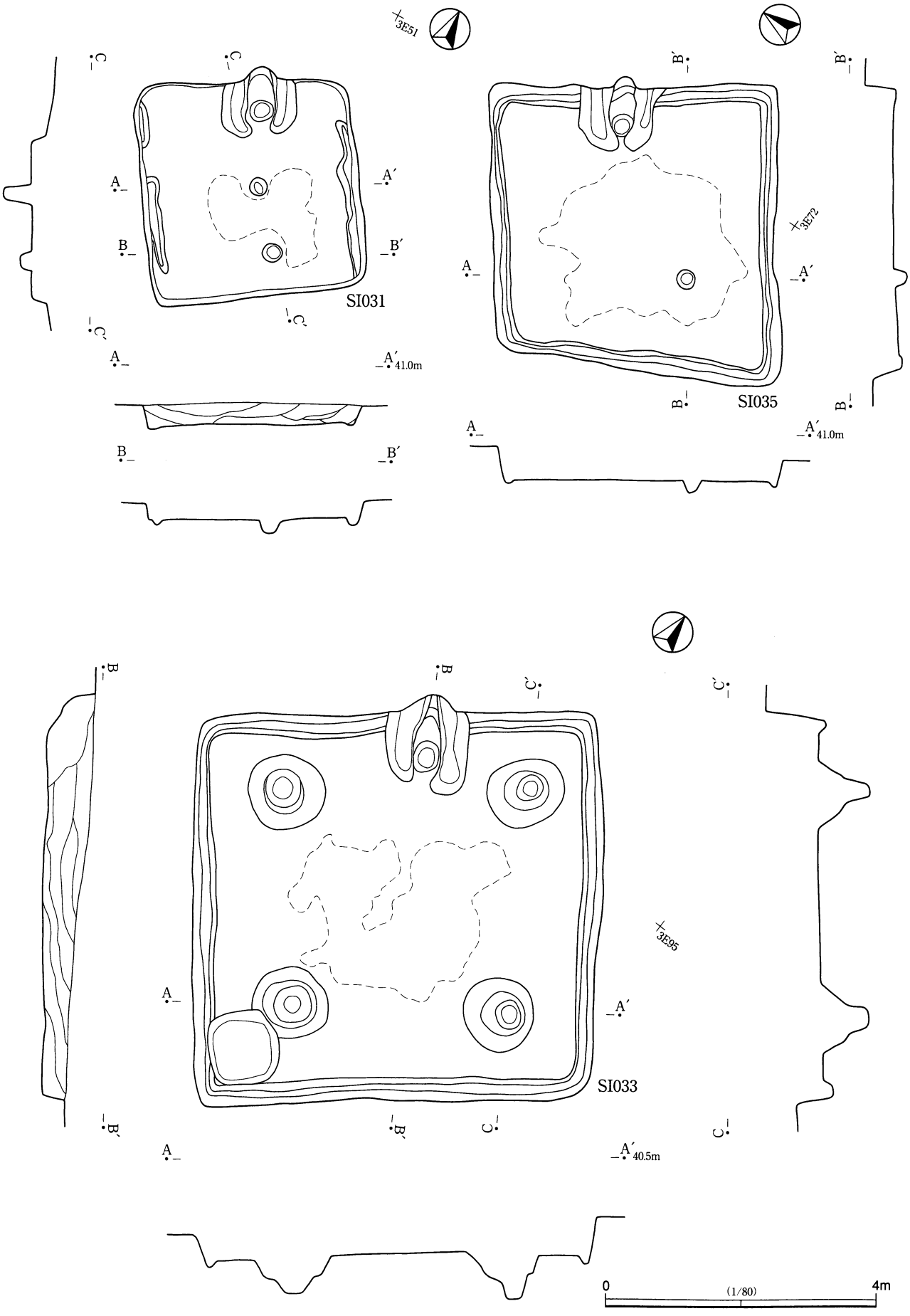
235・237は平底の杯の底部片である。いずれも大形になると思われる。237は底部内面にやや不規則な螺



第13図　SI025・027・028・051



第14図　SI029・030・032



第15図　SI031・033・035

旋状暗文が施される。236は椀で作りは丁寧である。外面にはヘラケズリ後ミガキ,内面にも不明瞭ながらミガキがみられる。胎土中に小砂粒を多く含む。238～240は甕である。239は，大形の甕の口縁部片で，口径22.2cmを測る。胎土中に長石・雲母などの砂粒を多く含む。常総型の甕である。

SI033（第15・39図，図版13・30・31）

調査区の南西端，3E－94グリッドに所在する。規模は5.68m×6.14m，確認面からの深さ0.5mを測り，やや東西に長い方形をしている。主軸方向はN－36.5°－Wを指し，床面積は26.8㎡を測る。床面は平坦で全体に堅緻である。特に入り口付近が堅く踏み固められている。壁溝は0.15m～0.2mの幅でカマドの部分と入り口と思われる部分が途切れるが，ほぼ全周する。柱穴は対角線上に４本配置される。径は１m程で深さ0.5m～0.7mを測る。床面南西コーナー部に隅丸の方形のピットが設けられている。一辺１m程を測るが，貯蔵穴と思われる。カマドは北西壁に設けられている。袖は１mほど床面に延び燃焼部は入り口付近に残存している。入り口部を中心に土器が出土している。煙道部は細長く，小さく壁を掘り込んで造られている。

出土土器

本住居からの出土土器は多く，須恵器の割合が高いことが大きな特徴である。図示した以外にも須恵器の小片がみられる。241～243は須恵器の杯であるが,それぞれタイプが異なる。241は器受け部の付く小形の杯で，体部下端から底部にかけて回転ヘラケズリが施される。胎土は軟質で砂粒の混入は少ないが，白色針状物が若干含まれる。242は推定口径9.1cmを測る箱形の杯である。体部はナデ調整，体部下端から底部には回転ヘラケズリがみられる。胎土は硬質で,長石粒を多く含む。体部外面には自然釉がかかる。243は高台の付く杯で，口径13.5cm，器高4.6cmを測る。体部は丸みを帯び，底部はやや突出する。胎土中に小砂粒を多く含む。常陸産であろう。244は杯身であろう。推定口径10.8cm，器高3.7cmを測る。ロクロ目が強く残り,底部には手持ちヘラケズリが施される。胎土中に小砂粒を含む。245の杯蓋とセットとなるものと考えられる。245･246はカエリの付く須恵器の杯蓋である。245は口径11.2cm，器高3.4cmを測る。扁平な小さな摘みが付く。天井部には回転ヘラケズリ調整が加えられる。胎土･色調などから244の蓋となるものであろう。246はさらに小形となる。破片であるが，天井部外面に自然釉がみられ，胎土も類似することから，242の杯身の蓋と思われる。247は，口径10.4cm，器高3.0cmを測る須恵器の蓋である。口唇部は丸く膨らみ，天井部には回転ヘラケズリが施される。また，天井部外面には，部分的であるが焼成後の線刻が観察される。胎土中の砂粒の混入は少なく,焼成良好である。241の杯身の蓋と思われる。248～252は土師器の小形の杯である。いずれも口縁部が短く内屈し，不鮮明であるが内外面とも黒色処理される。248は完形で，口径9.1cm，器高2.9cmを測る。調整は丁寧で，外面はヘラケズリ後ミガキが加えられる。胎土中の砂粒の混入は少ないが，赤色粒を若干含む。他も口径９cm前後で252以外は胎土･調整とも248と類似する。252は口縁下の稜が強く張り出し，外面のヘラケズリもやや粗くなる。胎土はやや砂質を帯び，焼成もあまり良くない。253は高杯で，脚裾部を欠く。杯部は口径15.6cmの浅い皿状を呈し，外面ヘラケズリ，内面ミガキが施される。内面のミガキは，横位後放射状となる。杯部内面は炭素吸着による黒色処理，外面には赤彩がみられる。胎土中に長石などの砂粒を多く含む。254～258は甕である。256は胴部下位に最大径を有する下膨らみの器形を呈する。258は底部片であるが，胴部外面にヘラミガキがみられ，胎土中に長石･雲母などの砂粒を多く含み，黄褐色の色調を呈することから，常総型の甕となる。

SI034（第16・40図，図版13）

調査区の中心，3E－72付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が著しい。規模は4.8m×4.82mで床面は平坦で，ほぼ正方形を呈している。主軸方向はN－28.5°－Wを指している。床面積は18.2㎡である。カマド前から柱穴間入り口付近が堅く踏み固められている。壁溝は南東壁が攪乱で不明であるがカマド部分を除いて巡っている。柱穴は対角線上に4本配置される。深さ0.55m～0.66mである。カマド対面の壁際にあるピットは入り口に伴うものと思われる。

出土土器

259は須恵器の高台付杯で，推定口径15.2cm，器高4.5cmと大形で扁平である。高台は底部外周に貼り付けられ，口唇部は薄く外側に屈曲する。底部外面は回転ヘラケズリが施され，焼成前のヘラ描きが観察される。胎土中に石英等の小砂粒を多く含む。常陸産であろう。260は扁平な擬宝珠状の摘みが付く須恵器の蓋である。推定口径16.8cmを測る。胎土は軟質で砂質を帯び，灰白色の色調を呈する。262は半球形を呈する杯で，外面ヘラケズリ，内面ミガキ後放射状の粗いヘラミガキが加えられる。胎土中に赤色粒を多く含む。262は小形甕で，二次的に被熱している。胎土中の小砂粒の混入が多い。

SI035（第15・40図，図版14）

調査区中心付近，3E－61グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は4.4m×4.22mでやや不正な正方形を呈する。主軸方向はN－55°－Eを指し，床面積は13.1㎡を測る。ピットは1本検出されているが柱穴になると思われる。カマドは北東壁中央に設けられている。攪乱が著しいが壁から0.9m程度床面に延びている。煙道部は壁を小さく円形に掘り込んで造られている。

出土土器

263は鉢で，丁寧に調整されているようであるが，器表面が荒れているため詳細な調整は不明である。胎土中に小砂粒を多く含む。264は小形の壺であろう。内外面ともヘラケズリであるが，外面には弱いミガキがみられる。赤褐色の色調を呈する。265・266は甕である。265は口径14.4cmを測る小形の甕で，外面は粗いヘラケズリが施される。二次的に被熱し，胎土中の小砂粒の混入が多い。266は球形胴に近いものであろう。焼成良好である。

SI037（第17・40図，図版14）

調査区中心，3E－60グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は4.78m×4.96mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－35.5°－Wを指し，床面積は16.3㎡を測る。床面中央部は堅く踏み固められている。壁溝は全周するものではなく，部分的に途切れている。ピットは5本確認された。柱穴は対角線上に4本配置される。深さは0.4m～0.8m程と一定ではない。南東の壁中央近くにある1本のピットは，その位置から入り口に伴うものと思われる。カマドは北西壁中央に設けられる。攪乱を受けているため遺存状態は悪い。

出土土器

本住居からの出土土器は少なく，甕1点を図示したのみである。267は甕の小破片で，頸部から口縁部にかけて器肉が厚くなる。胎土中に小砂粒を多く含む。図示できなかったが，須恵器片が出土しており，底部外縁に高台の付く杯から，8世紀前半の年代が想定できる。

SI038（第16・40図，図版14）

調査区ほぼ中央，3E－80グリッド付近に所在する。SD009に切られる。また，トレンチャーによる攪乱が著しく詳細は不明瞭である。規模は4.22m×4.52m，主軸方向はN－49°－Eである。

出土土器

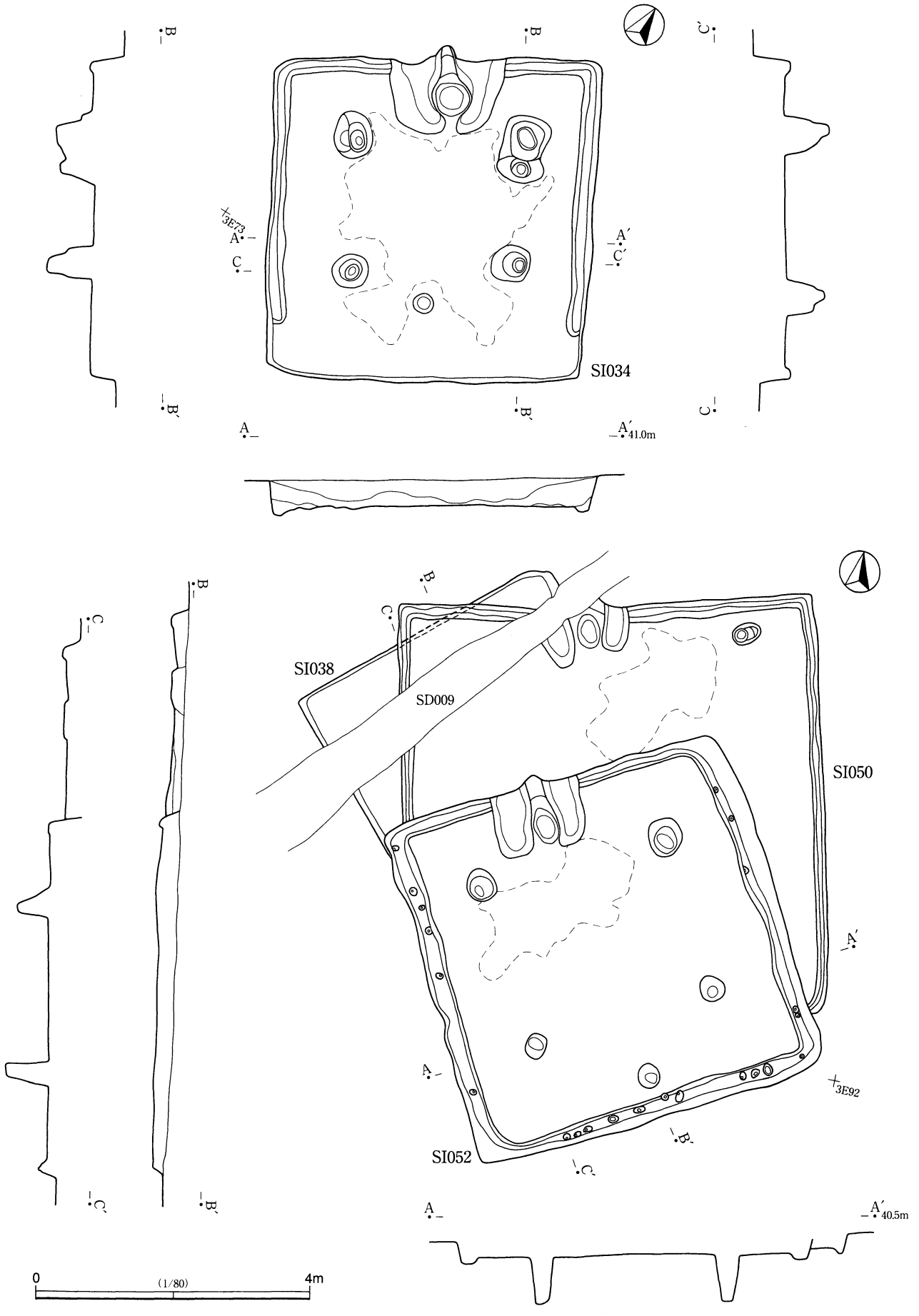
本住居からの出土土器は少なく，甕1点を図示したのみである。268は小形甕の小破片で，二次的に被熱し，全体に荒れている。胎土中に小砂粒を多く含む。図示できなかったが，須恵器片が若干出土している。ロクロ目の弱い口径の大きな杯から，8世紀段階の所産と思われる。

SI039（第17・40・41図，図版15・31）

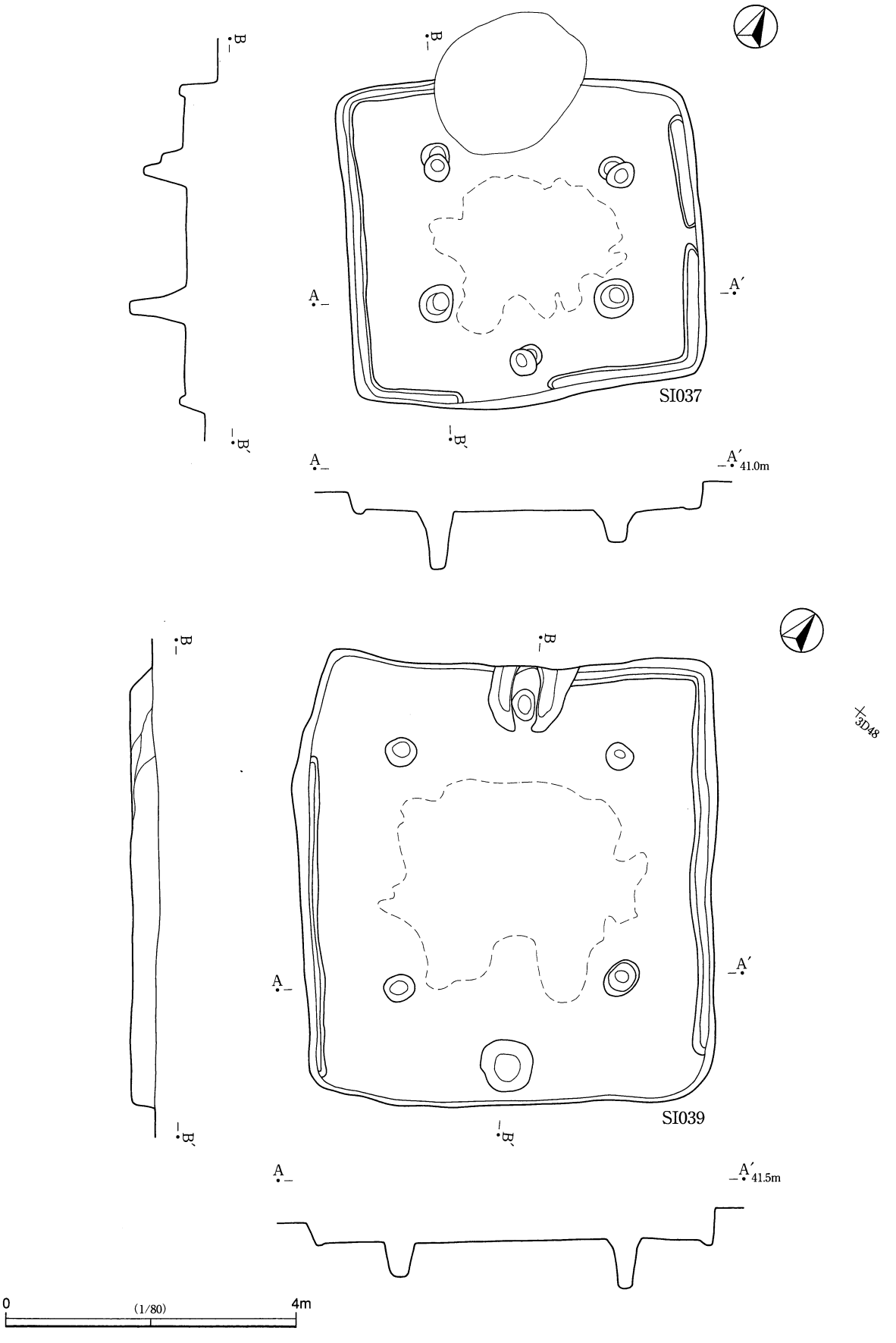
調査区中央に位置し，3D－57グリッドに所在する。SI040を切る。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は長軸6.14m，短軸5.72mを測り，南北に長い方形を呈する。主軸方向はN－38.5°－Wを指し，床面積は29.6㎡を測る。床は平坦で中央が踏み固められて堅緻になっている。攪乱により北西と南東の壁溝が失われているため，全体は不明瞭である。西南と東北の壁溝は，幅0.5m～1.5mを測る。ピットは5本確認されている。そのうち柱穴は対角線上に4本配置される。深さ0.4m～0.6m程度である。南東の壁に接して幅0.7m，深さ0.53m程のピットが存在するが，入り口に伴うものと思われる。カマドは北西壁中央に設けられている。

出土土器

本住居からの出土土器はきわめて多く，床面全体に分布している。269～280は土師器の杯である。269～275は口縁部が内傾するタイプで，275以外は口縁下の稜が強く外側に張り出す。調整はほぼ同様で，口縁部内外面ともミガキ，体部外面ヘラケズリ後ミガキ，内面ナデ後ミガキとなる。内外面とも不鮮明ながら黒色処理が施される。274はほぼ完形で，口径12.4cm，器高4.0cmを測る。他は，口径12cm前後で，272のみ14.2cmと大きくなる。275は若干様相が異なり，ヘラケズリ後のミガキ調整が認められない。全体に器肉が厚く，胎土中の小砂粒の混入が多くなる。黒色処理もみられない。276・277は口縁部が直立するタイプである。276は推定口径13.0cmと大形となる。器面が粗いため詳細な調整は不明であるが，ミガキが加えられているものと思われる。内外面黒色処理される。胎土中に小砂粒が多く含まれる。277は完形で，口径15.2cm，器高5.9cmとやはり大形となる。内外面とも丁寧にヘラミガキが施されるが，黒色処理は認められない。橙褐色の色調を呈し，口唇部の摩耗が顕著である。281は口径14.4cmを測る平底気味の底部を形成する鉢である。全体に作りは粗雑で，体部外面のヘラケズリも粗いが，内外面にミガキが施される。282は手捏ねの様相を示す小形の椀である。内外面ともナデ調整されるが，外面の一部に輪積み痕が観察される。底部外面に黒斑がみられる。283～288は高杯であるが，283のみほぼ完形で，他は脚部のみの遺存である。283は口径17.2cm，器高13.7cmを測る。杯部内面には丁寧なミガキ，脚部外面には縦位のヘラケズリが施される。胎土中に長石・雲母等の小砂粒を多く含み，杯部内面黒色処理，杯部から脚部外面赤彩が加えられる。胎土中の砂粒の混入は少なく，杯部内面の荒れが顕著である。284～290は脚部のみで，284・288・289は長脚，290は短脚となるものでろう。胎土・調整等は283とほぼ同様で，外面に赤彩が施されるものがほとんどである。唯一289のみ赤彩や黒色処理がみられない。291はミニチュア土器であろう。292～306は土師器の甕である。292は推定口径18.4cm，器高24.2cmを測る。胴部上半に最大径を有し，口縁部がコの字状を呈する。内外面ともヘラケズリ調整で，口縁部内面に粘土の接合痕がみられる。胎土中に小砂粒を多く含む。以外



第16図　SI034・038・050・052



第17図　SI037・039

の甕は多くが口縁部片で，調整や胎土は292と類似する。多くが在地産と思われるが，304は胴部外面に幅広のミガキが加えられる。胎土中に長石の比較的大粒の砂粒や雲母の小砂粒を多く含むことから，常総型の甕となろう。305・306は小形の甕で，同一個体となる可能性がある。

SI040（第18・42図，図版15）

調査区中央，3D－47に所在する。SI039に切られ，SI041を切る。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は5.18m×4.82m，確認面からの深さ0.3mを測り，南北に長くやや不整な方形を呈する。主軸方向はN－3.5°－Eを指し，床面積は17.2㎡を測る。床面は中央が堅緻である。壁溝はSI039に切られている部分とカマドの部分を除いて巡っている。ピットは4本検出されている。コーナーに位置する3本が柱穴である。深さは0.5m～0.7m程度と比較的深い。南壁に近いピットは入り口に伴うものと思われる。深さは0.2m程度である。カマドは，北壁中央に設けられている。攪乱により不明瞭であるが，煙道部は小さく壁を掘り込んでいる。

出土土器

307は推定口径10.4cm，器高3.8cmを測る小形の杯である。器肉が比較的厚く，造りは雑である。体部外面ヘラケズリ，内面ヘラナデがみられる。胎土中の砂粒の混入は少ない。308は壺で，フラスコ状瓶の胴部片であろう。内外面ともロクロ目が強く残り，胴端部は別作りの粘土で塞がれる。器肉は比較的薄い。胴部外面には自然釉が観察され，胎土中に黒色粒が目立つ。これらの特徴から東海産と思われる。309～311は甕であるが，胴部が球形胴に近くなる。310は口唇部が短く摘みあげられている。胎土中に小砂粒を多く含み，胴部外面にカマド部材の付着がみられる。312は底部を欠くが，砲弾型を呈することから単孔の甑になると思われる。外面全体に二次的な被熱痕が認められる。

SI041（第18・42図，図版16）

調査区中央，4D－36グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は，5.96m×5.9m，確認面からの深さ0.2mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向N－44.5°－Wを指し，床面積28.3㎡を測る。床は平坦で確認面からの深さ0.25mを測り，カマド前から柱穴間，入り口付近は堅緻である。壁溝はSI040に切られている部分とカマドの部分を除いて全周している。ピットは5本確認されている。柱穴は対角線上に4本配置される。深さは，0.6m～0.9mと非常に深い。南西壁近くのピットは入り口に伴うものと思われる。深さは0.23mである。カマドは，北西壁に設けられている。攪乱が著しく煙道部は消失している。袖は床面に1.2m長く延びている。燃焼部は入り口に近い。

出土土器

本住居の出土土器では，高杯の占める割合が多い。313～319は高杯である。313は小形，314・315は大形になると思われる。314は器肉も薄く，丁寧な作りである。内外面とも細かなミガキ調整が施され，黒色処理される。本遺跡出土の高杯は外面赤彩が多いが，314のように外面黒色処理される資料はほとんどみられない。315は長脚の付くタイプで，外面に赤彩が加えられる。316は一見杯のように見えるが，底部の形状から高杯となる。内面に丁寧なミガキが施され，314同様内外面黒色処理となる。317～320は脚部片である。321～323は甕となる。321は口縁部に最大径を有し，胎土中に長石等の比較的大粒の砂粒を多く含む。322はコの字状の口縁部を呈し，胴部が球形に近いものであろう。323と同一個体になるかもしれない。

SI042（第18・43図，図版16）

調査区北端，2E－23付近に所在する。東北側半分は調査区外である。主軸方向は，N－56.5°－Wを指し，床面積は7.9㎡である。ピットは3本確認されている。2本は対角線上に配置され，柱穴と思われる。南東壁近くのピットは入り口に伴うものと考えられる。

出土土器

本住居からの出土土器は少なく，甕1点のみ図示できた。324は甕の底部で，胴部下端に横位のヘラケズリがみられる。胎土中に砂粒を多く含む。図示できなかったが，他に須恵器の大形甕の口縁部片が含まれる。外面に櫛歯状工具による波状文が施される。

SI044（第18・43図，図版16・31）

調査区北端，2E－10グリッド付近に所在する。北西半分は調査区域外である。一部南西部はトレンチャーで攪乱されている。主軸方向は，N－43.5°－Wを指し，床面積は20.4㎡を測る。ピットは4本確認されている。3本は柱穴で対角線上に配置される。深さは0.7m～0.8mと非常に深い。南東壁に接しているピットは入り口に伴うものと思われる。深さは0.18mである。

出土土器

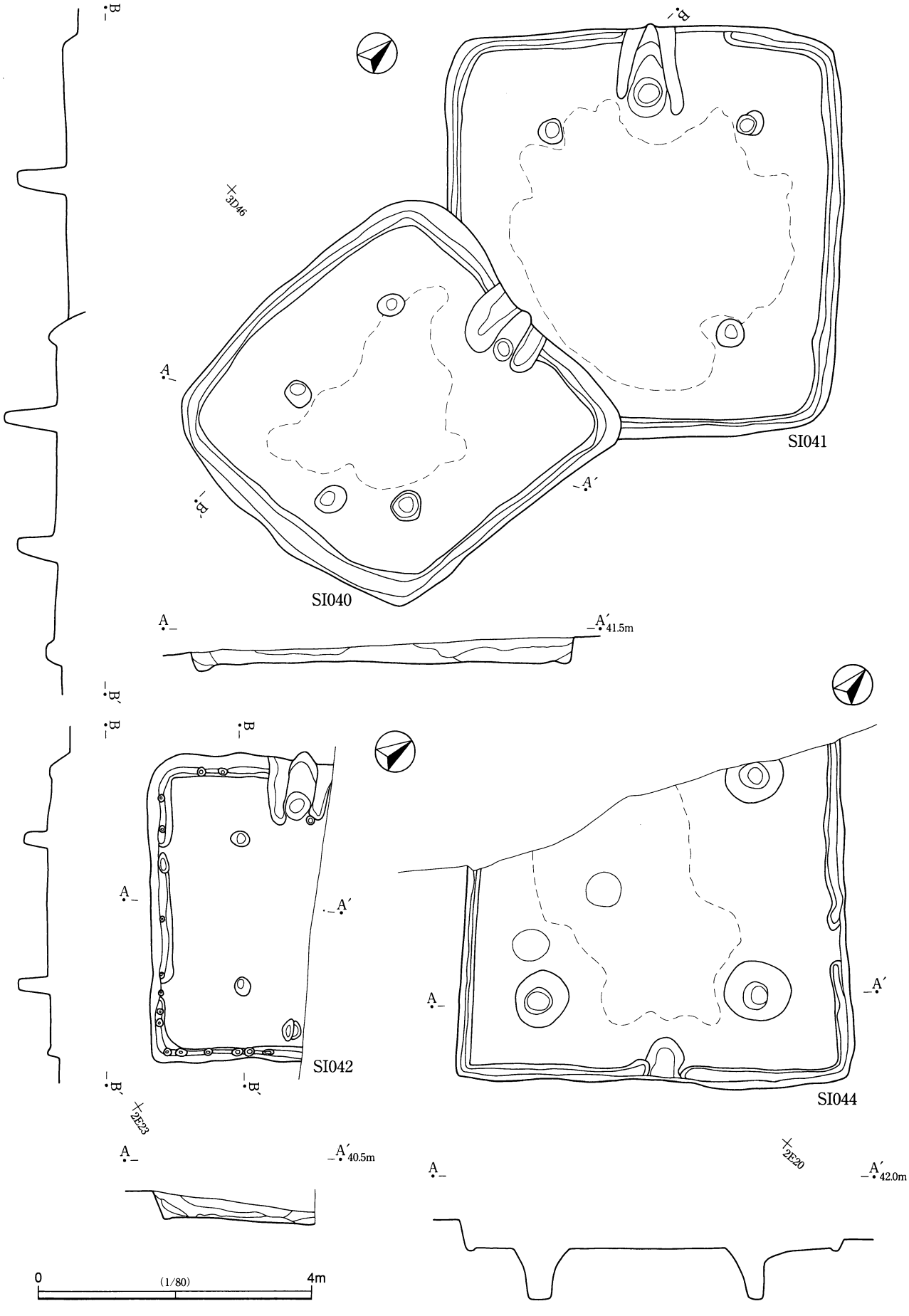
325・326は杯である。325は小片であるが，内外面黒色処理が観察される。326は完形で，口径12.6㎝，器高5.2㎝を測る。体部から底部にかけて器肉が徐々に厚くなる。体部外面は粗いヘラケズリであるが，部分的にミガキ調整がみられ，粘土の接合痕が残る。胎土中に赤色粒を多く含む。327は外面赤彩，内面黒色処理の高杯の杯部片である。328・329は甕である。328は胴部外面に幅広の斜位のヘラケズリが施される。胎土中の砂粒の混入は比較的少なく，黒斑が観察される。330は手捏ね土器である。

SI046（第19・43図，図版17）

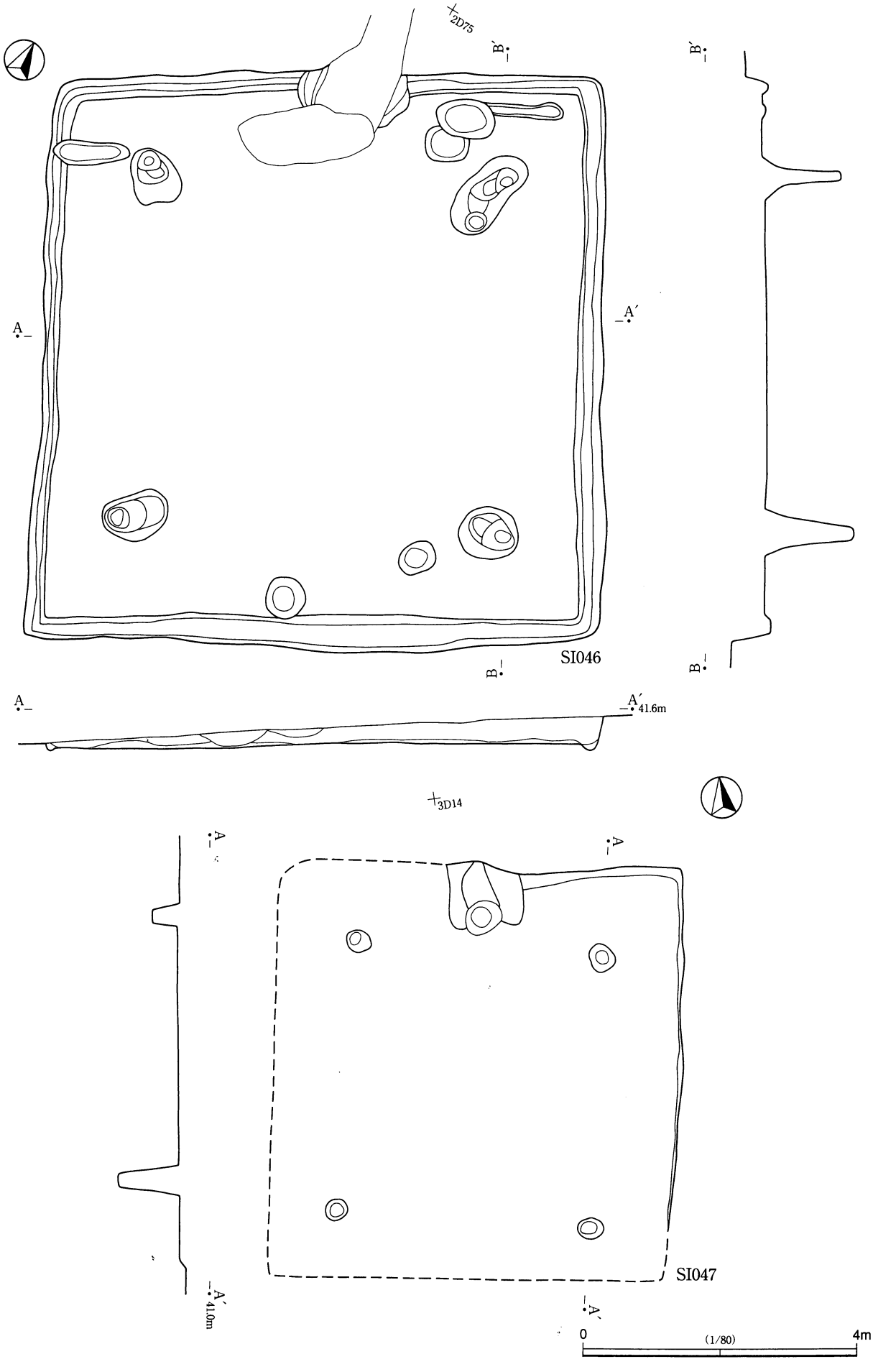
調査区北側，2D－85グリッドに所在する。トレンチャーの攪乱がある。規模は8.3m×8.1m，主軸方向はN－29°－W，SD010に切られる。壁溝は攪乱の部分を除き全周する。幅0.1m～0.2mである。ピットは7本確認された。柱穴は対角線上に4本配置される。深さ1.1m～1.2m程で非常に深い。南東壁のやや東に存在するピットは入り口に伴うものと思われる。深さは0.2程度である。カマドが北西壁にあったがSD010により削平され遺存状態が非常に悪く，詳細不明瞭である。カマドの東脇に重複する2本のピットがあるが，貯蔵穴と思われる。南側が古く北側が新しい。

出土土器

331は推定口径11.0㎝を測る須恵器の杯蓋である。摘み部を欠くが，やや扁平な擬宝珠状摘みが付くものと思われる。全体に丁寧な作りで，天井部上端には回転ヘラケズリが施される。胎土は緻密で，黒色粒や白色針状物をを含む。東海産であろう。332は小破片のため器種の特定が難しいが，須恵器瓶の口縁部の可能性がある。胎土中の小砂粒の混入は少ない。333～335は土師器の杯である。口縁部が内傾するタイプで，いずれも内外面黒色処理される。333は器面が荒れているため詳細な調整は不明であるが，他は内外面とも丁寧なミガキが加えられる。推定口径12.1㎝～13.3㎝を測る。胎土は，333のみ砂粒を多く含むが，他は少ない。336～342は完形品はないものの高杯となる。杯部は強い稜を有して，口縁部が大きく開くタイプであるが，338は杯部が深く，稜を持たずに大きく開くものである。336・337は内面黒色処理，外面赤彩が認



第18図　SI040～042，044



第19図　SI046・047

められる。340・341・342は脚部である。それぞれタイプが異なり，340は短脚，342は長脚となる。341は裾部のナデが強いため，中位に明瞭な稜を形成する。胎土や色調も他と異なり，緻密な胎土で赤色粒を多く含み，黄褐色の色調を呈する，赤彩は加えられない。343～345は比較的小型の甕である。

SI047（第19・43図，図版17）

調査区の北西側，3D－14グリッド付近に所在する。西側の床面が削られており，残存していない。主軸方向はN－12°－Eを指し，床面積は33.8㎡と想定される。検出された4本のピットは柱穴で，対角線上に配置される。深さは0.4m～0.8m程度を測る。カマドは北壁に設けられているが，遺存状態は悪い。袖部は削平されておりその痕跡を残すのみである。燃焼部は入り口部分に残っている。煙道部は小さく三角形に壁を掘り込んでいる。

出土土器

本住居からの出土土器は少ない。346は半球形状を呈する杯で，推定口径13.2cmを測る。器表面が荒れているため詳細は不明であるが，内外面とも黒色処理されているようである。347は高杯の杯部片，348は甑と思われる。

SI050（第16図，図版17）

調査区中央付近，3E－92グリッドに所在する。SI038，SI052，SD009に切られる。北西部分のみの残存である。主軸方向はN－13.75°－Wを指している。カマドは北西壁中央に設けられているが，遺存状態は悪い。袖部は削平され，煙道部は残存していない。燃焼部が袖部の入り口部分に若干残る。

遺物の出土はなかった。

SI051（第13・44図，図版18・31）

調査区東端，3E－68グリッドに所在している。SI028を切る。規模は4.28m×4.62m，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－35.25°－Wを指し，床面積は，13.7㎡を測る。床面は中央部に硬化面がみられる。壁溝はカマドの部分を除いて全周する。幅は0.1m～0.2mを測る。柱穴は対角線上に4本配置される。深さは0.45m～0.52m程である。カマドは北西壁中央に設けられる。煙道部は壁をやや細長く円形に掘り込んで造られている。

出土土器

349は口縁部が内傾する杯，350は口縁部が外反する杯である。349は器面が荒れているが，内外面ともミガキが施され，黒色処理となる。350は器肉が分厚く，体部外面のヘラケズリも雑である。いずれも胎土中に砂粒を多く含む。352は小形の半球形を呈する杯で，器肉が分厚い。内外面の調整は比較的丁寧で，胎土中に小砂粒を多く含む。橙褐色の色調を呈する。352は手捏ね土器である。体部上半に粘土の接合痕が観察され，黒斑が部分的に認められる。353～355は高杯で，354は杯部，355は脚部である。いずれも内面黒色処理，外面赤彩となる。353は推定口径14.3cm，器高10.7cmを測る。口縁部は稜を有して大きく広がるが，脚部は比較的短い。脚部外面のヘラケズリは面取り気味のケズリである。胎土中に長石等の小砂粒を多く含む。356～358は甕で，356・357は二次的に火を受けている。357は丸底に近い底部でかなり激しく火を受けている。358のヘラケズリは面取り気味に深くケズられている。他に，図示できなかったが，須恵器の杯

身と杯蓋片が出土している。その形態から，7世紀後半の時期と考えられる。

SI052（第16・44図，図版18・31）

調査区のほぼ中央，3E－81グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は5.2m×5.34mでほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－29.5°－Wを指し，床面積は20.3㎡を測る。床面はカマド前が堅緻である。壁溝は一部途切れる部分はあるがほぼ全周しいてる。柱穴は対角線上に4本配置される。径0.35m～0.6m程，深さは0.46m～0.72m程度と比較的深い。カマドは北西壁の中央に設けられ，袖は壁から1m程延びる。煙道部は小さな三角形しているが壁をほとんど掘り込んでいない。燃焼部は入り口付近に残存しいる。

出土土器

359は，口径14.0cm，器高4.4cmを測る大形の杯である。椀状を呈し，口縁部はわずかに摘み上げられる。体部外面のヘラケズリは幅広であるが比較的平滑である。黒褐色を呈し，胎土中に砂粒を多く含む。360は鉢，361は高杯の脚部である。360はヘラケズリ後丁寧なミガキが施される。361は丁寧に調整されるが，外面にカマド部材と思われる粘土の付着がみられる。362～367は甕で，それぞれ器形にバラエティーがある。362は球形胴を呈し，ヘラケズリ後粗いミガキが加えられる。胎土は緻密であるが，赤色粒の混入が目立つ。胴部最大径以下にススの付着が観察される。調整技法・胎土等から366と同一個体の可能性がある。他は小形の甕で，364のようにコの字状口縁を呈するものや，365のようにくの字状口縁となるものなどがある。

SI053（第20・44図，図版18）

調査区北側に位置し，SK015が中央部を大きく掘り込んでいるため詳細は不明瞭である。主軸方向はN－27.5°－Wを指し，床面積17.7㎡を測る。壁溝・柱穴・カマドは検出されなかった。

出土土器

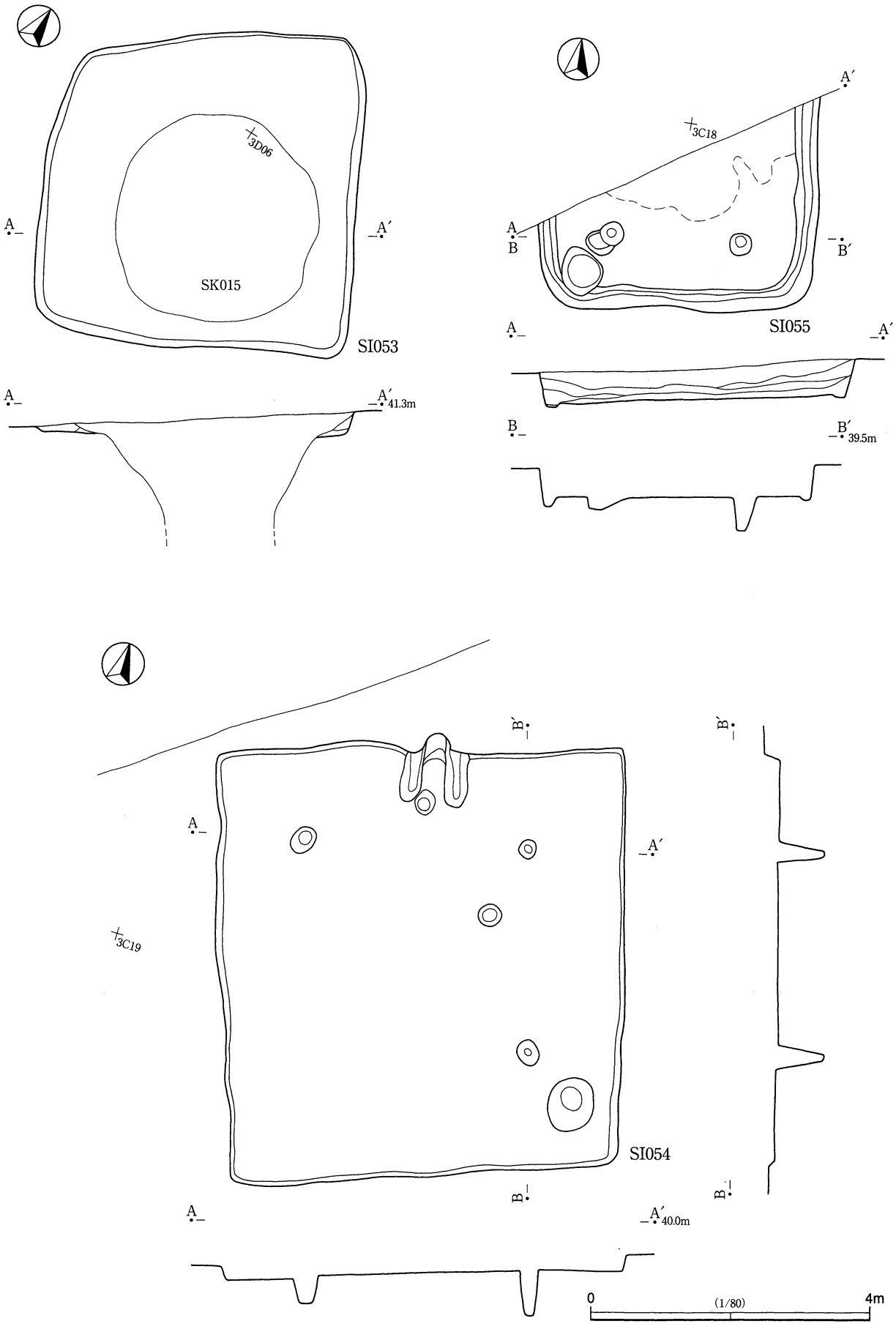
本住居からの出土土器は少なく，368の杯1点のみ図示できた。器肉が薄く，盤状に近い形態を示す。調整は丁寧で，内外面とも赤彩される。

SI054（第20・45図，図版19・31）

調査区西端，3D－10グリッドに所在する。トレンチャーにより攪乱が著しい。規模は0.59m×0.62mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－12°－W，床面積は33.0㎡を測る。ピットは5本検出されている。柱穴と思われるのは，3本で対角線上に配置する。径が0.2m～0.4mと小さい。東のコーナーに径0.7mの方形のピットが存在するが，貯蔵穴と思われる。カマドは北西壁の中央に設けられる。袖は削平され痕跡を残すのみである。煙道部も攪乱により削平されているが，小さく円形状に壁を掘り込んでいるようである。

出土土器

本住居からは多くの土器が検出された。369～375は杯で，371を除き基本的に内外面赤彩が施される。369・370は口縁部が内傾するタイプで，体部外面ヘラケズリ，内面丁寧なナデ調整が加えられる。口径14cm前後，器高6cm以上と深い。370の体部外面にはススの付着がみられる。371は半球形を呈し，特徴的な調整がみられる。内外面ともヘラケズリ後ナデが施されるが，工具の木口部分を器面に当ててナデている



第20図　SI053～055

ため，叩き状の目が全面に観察される。黄褐色の色調を呈し，胎土中に赤色粒を多く含む。372・373は同様の器形で，半球形状の体部から口縁部が緩く外反する。372は二次的に激しい火を受けたため調整等の詳細は不明であるが，373は内外面とも丁寧にナデられている。375は推定口径11.0cmと他の杯に比べて小さい。きわめて薄手の作りで，調整も丁寧である。376は底部を欠く広口壺となろう。内外面とも丁寧なナデが施され，赤彩が加えられる。焼成良好で，胎土も緻密である。377はほぼ完形の鉢で，内外面とも平滑に仕上げられる。胴部外面にススの付着がみられる。378は椀となろうか。器肉は薄く，外面のヘラケズリ，内面のナデとも丁寧である。胎土中に雲母の小砂粒の混入が目立つ。外面赤彩，内面黒色処理が施される。379・380は高杯で，379はほぼ完形，380は脚裾部のみの遺存である。379は口径13.4cm，器高12.3cmを測り，柱状の脚部に椀形の杯部が付くタイプである。裾部は大きく開く。杯部内外面は丁寧なミガキ，脚部外面は細かいヘラケズリが施され平滑に仕上げられる。杯部の見込み部及び脚部内面以外に赤彩がみられる。380も379とほぼ同様の器形を呈するものと思われる。381は完形の手捏ね土器である。指頭による成形痕が顕著に残る。382～387は球形胴を呈する甕である。384・386は同一個体となる可能性がある。口唇部は若干受け口状を呈する。胴部外面に縦位のヘラケズリ，内面は丁寧なナデ調整で，器肉も比較的薄く仕上げられる。胎土中に砂粒を多く含むが，赤色粒の混入が目立つ。胴下半部にはススが広く付着する。387も同様の器形を呈する甕の底部であろう。383は直立気味の口縁部となり，胴部のヘラケズリは強く施される。384はやや突出する底部が形成され，外面のヘラケズリ，内面のナデともその調整痕が明瞭に残る。胴部外面に明瞭な黒斑が観察される。388は内外面とも丁寧に仕上げられるが，部分的に被熱痕がみられる。389はほぼ完形の単孔の甑で丁寧な作りである。胴部外面のヘラケズリは平滑で，内面にはナデ後粗いミガキが施される。胴部外面に明瞭な黒斑が観察される。

SI055（第20・46図，図版19）

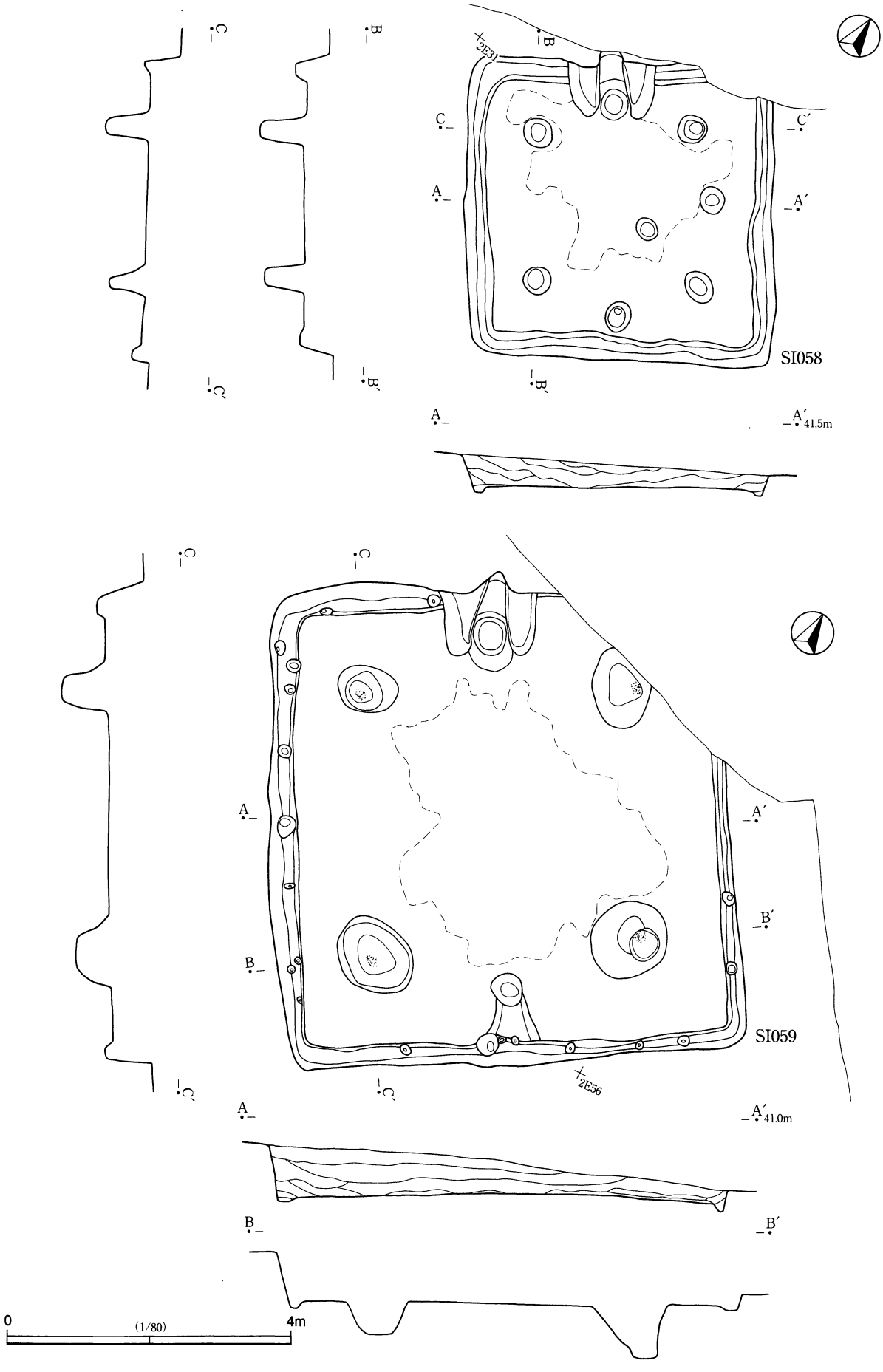
調査区西端，3C－28グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。北西半分は調査区外である。主軸方向はN－17°－Wを指し，床面積は，6.9㎡を測る。床面は中央が踏み固められている。ピットは3本検出されている。2本は柱穴と思われる。深さ0.55m～0.58m程度である。南西コーナーにある不整の方形のピットは，深さ0.34m程で貯蔵穴と思われる。覆土は自然堆積の様相を呈する。

出土土器

本住居からの出土土器は少ない。390は須恵器壺か瓶の頸部であろう。小さな断面三角形状の突帯下に櫛歯による波状文が施される。内面に自然釉がかかる。胎土・焼成等から東海産と考えられる。391は甕の底部片で，胎土中に砂粒を多く含む。

SI058（第21・46図，図版19・31）

調査区北端，2E－31グリッド付近に所在する。規模は4.2m×4.4m，床面は平坦で全体に堅緻で，正方形を呈する。壁溝はカマド部分と調査区外の部分を除いて全周する。主軸方向はN－33.75°－Wを指し，床面積は13.1㎡を測る。ピットは7本確認されている。柱穴は対角線上に4本配置される。深さ0.5m～0.7程度を測る。南東壁中央に存在するピットは，入り口に伴うものと思われる。深さは0.5m程である。2本のピットは性格不明である。カマドは北西壁中央に設けられている。袖は1mほど床面に延びている。燃焼部は入り口近くに残存している。煙道部は小さく円形に壁を掘り込んで造っている。



第21図　SI058・059

出土土器

392は小片のため器種の特定が難しいが，焼成前の穿孔がみられることから，高杯の脚裾部となる可能性が高い。393は口縁部が直立する杯，394は皿状を呈する杯である。393は丁寧な作りであるが，394は器肉が分厚く，胎土中に砂粒を多く含むためザラついた感がある。395は口径15.0cm，器高7.0cmを測る完形の鉢である。体部外面はヘラケズリ後粗いミガキが施される。器表面の剥離が激しいが，特に内面が顕著である。396は高杯の脚部である。脚部外面には，面取り状の縦位のヘラケズリが施される。外面に赤彩が認められる。397は鉢の底部，398は甕の底部であろう。

SI059（第21・46図，図版20・31・32）

調査区北端，2E－45グリッドに所在する。北東コーナーは調査区外である。規模は6.82m×6.48m，確認面からの深さ0.5mを測り，正方形を呈する。主軸方向はN－28.5°－Wを指し，床面積は35.9㎡を測る。床面は平坦で全体に堅緻である。壁溝はカマドと調査区外の部分を除いて，全周している。幅は0.3mを測る。周溝内に深さ0.05m～0.3mの壁柱穴が存在する。ピットは5本検出されている。柱穴は対角線上に4本配置される。径0.6m～1.2m，深さ0.52m～0.84m程である。南東壁中央近くのピットは，入り口に伴うものと思われる。

出土土器

本住居からは，比較的多くの土器が出土しているが，特に須恵器の割合が多いのが特徴である。399～402は須恵器の杯身である。399は推定口径10.2cm，器高3.7cmと小形で，蓋の可能性もあるが，口唇部の形状や体部下端及び底部の調整技法等から身と判断した。体部はヨコナデ，底部は全面回転ヘラケズリが施される。胎土中の砂粒の混入は少ない。400は口径12.1cm，器高3.9cmを測るほぼ完形の杯で，調整技法は399と類似する。底部は平底気味となり，やや突出する。底部の調整は，周縁が回転ヘラケズリ，中央部分が手持ちヘラケズリである。胎土中に小砂粒を多く含みやや軟質で，灰白色の色調を呈する。401・402は底部を欠くが，小さな平底を呈するものであろう。401は軟質，402は硬質の胎土である。403～405は須恵器の杯蓋である。403・404はカエリのつく蓋である。調整はほぼ同様で，天井部外面の口縁部に近い部分まで広範囲に回転ヘラケズリが施される。胎土はやや軟質で，胎土中の小砂粒の混入は少ない。405は推定口径16.4cm，器高4.3cmを測る大形品で，端部は短く折り返される。摘みは扁平な擬宝珠状を呈する。全体に丁寧な作りで，天井部外面には回転ヘラケズリが加えられる。灰白色の色調で，胎土中に長石等の小砂粒を含むことから，常陸産の可能性が高い。406・407は須恵器壺の口縁部片である。内外面に自然釉がかかる。408～419は土師器の杯である。408～410・412は口縁部が短く内傾するタイプである。413・415を除き口径10cm前後で小形である。，408はほぼ完形で，口径9.4cm，器高3.6cmを測る。調整は全体に丁寧で，内面ヘラミガキ，外面ヘラケズリとなるが，外面は器面の荒れのためミガキが観察されないものと思われる。内外面とも黒色処理される。409も不鮮明であるが内外面黒色処理される。410は小さな平底状を呈し，調整は408と同様である。412は全体に三角形状となり，口縁部は直立気味に内傾する。体部外面のヘラケズリはやや粗い。411は皿状を呈し，内面のミガキはきわめて丁寧である。413は口径12.4cm，器高4.1cmとやや大きくなる。他の杯と様相が異なり，口縁部は逆S字状に外反する。口縁下の稜は強く，体部中央に粘土の接合痕が残る。内面は丁寧にナデられ，赤褐色の色調を呈し，胎土中に長石等の小砂粒を多く含む。414～416は平底の底部に内湾する体部がつくタイプである。内外面黒色処理される。調整はほぼ同様で，

体部内面ヘラミガキ，外面ヘラケズリである。417は半球形を呈し，内面に丁寧なナデが施される。外面のヘラケズリは幅広で，器面の剥離がみられる。418は口径12.0cm，器高4.5cmを測るやや大形の杯である。器肉が厚く胎土中に小砂粒を多く含む。全体に摩耗が激しく，特に口唇部及び体部内面が顕著である。419は平底で，体部は直線的に開く。底部外面には木葉痕が残る。黒褐色の色調を呈し，胎土中に長石等の小砂粒を多く含む。420・421は高杯である。420はほぼ完形で，口径13.2cm，器高9.9cmを測る。体部内面ミガキ，外面ナデ，脚部外面面取り状のヘラケズリ調整で，赤彩は施されない。胎土は軟質で，砂粒の混入は少ない。421も420と調整・胎土等ほぼ同様の高杯の脚部である。422・423は鉢片である。422は口縁部のヨコナデが強いため，口縁下に明瞭な稜が形成される。内面のミガキはきわめて丁寧である。砂粒の混入が少ない。423は内面黒色処理で，胎土中に小砂粒を多く含む。424～428は甕で，それぞれタイプが異なる。424・425は小形で，425は作りが雑で，手捏ね状を示す。427は黄褐色の色調を呈し，長石・雲母等の小砂粒を多く含む特徴などから常総型となろう。429・430は単孔の甑で同一個体となる可能性がある。胴部内面にススが付着し，外面には黒斑がみられる。

SI060（第22・47図）

調査区西側，3D－53グリッドに所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は6.57m×7.4m，西側は削平されているが東西にやや細長い方形を呈すると思われる。主軸方向はN－6°－Wを指し，床面積は42.5㎡を測る。カマド前から柱穴間，入り口付近と堅く踏み固められている。壁溝は壁の残存している部分では一部を除き巡っている。柱穴は対角線上に4本配置される。径0.4m～0.6m程で，深さ0.66m～0.74mと比較的深い。南側壁面に接して深さ0.43mのピットがみられるが，入り口に伴うピットと考えられる。カマドは北壁中央に設けられている。攪乱により遺存状態が非常に悪く詳細は不明瞭である。焼土がカマドの奥に残存している。煙道部は四角く，壁を掘り込んでいる。

出土土器

本住居からの出土土器は少ない。431は推定口径14.6cm，器高4.0cmを測る盤状杯である。内外面とも丁寧なミガキが施され，平滑に仕上げられている。胎土中の砂粒の混入は少なく，燈褐色の色調を呈するが，内外面とも黒色処理される。432はミニチュア土器，433は手捏ね土器である。

SI061（第22・47図，図版20・32）

調査区西端，3D－62グリッドに所在する。SI062に南西部分を切られる。トレンチャーによる攪乱が著しい。規模は5.11m×4.7m，やや南北に細長い方形を呈する。主軸方向はN－10°－Wを指し，床面積は18.9㎡を測る。ピットは3本検出されているが，柱穴であると思われ，対角線上に配置される。深さは0.36m～0.78mである。東側の2本は比較的深い。カマドは北壁のほぼ中央に設けられている。袖部は削平され，痕跡を残すのみである。煙道は壁を小さく三角形に掘り込んでいる。

出土土器

430・431は杯の小破片である。430は口縁部が外反気味に直立し，内外面赤彩，435は扁平な半球形状を呈し，内外面黒色処理される。436・437は外面赤彩が施される高杯の脚部である。436は長脚となるもので，437は短い脚柱部をもつものである。437は面取り状のヘラケズリ痕が顕著に残る。438は手捏ね土器の完形品である。比較的丁寧な作りで，外面に黒斑が観察される。

SI062（第22・47図，図版20・32）

調査区西端，3D－61グリッドに所在する。SI061を切る。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は6.48m×6.12mでやや南北に細長い方形を呈する。主軸方向はN－5°－Eを指し，床面積は29.5㎡を測る。壁溝はカマド部分を除き全周する。柱穴は対角線上に4本配置される。規模は大きく，深さ0.45m～0.82mと比較的深い。西側2本の柱穴は，中心に向かって楕円形を呈している。掘り方はそれぞれ2か所確認された。おそらく抜き取りに伴うものと思われる。カマドは，北壁中央に設けられている。遺存状態は悪い。袖部は西側は基部が攪乱を受け，煙道部も攪乱により不明である。

出土土器

439・440は盤状の杯である。439は内外面とも丁寧な調整が施され，赤彩が加えられる。底部外面に部分的であるが焼成後の線刻がみられる。440はほぼ完形で，口径14.4cm，器高3.7cmを測る。439とは器形が異なり，平底に直線的な体部がつくものである。体部外面のヘラケズリは丁寧で，器面が平滑に仕上がっている。二次的に火を受けたため，ススの付着や赤色化がみられる。441は口径15.4cm,器高7.0cmを測る椀形を呈する杯である。内外面ともミガキにより丁寧に仕上げられ,赤褐色の色調を呈する。442は高杯の脚部片，443は甕の底部である。

SI063（第23・47図，図版21）

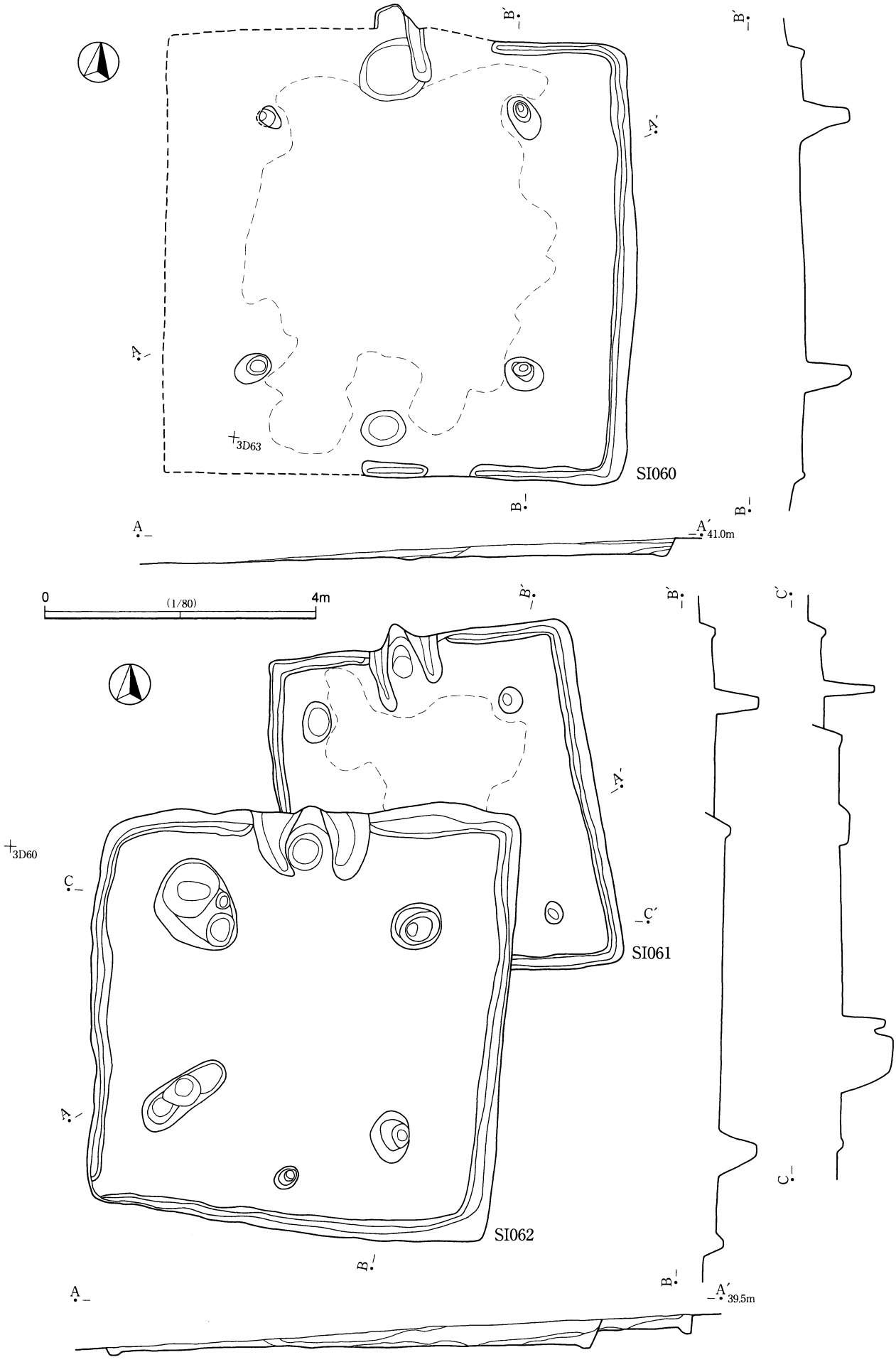
調査区中央付近，3D－77グリッドに所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。規模は5.44m×5.57mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向はN－5.75°－Eを指し，床面積は24.4㎡を測る。壁溝はカマド部分を除き全周する。柱穴は対角線上に4本配置される。幅0.7m～1.0mと規模が大きく,深さは0.53m～0.67mと比較的深い。南壁中央近くにピットが存在するがその位置から入り口に伴うものと考えられる。カマドは，北壁ほぼ中央に設けられるが遺存状態は悪い。袖部は削平され一部のみ残存する。煙道部は小さく円形に壁を掘り込んでいる。

出土土器

444・445は端部が折り返される須恵器の蓋である。444は推定口径15.7cm，器高3.2cmを測る。やや扁平な摘みを有し，天井部上半部には回転ヘラケズリが施される。灰白色の色調を呈し，胎土中に長石等の小砂粒を含む。445は小破片であるが444とほぼ同様の法量・調整技法を有するものと思われる。446は椀状を呈する土師器の杯である。外面のヘラケズリ,内面のミガキとも丁寧で平滑に仕上げられる。447は甕の口縁部である。口唇部が摘み上げられ，胎土中に長石や雲母の砂粒を多く含むことから，常総型となるものである。

SI064（第23・47図，図版21）

調査区西側付近，3D－85グリッドに所在する。トレンチャーによる攪乱が著しい。規模は3.2m×3.44m，やや不整な正方形を呈する。主軸方向はN－14°－Wを指し，床面積は8.3㎡を測る。ピットは5本検出されている。柱穴は対角線線上に4本配置される。幅は0.4m程度，深さは0.4m～0.47m程度である。南壁中央に近い深さ0.23mのピットは入り口に伴うものと思われる。カマドは，北壁中央に設けられている。攪乱が激しく，詳細は不明瞭である。煙道部は，小さく円形に壁を掘り込んでいるようである。



第22図　SI060～062

出土土器

本住居から出土した土器は少ない。448は体部片のみの遺存であるが，須恵器の高台付杯となるものであろう。ロクロ目は弱く，ヘラケズリは認められない。449は作りの雑な甕の底部である。器面の摩耗が激しく，底部外面には木葉痕が若干観察される。胎土中に長石や雲母粒を多く含む。

SI065（第24・47図，図版21）

調査区南西，4D－05グリッドに所在する。トレンチャーによる攪乱が著しい。規模は8.34m×8.26m，確認面からの深さ0.3mを測り，ほぼ正方形を呈する大型の住居である。主軸方向は，N－7.75°－Wを指し，床面積は56.2㎡を測る。壁溝はカマド部分を除き全周する。柱穴の規模は大きく，中心に向かって広がっており，外側に柱穴があることから，柱の抜き取りが行われたと思われる。深さは0.8m～1.0mと深い。カマドは北壁のほぼ中央に設けられている。攪乱が激しく，袖部はその痕跡を残すのみである。

出土土器

450は口縁部が内傾するタイプの杯で，口縁下の稜は明瞭である。内外面ともヘラケズリ後丁寧なナデが施され，口縁部内面から体部外面にかけて赤彩が加えられる。胎土中に長石や雲母の小砂粒を多く含む。451は半球形を呈する杯で，やはり胎土中に長石等の小砂粒を多く含む。452～457は高杯である。452・453は脚部を欠くが，口縁下に稜を有し，口縁部が外反するものである。外面丁寧なナデ，内面ミガキ調整が施される。454は推定口径10.4cm，器高9.6cmを測る。杯部には稜が形成されず，短く大きく開く脚部が付く。外面ヘラケズリ，内面ミガキ調整で，内面黒色処理，外面赤彩が認められる。胎土中に長石粒を多く含む。455～457は脚部片である。458は手捏ね土器で，欠損部に火を受けた痕跡がみられることから，割れた後に被熱したことが伺われる。459～461は甕である。460・461は同様の調整技法及び胎土である。外面のヘラケズリは幅広で，内面はヘラナデ調整である。胎土中に長石等の砂粒を多く含む。

SI068（第24・47図，図版22・32）

調査区南側，4D－25グリッドに所在する。トレンチャーによる攪乱がはげしい。規模は，4,98m×5.38m，東西にやや細長い方形を呈している。壁溝は検出されなかった。主軸方向はN－3°－Wを指し，床面積は23.7㎡を測る。柱穴は対角線上に4本配置される。深さ0.6m～0.72mで比較的深い。カマドは北壁中央に存在する。袖部は0.7m程床面に延び，煙道部は半円形に壁を掘り込んで造られている。

出土土器

462～468は土師器の杯である。杯の形態には様々なタイプが混在する。462は口縁部が内傾するタイプで，口径11.8cm，器高3.4cmを測る。作りは丁寧で器面は，外面丁寧なヘラケズリ，内面ミガキが施される。胎土中の砂粒の混入は少なく，内外面黒色処理される。463は口縁下に稜を有して，口縁部が開くタイプである。調整技法は462と同様であるが，胎土中に小砂粒を多く含み，やや砂質を帯びる。やはり内外面とも黒色処理される。464～466は口縁下の稜が弱く，口縁部が直立気味となるものである。464は器高が3.2cmと浅く，皿状を呈する。内外面のミガキは比較的雑である。465は口径12.4cm，器高3.3cmを測る。器肉が厚く，内外面ともミガキ調整が施され，比較的平滑に仕上がっている。不鮮明であるが，内外面とも黒色処理されるものと思われる。口唇部の摩耗が著しい。466は小形で，胎土中に長石や雲母粒を多く含む。体部外面に黒斑が観察される。467・468は底部が平底状を呈し，体部が椀状を呈する大形の杯である。467は全体に

歪みがあり，口縁下に粘土の接合痕がみられる。口径13.6cm，器高5.5cmを測り，外面のヘラケズリは雑で凹凸が認められる。胎土中に砂粒を多く含み，二次的焼成により黒変及び赤化が全体に及ぶ。468は467より小形となるが，調整・胎土等は類似する。469・470は椀で，469は半球形状，470は口縁部がヨコナデにより整形され，直立するものである。外面のヘラケズリは雑であるが，内面は丁寧にナデられる。469は長石等の砂粒を多く含みざらついた感があるが，470は砂粒の混入が少ない。体部下半内外面に黒斑が観察される。471は内面黒色処理されることから，杯の底部となろうか。472～475は高杯で，472は杯部片，以外は脚部のみの遺存である。472は内外面とも丁寧に調整される。胎土中に長石や雲母の小砂粒を多く含み，内面黒色処理，外面赤彩がみられる。473の脚部も丁寧な作りで，胎土は472と同様であることから，同一個体となる可能性が高い。474は推定裾径14.0cmと大形で，内面上半部に粘土紐の輪積み痕が明瞭に残る。また，下半部にはススの付着がみられる。外面赤彩される。475は短い脚部である。476はミニチュア土器で，ヘラケズリにより整形される。胎土中に砂粒を多く含む。477は口縁部がくの字状を呈する甕で，胴部外面には幅広のヘラケズリが施されが，調整は比較的丁寧である。478は球形胴を呈する甕で，器肉が薄く仕上げられる。

SI069（第23・48図，図版22・32）

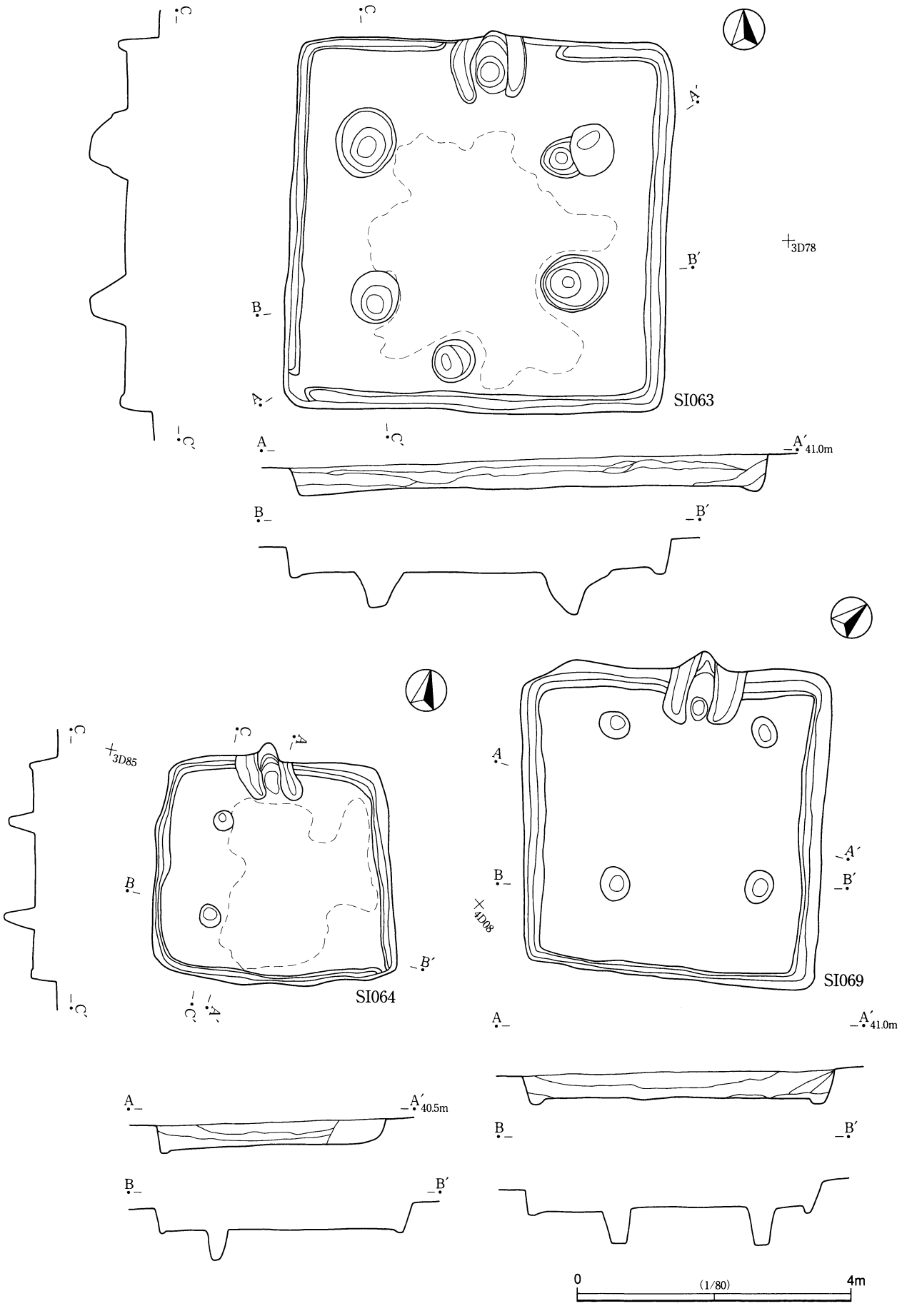
調査区中央付近，3D－98グリッドに所在する。トレンチャーによる攪乱が顕著である。規模は，4.56m×4.41m，確認面からの深さ0.4mを測り，やや不整な方形を呈する。主軸方向は，N－46°－Wを指し，床面積は，14.7㎡を測る。壁溝はカマド部分を除き全周する。幅は0.2m～0.3mを測る。柱穴は対角線上に4本配置される。4本ともに幅0.4m程で，深さは0.5m～0.58mと揃っている。カマドは北西壁のやや北寄りに設けられている。カマドは攪乱が著しく詳細は不明瞭であるが，燃焼部は袖部入り口付近に残り，煙道部は小さく三角形に壁を掘り込んでいるようである。

出土土器

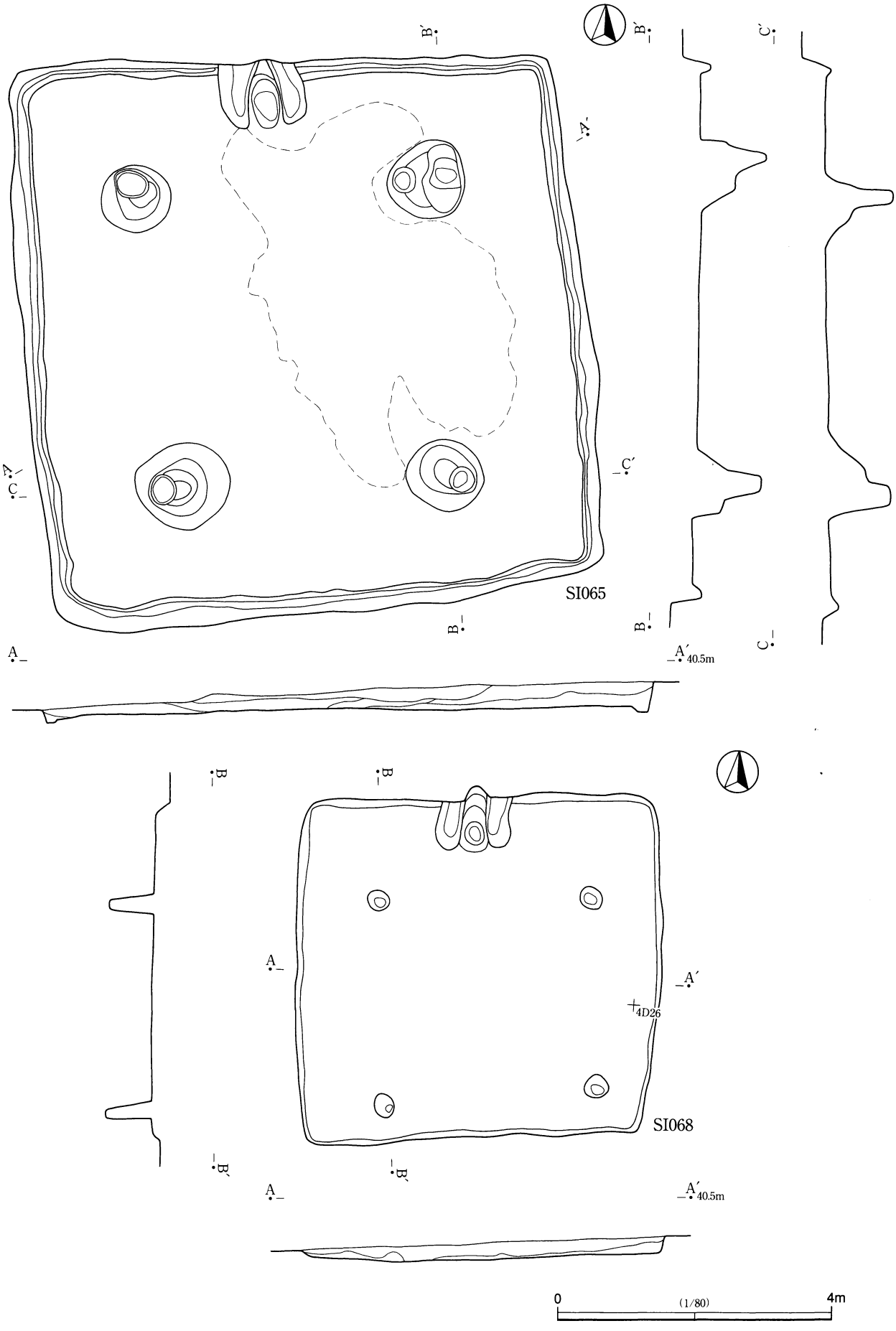
479～481は口径10cm程を測る小形の杯で，479は丸底，480・481は平底を呈する。いずれも内外面とも丁寧なミガキが施され，黒色処理される。胎土・焼成とも良好である。482は口縁部を欠くが，半球形状を呈する杯と思われる。外面ヘラケズリ，内面ナデ調整で，胎土中に長石等の砂粒を特に多く含むため，ざらついた感がある。483は大形の甕で，外面のヘラケズリは比較的丁寧で平滑に仕上げられている。口縁部内面には粘土の接合痕が部分的に残る。胎土中に長石等の砂粒を多く含み，橙褐色の色調を呈する。外面には被熱による剥離が観察される。484・485は小形の甕で，いずれも胎土中に砂粒を多く含み，二次的焼成を受けている。484は全体的に作りが粗く，底部がやや突出する。外面のヘラケズリも雑で凹凸がみられる。485には明瞭なヘラケズリ痕が観察される。

SI070（第25・48図，図版22）

調査区南側，4D－18グリッドに所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。SK023と溝に北西部を切られている。規模は，6.14m×5.92m，確認面からの深さ0.3mを測り，ほぼ正方形を呈する。主軸方向は，N－27.75°－Wを指し，床面積は33.1㎡を測る。柱穴は4本対角線上に配置する。径は0.5m～0.9m，深さ0.63m～0.78mを測る。カマドは残存しない。



第23図　SI063・064・069



第24図　SI065・068

出土土器

本住居からの出土土器は少ない。486・487は須恵器の蓋片であるが，形態・胎土等から同一個体となる可能性がある。調整は丁寧で，灰白色の色調を呈し，外面に自然釉がみられる。東海産であろう。

SI071（第25図，図版23）

調査区南端，4D－28グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が著しい。規模は4.58m×4.44m，ほぼ正方形を呈する。主軸方向は，N－64.5°－Wを指し，床面積は16.8㎡を測る。南西部と北東コーナーは攪乱により削平されている。ピットは4本確認されている。北西の1本は，柱穴と思われる。南東壁中央に近いピットは入り口に伴うものと考えられるが，残りの2本については，性格不明である。

出土土器

図示できる土器はなかったが，古墳時代後期から奈良時代初め頃の須恵器甕片が出土している。

SI072（第25・48図，図版23・32）

調査区南端，4D－37グリッド付近に所在する。トレンチャーによる攪乱が激しい。SK023に切られる。規模は，4.02m×4.09m，確認面からの深さ0.2mを測る。主軸方向N－60°－Eを指し，床面積14.3㎡を測る。ピットは1本検出されている。深さ0.27mで柱穴になると思われる。カマドは北東壁に設置されるが，攪乱が著しく，詳細不明である。

出土土器

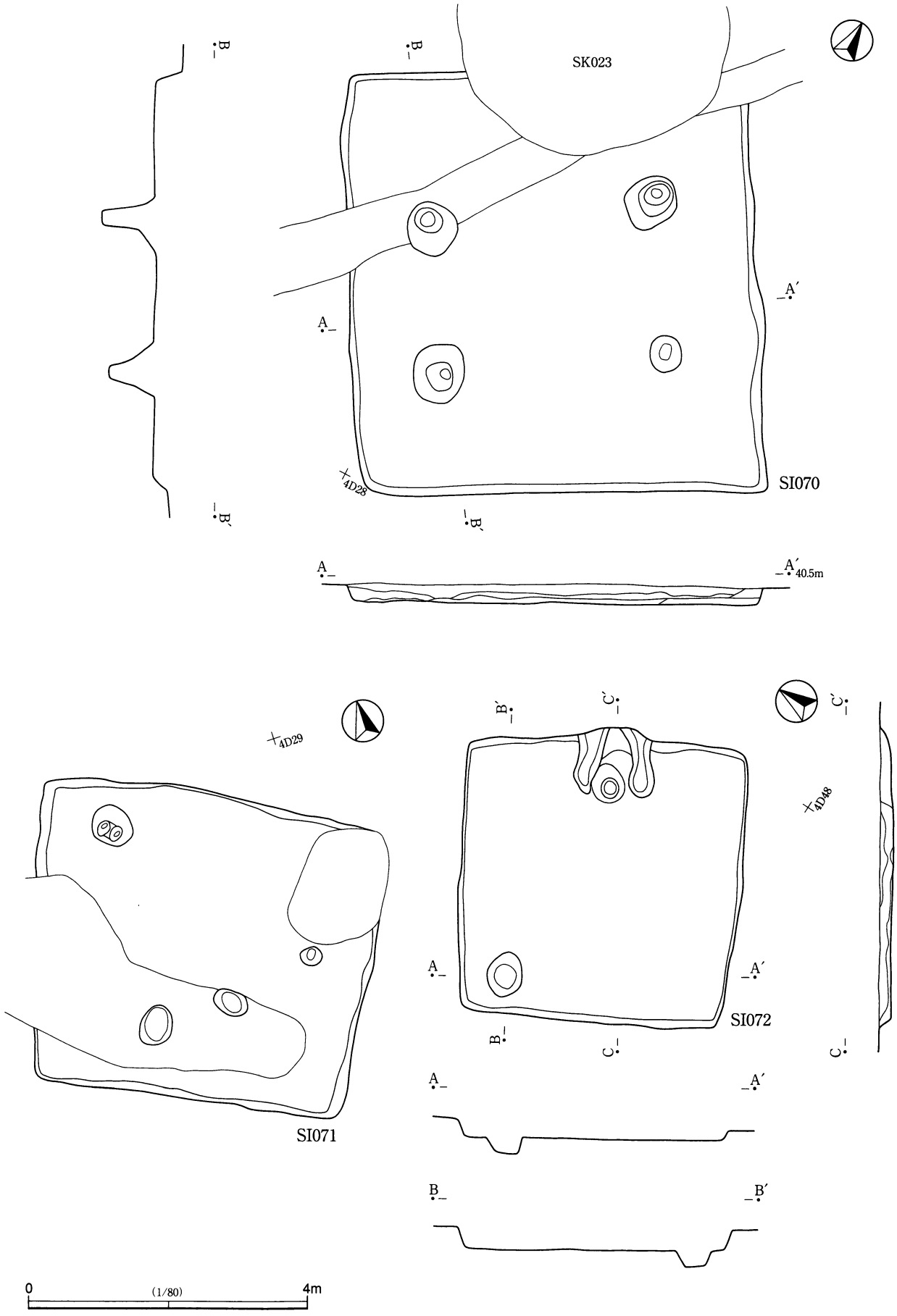
488・489は鉢で，いずれも器肉が厚く成形され，胎土中に長石や雲母の小砂粒を多く含む。二次焼成を受ける。対部外面上半は縦位，下半は横位のヘラケズリが施され，内面にはヘラナデのヘラの当たりがみられる。490は口径13.6㎝，器高21.4㎝を測る甕である。球形に近い胴部を呈し，内外面の調整は丁寧で，平滑に仕上げられる。491は口縁部に最大径を有する単孔の甑で，胴部外面のヘラケズリが強いため，その痕跡が明瞭に残る。口縁部付近に二次焼成を受ける。

SI073（第26・48図，図版23）

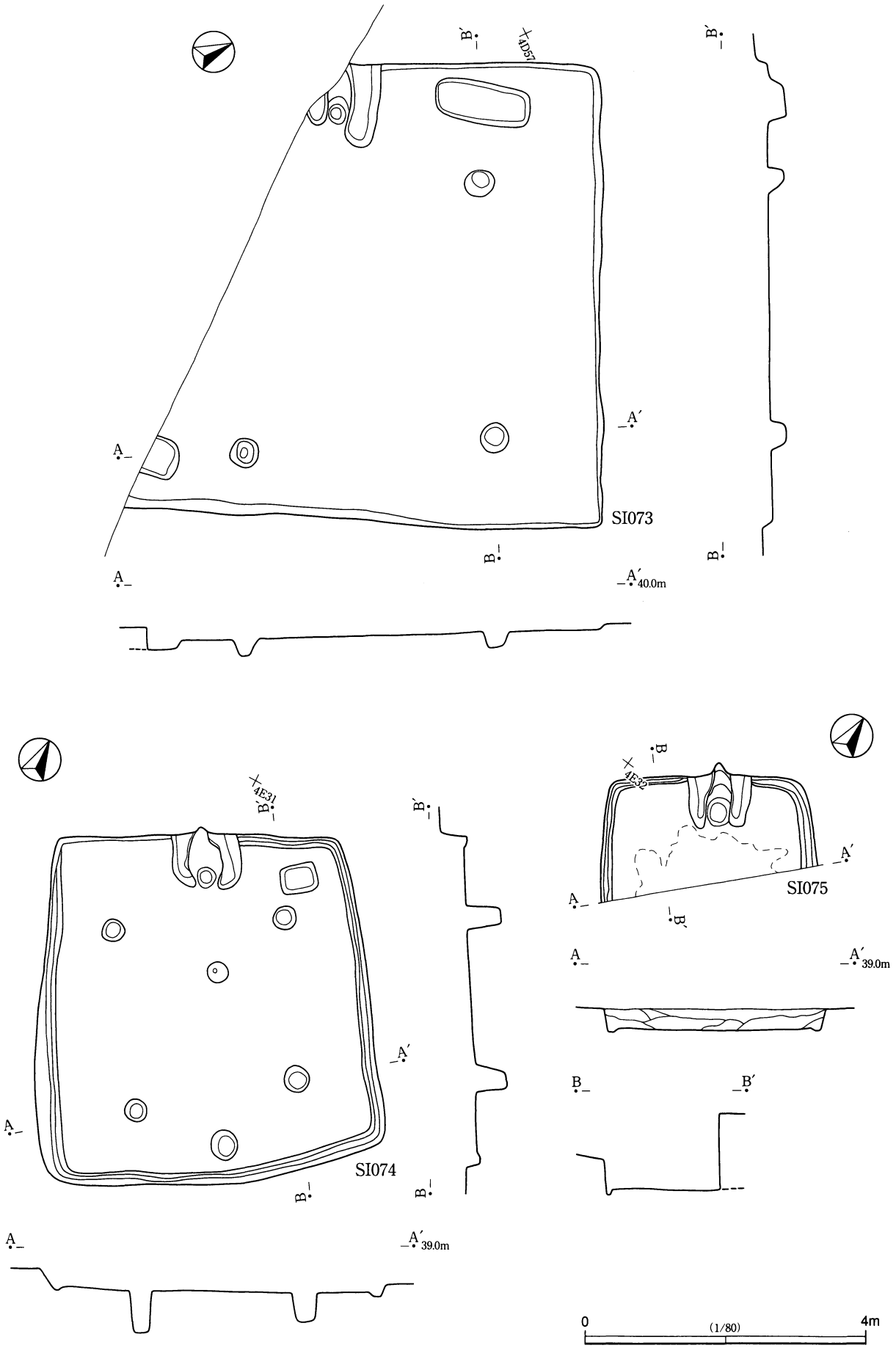
調査区南端，4D－57グリッドに所在する。南西部は調査区外である。トレンチャーによる攪乱が著しい。主軸方向は，N－61°－Wを指し，床面積は，32.5㎡を測る。ピットは3本検出されており，対角線上に配置された柱穴と思われる。深さは0.24m～0.27mである。カマドが北西壁に設けられているが，攪乱が激しく詳細不明瞭であるが，煙道部は小さく壁を掘り込んで造られているようである。

出土土器

492･493は杯である。492は小片であるが，内外面とも丁寧に調整され，黒色処理が施される。口唇部の摩耗が著しい。493は体部が直線的に開く特徴的な形態を示す。胎土中に砂粒を多く含む。内外面とも二次焼成による器面の荒れ及び剥落が顕著である。494～497は甕で，いずれも胎土中に砂粒を多く含む。494は肩部に明瞭な稜を有し，口縁部がコの字状を呈する。底部付近にカマド部材と思われる山砂の付着がみられる。495は作りが丁寧で，口縁部内面にミガキが加えられる。497は幅広のヘラケズリが強いためその痕跡が明瞭に観察される。また，二次焼成による器面の荒れやススの付着が認められる。



第25図　SI070～072



第26図　SI073～075

SI074（第26・49図，図版24）

調査区南端，4E－31グリッド付近に所在する。規模は，4.68m×4.82m，やや不整な正方形を呈する。主軸方向は，N－33°－Wを指し，床面積は18.5㎡を測る。壁溝はカマドと北西コーナーの部分を除き全周する。ピットは7本検出されている。対角線上に配置される4本が柱穴であろう。南東壁中央近くのピットは入り口に伴うものと思われる。北東コーナーにある0.3m×0.5mの方形のピットは貯蔵穴と考えられる。中央にあるピットについては用途不明である。カマドは北西壁に設置されている。袖部は壁から0.7m床面に延び，入り口に燃焼部が残る。煙道部は小さく三角形に壁を掘り込んで造られている。

出土土器

498･499は杯で，498は口縁部が直立するタイプ，499は椀状を呈するものである。498は内外面とも丁寧に調整され，不鮮明であるが黒色処理が施される。499は胎土中に小砂粒を多く含み，やや砂質を帯びる。外面はヘラケズリ後ナデが加えられる。部分的に被熱するとともに口唇部の摩耗が顕著である。500・501は高杯の杯部及び脚部である。500はやや歪みがあり，整形も雑である。杯部が深いのが特徴である。胎土中に小砂粒を多く含む。これに対して，501の脚部は作りが丁寧である。小砂粒の混入も少ない。外面に赤彩が施される。502はくの字状を呈する短い口縁部を有する鉢である。外面には幅広のヘラケズリが施され，ススが部分的に付着する。503～509は甕で，506・507はやや小形となる。503・505は口径23cm前後を測る大形品である。口縁部はコの字状に近い形態で，胴部は球形状を呈する。胴部外面のヘラケズリ及び内面のヘラナデは丁寧である。504は口縁部が小さく，胴部中央からやや下位に最大径を有する特徴的な形態を呈する。胴下半部に粘土の輪積み痕が明瞭に残り，外面に黒斑が観察される。506・507は口縁部が短く外傾する。胴部外面のヘラケズリは幅広で，内面にはヘラナデの当たりがみられる。長石・雲母の小砂粒を含む。507は二次焼成による器外面の荒れが顕著である。509は口縁部を欠く甕で，504同様胴下半部に最大径を有する。

SI075（第26・49図，図版24・33）

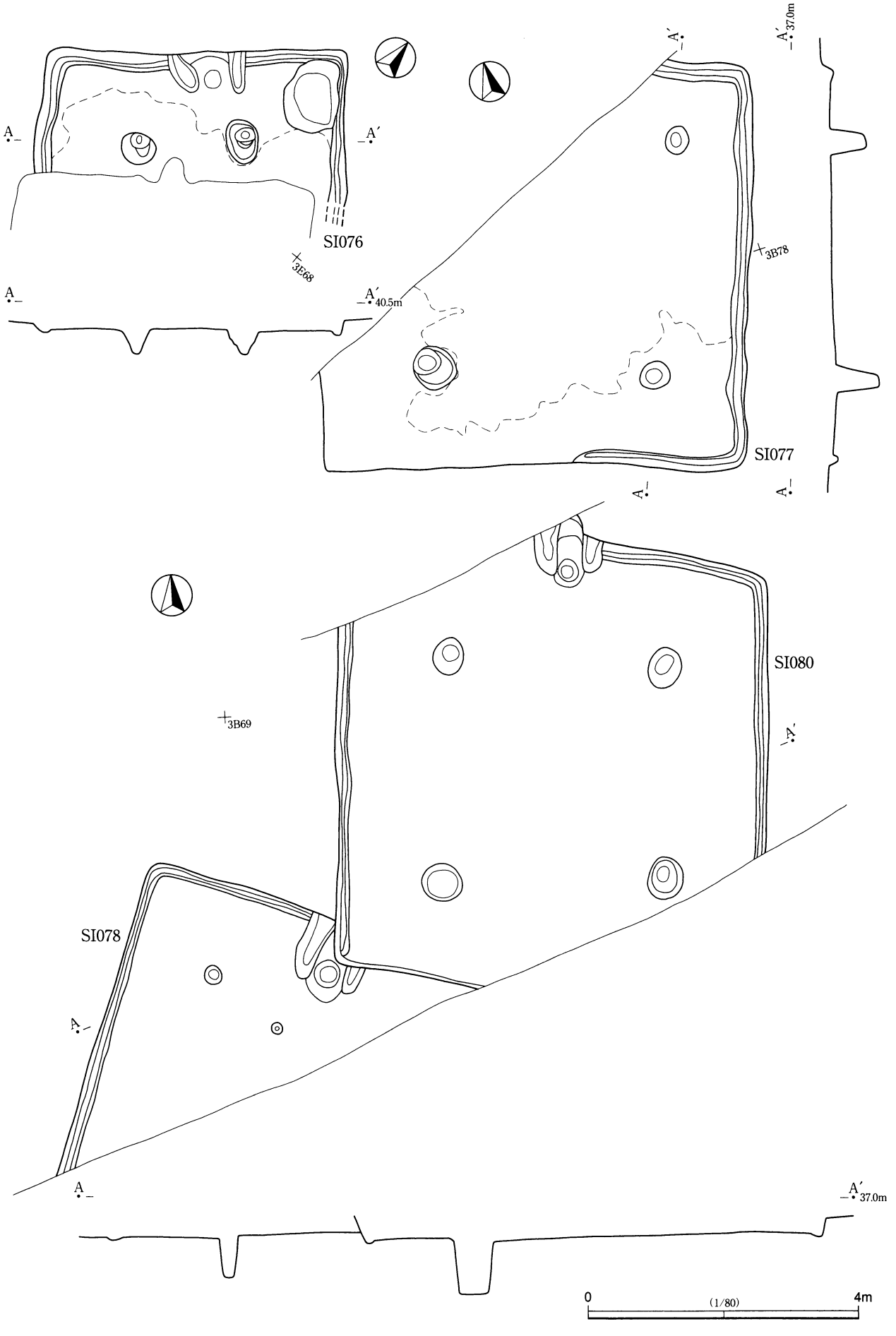
調査区南端，4E－32グリッド付近に所在する。南東半分は調査区域外である。主軸方向はN－35°－Wを指す。ピットは検出されなかった。壁溝はカマド部分を除いて残存している。カマドは，北西壁中央に設けられ，燃焼部が袖の入り口付近に残存している。煙道部は半円形に壁を掘り込んで造られている。

出土土器

本住居からの出土土器は少ない。510は口径10.6cm，器高3.0cmを測る平底状を呈する小形の杯である。胎土が砂質を帯び，二次焼成を受けているため，器面の荒れが激しく調整技法は不明である。511は口径11.2cm，器高13.0cmを測る完形の小形甕で，最大径を口縁部に有する。内外面の調整は丁寧で，平滑に仕上げられる。被熱した痕跡があり，ススの付着が部分的にみられる。図示できなかったが，他に須恵器片が検出されている。そのうちのカエリ蓋からは，7世紀後半の年代が考えられる。

SI076（第27・49図，図版24・33）

調査区東端，3E－67グリッド付近に所在する。SI028を切り，SI051に北東部分を切られる。主軸方向は，N－32.5°－Wを指す。ピットは2本検出されているが，柱穴であると思われる。深さは，0.38m～0.4mである。



第27図　SI076～078，080

出土土器

512～514は小形の甕である。512はほぼ完形で，口径11.2cm，器高9.9cmを測る。二次焼成を強く受けているため，特に外面の荒れや剥落が顕著であり，詳細な調整は不明である。514も火を受けており，胴下部にカマド部材である山砂の付着がみられる。内面のヘラナデは丁寧で，平滑に仕上げられる。

SI077（第27・50図，図版25・33）

調査区西端，3B－68グリッド付近に所在する。北西部分は調査区外である。主軸方向はN－21°－Eを指し，床面積は24.1㎡である。ピットは3本確認されている。柱穴と思われ，対角線上に配置される。深さは0.56m～0.64m程である。壁溝は北東コーナーから南東コーナーにかけて残存している。

出土土器

515は口縁部を欠くが，内傾する口縁部を有するタイプの杯と思われる。内外面とも丁寧なミガキ調整が施され，黒色処理される。胎土中の砂粒の混入も少ない。516は口径13.2cm，器高5.5cmを測る深い半球形状の杯である。外面のヘラケズリ，内面のナデとも丁寧で焼成も良好である。517は口縁部がほぼ直立し，底径9.0cmと大きくなる。胴部外面のヘラケズリ，内面のヘラナデとも強く加えられるため，器面の凹凸が激しい。胎土中に長石や雲母の比較的大きな砂粒を多く含む。

SI078（第27・50図，図版25）

調査区西端，3B－79グリッドに所在する。南東部は調査区外である。一部SI080に切られる。主軸方向はN－20.75°－Eを指す。ピットは2本検出されている。北西にあるピットは柱穴と思われる。径0.25m，深さ0.7mである。カマド前のピットは用途不明である。カマドは北東壁ほぼ中央に設けられている。袖部は1.0mと床面に延びているが，煙道部はSI080に切られているため残存しない。

出土土器

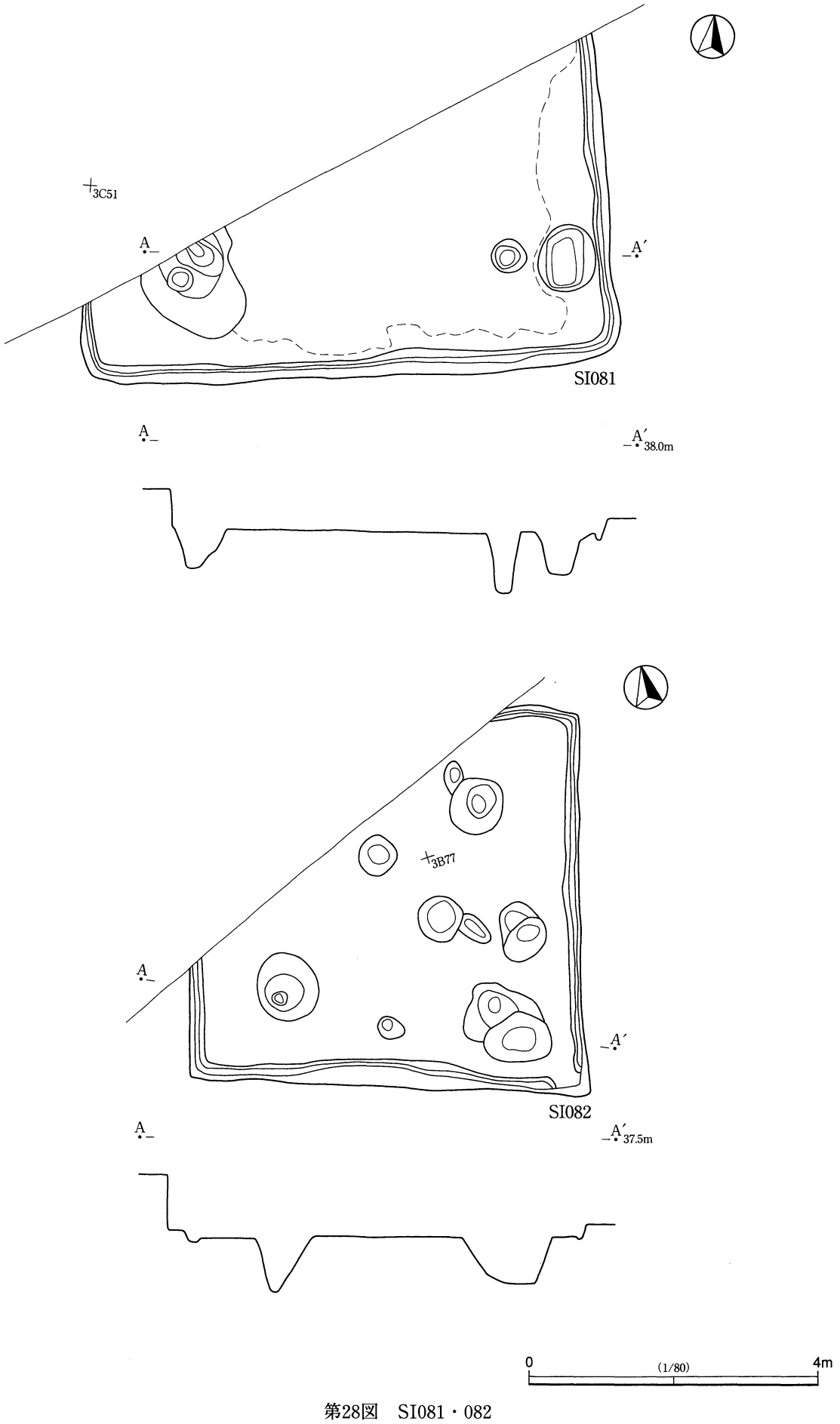
出土土器は少なく，518の甕1点を図示したのみである。推定口径12.8cmと小形で，二次的に被熱している。

SI080（第27・50図，図版25・33）

調査区西端，3B－70グリッドに所在する。北西コーナーと南東コーナーは調査区外である。主軸方向はN－5°－Eを指し，床面積は，32.6㎡と想定される。やや不整な正方形を呈すると思われる。柱穴は対角線上に4本配置される。壁溝はカマド部分と南壁を除き残存している部分は巡る。カマドは北壁ほぼ中央に配置される。煙道部は三角形に小さく壁を掘り込んで造られている。

出土土器

519～523は土師器の杯である。519～521は口縁部が内傾するタイプの杯である。519・520は推定口径13.0cm前後を測る。519は丸底で，内外面とも丁寧なミガキが施され，内外面黒色処理が加えられる。胎土中に雲母等の小砂粒を多く含む。520は口縁下の稜が明瞭に突出し，体部は扁平で平底に近くなる。ミガキ調整を主体とする。胎土中の砂粒の混入は少ない。521は推定口径15.8cmを測る大形の杯で，内外面とも丁寧なミガキが施され，きわめて平滑に仕上げられる。漆による黒色処理がみられる。胎土・焼成は特徴的で，砂粒の混入はほとんど認められない。灰色の色調を呈し，須恵器的な質感を受ける。522は口縁部が長く，



第28図　SI081・082

体部が小さくなるタイプで，いわゆる東北系の土器である。内外面丁寧なミガキで，黒色処理される。523は高杯の杯部，524は脚部である。523は口縁下に稜を有して口縁が大きく開くタイプで，内外面赤彩が施される。524は器肉が厚く，内面に粘土の輪積み痕が明瞭に残る。525は短い口縁部がくの字状に外反する甕で，口径17.1cm，器高25.7cmを測る。胴部外面のヘラケズリ，内面のヘラナデの痕跡が明瞭に観察される。胎土中に砂粒を多く含み，赤褐色の色調を呈する。外面にススの付着がみられる。526は口縁部に最大径を有し，内外面にミガキ調整が施されることから，単孔の甑になると思われる。

SI081（第28・50図，図版26・33）

調査区西端，3C－51グリッド付近に所在する。北部・北西部分が調査区外である。主軸方向はN－7°－Wを指す。壁溝は残存部にはすべて巡っている。ピットは3本検出されている。径0.5m程の2本は柱穴と考えられる。東壁に接している径0.9m，深さ0.6mのピットは貯蔵穴の可能性が考えられる。

出土土器

527・528は杯である。527は推定口径16.0cm，器高4.6cmを測る大形の杯で，口縁部が長く盤状の形態を示す。内外面とも丁寧なミガキが施され，黒色処理される。砂粒の混入は少ない。528は口径12.8cm，器高4.6cmを測る完形品で，器肉が分厚いのが特徴である。内外面の調整は丁寧で，特に外面のヘラケズリはナデ状に長く削り，平滑に仕上げている。527とは異なり，胎土中の砂粒の混入は多い。529は高杯の脚部で，外面赤彩，杯部内面黒色処理がみられる。530は甕の底部，531はミニチュア土器である。

SI082（第28・50図，図版26）

調査区最西端に位置し，SI077を切っている。主軸方向はN－15.5°－Eを指す。壁溝は南東コーナーが途切れるが，全周するものと思われる。ピットは4本検出された。3本は柱穴と考えられる。深さ0.74m～1.0mと深い。南東コーナーのピットは中心に向かい，楕円形をしており，掘り方が2か所存在するが，おそらく柱の抜き取りに伴うものと考えられる。南壁中央の深さ0.2程のピットは入り口に伴うものと思われる。

出土土器

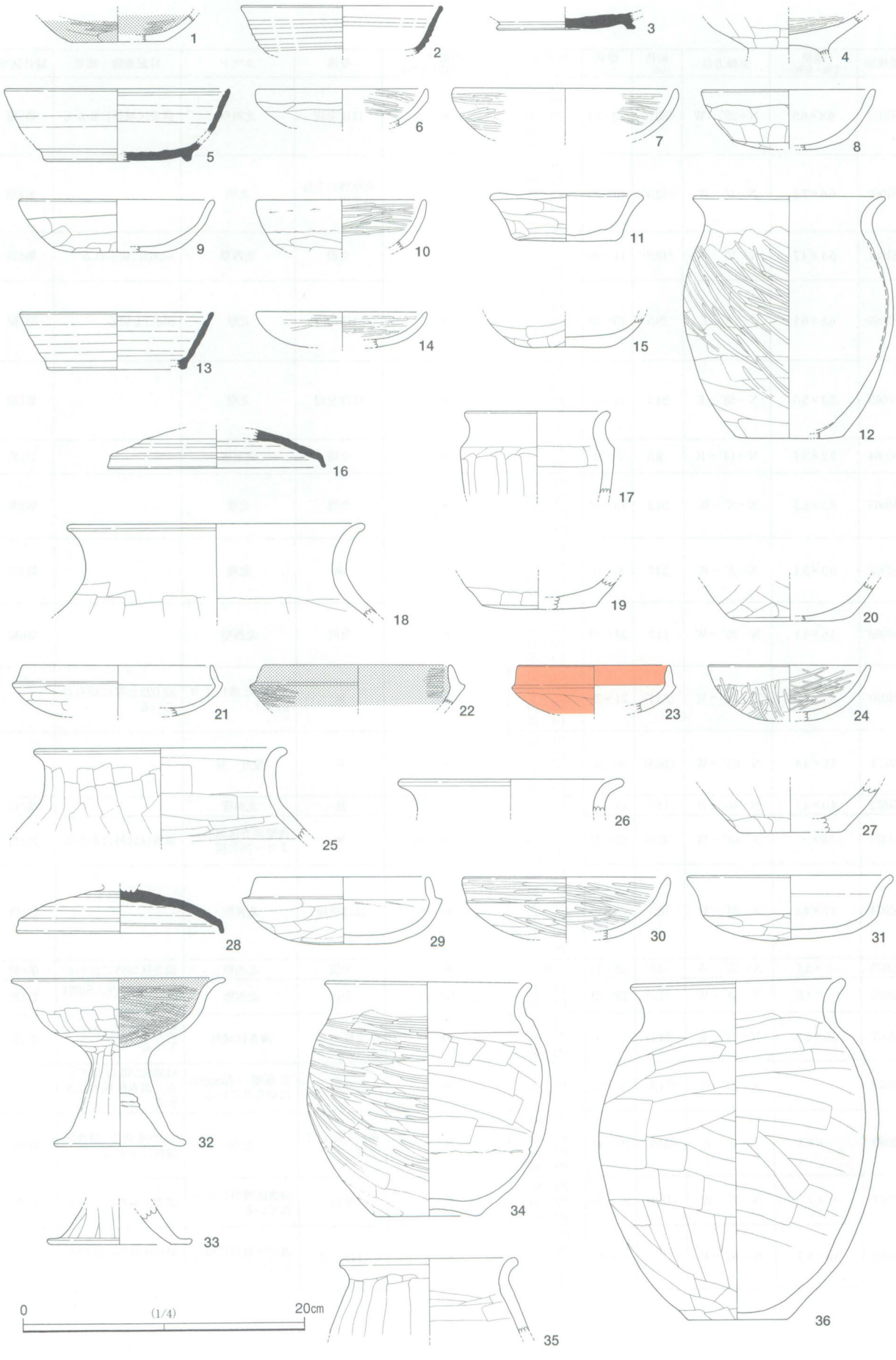
本住居からの出土土器は少なく，532の椀の小片1点を図示できたのみである。内外面赤彩がみられる。

第１表　竪穴住居跡観察表

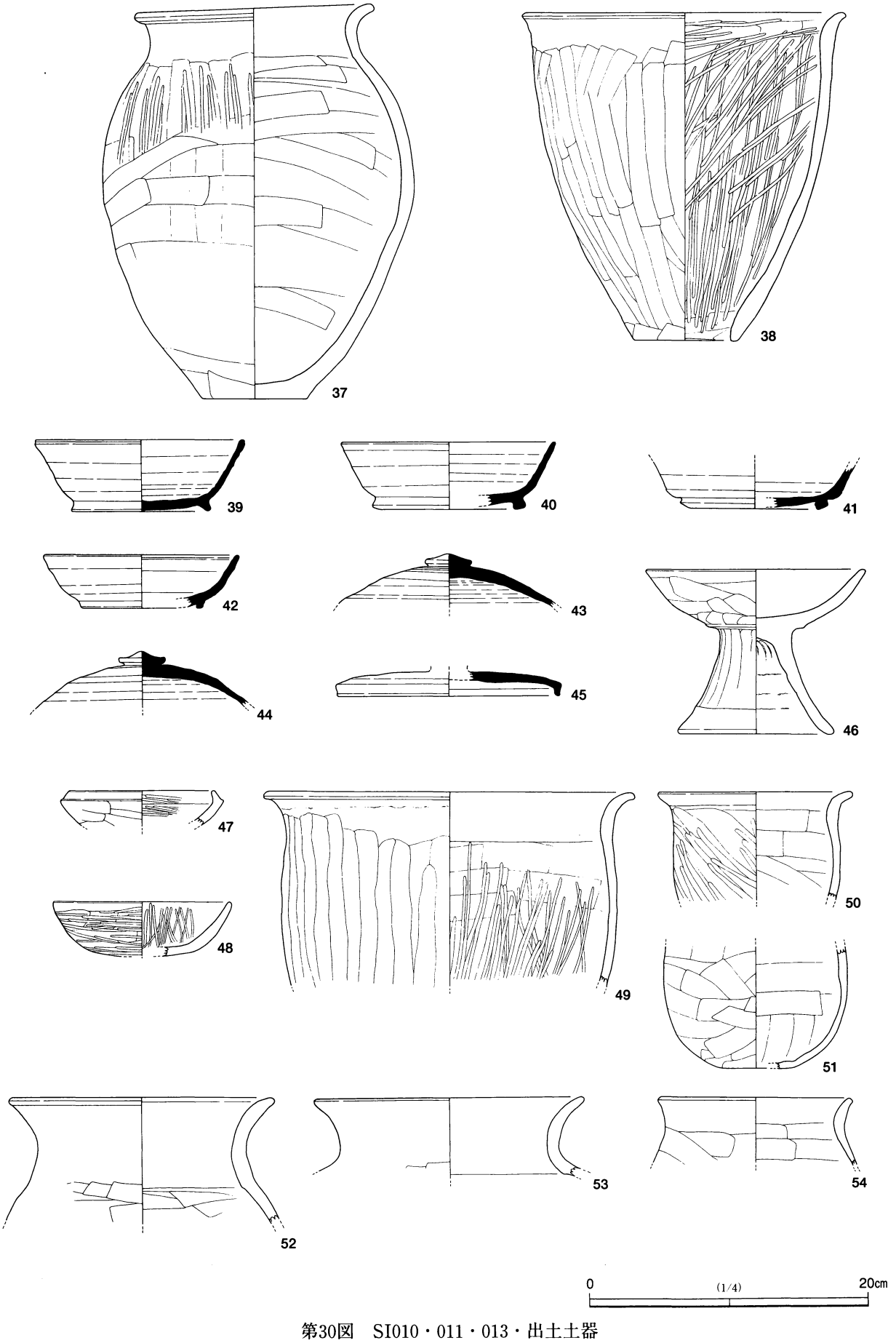
遺構No.	規模（主軸×副軸m）	主軸方位	面積（㎡）	壁高（cm）	柱穴深さ（cm）	貯蔵穴（長径×短径×深さcm）	壁溝	カマド	特記遺物・備考	時代区分
SI001	3.0×3.1	N－46°－W	6.2	13～30	無	無	全周	西北壁		第7期
SI002	3.7×3.7	N－45°－W	10.6	25～46	P1－11 P2－20	無	全周	西北壁		
SI003	3.3×－	N－26°－W	6.2	14～96	P1－40 P2－24	無	無	調査区域外		
SI004	3.9×4.0	N－17.5°－W	12.7	28～50	P1－31 P2－48 P3－79 P4－18 P5－13 P6－18	無	全周	北壁に1基 東壁に1基 （東→北）		第7期
SI005	－×4.5	N－23°－E	(13.6)	14～32	無	無	無	削平		第7期
SI008	3.6×4.0	N－37°－W	8.0	23～75	P1－38 P2－40 P3－31 P4－41	53×43×17.5	全周	北西壁		第7期
SI009	4.8×4.9	N－19°－W	19.5	23～80	P1－72 P2－64 P3－52 P4－60 P5－38	60×58×22.4	ほぼ全周	西北壁		第5期
SI010	4.7×(5.0)	N－8°－E	(18.0)	20～54	P1－48 P2－57 P3－58 P4－31 P5－28	100×83×33.2	全周	西北壁		第4期
SI011	6.4×6.5	N－40°－W	33.7	57～68	P1－103 P2－91 P3－88 P4－68 P5－42	無	全周	北壁	SI022に切られる	第7期
SI013	3.5×3.8	N－23°－W	9.0	38～44	P1－74 P2－56 P3－20	無	全周	西北壁	SI014を切る	第6期
SI014	6.2×5.9	N－20.2°－W	(30.2)	43～55	P1－95 P2－72 P3－67 P4－79	無	全周	西北壁	SI013に切られる	第4期
SI015	7.5×7.6	N－30.5°－W	46.3	46～66	P1－125 P2－87 P3－103 P4－79 P5－44	無	全周	西北壁		第5期
SI016	3.7×3.5	N－12.7°－W	8.2	42～48	P1－65	無	全周	西北壁		第6期
SI017	6.8×6.5	N－58°－E	40.6	12～32	P1－57 P2－62 P3－68 P4－62 P5－34	92×80×81	無	北東壁	SK016と重複	第1期
SI018	3.6×4.1	N－28.5°－W	10.5	13～33	P1－80	無	全周	無	SI0019を切る	第6期
SI019	4.2×4.1	N－36°－W	(12.4)	14～51	P1－173	無	全周	無	SI018に切られる	
SI020	8.4×7.7	N－41°－W	61.9	47～67	P1－74 P2－79 P3－71 P4－75 P5－16 P6－23	無	全周	北西壁		第5期
SI021	3.3×3.7	N－45°－W	9.5	29～44	無	無	無	北西壁		第2期
SI022	5.5×5.3	N－35°－W	28.4	27～77	P1－68 P2－78 P3－75 P4－62	無	全周	北西壁	SI010を切る	第7期
SI023	3.7×3.2	N－37°－W	8.6	34～41	無	無	全周	北西壁		第3期
SI024	5.9×3.2	N－38.8°－W	24.1	63～88	P1－96 P2－103 P3－106 P4－92 P5－42	無	全周	北西壁		第5期
SI025	3.2×2.9	N－41°－W	5.4	36～57	無	無	全周	北西壁		第1期
SI026	5.4×5.2	N－30.5°－W	21.5	49～69		無	全周	北西壁		第4期
SI027	3.8×4.6	N－43°－E	12.3	30～52		無	全周	北東壁		第5期
SI028	6.3×5.9	N－41.5°－W	29.6	27～58	P1－62 P2－27 P3－28 P4－63	63×53×16.8	南東壁を除き全周	北西壁	SI076，051に切られる	第4期
SI029	(6.0×6.1)	N－26°－W	(32.0)			無	無	北西壁		第3期
SI030	－×5.6	N－37.5°－W	(16.7)	15～52	P1－66 P2－60	無	北西壁を除いて全周	無	SI032に切られている	第7期

遺構No.	規模（主軸×副軸m）	主軸方位	面積（㎡）	壁高（cm）	柱穴深さ（cm）	貯蔵穴（長径×短径×深さcm）	壁溝	カマド	特記遺物・備考	時代区分
SI031	3.1×3.2	N－34°－W	7.8	28～38	P1－39 P2－15	無	北西・南東壁のみ	北西壁		
SI032	4.8×5.7	N－38.5°－W	20.1	51～76	P1－66 P2－65 P3－49 P4－49 P5－44	無	全周	北西壁	SI030を切る	第7期
SI033	5.7×6.1	N－36.5°－W	26.8	39～94	P1－48 P2－69 P3－56 P4－41	102×105×33	全周	北西壁		第6期
SI034	4.8×4.8	N－28.5°－W	18.2	43～62	P1－56 P2－66 P3－57 P4－55 P5－29	無	全周	北西壁		第7期
SI035	4.4×4.2	N－55°－E	13.1	37～55	P1－20	無	全周	北東壁		第2期
SI037	4.8×5.0	N－33.5°－W	(16.3)	27～48	P1－44 P2－43 P3－84 P4－57 P5－24	無	ほぼ全周	SK019により削平	SK019に切られる	
SI038	—	—	—	—	—	—	—	—	SI050を切り，SI052，SD009に切られる	
SI039	6.1×5.7	N－38.5°－W	29.6	28～50	P1－42 P2－65 P3－51 P4－62 P5－53	無	南東を除いてほぼ全周	北西壁		第3期
SI040	5.2×4.8	N－3.5°－E	17.2	24～46	P1－60 P2－54 P3－75 P4－22	無	全周	北壁	SI041を切る	第6期
SI041	6.0×5.9	N－44.5°－W	(28.3)	10～37	P1－63 P2－92 P3－68	無	全周	北西壁	SI040に切られる	第4期
SI042	4.5×－	N－56.5°－W	(7.9)	15～44	P1－47 P2－35 P3－61	無	ほぼ全周	北西壁	北東壁調査区域外にかかる	
SI044	－×5.7	N－43.5°－W	(20.4)	20～44	P1－81 P2－78 P3－81 P4－18	無	ほぼ全周	調査区域外	北西壁調査区域外にかかる	第4期
SI046	8.3×8.1	N－29°－W	(57.1)	15～59	P1－120 P2－127 P3－113 P4－111 P5－75 P6－23	無	全周	SD010により削平	SD010に切られる	第4期
SI047	5.9×6.0	N－12°－E	(33.8)	12～16	P1－88 P2－38 P3－54 P4－59	無	無	北西壁		第6期
SI050	－×6.2	N－14°－W	(33.2)	10～27	P1－28	無	全周	北西壁	SI038を切る。SI052，SD009に切られる	
SI051	4.3×4.6	N－35°－W	13.7	19～62	P1－52 P2－45 P3－49 P4－51	無	全周	北西壁	SI028，SI076を切る	第5期
SI052	5.2×5.3	N－30°－W	20.3	11～37	P1－64 P2－72 P3－69 P4－48 P5－20	無	全周	北西壁	SI038を切るSI050を切る	第6期
SI053	4.5×4.5	N－27.5°－W	17.7	8.0～44	無	無	無	無	SK015が入り込んでいる	第7期
SI054	5.9×6.1	N－12°－W	33.0	11～42	P1－67 P2－70 P3－46 P4－10 P5－70	無	無	北西壁		第1期
SI055	－×4.0	N－17°－W	(6.9)	35～45	P1－59 P2－56	60×59×34	全周	調査区域外		
SI058	4.2×4.4	N－34°－W	(13.1)	22～48	P1－49 P2－50 P3－55 P4－69 P5－15 P6－33 P7－22	無	ほぼ全周	北西壁	調査区域外にかかる	第4期

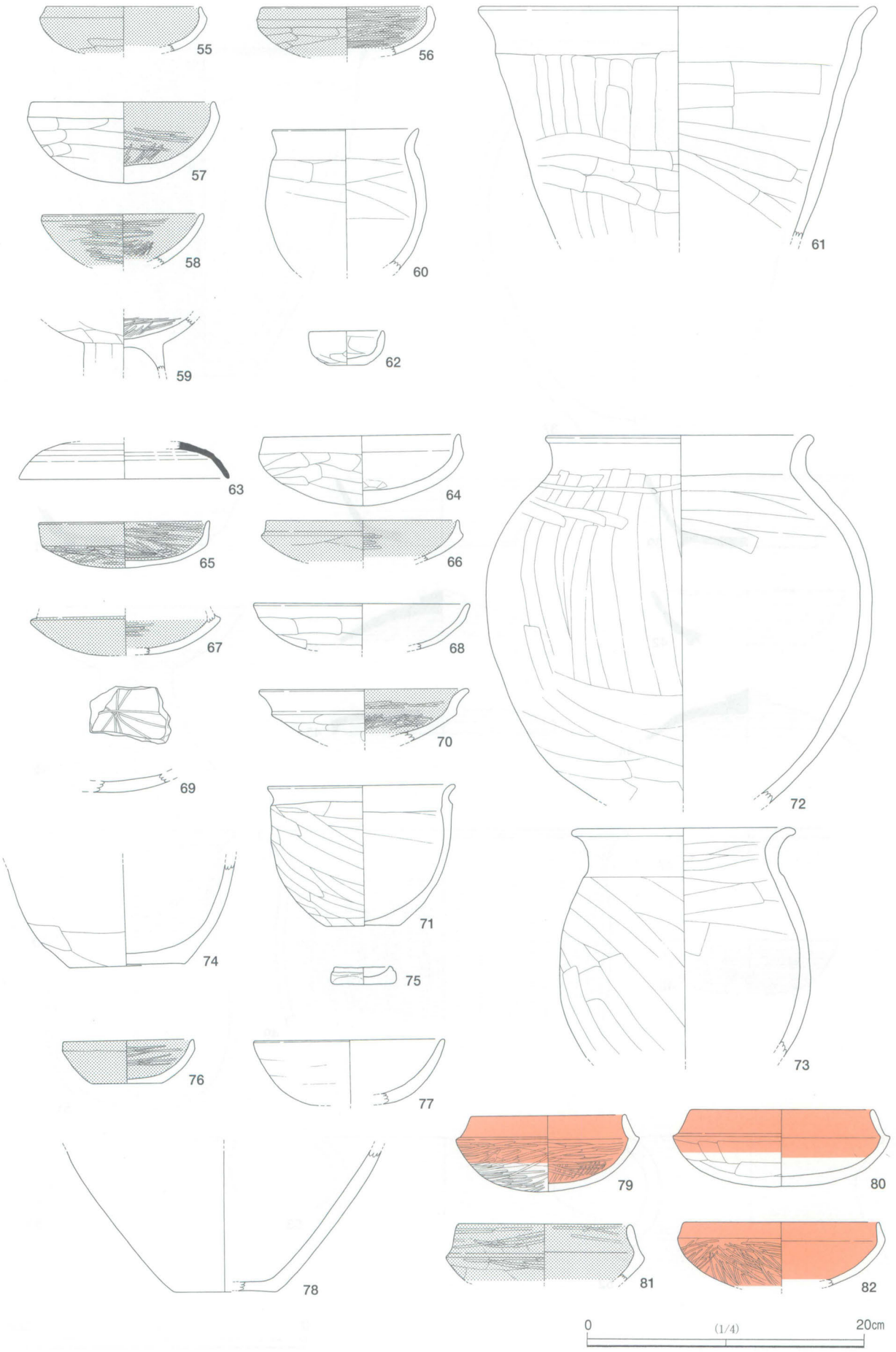
遺構No.	規模（主軸×副軸m）	主軸方位	面積（㎡）	壁高（cm）	柱穴深さ（cm）	貯蔵穴（長径×短径×深さcm）	壁溝	カマド	特記遺物・備考	時代区分
SI059	6.8×6.5	N－29°－W	(35.9)	33～74	P1－56 P2－84 P3－53 P4－64 P5－39	無	ほぼ全周	北西壁	調査区域外にかかる	第5期
SI060	6.6×7.4	N－6°－W	(42.5)	16～26	P1－72 P2－69 P3－66 P4－75 P5－44	無	東壁側に全体の半周	北壁		第4期
SI061	5.1×4.7	N－10°－W	(18.9)	11～29	P1－67 P2－78 P3－36	無	全周	北西壁	SI062に切られる	第6期
SI062	6.5×6.1	N－5°－E	29.5	15～43	P1－45 P2－59 P3－79 P4－82 P5－34	無	ほぼ全周	北壁	SI061を切る	第7期
SI063	5.4×5.6	N－58°－E	24.4	41～60	P1－66 P2－67 P3－53 P4－56 P5－41	無	ほぼ全周	北壁		第7期
SI064	3.2×3.4	N－14°－E	8.3	7～51	P1－47 P2－42	無	全周	北東壁		第7期
SI065	8.3×8.3	N－8°－W	56.2	13～54	P1－98 P2－101 P3－93 P4－81	無	全周	北壁		第2期
SI068	5.0×5.4	N－3°－W	23.7	8～31	P1－72 P2－60 P3－70 P4－63	無	無	北壁		第4期
SI069	4.6×4.1	N－46°－W	14.7	28～59	P1－59 P2－57 P3－51 P4－55	無	全周	北西壁		第6期
SI070	6.1×5.9	N－28°－W	(33.1)	21～28	P1－67 P2－68 P3－64 P4－78	無	無	SK023と溝により削平？	SK023と溝に切られている	
SI071	4.6×4.4	N－65°－W	(16.8)	4～21	P1－51 P2－17 P3－47 P4－28	無	無	撹乱　無		
SI072	4.0×4.1	N－60°－E	14.3	15～28	P1－27	無	無	北西壁		第6期
SI073	6.6×－	N－61°－W	(32.5)	13～22	P1－28 P2－25 P3－25	140×60×28	無	西壁調査区域外により一部欠損	調査区域外にかかる	第4期
SI074	4.7×4.8	N－33°－W	18.5	19～36	P1－53 P2－43 P3－65 P4－52 P5－23 P6－26	54×40×26	ほぼ全周	北西壁		第3期
SI075	－×3.1	N－35°－W	(3.9)	28～39	無	無	全周	北西壁	調査区域外にかかる	第6期
SI076	－×4.6	N－33°－W	(7.2)	10～23	P1－38 P2－40	110×80×24.0	全周	北西壁	SI028を切り，SI051に切られる	第4期
SI077	6.0×6.2	N－21°－E	(24.1)	7～21	P1－57 P2－66 P3－64	無	東壁のみ	調査区域外	調査区域外にかかっている	第3期
SI078	—	N－22°－E	(11.3)	5～19	P1－64	無	全周	北東壁一部SI080に切られている	SI080に切られている。調査区域外にかかる	
SI080	－×6.5	N－5°－E	(32.6)	20～40	P1－94 P2－79 P3－89 P4－89	無	南壁を除いて全周	北壁	SI078を切る。調査区域外にかかる	第2期
SI081	－×7.5	N－7°－W	(18.3)	27～35	P1－87 P2－54 P3－61	無	全周	調査区域外に切られている	調査区域外にかかる	第3期
SI082	5.3×5.5	N－16°－E	(17.7)	6～19	P1－101 P2－74 P3－74 P4－19	無	ほぼ全周	調査区域外に切られている	調査区域外にかかる	



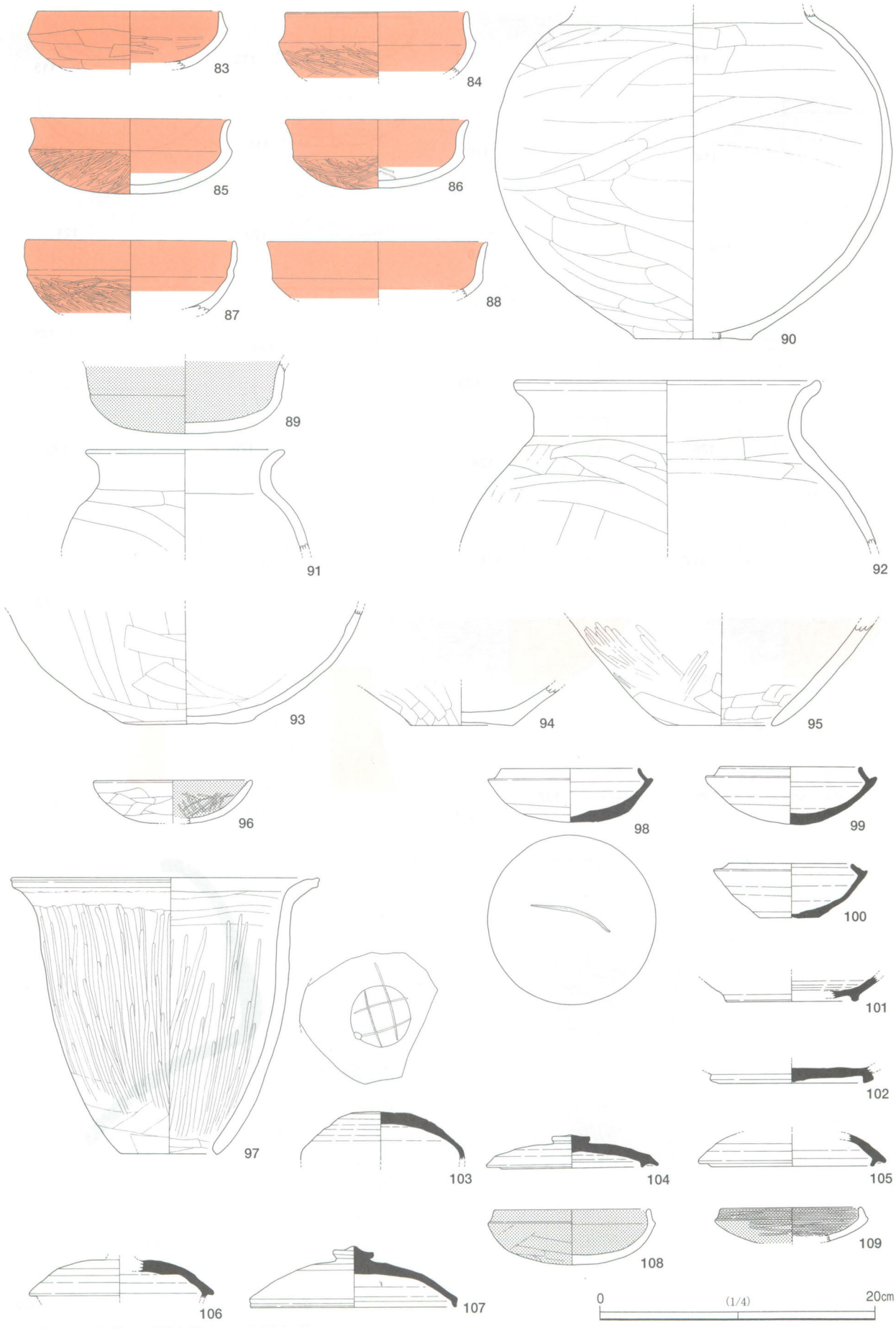
第29図　SI001・002・004・005・008～010出土土器
(SI001：1，SI002：2～4、SI004：5～12，SI005：13～15，SI008：16～20，SI009：21～27，SI010：28～36)



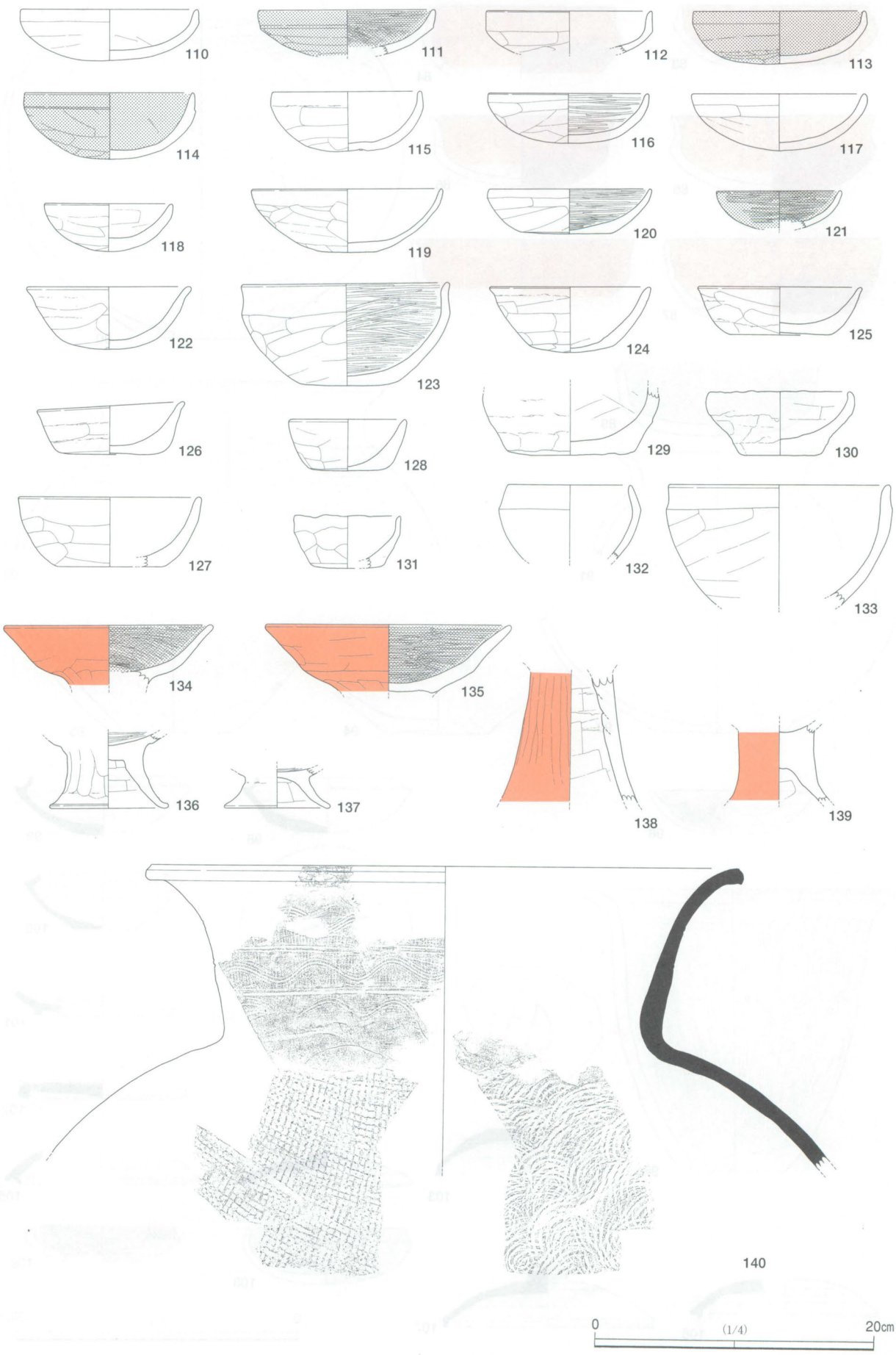
第30図　SI010・011・013・出土土器
(SI010：37・38，SI011：39～46，SI013：47～54)



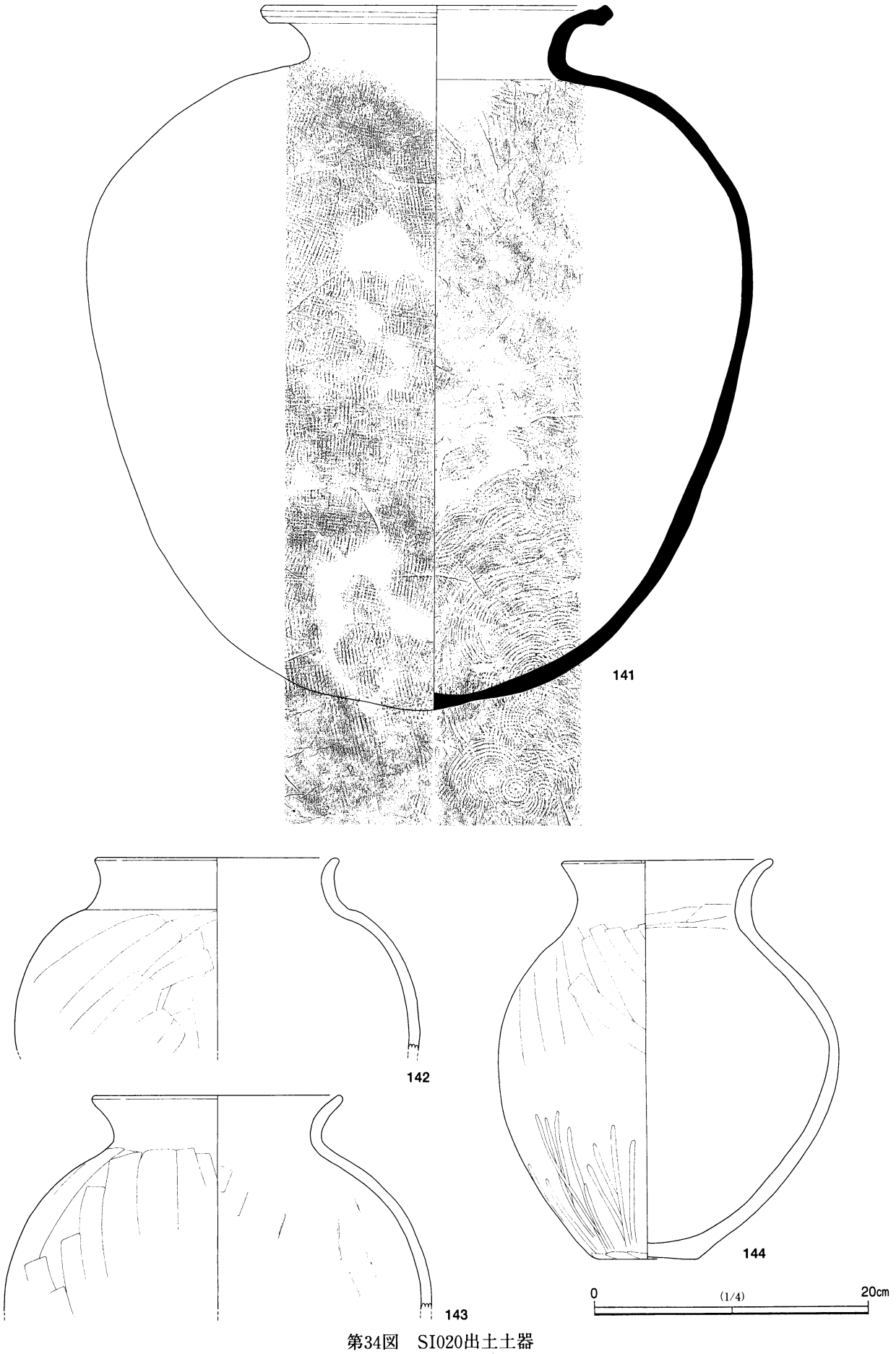
第31図　SI014～017出土土器
(SI014：55～62，SI015：63～75，SI016：76～78，SI017：79～82)



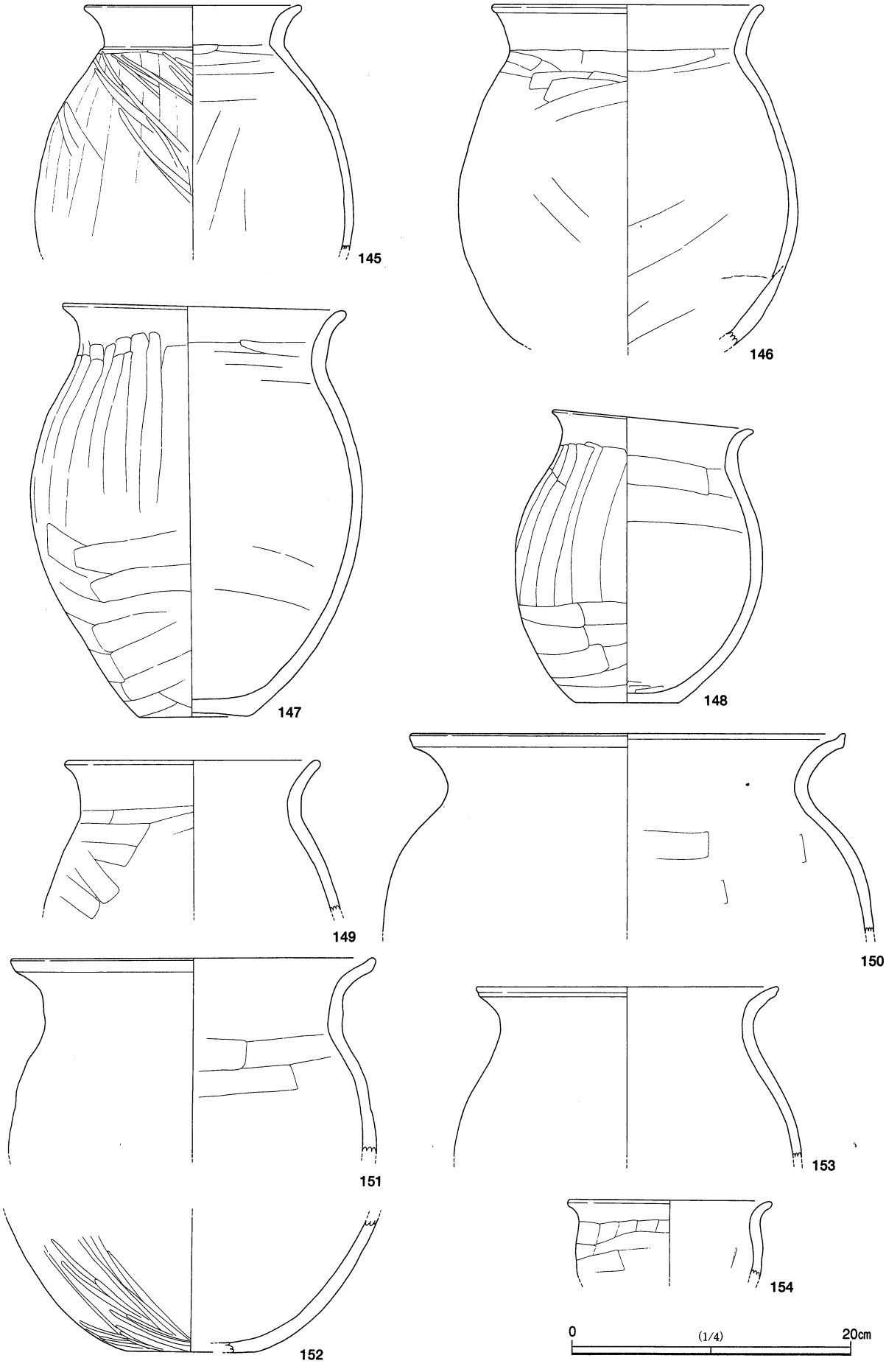
第32図　SI017～020出土土器
(SI017：83～95，SI018：96，SI019：97，SI020：98～109)



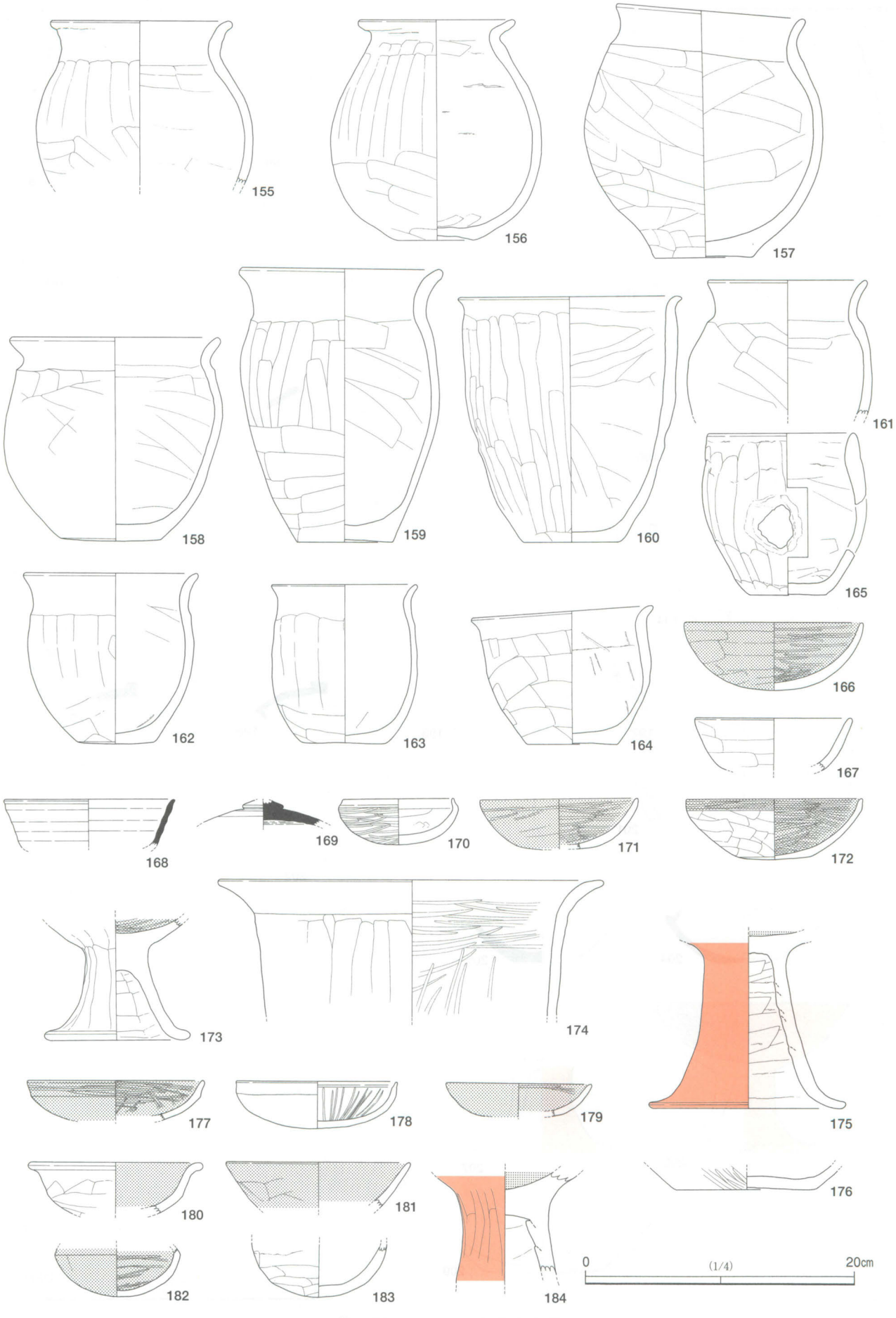
第33図　SI020出土土器
(SI020：110～140)



第34図　SI020出土土器
(SI020：141～144)

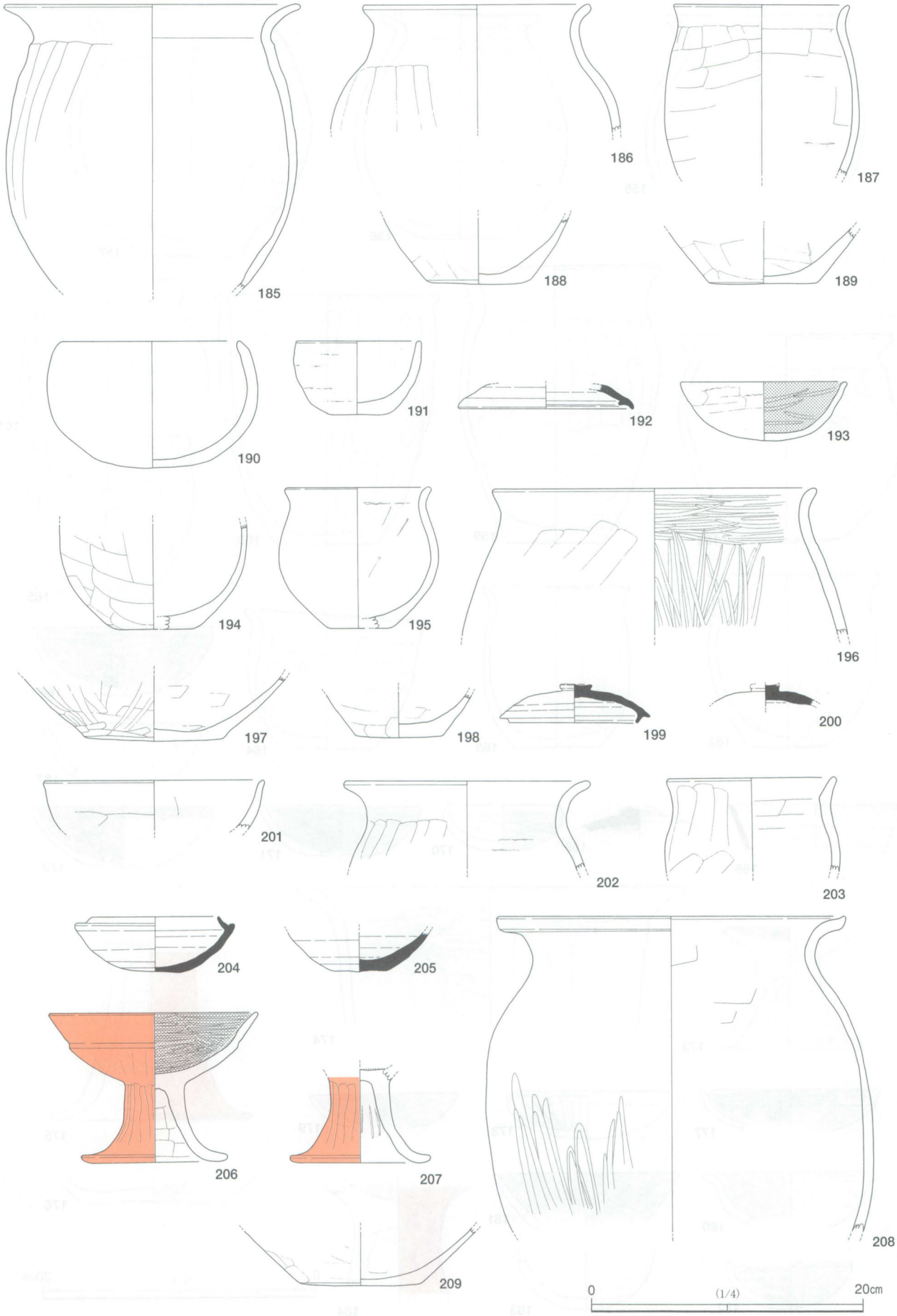


第35図　SI020出土土器
(SI020：145～154)

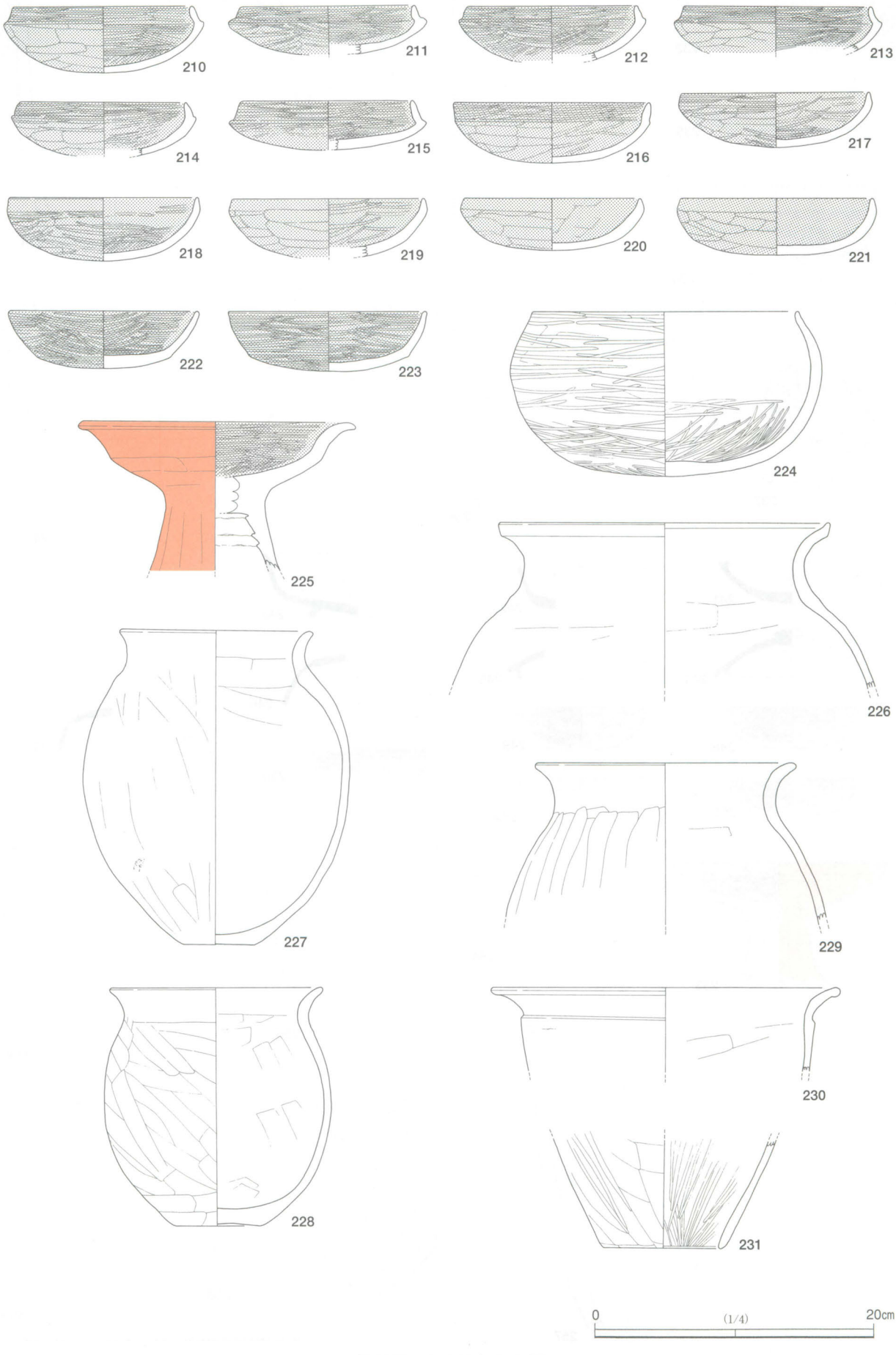


第36図　SI020～024出土土器

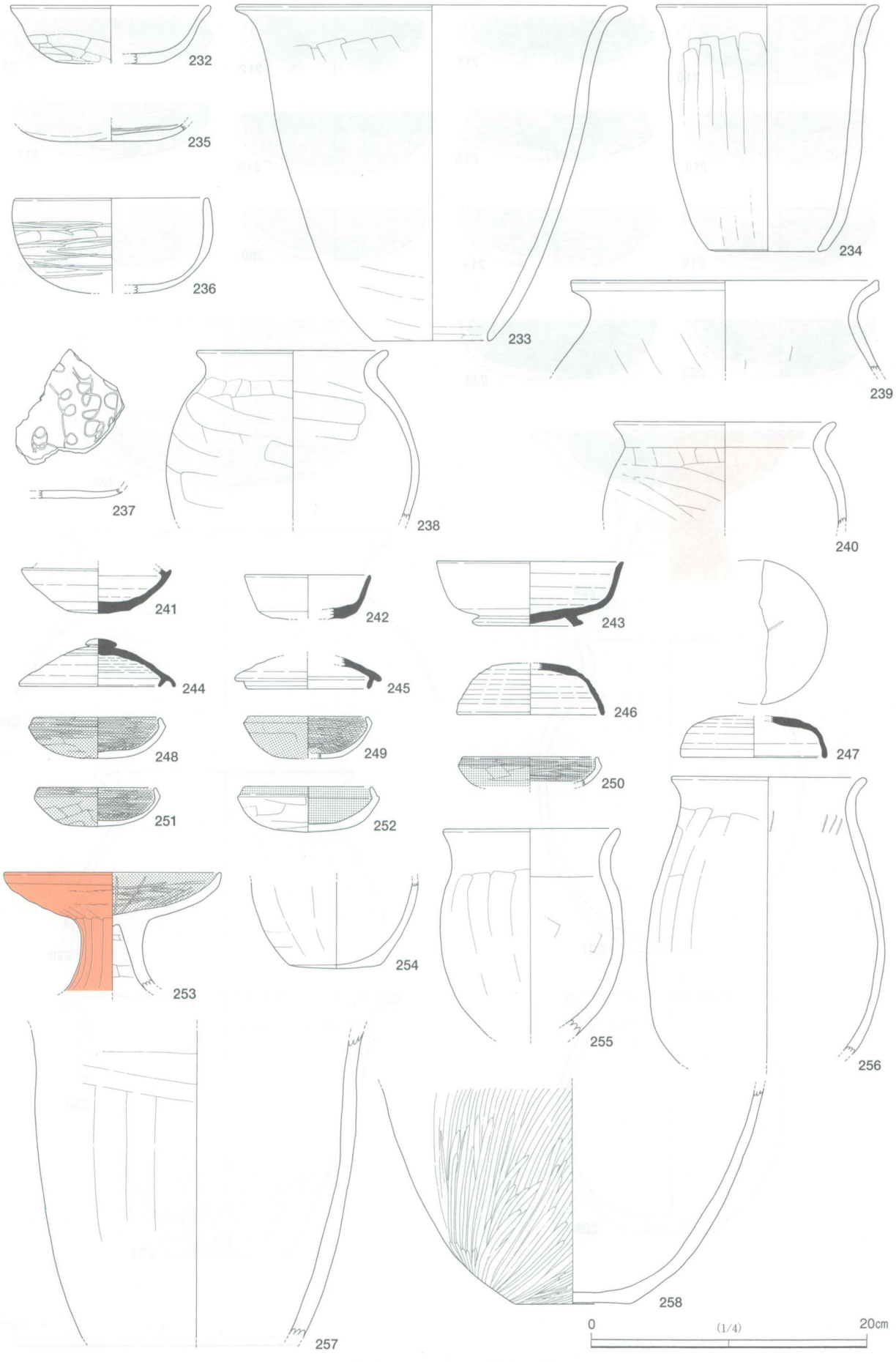
(SI020：155～165，SI021：166・167，SI022：168～174，SI023：175・176，SI024：177～184)



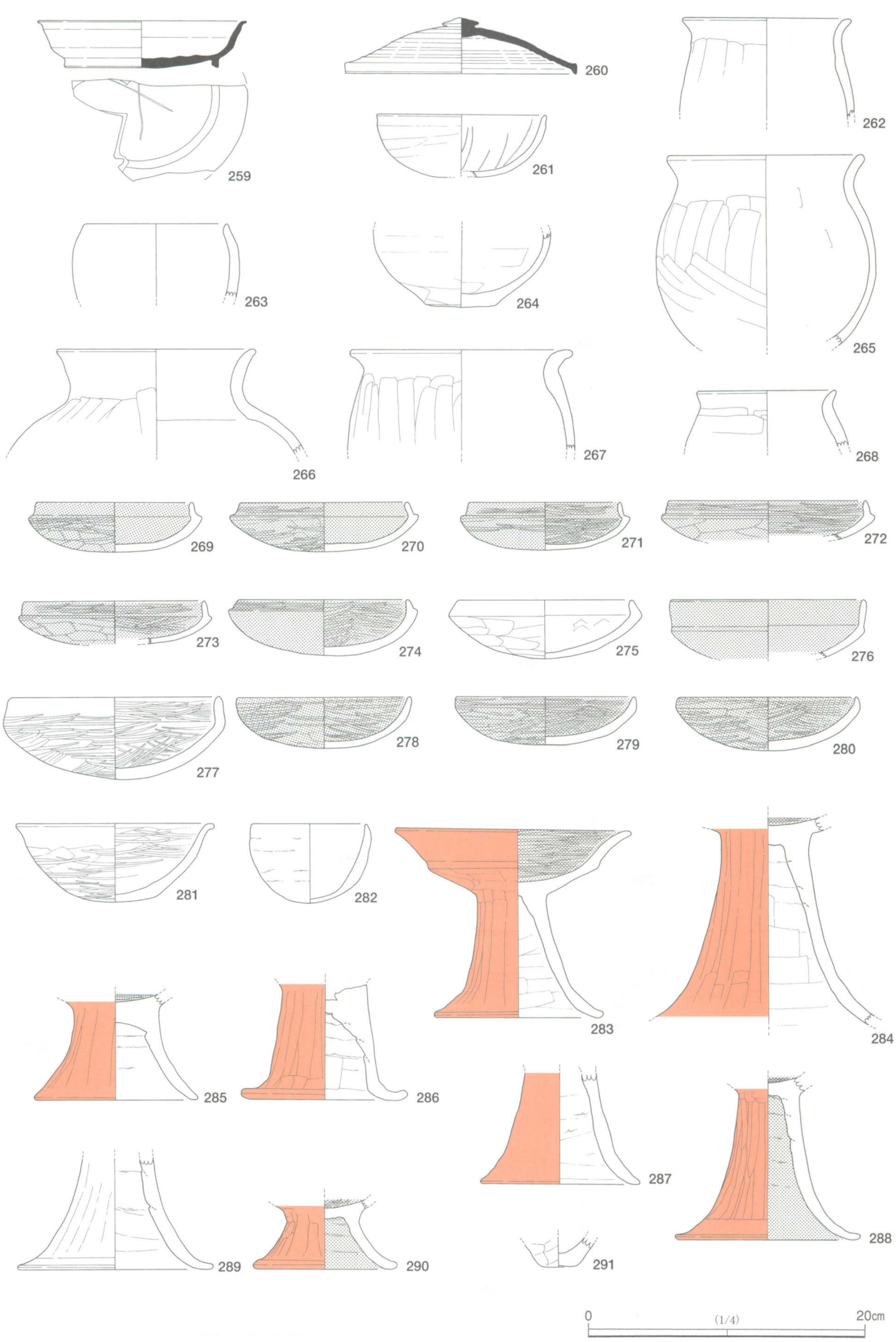
第37図　SI024～028出土土器
(SI024：185～189，SI025：190・191，SI026：192～198，SI027：199～203，SI028：204～209)



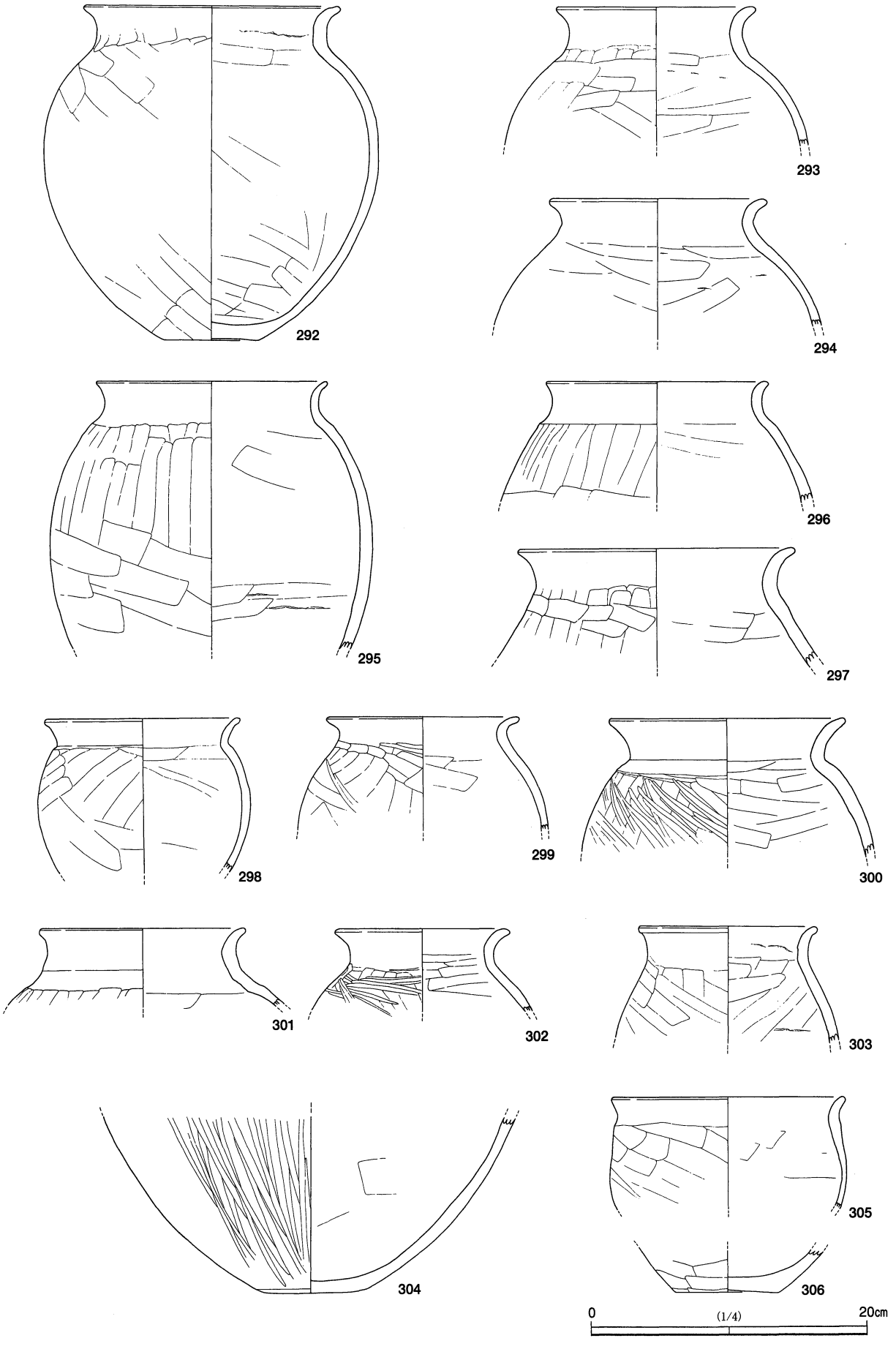
第38図　SI029出土土器
(SI029：210～231)



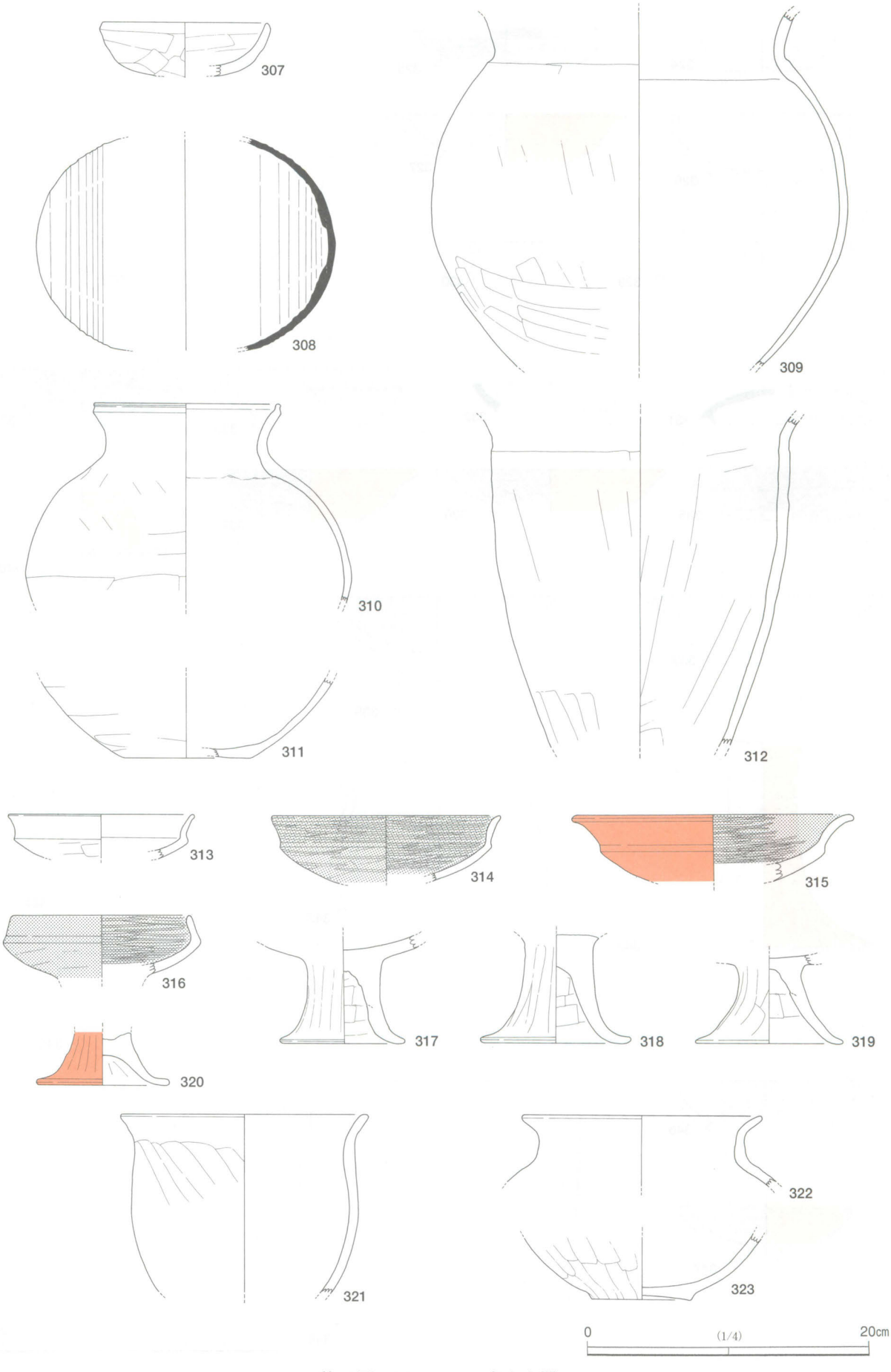
第39図　SI030～033出土土器
(SI030：232・233，SI031：234，SI032：235～240，SI033：241～258)



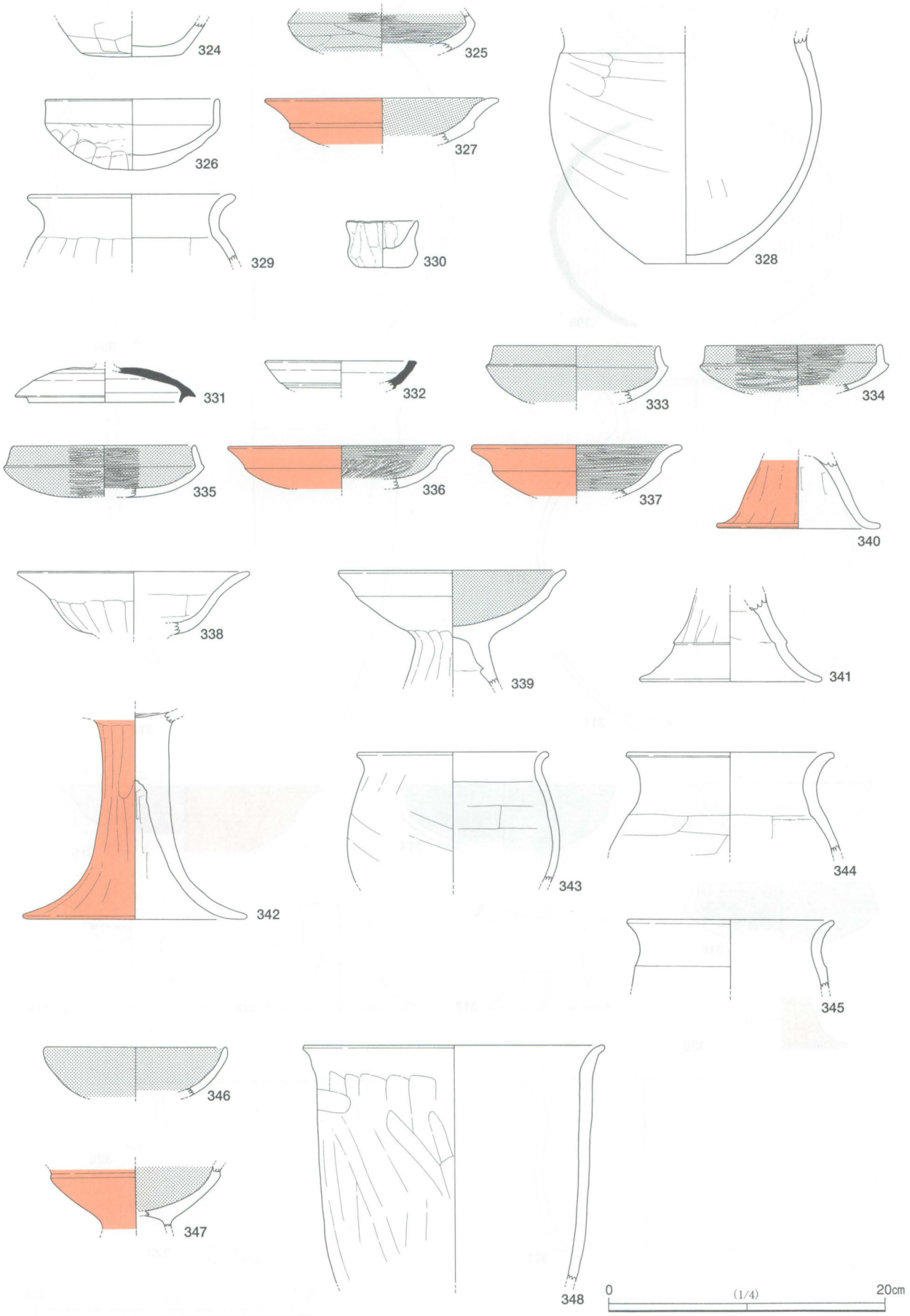
第40図　SI034・035，037～039出土土器
（SI034：259～262，SI035：263～266，SI037：267，SI038：268，SI039：269～291）



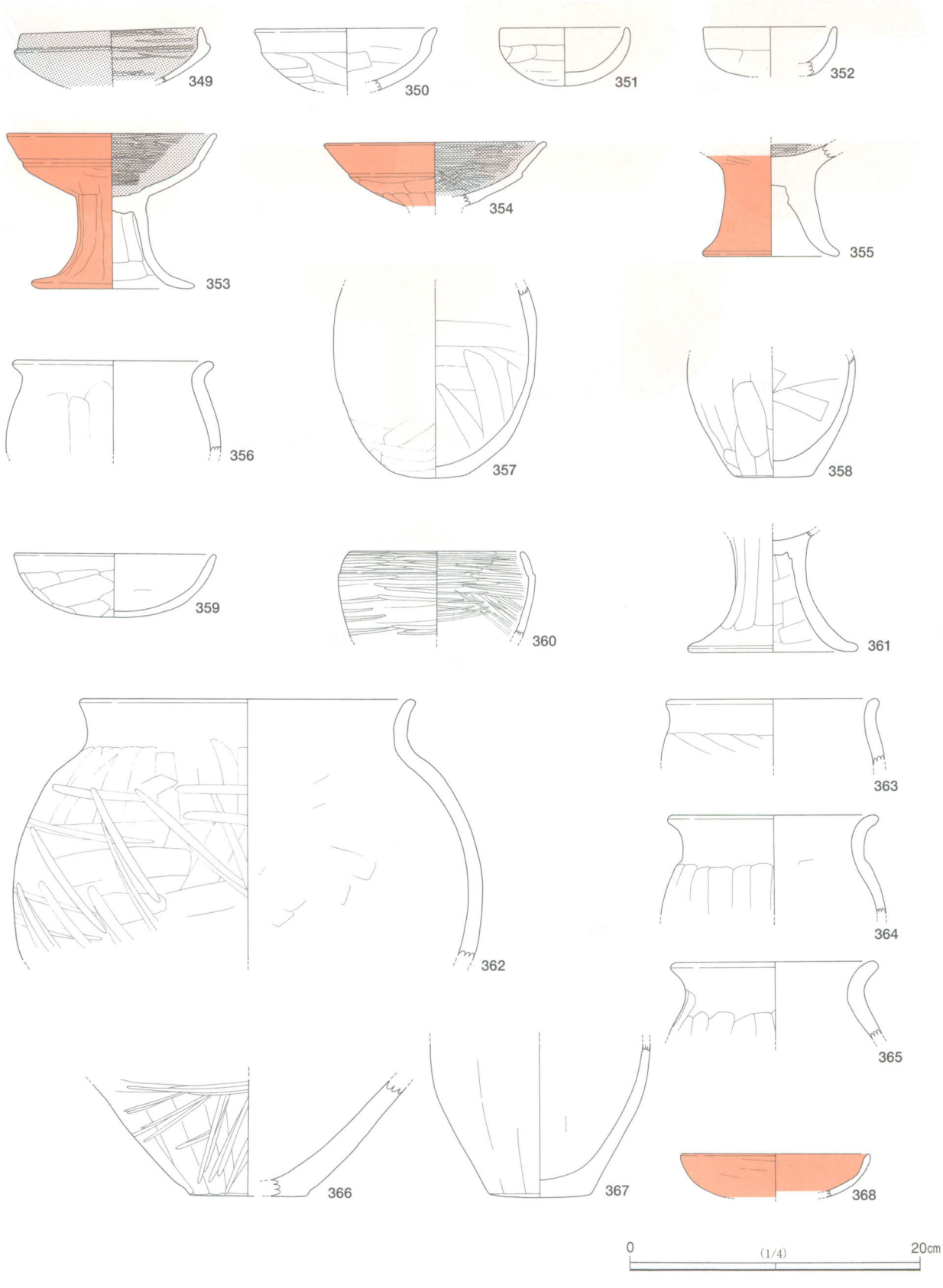
第41図　SI039出土土器
(SI039：292～306)



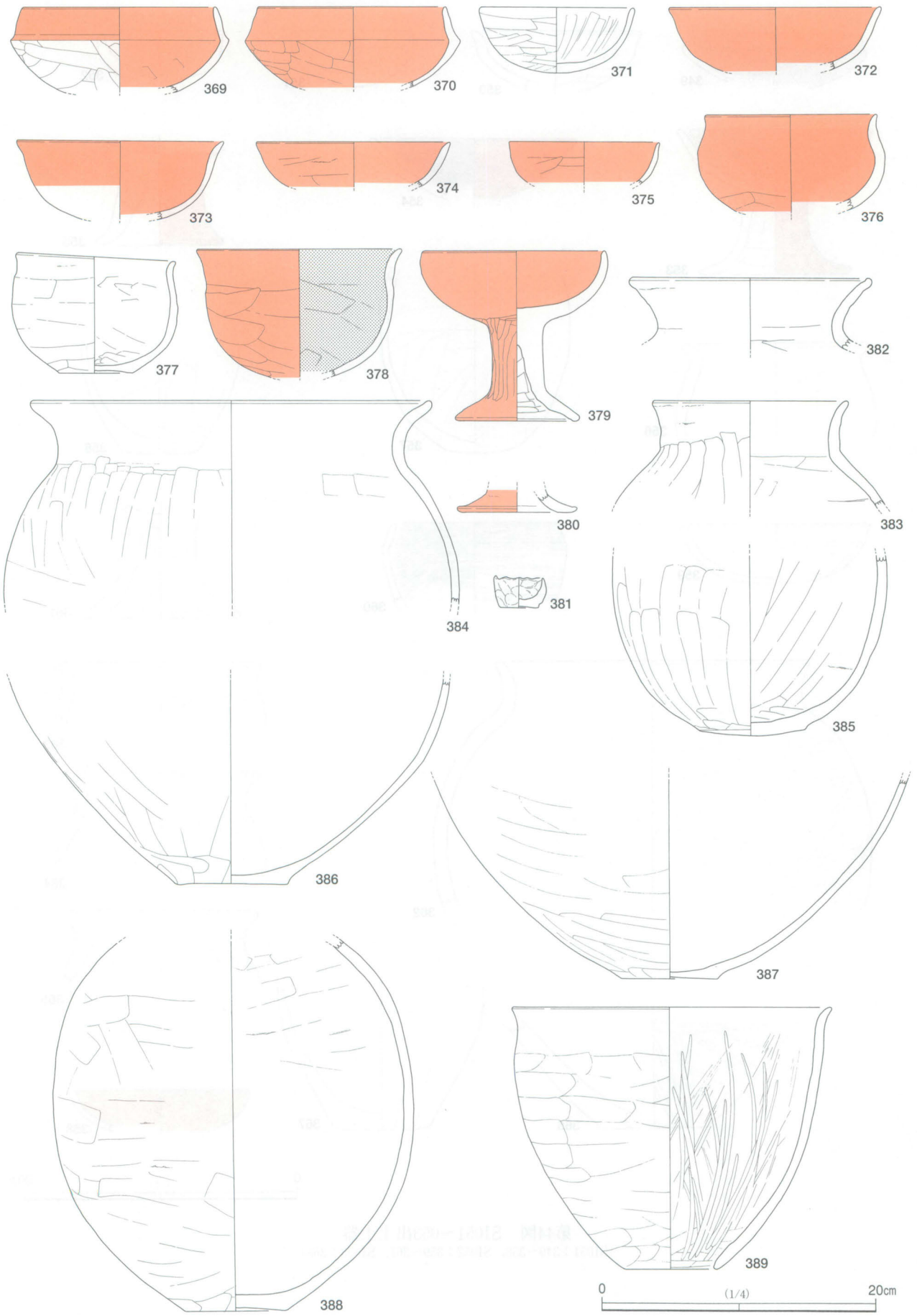
第42図　SI040・041出土土器
(SI040：307～312，SI041：313～323)



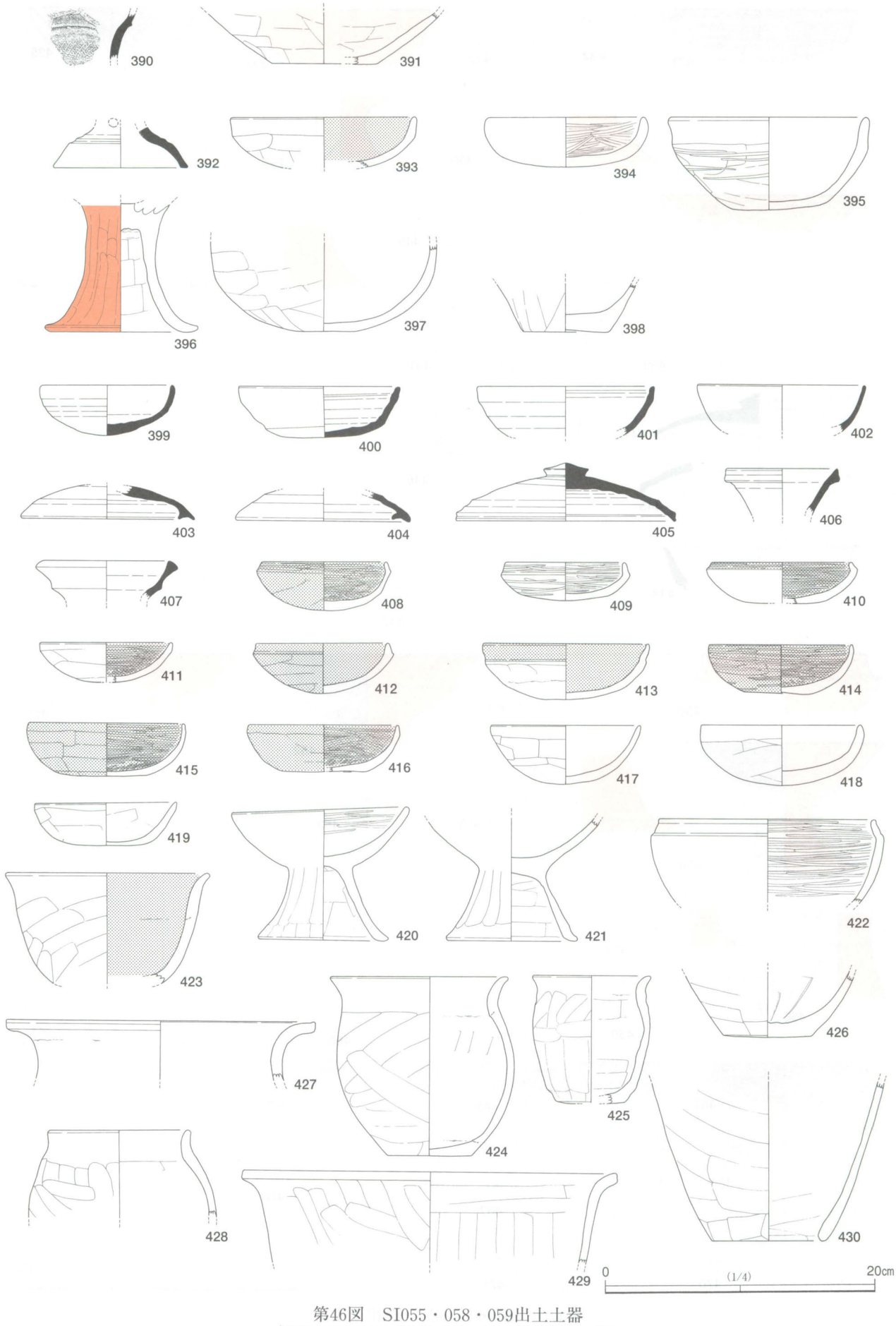
第43図　SI042・044・046・047出土土器
(SI042：324，SI044：325～330，SI046：331～345，SI047：346～348)



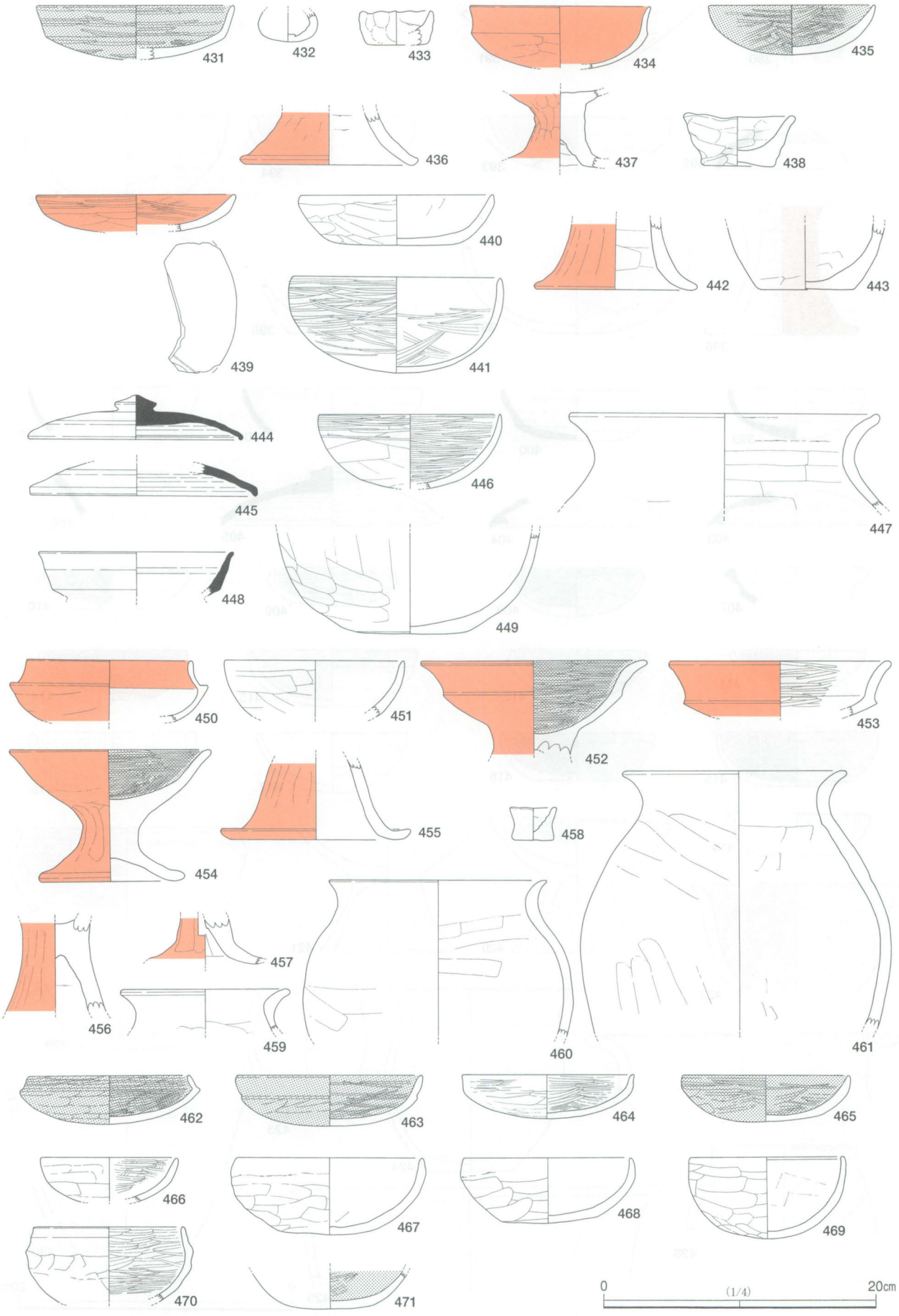
第44図　SI051～053出土土器
（SI051：349～358，SI052：359～367，SI053：368）



第45図　SI054出土土器
(SI054：369～389)

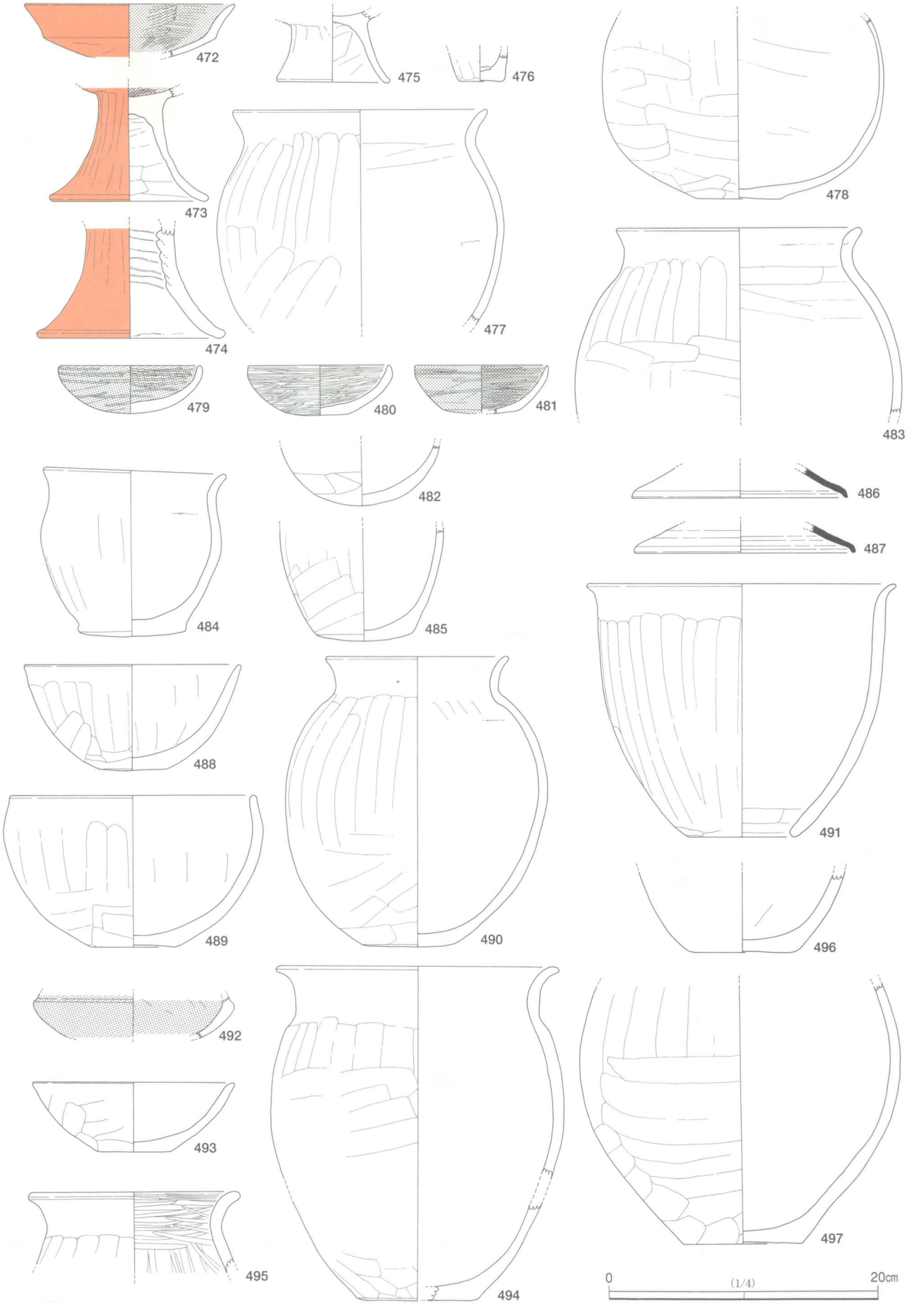


第46図　SI055・058・059出土土器
(SI055：390・391，SI058：392～398，SI059：399～430)

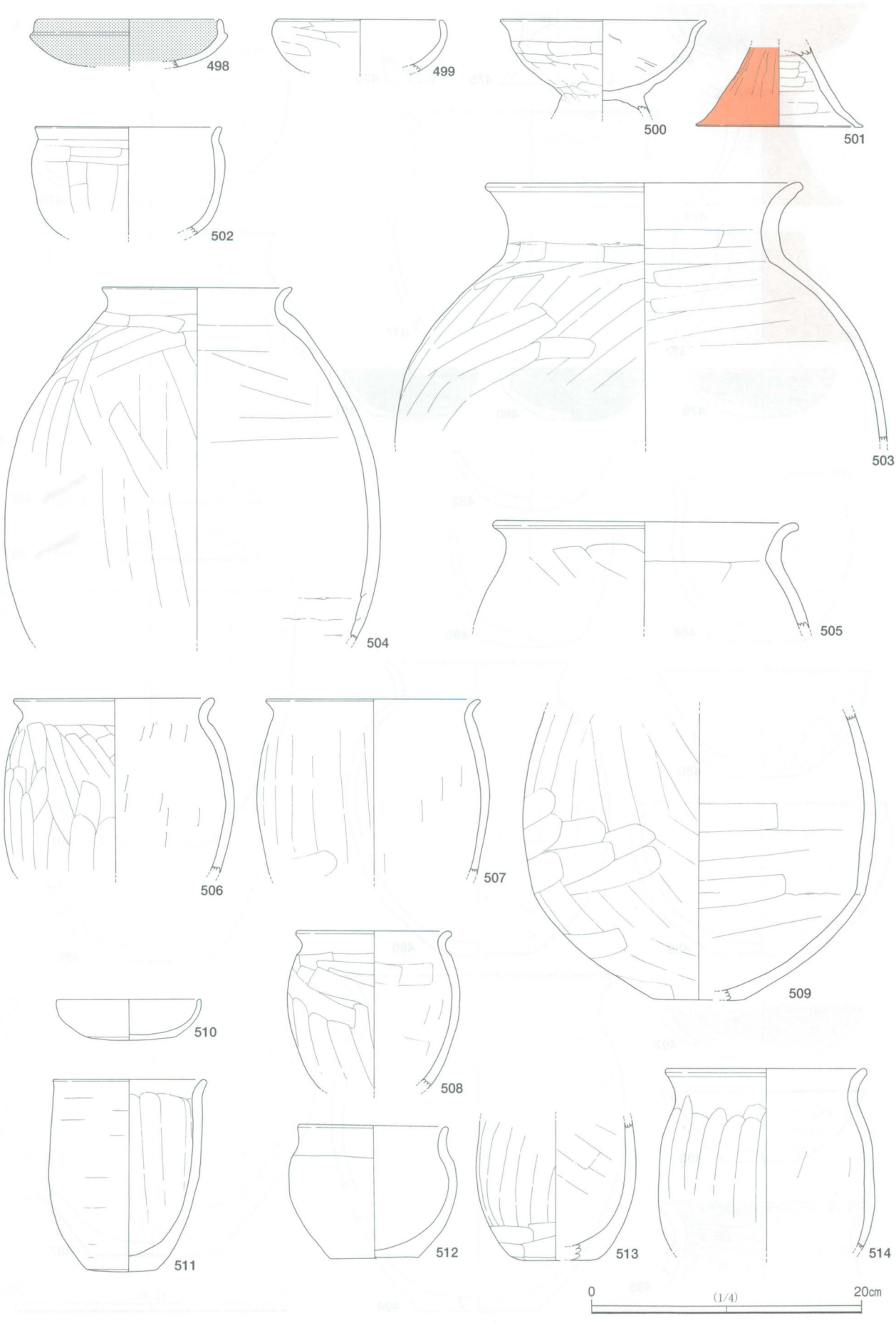


第47図　SI060～065，068出土土器

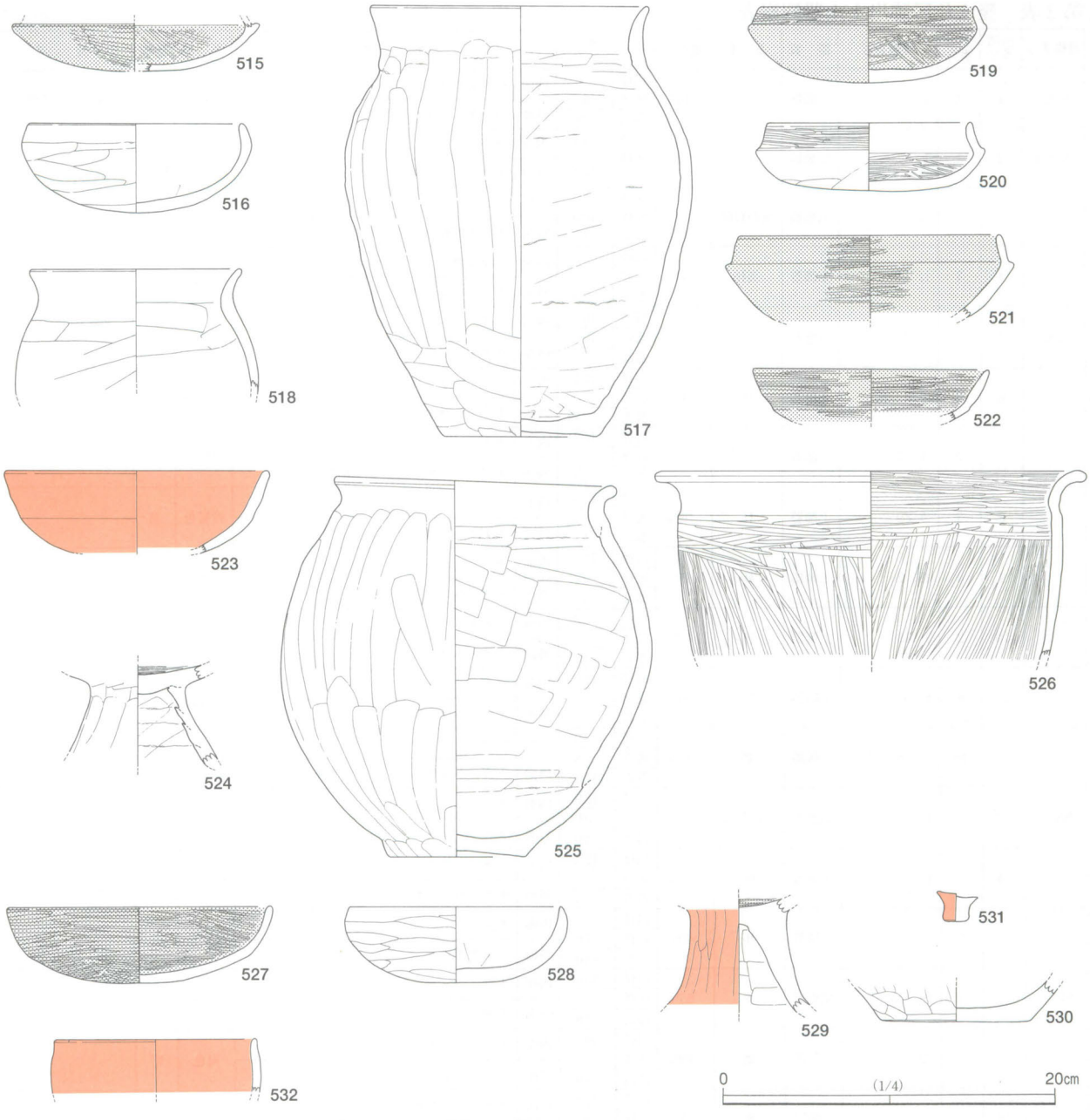
（SI060：431～433，SI061：434～438，SI062：439～443，SI063：444～447，SI064：448・449，SI065：450～461，SI068：462～471）



第48図　SI068～070，072・073出土土器
（SI068：472～478，SI069：479～485，SI070：486・487，SI072：488～491，SI073：492～497）



第49図　SI074～076出土土器
(SI074：498～509，SI075：510・511，SI076：512～514)



第50図　SI077・078，080～082出土土器
(SI077：515～517，SI078：518，SI080：519～526，SI081：527～531，SI082：532)

第2表　竪穴住居跡出土土器観察表

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
SI001	1	1	1	土師器	杯	10%	口径	−	内面	ヘラミガキ	灰色	密	内外面黒色処理
							底径	(6.6)	外面	ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔2.0〕					
SI002	2	1	1	須恵器	杯	5%	口径	(14.5)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔3.5〕					
	3	2	1，11	須恵器	高台付杯	15%	口径	−	内面	ナデ	白灰色	密	回転ヘラ切り
							底径	(10.0)	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔1.2〕					
	4	3	1，16	土師器	高杯	30%	口径	−	内面	ヘラミガキ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔2.9〕					
SI004	5	1	1，41	須恵器	高台付杯	15%	口径	(16.2)	内面	ナデ	白灰色	密	
							底径	(10.6)	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔5.2〕					
	6	6	カマ一括	土師器	杯	20%	口径	(12.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔2.7〕					
	7	7	カマ7	土師器	杯	5%	口径	(16.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリヘラミガキ			
							器高	〔3.5〕					
	8	3	カマ9	土師器	杯	25%	口径	(12.5)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	(8.4)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔4.3〕					
	9	4	25，26	土師器	杯	15%	口径	(13.9)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	(9.2)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.9〕					
	10	2	5，18	土師器	杯	15%	口径	(12.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔4.7〕					
	11	8	1，9	土師器	杯	60%	口径	(11.0)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	(7.0)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.5					
	12	10	カマ8一括	土師器	甕	40%	口径	(13.9)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	(7.8)	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔17.4〕					
SI005	13	1	1	須恵器	高台付杯	10%	口径	(13.9)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(10.0)	外面	ナデ			
							器高	(4.0)					
	14	3	1	土師器	杯	15%	口径	(12.3)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラミガキ			
							器高	〔2.5〕					
	15	2	1	土師器	杯	40%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	(7.0)	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔2.0〕					
SI008	16	1	19，20	須恵器	蓋	55%	口径	(15.6)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔2.8〕					
	17	2	22	土師器	甕	10%	口径	(10.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔6.9〕					
	18	3	7	土師器	甕	5%	口径	(21.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔6.6〕					
	19	4	21，24	土師器	甕	5%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	(8.2)	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔2.3〕					
	20	5	22	土師器	甕	5%	口径	−	内面	ヘラナデ	褐色	密	
							底径	(8.1)	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔2.9〕					
SI009	21	1	1，2	土師器	杯	10%	口径	(13.6)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.6〕					
	22	2	12	土師器	杯	5%	口径	(14.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔2.9〕					
	23	6	3	土師器	杯	10%	口径	(10.0)	内面	ナデ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.3〕					
	24	7	10	土師器	杯	20%	口径	(11.7)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔3.9〕					
	25	3	9	土師器	甕	5%	口径	(18.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔6.6〕					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	26	4	1	土師器	甕	5%	口径	(16.3)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔2.4〕					
	27	5	5	土師器	甕	5%	口径	−	内面	ナデ	黒褐色	密	
							底径	(7.5)	外面	ヘラケズリ	褐色		
							器高	〔3.3〕					
SI010	28	1	1	須恵器	蓋	20%	口径	(14.9)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔3.1〕					
	29	3	61	土師器	杯	100%	口径	12.6	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	4.8					
	30	4	1，8	土師器	杯	20%	口径	(15.0)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔4.4〕					
	31	2	60	土師器	杯	100%	口径	14.8	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	4.7					
	32	5	48	土師器	高杯	70%	口径	(15.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	赤褐色	密	内面黒色処理
							底径	(9.4)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	11.9					
	33	6	1	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	(10.3)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔2.7〕					
	34	11	62	土師器	甕	80%	口径	14.9	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	7.4	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	16.7					
	35	9	1，11 (SI022)	土師器	甕	10%	口径	(12.9)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔5.4〕					
	36	10	17	土師器	甕	80%	口径	15.4	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	7.1	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	24.4					
	37	7	57	土師器	甕	85%	口径	17.2	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	7.5	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	28.5					
	38	8	59	土師器	甑	95%	口径	23.3	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	褐色	密	
							底径	7.5	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	23.7					
SI011	39	1	35	須恵器	高台付杯	65%	口径	15.1	内面	ナデ	白灰色	密	
							底径	10.0	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	5.1					
	40	2	47	須恵器	高台付杯	30%	口径	(15.5)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(11.1)	外面	ナデ			
							器高	〔4.9〕					
	41	4	1，7 SI013－4	須恵器	高台付杯	30%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(10.6)	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔3.3〕					
	42	3	1，5	須恵器	高台付杯	20%	口径	(14.0)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(8.8)	外面	ナデ			
							器高	〔4.9〕					
	43	6	10	須恵器	蓋	75%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔3.9〕					
	44	7	20	須恵器	蓋	15%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔4.1〕					
	45	8	1，4，5，27	須恵器	蓋	25%	口径	(16.1)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔1.8〕					
	46	11	62	土師器	高杯	80%	口径	14.9	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	7.4	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	16.7					
SI013	47	2	3	土師器	杯	5%	口径	(10.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔2.6〕					
	48	1	20	土師器	杯	20%	口径	(12.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	(7.6)	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔3.8〕					
	49	4	12，38	土師器	甑	20%	口径	(26.8)	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔13.9〕					
	50	3	3，6，9，10，24，26	土師器	甕	20%	口径	14.0	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔7.8〕					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	51	8	3, 4, 15, 16, 17	土師器	甕	20%	口径	−	内面	ヘラナデ	褐色	密	
							底径	(5.5)	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔8.8〕					
	52	5	3, 13	土師器	甕	5%	口径	(19.1)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔9.1〕					
	53	6	25	土師器	甕	5%	口径	(19.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔5.6〕					
	54	7	3, 5, 22	土師器	甕	10%	口径	(14.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔4.7〕					
SI014	55	3	90	土師器	杯	20%	口径	(11.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔2.3〕					
	56	2	46, 60	土師器	杯	20%	口径	(12.3)	内面	ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.6〕					
	57	1	23, 24, 25	土師器	杯	40%	口径	(13.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	5.9					
	58	4	61	土師器	杯	120%	口径	(11.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔3.4〕					
	59	7	33, 34	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.9〕					
	60	8	1, 15, 16	土師器	甕	20%	口径	(10.7)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔10.3〕					
	61	12	70, 79, 95	土師器	甑	10%	口径	(28.9)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔17.0〕					
	62	5	5	土師器	ミニチュア	40%	口径	5.4	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	2.6	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	2.4					
SI015	63	1	127, 128	須恵器	蓋	10%	口径	(15.1)	内面	回転ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	回転ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔2.6〕					
	64	2	180	土師器	杯	80%	口径	14.3	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	5.0					
	65	3	164, 168	土師器	杯	70%	口径	(12.3)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	褐色		
							器高	〔3.3〕					
	66	5	4, 113	土師器	杯	10%	口径	(14.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	粗	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔2.7〕					
	67	6	16, 159	土師器	杯	20%	口径	−	内面	ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔2.9〕					
	68	9	190	土師器	杯	10%	口径	(15.7)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.3〕					
	69	7	60	土師器	杯	5%	口径	−	内面	ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ヘラケズリ			
							器高	−					
	70	8	5, 37	土師器	高杯	10%	口径	(15.3)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	褐色		
							器高	〔3.8〕					
	71	11	172	土師器	甕	95%	口径	13.6	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	5.3	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	10.1					
	72	15	1, 15, 169, 171, 174, 177, 183, 185, 187	土師器	甕	80%	口径	19.4	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔13.9〕					
	73	12	6, 12, 102, 115, 125	土師器	甕	50%	口径	(16.2)	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	−					
	74	13	3, 5, 107, 137, 161, 165, 166	土師器	甕	15%	口径	−	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	8.2	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	7.3					
	75	10	4	土師器	ミニチュア	50%	口径	(4.3)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	(4.2)	外面	ナデ			
							器高	1.2					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
SI016	76	1	1，14	土師器	杯	70%	口径	9.3	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	4.9	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.1					
	77	2	2，15	土師器	杯	30%	口径	(13.6)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔4.6〕					
	78	3	6	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	密	内外面赤彩
							底径	7.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	10.0					
SI017	79	1	58	土師器	杯	98%	口径	11.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	5.4					
	80	2	59	土師器	杯	40%	口径	(13.3)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔5.4〕					
	81	8	16	土師器	杯	30%	口径	(12.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔4.0〕					
	82	7	53，63	土師器	杯	25%	口径	(14.1)	内面	ナデ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ヘラナデ・ヘラミガキ			
							器高	〔4.9〕					
	83	3	30，31	土師器	杯	80%	口径	13.6	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	4.3					
	84	11	1，55	土師器	杯	25%	口径	(13.4)	内面	ナデ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面				
							器高	〔4.7〕					
	85	4	24	土師器	杯	25%	口径	(14.7)	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	密	内外面赤彩 外面スス付着
							底径	−	外面	ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	5.6					
	86	5	5	土師器	杯	45%	口径	13.4	内面	ヘラナデ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラミガキ			
							器高	5.2					
	87	6	36	土師器	杯	35%	口径	(15.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔4.9〕					
	88	9	9	土師器	杯	20%	口径	(16.4)	内面	ナデ	黄褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔4.0〕					
	89	10	5	土師器	杯	45%	口径	−	内面	ナデ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ヘラケズリ			
							器高	5.2					
	90	14	49	土師器	甕	40%	口径	−	内面	ヘラナデ	褐色	密	胴部黒斑
							底径	(8.4)	外面	ナデ・ヘラナデ			
							器高	〔23.9〕					
	91	15	1，36，38	土師器	甕	15%	口径	(14.5)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔7.3〕					
	92	12	11，36	土師器	甕	15%	口径	(22.5)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	胴部黒斑
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	12.0					
	93	13	36	土師器	甕	30%	口径	−	内面	ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	(9.7)	外面	ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	〔8.7〕					
	94	17	3	土師器	甕	35%	口径	−	内面	ヘラケズリ	褐色	密	外面スス付着
							底径	7.5	外面	ヘラケズリ			
							器高	2.8					
	95	18	32，42	土師器	甑	15%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ	褐色	密	
							底径	(7.8)	外面	ナデ・ヘラミガキ			
							器高	〔7.5〕					
SI018	96	1	3	土師器	杯	20%	口径	(11.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	〔3.1〕					
SI019	97	3	2，5	土師器	甑	95%	口径	22.6	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	7.0	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	20.0					
SI020	98	1	774	須恵器	杯	90%	口径	10.3	内面	ナデ	灰色	密	底部外面ヘラ書き 回転ヘラケズリ
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	3.9					
	99	10	819	須恵器	杯	100%	口径	10.5	内面	ナデ	灰褐色	密	回転ヘラケズリ
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ	灰白色		
							器高	4.3					
	100	2	739	須恵器	杯	90%	口径	9.2	内面	ナデ	灰色	密	外面灰釉付着
							底径	4.3	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	3.9					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	101	4	2	須恵器	高台付杯	15%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(9.8)					
							器高	〔1.9〕	外面	ナデ			
	102	5	57	須恵器	高台付杯	10%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	ロクロ成形回転ヘラケズリ無調整
							底径	(12.0)					
							器高	〔1.3〕	外面	ナデ			
	103	3	221	須恵器	蓋	55%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	底部外面ヘラ書き
							底径	4.4					
							器高	〔3.6〕	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
	104	7	1, 4, 879	須恵器	蓋	30%	口径	(10.6)	内面	ナデ	灰白色	密	外面灰釉付着
							底径	−					
							器高	2.4	外面	ナデ	緑灰色		
	105	8	1, 308, 462	須恵器	蓋	20%	口径	(12.0)	内面	ナデ	灰色	密	ロクロ成形
							底径	−					
							器高	〔2.4〕	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
	106	9	1, 2, 108	須恵器	蓋	40%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	ロクロ成形回転ヘラケズリ無調整
							底径	−					
							器高	〔2.8〕	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
	107	6	1, 2, 19, 195, 681	須恵器	蓋	70%	口径	(15.1)	内面	ナデ	灰色	密	ロクロ成形回転ヘラケズリ無調整
							底径	−					
							器高	4.4	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
	108	20	1, 3, 321, 324	土師器	杯	85%	口径	11.4	内面	ナデ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.0	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	109	22	268	土師器	杯	20%	口径	(10.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔2.5〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	110	14	254	土師器	杯	90%	口径	12.8	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	3.7	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	111	23	249	土師器	杯	20%	口径	(12.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	112	24	842	土師器	杯	20%	口径	(12.0)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.1〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	113	13	375	土師器	杯	85%	口径	12.4	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.9	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
	114	18	769	土師器	杯	70%	口径	12.2	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.8	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	115	17	374	土師器	杯	80%	口径	(10.3)	内面	ナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	4.3	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	116	11	219	土師器	杯	95%	口径	10.6	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	3.6	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	117	12	373	土師器	杯	95%	口径	12.6	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	外面黒斑
							底径	−					
							器高	4.1	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	118	30	861	土師器	杯	90%	口径	9.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	3.5	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	119	16	723, 724	土師器	杯	40%	口径	(13.8)	内面	ナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔4.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	120	15	1, 289, 313	土師器	杯	70%	口径	11.8	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	6.7					
							器高	3.3	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	121	21	4	土師器	杯	30%	口径	(9.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔2.8〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	122	27	216, 734	土師器	杯	85%	口径	11.8	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	4.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	123	31	53, 82, 294	土師器	鉢	45%	口径	15.0	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	7.2	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	124	26	245	土師器	杯	80%	口径	11.6	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	6.1					
							器高	4.6	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	125	28	276	土師器	杯	70%	口径	(11.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	7.5					
							器高	3.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	126	29	319	土師器	杯	90%	口径	10.6	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	7.0	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.8					
	127	36	4	土師器	杯	15%	口径	(13.1)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	(8.0)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	4.9					
	128	35	512	土師器	杯	30%	口径	(8.5)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(5.6)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.7					
	129	34	509, 576	土師器	手捏	35%	口径	−	内面	ヘラナデ	黒褐色	密	内外面黒斑
							底径	9.0	外面	ナデ	褐色		
							器高	4.9					
	130	33	233	土師器	手捏	35%	口径	(10.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	外面黒斑
							底径	(5.9)	外面	ナデ			
							器高	4.7					
	131	37	1, 695	土師器	手捏	40%	口径	(7.7)	内面	ナデ	赤褐色	密	
							底径	(5.4)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.7					
	132	19	471	土師器	鉢	25%	口径	(9.0)	内面	ナデ	黄褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔5.2〕					
	133	32	1	土師器	鉢	20%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	外面スス付着
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	〔8.5〕					
	134	39	9, 499	土師器	高杯	20%	口径	(15.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	〔4.2〕					
	135	38	2, 3, 258	土師器	高杯	20%	口径	(17.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	黄褐色		
							器高	〔5.7〕					
	136	42	141	土師器	高杯	50%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	8.5	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔5.2〕					
	137	43	49	土師器	高杯	20%	口径	−	内面	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	(7.6)	外面	ナデ	黒褐色		
							器高	〔2.8〕					
	138	40	116	土師器	高杯	25%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	密	外面赤彩
							底径	−	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	〔9.0〕					
	139	41	577	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	密	外面赤彩
							底径	(7.2)	外面	ヘラナデ	赤褐色		
							器高	〔5.3〕					
	140	71	4, 5, 100, 520, 527, 528, 529, 534,	須恵器	甕	10%	口径	(43.0)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−	外面				
							器高	〔21.2〕					
	141	70	1, 2, 3, 25, 28, 30, 33, 40, 47, 100, 104, 159, 160, 189, 190, 211, 212, 239, 273, 269, 299, 303, 308, 326, 388, 391, 399, 574, 671, 673, 675, 716, 718, 720, 721, 728, 729, 730, 781, 783, 784, 785, 818, 不明	須恵器	甕	50%	口径	25.0	内面	ナデ	青灰色	密	内外面自然釉
							底径	−					
							器高	51.5	外面	ナデ・タタキ・ハケ			
	142	64	3209	土師器	甕	15%	口径	(17.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔14.0〕					
	143	61	342, 359	土師器	甕	15%	口径	18.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔15.4〕					
	144	52	371	土師器	甕	95%	口径	15.4	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	褐色	密	外面スス付着 外面黒斑
							底径	7.3	外面	ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	28.8					
	145	44	372, 773	土師器	甕	40%	口径	15.5	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	−	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔17.8〕					
	146	60	768	土師器	甕	25%	口径	(19.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面粘土付着
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔24.5〕					
	147	54	386	土師器	甕	95%	口径	20.2	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	外面スス付着
							底径	8.0	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
							器高	29.4					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	148	53	325	土師器	甕	75%	口径	14.5	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	外面黒斑
							底径	7.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	20.7					
	149	63	378	土師器	甕	20%	口径	(18.3)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔15.7〕					
	150	66	87, 162, 165, 166, 167, 704	土師器	甕	10%	口径	(31.3)	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	粗	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ			
							器高	〔14.1〕					
	151	67	4, 429, 440, 449, 557, 558, 561	土師器	甕	10%	口径	(26.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	粗	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ			
							器高	〔13.9〕					
	152	68	4, 544	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	粗	
							底径	(9.0)	外面	ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔9.6〕					
	153	65	493, 496, 498, 544	土師器	甕	5%	口径	(21.4)	内面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色	粗	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔12.1〕					
	154	48	3, 208, 280, 282, 312, 323, 376, 377, 752	土師器	甕	65%	口径	11.8	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	外面黒斑
							底径	(5.8)	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	16.8					
	155	50	3, 372, 771, 812	土師器	甕	40%	口径	13.6	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	外面黒斑
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	〔12.4〕					
	156	48	3, 208, 280, 282, 312, 323, 376, 377, 752	土師器	甕	65%	口径	11.8	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	外面黒斑
							底径	(5.8)	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	16.8					
	157	55	377, 378, 768	土師器	甕	55%	口径	13.8	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	外面黒斑 外面スス付着 二次焼成
							底径	7.3	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	19.3					
	158	56	247	土師器	甕	95%	口径	15.8	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	内面黒斑
							底径	7.5	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	15.1					
	159	57	327, 745	土師器	甕	60%	口径	15.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	7.2	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	20.4					
	160	47	7, 22, 731, 732, 733	土師器	甕	35%	口径	(16.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	内面黒斑
							底径	(7.1)	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	18.2					
	161	62	875	土師器	甕	50%	口径	12.0	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔10.0〕					
	162	58	94612613	土師器	甕	75%	口径	(13.1)	内面	ヘラナデ	赤褐色	密	外面スス付着 二次焼成
							底径	5.7	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	7.7					
	163	46	878	土師器	甕	40%	口径	(11.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面スス付着 二次焼成
							底径	6.2	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	11.8					
	164	59	544	土師器	甕	80%	口径	13.7	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	内外面黒斑 二次焼成
							底径	6.9	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	10.3					
	165	45	867	土師器	甕	100%	口径	11.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面穿孔
							底径	6.0	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	12.0					
SI021	166	2	6	土師器	杯	15%	口径	(11.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.8〕					
	167	1	14	土師器	杯	45%	口径	(13.1)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	5.1					
SI022	168	1	13, 19, 21, 一括	須恵器	杯	40%	口径	(12.8)	内面	ナデ	黒灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔3.6〕					
	169	2	一括	須恵器	蓋	15%	口径	−	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔2.0〕					
	170	5	24	土師器	杯	95%	口径	8.4	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	3.4					
	171	4	26, 31, 一括	土師器	杯	35%	口径	(11.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黒褐色		
							器高	〔3.6〕					
	172	3	14	土師器	杯	40%	口径	(13.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内外面黒色処理
							底径	5.4	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	橙褐色		
							器高	4.4					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	173	7	33	土師器	高杯	50%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	内面黒色処理
							底径	(11.0)	外面	ナデ・ヘラナデ・ラケズリ			
							器高	〔9.0〕					
	174	9	9	土師器	甕	10%	口径	(29.0)	内面	ナデ・ヘラナデ・ラケミガキ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ラケズリ			
							器高	〔10.0〕					
SI023	175	1	8	土師器	高杯	80%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	(14.7)	外面	ナデ・ラケズリ			
							器高	〔12.8〕					
	176	2	1, 2	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ナデ	黒褐色	粗	石英・長石・雲母を多く含む
							底径	(10.4)	外面	ヘラミガキ	褐色		
							器高	〔1.4〕					
SI024	177	7	3, 28	土師器	杯	25%	口径	6.6	内面	ナデ・ラケミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
							器高	〔1.4〕					
	178	3	1, 71, 88, 146	土師器	杯	45%	口径	(12.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ラケズリ			
							器高	〔3.5〕					
	179	6	2, 89	土師器	杯	25%	口径	(11.0)	内面	ナデ・ラケミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ラケズリ			
							器高	〔3.4〕					
	180	8	95	土師器	高杯	15%	口径	13.0	内面	ナデ	黒褐色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ラケズリ	橙褐色		
							器高	〔3.9〕					
	181	5	1, 87	土師器	杯	20%	口径	(13.8)	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ラケズリ			
							器高	3.4					
	182	2	4, 83, 143	土師器	杯	85%	口径	−	内面	ナデ・ラケミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ラケズリ	橙褐色		
							器高	〔3.6〕					
	183	4	43	土師器	杯	15%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ラケズリ			
							器高	〔3.9〕					
	184	9	66	土師器	高杯	45%	口径	−	内面	不明	黒褐色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	〔8.4〕					
	185	10	90, 151	土師器	甕	25%	口径	13.8	内面	ナデ・不明	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナテ・ヘラケズリ			
							器高	〔21.2〕					
	186	12	58	土師器	甕	15%	口径	17.0	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	二次焼成あり
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔9.5〕					
	187	11	2, 22, 24, 26, 65, 148	土師器	甕	20%	口径	13.0	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	黄褐色		
							器高	〔12.8〕					
	188	13	111, 112	土師器	甕	35%	口径	−	内面	不明	橙褐色	密	
							底径	9.8	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔5.0〕					
	189	14	36, 102	土師器	甕	30%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	10.0	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	−					
SI025	190	1	10	土師器	鉢	70%	口径	13.0	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	9.2					
	191	2	9	土師器	鉢	95%	口径	9.4	内面	ナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	5.3					
SI026	192	1	38	須恵器	蓋	15%	口径	(13.0)	内面	ナデ	灰色	密	自然釉の付着
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔1.8〕					
	193	2	12	土師器	杯	50%	口径	12.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	4.3					
	194	5	41	土師器	甕	20%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ	黄褐色	密	
							底径	(5.8)	外面	ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	〔7.7〕					
	195	3	44	土師器	甕	45%	口径	(10.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	(5.0)	外面	ナデ	黒褐色		
							器高	10.3					
	196	4	62	土師器	甕	15%	口径	(24.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	赤褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔10.7〕					
	197	7	55	土師器	甕	15%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	10.4	外面	ヘラナデ			
							器高	〔4.8〕					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	198	6	43	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	6.4					
							器高	〔3.2〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
SI027	199	1	29	須恵器	蓋	30%	口径	9.4	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−					
							器高	2.9	外面	回転ヘラケズリ・ナデ			
	200	2	19	須恵器	蓋	15%	口径	(7.4)	内面	ナデ	灰色	密	自然釉の付着
							底径	−					
							器高	〔1.6〕	外面	不明	緑灰色		
	201	3	24	土師器	鉢	10%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	202	4	SI017−37	土師器	甕	5%	口径	(18.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	203	5	SI017−34	土師器	甕	10%	口径	(12.2)	内面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.9〕	外面	ナデ・ヘラナデ			
SI028	204	1	1，40，SI062，99	須恵器	杯	40%	口径	11.8	内面	ナデ	灰色	密	自然釉の付着
							底径	3.7					
							器高	4.1	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	205	2	59，不明	須恵器	杯	35%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(4.0)					
							器高	〔2.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	206	3	68，76，103，104	土師器	高杯	65%	口径	(15.4)	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	11.7					
							器高	11.0	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	207	4	101	土師器	高杯	20%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	(10.4)					
							器高	〔6.8〕	外面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色		
	208	5	104，105	土師器	甕	45%	口径	25.8	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	粗	石英・長石・雲母を多く含む
							底径	−					
							器高	〔23.1〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
	209	6	20，43	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(4.5)					
							器高	〔4.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
SI029	210	1	1，5，22	土師器	杯	95%	口径	13.0	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.8	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	211	6	26，27	土師器	杯	30%	口径	(12.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	212	5	21	土師器	杯	30%	口径	(12.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔4.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	213	7	1	土師器	杯	30%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	214	3	5，20，21	土師器	杯	40%	口径	(12.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.8〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	215	4	1，2	土師器	杯	25%	口径	(12.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.5〕	外面	ナデ・ヘラミガキ			
	216	2	1，19	土師器	杯	70%	口径	14.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.4	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	217	9	25，24	土師器	杯	50%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.9	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	褐色		
	218	11	26，27	土師器	杯	55%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.5	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	219	13	3	土師器	杯	25%	口径	(13.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔4.1〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
	220	12	24	土師器	杯	50%	口径	(12.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.7	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
	221	14	15	土師器	杯	25%	口径	(13.8)	内面	ナデ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔4.0〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	褐色		
	222	10	26，27	土師器	杯	40%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.0	外面	ナデ・ヘラミガキ			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	223	8	1, 21, 27	土師器	杯	80%	口径	14.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	4.2					
	224	15	18	土師器	鉢	90%	口径	19.1	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	11.7					
	225	16	1,5,23,31,不明	土師器	高杯	50%	口径	19.8	内面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	〔10.7〕					
	226	20	28	土師器	甕	15%	口径	(23.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔11.8〕					
	227	17	31	土師器	甕	80%	口径	13.8	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	(5.1)	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	22.3					
	228	18	29	土師器	甕	80%	口径	15.2	内面	ナデ・ヘラナデ	黒色	密	
							底径	6.0	外面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色		
							器高	18.0					
	229	19	31	土師器	甕	20%	口径	(18.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔11.5〕					
	230	21	1, 16, 17	土師器	甕	20%	口径	25.0	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔6.1〕					
	231	22	17, 12	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	(4.2)	外面	ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	〔3.9〕					
SI030	232	1	1	土師器	杯	20%	口径	(14.4)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	黄褐色		
							器高	〔4.2〕					
	233	2	1, 2, 18	土師器	甑	40%	口径	(27.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(8.6)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔24.4〕					
SI031	234	1	4, 5, 6,	土師器	甑	30%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	(7.4)	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔18.0〕					
SI032	235	1	1, 120	土師器	杯	20%	口径	−	内面	ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔1.2〕					
	236	3	1, 60, 64, 66	土師器	椀	35%	口径	(14.0)	内面	ナデ	黒褐色	密	
							底径	(10.0)	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	橙褐色		
							器高	〔6.9〕					
	237	2	106	土師器	杯	10%	口径	−	内面	ナデ	黒色	密	底部に螺旋状の暗文
							底径	−	外面	ヘラケズリ	黄褐色		
							器高	〔0.7〕					
	238	5	125	土師器	甕	35%	口径	13.8	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔12.1〕					
	239	6	1, 126	土師器	甕	30%	口径	22.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	粗	石英・長石・雲母が多く含まれている
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色		
							器高	〔6.5〕					
	240	7	98	土師器	甕	20%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
							器高	〔8.6〕					
SI033	241	3	26	須恵器	杯	30%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	底部切り離し不明 回転ヘラケズリ
							底径	4.6	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔3.1〕					
	242	2	28	須恵器	杯	30%	口径	(9.1)	内面	ナデ	灰褐色	密	底部切り離し不明 回転ヘラケズリ 外面自然ゆうの付着
							底径	(5.0)	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔3.1〕					
	243	1	99, 108	須恵器	高台付杯	75%	口径	13.5	内面	ナデ	灰色	密	底部切り離し不明 回転ヘラケズリ
							底径	9.0	外面	ナデ			
							器高	4.6					
	244	6	92, 129, 164	須恵器	蓋	20%	口径	(10.8)	内面	ナデ	灰色	密	底部切り離し不明
							底径	(5.7)	外面	ナデ			
							器高	3.7					
	245	7	13, 92, 160	須恵器	蓋	65%	口径	11.2	内面	ナデ	灰褐色	密	天井部切り離し不明 回転ヘラケズリ 外面自然ゆうの付着
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	3.4					
	246	4	4	須恵器	蓋	15%	口径	9.0	内面	ナデ	灰色	密	外面自然ゆうの付着
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔2.3〕					
	247	5	119	須恵器	蓋	40%	口径	10.4	内面	ナデ	灰色	密	天井部にヘラ書き
							底径	(8.0)	外面	ナデ			
							器高	3.0					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	248	8	142	土師器	杯	100%	口径	9.1	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	2.9	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	249	9	38	土師器	杯	40%	口径	(8.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	3.0	外面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色		
	250	12	76, 130	土師器	杯	15%	口径	9.7	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	〔2.1〕	外面	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
	251	10	3, 152, 155	土師器	杯	70%	口径	8.5	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	2.8	外面	ヘラケズリ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
	252	11	96	土師器	杯	25%	口径	9.4	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	3.2	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	253	13	89, 90	土師器	高杯	85%	口径	15.6	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	–					
							器高	〔8.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラケズリ	橙褐色		
	254	15	135	土師器	甕	35%	口径	–	内面	不明	黄褐色	密	二次焼成あり
							底径	(6.4)					
							器高	〔6.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
	255	17	41, 56, 170, 173	土師器	甕	45%	口径	(1.5)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	–					
							器高	〔14.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	256	14	4., 5, 171	土師器	甕	65%	口径	14.1	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	–					
							器高	〔20.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	257	16	146	土師器	甑	10%	口径	–	内面	ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	–					
							器高	〔21.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	258	18	42	土師器	甕	30%	口径	–	内面	ヘラナデ	黄褐色	粗	長石/石英・雲母多量
							底径	(16.4)					
							器高	〔15.4〕	外面	ヘラミガキ	橙褐色		
SI034	259	2	14, 20, 36	須恵器	高台付杯	35%	口径	(15.2)	内面	ナデ	灰色	密	底部回転ヘラケズリ 底外ヘラ書き
							底径	11.2					
							器高	4.5	外面	ナデ			
	260	1	1, 15	須恵器	蓋	20%	口径	(16.8)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	–					
							器高	4.1	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
	261	3	2	土師器	杯	10%	口径	(6.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	内面に放射状に暗文あり
							底径	–					
							器高	〔4.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	262	4	28	土師器	甕	20%	口径	(12.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	–					
							器高	〔7.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
SI035	263	2	4, 68	土師器	鉢	15%	口径	(10.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	–					
							器高	〔5.3〕	外面	ナデ	赤褐色		
	264	1	2, 3, 63	土師器	壺	20%	口径	–	内面	ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	5.0					
							器高	〔5.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	265	3	66	土師器	甕	35%	口径	(14.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	胴部に煤 二次焼成あり
							底径	–					
							器高	〔13.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	266	4	28	土師器	甕	20%	口径	(12.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	–					
							器高	〔7.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
SI037	267	1	3	土師器	甕	15%	口径	(16.2)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	–					
							器高	〔7.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
SI038	268	1	1	土師器	甕	10%	口径	(10.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	–					
							器高	〔4.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
SI039	269	6	54	土師器	杯	50%	口径	(11.4)	内面	ナデ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	3.5	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黒褐色		
	270	5	1150	土師器	杯	65%	口径	12.2	内面	ナデ		密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	3.5	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	橙褐色		
	271	3	7, 8, 83, 84, 86	土師器	杯	50%	口径	(11.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	3.4	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色		
	272	12	1, 112	土師器	杯	10%	口径	(14.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	–					
							器高	〔2.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色		

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	273	4	114, 117	土師器	杯	35%	口径	(13.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.1〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	274	2	1, 6, 8, 94, 121	土師器	杯	90%	口径	12.4	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.0	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	橙褐色		
	275	7	2, 3, 178	土師器	杯	45%	口径	12.8	内面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	4.2	外面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色		
	276	11	3, 182, 183, 184	土師器	杯	40%	口径	(13.8)	内面	ナデ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔4.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	277	1	164	土師器	杯	95%	口径	15.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	5.9	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黒褐色		
	278	8	2, 4, 5, 8, 88	土師器	杯	80%	口径	12.6	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.6	外面	ナデ・ヘラミガキ			
	279	9	83, 85	土師器	杯	100%	口径	13.0	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.4	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	280	10	4, 6, 92, 157	土師器	杯	40%	口径	(13.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.8	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	281	13	29	土師器	鉢	70%	口径	14.4	内面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒斑
							底径	−					
							器高	5.6	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	282	15	2	土師器	椀	70%	口径	8.2	内面	ナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	−					
							器高	6.8	外面	ナデ			
	283	14	2, 30, 48, 76, 140, 160, 161, 165	土師器	高杯	90%	口径	17.2	内面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	12.2					
							器高	13.7	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色		
	284	16	2, 22, 25	土師器	高杯	40%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔14.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	285	17	137	土師器	高杯	50%	口径	−	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	13.8					
							器高	〔7.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	286	18	97	土師器	高杯	30%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色	密	外面赤彩
							底径	12.0					
							器高	〔8.3〕	外面	ナデ・ヘラナデヘラケズリ	赤褐色		
	287	21	9, 29, 69	土師器	高杯	30%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	外面赤彩
							底径	(11.6)					
							器高	〔8.0〕	外面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色		
	288	19	3, 4, 136, 139	土師器	高杯	30%	口径	−	内面	ナデ・ミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	13.6					
							器高	11.6	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	赤褐色		
	289	20	2, 3, 132, 133	土師器	高杯	45%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	内面黒斑
							底径	14.2					
							器高	8.2	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	290	22	40, 52	土師器	高杯	45%	口径	−	内面	ナデ・ミガキ	黒褐色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	10.4					
							器高	〔5.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	赤褐色		
	291	38	1	土師器	ミニチュア	20%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	2.5					
							器高	〔2.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黄褐色		
	292	34	2, 3, 32, 33, 45, 58, 61, 72, 78, 81, 142, 143, 147, 153, 163	土師器	甕	70%	口径	(18.4)	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	6.8					
							器高	24.2	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	293	29	36, 37	土師器	甕	15%	口径	(14.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔10.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
	294	31	7, 140, 162	土師器	甕	15%	口径	(15.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔10.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	295	23	191193194	土師器	甕	50%	口径	(16.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔19.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	296	32	192, 193	土師器	甕	30%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔9.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	297	33	154，155	土師器	甕	15%	口径	(20.0)	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔8.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	298	24	21	土師器	甕	20%	口径	(13.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔11.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	299	35	116	土師器	甕	15%	口径	(14.0)	内面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔8.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色		
	300	28	133135	土師器	甕	25%	口径	(17.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	−					
							器高	〔9.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	301	26	56，149	土師器	甕	20%	口径	(14.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	302	30	90	土師器	甕	20%	口径	12.8	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色		
	303	25	78	土師器	甕	20%	口径	(12.8)	内面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色	密	外面黒斑
							底径	−					
							器高	〔8.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	304	36	55	土師器	甕	20%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	密	外面黒斑
							底径	8.0					
							器高	〔12.5〕	外面	ヘラナデ・ヘラミガキ	黒色		
	305	27	56149	土師器	甕	20%	口径	(14.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	306	37	174	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	7.4					
							器高	〔3.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	灰褐色		
SI040	307	2	21	土師器	杯	45%	口径	10.4	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	外面黒斑
							底径	−					
							器高	3.8	外面	ヘラナデ・ヘラミガキ	黒色		
	308	1	5，16	須恵器	長頸瓶	20%	口径	−	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−					
							器高	〔15.0〕	外面	ナデ			
	309	4	13	土師器	甕	30%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔25.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
	310	3	22	土師器	甕	40%	口径	13.1	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔14.1〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	311	5	5，24	土師器	甕	30%	口径	−	内面	不明	橙褐色	密	
							底径	(9.0)					
							器高	〔5.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	312	6	22，SI041－4	土師器	甑	15%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔23.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
SI041	313	1	7	土師器	杯	5%	口径	(13.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	(3.1)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	314	2	6，42，43	土師器	杯	20%	口径	16.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔4.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	315	4	2，3	土師器	高杯	5%	口径	(20.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔4.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	316	3	39	土師器	杯	15%	口径	12.4	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔4.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	317	7	32	土師器	高杯	45%	口径	−	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	(8.8)					
							器高	〔7.6〕	外面	ナデ・ヘラナデ			
	318	6	31	土師器	高杯	45%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	10.8					
							器高	〔7.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	319	8	13	土師器	高杯	40%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(9.4)					
							器高	〔3.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	赤褐色		
	320	7	32	土師器	高杯	45%	口径	−	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	外面赤彩 内面黒斑
							底径	(8.8)					
							器高	〔7.6〕	外面	ナデ・ヘラナデ			
	321	9	20，33，49	土師器	甕	10%	口径	17.4	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔12.4〕	外面	ヘラケズリ・ヘラナデ			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	322	10	5，18	土師器	甕	5%	口径	(17.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.0〕	外面	ナデ・ヘラナデ			
	323	11	23，24，25	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	7.0					
							器高	〔4.3〕	外面	ヘラケズリ			
SI042	324	1	4	土師器	甕	15%	口径	−	内面	ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	7.3					
							器高	〔2.6〕	外面	ヘラケズリ			
SI044	325	2	37	土師器	杯	10%	口径	−	内面	ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔2.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
	326	1	38	土師器	杯	95%	口径	12.6	内面	ナデ	赤褐色	密	外面黒斑
							底径	−					
							器高	5.2	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	327	3	13，43，44，48	土師器	高杯	15%	口径	(17.0)	内面	ナデ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔3.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	328	6	2，3，27	土師器	甕	20%	口径	−	内面	ヘラナデ	赤褐色	密	外面黒斑
							底径	(6.0)					
							器高	〔16.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	黒褐色		
	329	5	29	土師器	甕	10%	口径	(15.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	330	4	48	土師器	ミニチュア	40%	口径	(5.2)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	(3.6)					
							器高	3.3	外面	ナデ			
SI046	331	13	4	須恵器	蓋	20%	口径	(11.0)	内面	ナデ	青灰色	密	
							底径	−					
							器高	〔2.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	332	14	36	須恵器	ハソウ	5%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(11.0)					
							器高	〔2.1〕	外面	ナデ			
	333	1	35	土師器	杯	35%	口径	(12.1)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔5.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	334	2	36	土師器	杯	10%	口径	(12.9)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色		
	335	15	41	土師器	杯	15%	口径	(13.3)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	336	5	11，38	土師器	高杯	15%	口径	(16.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔3.1〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	337	4	36	土師器	高杯	30%	口径	15.3	内面	ナデ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔3.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	338	7	35，41	土師器	高杯	20%	口径	(16.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	内外面黒斑
							底径	−					
							器高	〔4.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	339	3	49	土師器	高杯	45%	口径	(16.6)	内面	ナデ	黒色	密	内面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔8.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	赤褐色		
	340	8	21，32	土師器	高杯	20%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面赤彩
							底径	(11.8)					
							器高	〔5.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	341	9	8	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	(13.2)					
							器高	〔6.2〕	外面	ナデ・ヘラナデ			
	342	6	37	土師器	高杯	20%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	(16.2)					
							器高	〔14.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	赤褐色		
	343	11	5，14，30	土師器	甕	15%	口径	(14.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔9.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	344	10	49	土師器	甕	45%	口径	(16.6)	内面	ナデ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔8.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	赤褐色		
	345	12	26	土師器	甕	10%	口径	(15.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
SI047	346	1	1	土師器	杯	5%	口径	(13.2)	内面	不明	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.5〕	外面	不明			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	347	2	4	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ナデ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔4.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	348	3	2，7	土師器	甕	10%	口径	(22.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	二次焼成あり 外面黒斑
							底径	−					
							器高	〔17.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
SI051	349	1	168	土師器	杯	25%	口径	(12.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	350	4	1，24，84，87	1，24，84，87	杯	55%	口径	(12.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	外面黒斑
							底径	−					
							器高	〔4.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	351	9	1，11，27	土師器	杯	60%	口径	(9.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	4.1	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	352	10	1，82，131	土師器	手捏ね	35%	口径	(9.2)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.5〕	外面	ナデ			
	353	2	1，44， SI028−2，102	土師器	高杯	55%	口径	(14.3)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	外面黒色処理 内面赤彩
							底径	11.0					
							器高	10.7	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	354	3	1，94，132	土師器	高杯	45%	口径	15.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	外面黒色処理 内面赤彩
							底径	−					
							器高	〔4.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	355	5	10，157	土師器	高杯	35%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	黒色	密	外面黒色処理 内面赤彩
							底径	(9.3)					
							器高	〔7.7〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	356	8	181	土師器	甕	20%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	357	6	45，50	土師器	甕	50%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	−					
							器高	〔13.0〕	外面	ヘラナデ	赤褐色		
	358	7	19，45	土師器	甕	35%	口径	−	内面	ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	(5.2)					
							器高	〔8.1〕	外面	ヘラケズリ			
SI052	359	1	76	土師器	杯	80%	口径	14.0	内面	ナデ	黒褐色	密	外面黒斑
							底径	8.7					
							器高	4.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	360	2	20	土師器	鉢	10%	口径	(12.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	361	3	74	土師器	高杯	45%	口径	−	内面	ナデ	赤褐色	密	
							底径	11.7					
							器高	〔8.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	362	4	77	土師器	甕	20%	口径	(14.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	363	7	72，73	土師器	甕	10%	口径	(14.6)	内面	ナデ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔4.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	364	5	77	土師器	甕	20%	口径	(14.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	365	6	6	土師器	甕	10%	口径	(14.2)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	366	9	12，40	土師器	甕	15%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(8.0)					
							器高	〔7.9〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	黒褐色		
	367	8	1，6，7，	土師器	甕	30%	口径	−	内面	ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	(7.0)					
							器高	〔10.5〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
SI053	368	1	1	土師器	杯	5%	口径	(13.0)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔3.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
SI054	369	1	90	土師器	杯	45%	口径	(14.2)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	内外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔6.4〕	外面	ナデ			
	370	2	70	土師器	杯	30%	口径	(13.8)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔6.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	371	6	16，68，70	土師器	杯	35%	口径	(11.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	4.9	外面	ナデ・ヘラケズリ			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	372	4	69, 70	土師器	杯	20%	口径	(15.6)	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔4.7〕					
	373	3	4, 66	土師器	杯	25%	口径	(15.2)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔5.8〕					
	374	7	56, 57	土師器	杯	10%	口径	(14.2)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.3〕					
	375	5	1, 79, 97	土師器	杯	15%	口径	(11.0)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔3.1〕					
	376	10	1, 21, 22, 62	土師器	壺	80%	口径	12.6	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔7.2〕					
	377	12	54	土師器	鉢	90%	口径	11.6	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	5.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	8.7					
	378	11	76, 77	土師器	椀	25%	口径	(15.0)	内面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	〔9.3〕					
	379	8	59	土師器	高杯	95%	口径	13.4	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	9.1	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
							器高	12.3					
	380	9	98	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ナデ	赤褐色	密	外面赤彩
							底径	(8.8)	外面	ナデ			
							器高	〔1.7〕					
	381	21	60	土師器	ミニチュア	10%	口径	3.7	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	2.8	外面	ナデ			
							器高	2.3					
	382	16	30, 83	土師器	甕	5%	口径	(17.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔5.2〕					
	383	14	40, 49, 52	土師器	甕	25%	口径	14.4	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔7.8〕					
	384	13	7, 14, 57, 58, 64,	土師器	甕	15%	口径	(29.4)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔14.7〕					
	385	19	1, 10, 11, 12, 58	土師器	甕	20%	口径	−	内面	ヘラケズリ	橙褐色	密	
							底径	7.8	外面	ヘラケズリ	黄褐色		
							器高	13.0					
	386	17	50, 51, 55	土師器	甕	30%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	8.2	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔14.8〕					
	387	18	2, 3, 5, 6, 56, 57, 58	土師器	甕	30%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	7.0	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
							器高	〔14.5〕					
	388	15	36, 48, 49, 53	土師器	甕	45%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	7.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔26.8〕					
	389	20	32, 33, 34, 35, 48, 49, 52, 53, 55, 71	土師器	甑	95%	口径	23.4	内面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	6.6	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	19.0					
SI055	390	1	3	須恵器	壺	5%	口径	−	内面	ナデ	黒灰色	密	断面実測
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	3.5					
	391	2	2, 4	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(8.0)	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔3.9〕					
SI058	392	7	3	須恵器	高杯	5%	口径	−	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	(10.0)	外面	ナデ			
							器高	〔3.0〕					
	393	6	3	土師器	杯	5%	口径	(13.6)	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	〔3.9〕					
	394	1	27	土師器	杯	30%	口径	(11.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	粗	
							底径	−	外面	不明			
							器高	3.7					
	395	3	9	土師器	鉢	100%	口径	15.0	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	7.0					
	396	4	13	土師器	高杯	50%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色	密	外面赤彩
							底径	11.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	10.0					

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	397	2	6	土師器	鉢	20%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	−	外面	ヘラケズリ	黒褐色		
							器高	〔6.5〕					
	398	5	14	土師器	甕	5%	口径	−	内面	不明	赤褐色	密	二次焼成あり
							底径	6.5	外面	ヘラケズリ	黒褐色		
							器高	〔3.6〕					
SI059	399	2	4, 118	須恵器	杯	60%	口径	(10.2)	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	3.7					
	400	1	361	須恵器	杯	95%	口径	12.1	内面	ナデ	白灰色	密	
							底径	6.1	外面	ナデ			
							器高	3.9					
	401	3	119, 183, 215	須恵器	杯	15%	口径	(13.2)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−	外面	ナデ	灰色		
							器高	〔3.1〕					
	402	4	2, 21	須恵器	杯	40%	口径	(13.0)	内面	ナデ	白灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔2.6〕					
	403	5	202	須恵器	蓋	15%	口径	12.6	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	〔3.5〕					
	404	6	3	須恵器	蓋	15%	口径	13.0	内面	ナデ	灰色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ	灰白色		
							器高	〔2.2〕					
	405	7	91	須恵器	蓋	65%	口径	(16.4)	内面	ナデ	灰褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・回転ヘラケズリ			
							器高	4.3					
	406	8	1, 276	須恵器	壺	10%	口径	(8.4)	内面	ナデ	灰褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔3.5〕					
	407	9	335	須恵器	壺	15%	口径	12.6	内面	ナデ	灰褐色	密	口縁部に自然釉
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔3.0〕					
	408	19	2, 3, 270	土師器	杯	95%	口径	9.4	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	3.6					
	409	22	24	土師器	杯	30%	口径	(9.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	2.8					
	410	21	2, 340, 341,	土師器	杯	75%	口径	(10.5)	内面	ナデ・ミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ミガキ	橙褐色		
							器高	〔3.0〕					
	411	16	76, 164	土師器	杯	45%	口径	9.8	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	2.9					
	412	20	4, 141, 228, 354	土師器	杯	80%	口径	9.9	内面	ナデ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.7					
	413	10	20, 328, 348	土師器	杯	85%	口径	12.4	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	4.1					
	414	15	207, 252	土師器	杯	70%	口径	10.8	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	5.0	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	3.7					
	415	13	2, 58, 321, 322	土師器	杯	50%	口径	11.7	内面	ナデ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	6.6	外面	ナデ・ヘラケズリ	黄褐色		
							器高	4.5					
	416	14	14	土師器	杯	50%	口径	11.2	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	(6.2)	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.5					
	417	12	3, 120, 151	土師器	杯	70%	口径	11.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	4.4					
	418	11	224	土師器	杯	95%	口径	12.0	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	4.5					
	419	17	152	土師器	杯	95%	口径	10.6	内面	ナデ・ヘラナデ	褐色	密	
							底径	6.1	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	3.1					
	420	23	11	土師器	高杯	80%	口径	13.2	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	9.7	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	9.9					
	421	24	3, 358, 362	土師器	高杯	65%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	9.9	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ			
							器高	〔9.1〕					

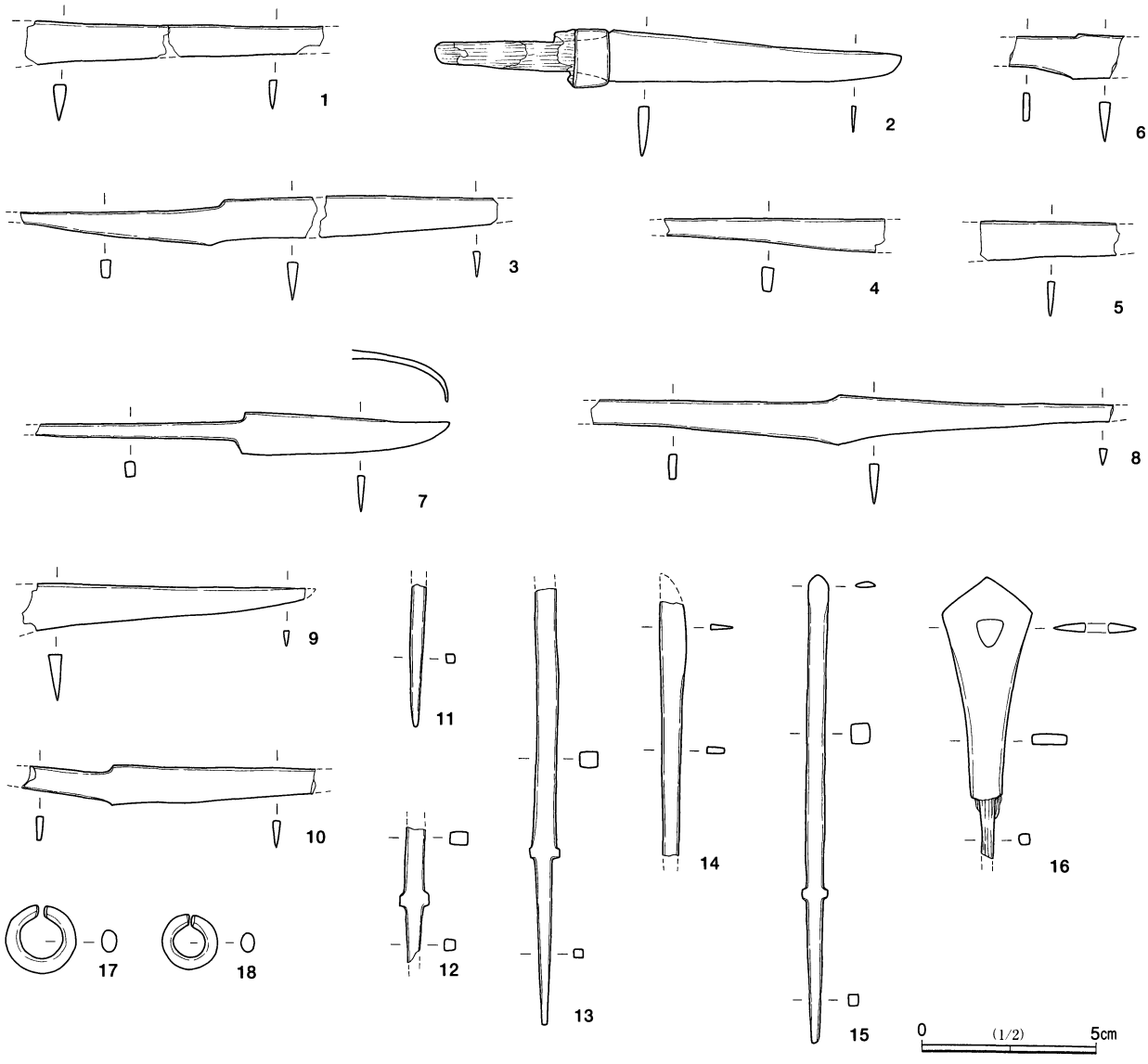
遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	422	25	171	土師器	鉢	15%	口径	(16.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.2〕	外面	ナデ			
	423	26	72, 324	土師器	鉢	20%	口径	(15.2)	内面	ナデ	黒	密	内面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔8.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	424	28	1, 4, 5, 268, 288, 287, 285, 289, 293, 308, 321, 330,	土師器	甕	80%	口径	13.3	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	6.3					
							器高	13.3	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	425	31	32326	土師器	甕	35%	口径	(8.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	(5.0)					
							器高	〔9.4〕	外面	ナデ・ヘラナデ			
	426	30	273344	土師器	甕	20%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	密	二次焼成あり
							底径	6.6					
							器高	〔4.8〕	外面	ヘラケズリ	赤褐色		
	427	29	4106129	土師器	甕	5%	口径	(23.0)	内面	ナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔4.4〕	外面	ナデ			
	428	27	190, 126, 218, 245,	土師器	甕	30%	口径	10.6	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	429	33	124	土師器	甑	5%	口径	(28.0)	内面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔6.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	褐色		
	430	32	3, 74, 75, 97, 98, 160, 161	土師器	甑	20%	口径	−	内面	ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	(8.4)					
							器高	〔11.8〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ			
SI060	431	1	5	土師器	杯	40%	口径	(14.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔4.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	432	2	1	土師器	ミニチュア	25%	口径	−	内面	ナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔2.2〕	外面	ナデ			
	433	3	2	土師器	手捏ね	20%	口径	(5.4)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	(4.4)					
							器高	3.0	外面	ナデ			
SI061	434	2	19, 21	土師器	杯	15%	口径	(13.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔4.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	435	1	27	土師器	杯	20%	口径	(12.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	436	4	14	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	外面赤彩
							底径	(13.0)					
							器高	〔4.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	437	3	1	土師器	高杯	25%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	内外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔5.8〕	外面	ヘラケズリ・ヘラナデ			
	438	5	35	土師器	手捏ね	100%	口径	8.2	内面	ナデ	橙褐色	密	外面黒斑
							底径	4.0					
							器高	5.2	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラナデ			
SI062	439	3	38	土師器	杯	25%	口径	(14.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔2.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	440	1	37, 44, 45, 35, 34	土師器	杯	95%	口径	14.4	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	3.7	外面	ヘラケズリ・ナデ			
	441	2	20, 21	土師器	杯	60%	口径	15.4	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	7.0	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	442	4	5	土師器	高杯	15%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ	黄褐色	密	外面赤彩
							底径	(12.0)					
							器高	〔5.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	443	5	1, 5, 26	土師器	甕	15%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	7.0					
							器高	〔4.7〕	外面	ヘラケズリ	赤褐色		
SI063	444	1	1, 60, 80	須恵器	蓋	30%	口径	(15.7)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−					
							器高	3.2	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	445	2	3	須恵器	蓋	15%	口径	(16.6)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−					
							器高	〔2.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	446	3	56, 59, 62, 63	土師器	杯	45%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	447	4	28，75	土師器	甕	10%	口径	(22.8)	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔7.9〕	外面	ナデ・ヘラナデ			
SI064	448	1	2	須恵器	高台付杯	10%	口径	(14.2)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.3〕	外面	ナデ			
	449	2	4	土師器	甕	25%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	8.0					
							器高	〔7.4〕	外面	ヘラケズリ			
SI065	450	1	27，95	土師器	杯	15%	口径	(12.0)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔4.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	451	2	79	土師器	杯	20%	口径	(13.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔4.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	452	4	12，49，69	土師器	高杯	40%	口径	16.6	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔6.8〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	453	5	80	土師器	高杯	10%	口径	(16.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔4.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	454	3	2，65，81	土師器	高杯	50%	口径	(10.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	10.4					
							器高	9.6	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	455	6	93	土師器	高杯	20%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	外面赤彩
							底径	13.8					
							器高	〔5.9〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	456	7	50	土師器	高杯	20%	口径	−	内面	ナデ	黒色	密	外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔6.2〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	457	8	31	土師器	高杯	10%	口径	−	内面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色	密	外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔3.3〕	外面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色		
	458	12	4	土師器	ミニチュア	40%	口径	(3.4)	内面	ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	(3.0)					
							器高	2.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	459	9	13，43	土師器	甕	10%	口径	(12.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.0〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	460	10	1，100	土師器	甕	20%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	二次焼成あり
							底径	−					
							器高	〔11.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	461	11	1，4，8，26，34，35，40，87，94，	土師器	甕	25%	口径	(16.1)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	−					
							器高	〔13.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
SI068	462	7	1	土師器	杯	60%	口径	11.8	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	463	3	67	土師器	杯	25%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.6	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	464	10	5	土師器	杯	40%	口径	12.6	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	3.2	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	465	1	9，30，66	土師器	杯	75%	口径	12.4	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.3	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	466	4	34	土師器	杯	20%	口径	(10.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黄褐色		
	467	8	2	土師器	杯	60%	口径	13.6	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	−					
							器高	5.5	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	468	2	63	土師器	杯	80%	口径	12.4	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	7.0					
							器高	4.8	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
	469	9	5，57，66，68	土師器	椀	60%	口径	11.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	6.0	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	470	6	8，3，47	土師器	椀	40%	口径	(11.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	471	5	5	土師器	杯	15%	口径	−	内面	ナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内面黒色処理
							底径	6.0					
							器高	〔2.7〕	外面	不明			

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	472	13	7	土師器	高杯	10%	口径	(15.6)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−					
							器高	〔3.1〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色		
	473	11	2, 5, 12, 13, 17, 52	土師器	高杯	35%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黒色	密	杯部内面黒色処理 外面赤彩
							底径	11.8					
							器高	〔8.6〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	474	12	46	土師器	高杯	30%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	外面赤彩
							底径	(14.0)					
							器高	〔8.2〕	外面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色		
	475	14	71	土師器	高杯	40%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(8.4)					
							器高	〔5.4〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ			
	476	17	53	土師器	ミニチュア	50%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	
							底径	3.3					
							器高	〔2.2〕	外面	ヘラナデ	黄褐色		
	477	15	64	土師器	甕	20%	口径	(19.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	−					
							器高	〔16.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
	478	16	70	土師器	甕	45%	口径	−	内面	ヘラナデ	黄褐色	密	二次焼成あり
							底径	6.2					
							器高	〔13.7〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
SI069	479	1	4	土師器	杯	70%	口径	(10.7)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	3.6	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
	480	2	4	土師器	杯	65%	口径	10.6	内面	ナデ・ムヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	4.6					
							器高	3.7	外面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色		
	481	3	2	土師器	杯	40%	口径	(10.0)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内外面黒色処理
							底径	(5.8)					
							器高	〔3.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	黄褐色		
	482	4	5	土師器	杯	80%	口径	−	内面	ナデ	黒色	密	
							底径	−					
							器高	〔4.4〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	483	7	3	土師器	甕	25%	口径	18.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔13.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	484	5	15	土師器	甕	65%	口径	13.6	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	8.0					
							器高	12.6	外面	ナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	485	6	6	土師器	甕	35%	口径	−	内面	ナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	7.0					
							器高	〔8.4〕	外面	ヘラケズリ			
SI070	486	2−A	1	須恵器	蓋	10%	口径	(16.0)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−					
							器高	〔2.2〕	外面	ナデ	緑灰色		
	487	2−B	1	須恵器	蓋	10%	口径	(16.4)	内面	ナデ	灰白色	密	
							底径	−					
							器高	〔2.2〕	外面	ナデ			
SI072	488	1	11	土師器	鉢	65%	口径	16.1	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	5.0					
							器高	7.8	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	489	2	12	土師器	鉢	45%	口径	(18.4)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	6.2					
							器高	11.2	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	490	3	3, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 16, 17, 18, 19, 21	土師器	甕	45%	口径	13.6	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	7.0					
							器高	21.4	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	491	4	4, 14, 22, 23, 13	土師器	甑	30%	口径	(23.0)	内面	ナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	(7.6)					
							器高	18.6	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
SI073	492	1	20	土師器	杯	10%	口径	(15.0)	内面	ナデ、ヘラナデ	橙褐色	密	内外面黒色処理
							底径	5.4					
							器高	5.1	外面	ナデ、ヘラケズリ			
	493	5	3, 6, 7, 8,	土師器	鉢	45%	口径	(14.0)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.2〕	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	黒褐色		
	494	2	3, 4, 5, 13, 14, 19	土師器	甕	40%	口径	(21.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	2, 3は同一個体 二次焼成あり
							底径	(9.0)					
							器高	〔24.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	495	4	4, 19	土師器	甕	20%	口径	15.8	内面	ナデ・ヘラミガキ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔5.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	496	7	4, 19	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	7.8					
							底径	〔5.9〕	外面	ヘラナデ	赤褐色		

遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	497	6	20	土師器	甕	30%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	8.8					
							底径	〔19.2〕	外面	ヘラケズリ	黒褐色		
SI074	498	11	84	土師器	杯	10%	口径	13.8	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	499	12	68	土師器	杯	10%	口径	(12.2)	内面	ナデ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔3.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色		
	500	9	52, 79	土師器	高杯	40%	口径	(13.2)	内面	ヘラナデ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔7.0〕	外面	ヘラナデ・ヘラケズリ	赤褐色		
	501	10	57	土師器	高杯	25%	口径	−	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	外面赤彩
							底径	12.4					
							器高	〔6.0〕	外面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色		
	502	8	1, 46, 52	土師器	鉢	20%	口径	(13.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	二次焼成あり
							底径	−					
							器高	〔8.2〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	503	2	1, 2, 24, 25, 48, 66	土師器	甕	30%	口径	23.5	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔19.1〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	504	1	54, 55	土師器	甕	40%	口径	14.0	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔25.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	505	7	1, 23, 24	土師器	甕	10%	口径	22.6	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	−					
							器高	〔7.7〕	外面	ヘラケズリ・ヘラナデ			
	506	5	54	土師器	甕	40%	口径	14.8	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔12.8〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	507	4	81	土師器	甕	30%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	黄褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔12.9〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	508	3	26	土師器	甕	25%	口径	(11.6)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔11.6〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
	509	6	1, 9, 11, 13, 24, 39, 41, 42, 44, 49, 58, 59, 60, 61, 64, 65	土師器	甕	35%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	(6.8)					
							器高	〔21.1〕	外面	ヘラケズリ・ヘラナデ	黒褐色		
SI075	510	1	3	土師器	杯	60%	口径	(10.6)	内面	不明	黄褐色	密	
							底径	6.6					
							器高	3.0	外面	不明	橙褐色		
	511	2	19	土師器	甕	100%	口径	11.2	内面	ナデ・ヘラケズリ	橙褐色	密	
							底径	5.0					
							器高	13.0	外面	ナデ・ヘラナテ・ヘラケズリ			
SI076	512	1	11	土師器	甕	80%	口径	11.2	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	二次焼成あり
							底径	6.2					
							器高	9.9	外面	不明			
	513	3	6, SI051－141	土師器	甕	15%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	6.6					
							器高	〔10.4〕	外面	ヘラケズリ			
	514	2	10	土師器	甕	25%	口径	(15.0)	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔13.3〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
SI077	515	2	一括	土師器	杯	10%	口径	−	内面	ヘラミガキ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	〔3.0〕	外面	ヘラミガキ			
	516	1	一括	土師器	杯	45%	口径	(13.2)	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−					
							器高	5.5	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ			
	517	3	3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11	土師器	甕	70%	口径	16.8	内面	ナデ・ヘラナデ	黒褐色	密	
							底径	9.0					
							器高	4.6	外面	ヘラケズリ・ナデ・ヘラナデ			
SI078	518	1	5, 6, 7	土師器	甕	20%	口径	(12.8)	内面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色	密	
							底径	−					
							器高	〔7.5〕	外面	ナデ・ヘラケズリ			
SI080	519	2	29	土師器	杯	40%	口径	13.0	内面	ナデ・ミガギ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−					
							器高	4.6	外面	ヘラケズリ・ナデ			
	520	1	12, 37, 38	土師器	杯	50%	口径	(12.4)	内面	ナデ・ヘラミガキ	褐色	密	
							底径	−					
							器高	4.1	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ミガキ	橙褐色		

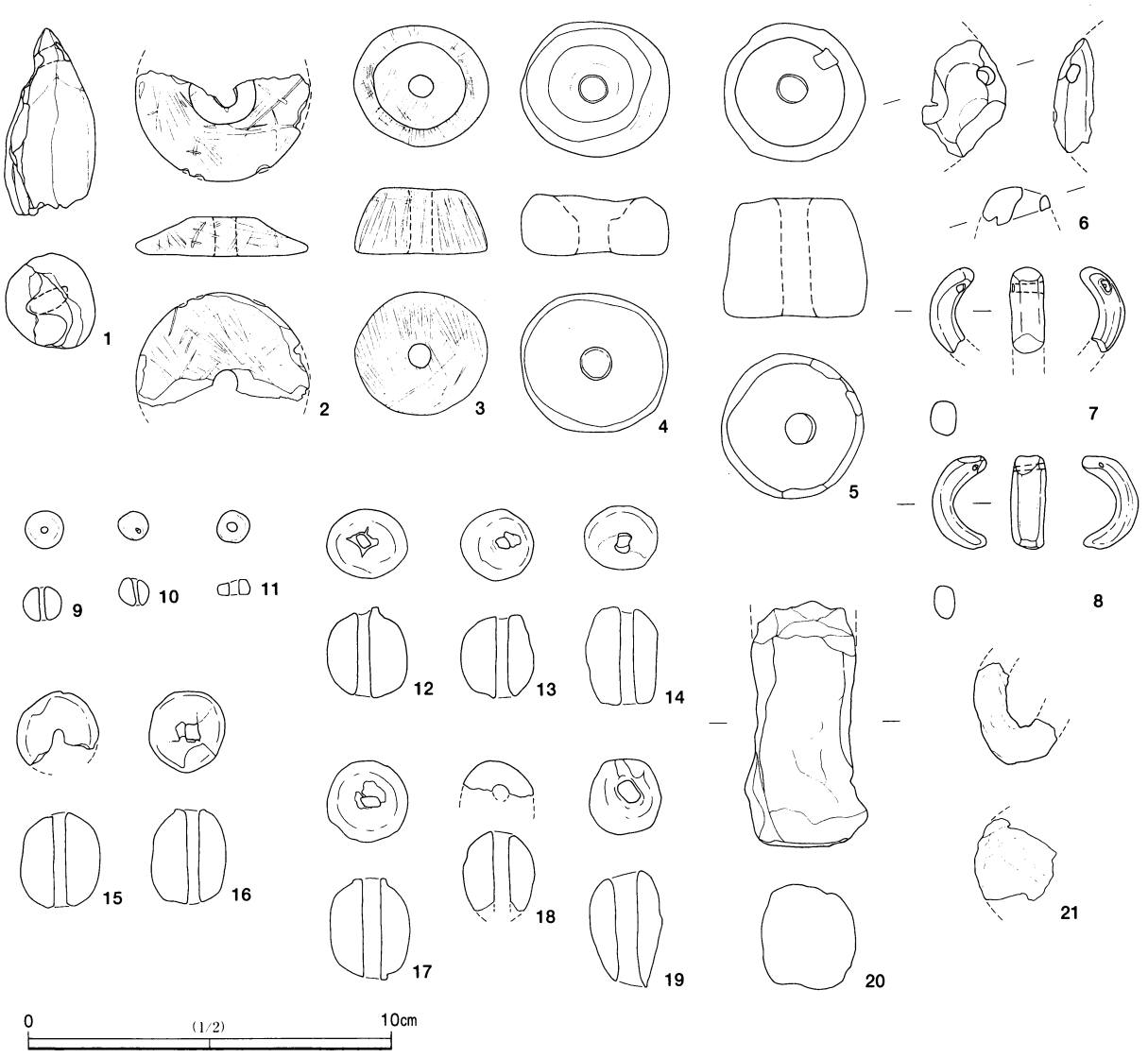
遺構番号	挿図番号	実測番号	遺物番号	器質	器形	遺存度	法量 (cm)		調整		色調	胎土	備考
	521	3	18	土師器	杯	10%	口径	(15.8)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
							器高	〔4.9〕					
	522	4	21，一括	土師器	杯	10%	口径	(14.2)	内面	ナデ・ヘラミガキ	黄褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
							器高	〔3.2〕					
	523	5	1	土師器	高杯	10%	口径	(16.0)	内面	ナデ	赤褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	〔4.9〕					
	524	6	10	土師器	高杯	50%	口径	−	内面	ヘラケズリ・ヘラミガキ	赤褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ			
							器高	〔6.1〕					
	525	7	1，4，8，9，11，19，22，35，39，41	土師器	甕	80%	口径	17.1	内面	ナデ・ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	8.1	外面	ナデ・ヘラケズリ			
							器高	25.7					
	526	8	28，30	土師器	甕	20%	口径	(26.0)	内面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	橙褐色	密	内外面黒斑
							底径	−	外面	ナデ・ヘラミガキ			
							器高	〔11.1〕					
SI081	527	2	27，37	土師器	杯	35%	口径	(16.0)	内面	ナデ・ヘラケズリ	黒褐色	密	内外面黒色処理
							底径	−	外面	ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ			
							器高	4.6					
	528	1	30	土師器	杯	90%	口径	12.8	内面	ナデ・ヘラナデ	赤褐色	密	
							底径	−	外面	ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ			
							器高	4.6					
	529	3	22	土師器	高杯	30%	口径	−	内面	ヘラナデ・ヘラミガキ	黒色	密	内面黒色処理 外面赤彩
							底径	−	外面	ヘラケズリ	赤褐色		
							器高	〔6.9〕					
	530	4	4，13，17	土師器	甕	10%	口径	−	内面	ヘラナデ	橙褐色	密	
							底径	9.0	外面	ヘラケズリ			
							器高	〔2.5〕					
	531	5	39	土師器	ミニチュア	100%	口径	2.5	内面	ナデ	赤褐色	密	外面赤彩
							底径	1.3	外面	ナデ			
							器高	1.8					
SI082	532	1	4，13，17	土師器	椀	10%	口径	(12.2)	内面	ナデ	橙褐色	密	内外面赤彩
							底径	−	外面	ナデ			
							器高	〔3.1〕					



第51図　竪穴住居跡出土鉄製品

第３表　竪穴住居跡出土金属製品観察表

遺構番号	挿図番号	遺物番号	種別	器種	遺存	計測値	備考
SI011	51－1	57	鉄	刀子		現存長8.4cm，幅1.25cm，棟厚0.4cm	
SI020	－2	77	鉄	刀子		現存長13.34cm，幅1.5cm，棟厚0.3cm	
SI024	－3	17，136	鉄	刀子		現存長13.34cm，幅1.5cm，棟厚0.28cm	
SI033	－4	106	鉄	刀子		現存長6.25cm，幅0.92cm，棟厚0.3cm	
SI033	－5	159	鉄	刀子		現存長3.96cm，幅1.1cm，棟厚0.2cm	
SI040	－6	14	鉄	刀子		現存長3.2cm，幅1.28cm，棟厚0.3cm	
SI046	－7	46	鉄	刀子		現存長11.65cm，幅1.17cm，棟厚0.25cm	
SI059	－8	169	鉄	刀子		現存長14.82cm，幅1.41cm，棟厚0.34cm	
SI069	－9	16	鉄	刀子		現存長7.98cm，幅1.32cm，棟厚0.37cm	
SI075	－10	14	鉄	刀子		現存長8.28cm，幅1.12cm，棟厚0.25cm	9と同一
SI018	－11	5	鉄	鉄鏃		現存長4.05cm，幅0.4cm，厚0.25cm	
SI033	－12	4	鉄	鉄鏃		現存長3.78cm，幅0.52cm，厚0.4cm	
SI034	－13	336	鉄	鉄鏃		現存長13.28cm，幅0.83cm，厚0.58cm	
SI042	－14	15	鉄	鉄鏃		現存長7.14cm，幅0.71cm，厚0.2cm	
SI059	－15	336	鉄	鉄鏃		現存長13.28cm，幅0.83cm，厚0.58cm	
SI059	－16	320	鉄	鉄鏃		現存長7.95cm，幅2.55cm，厚0.3cm	
SI011	－17	32	銅	耳環		現存長1.95cm，幅0.2cm，厚0.61cm	銅地金張
SI059	－18	242	銅	耳環		現存長1.59cm，幅0.56cm，厚1.58cm	銅地金張



第52図　竪穴住居跡出土石製品・土製品

2　竪穴住居跡出土鉄製品（第51図，図版34，第３表）

１～10は刀子である。１は身部のみの破片で，何度か研ぎ返されているため細身となる。２は完形品で，全長13.34cm，関部の最大幅1.5cm，棟厚0.3cmを測る。茎部には木質が良好に残る。両関造りで，刃側の関は斜めに，棟側の関は直角に近い形態を呈する。責金具が装着された状態である。３は茎尻と身部先端を欠く。細身で，棟側の関が直角となる。茎は長く，やや棟側に反っている。４は茎部，５は身部，６は関部片である。７は現存長11.65cmを測り，特徴的な形態を呈する。関部は両側とも直角に造られ，身部に比べて茎部が長い。８は現存長14.82cmを測る比較的大形の刀子で，茎尻と身部先端を欠く。身部は何度か研ぎ返されているようで，細身となる。一方，茎部は幅広となる。９は身部片，10は小形で，茎尻と身部先端を欠く。11～16は鉄鏃である。11は茎片，12は関部片である。13は現存長13.28cmを測り，刃部を欠く。関部は方形状を呈する。14は茎部を欠き，身部は片刃となる。15は完形品で，全長13.28cmを測る。身部は両刃で，片丸造りの鑿箭式に分類できる。関部は方形状に突出する。16は圭頭形の身部を有する鉄鏃で，茎先端部を欠く。身部は両刃で，両丸造りとなり，鏃身部に逆三角形状の窓が作り出されている。茎には

第４表　竪穴住居跡出土土製品・石製品観察表

遺構番号	挿図番号	遺物番号	種別	器種	遺存度	計測表			備考
						高さ（cm）	幅（cm）	重さ（g）	
SI081	52－1	41	土	鈴	80%	5.3	2.5	20.2	
SI052	－2	10	石	紡錘車	50%	1.1	4.8	(18.1)	
SI059	－3	263	石	紡錘車	100%	1.9	3.7	36.3	
SI003	－4	2	土	紡錘車	100%	1.7	4.1	29.4	
SI040	－5	13	土	紡錘車	95%	3.4	4.0	(59.1)	
SI059	－6	2	石	勾玉	20%	32.3	2.3	(4.0)	
SI020	－7	505	土	勾玉	80%	2.4	0.9	(2.2)	
SI074	－8	84	土	勾玉	90%	2.6	1.1	(2.8)	
SI060	－9	6	土	小玉	100%	0.9	1.0	1.2	
SI081	－10	40	土	小玉	100%	0.8	0.8	0.4	
SI080	－11	1	石	臼玉	100%	0.4	0.9	0.5	
SI020	－12	422	土	玉	100%	2.5	2.2	10.6	
SI020	－13	3	土	玉	100%	2.3	2.1	9.5	
SI020	－14	2	土	玉	100%	2.8	2.0	11.0	
SI039	－15	2	土	玉	80%	2.7	2.2	(8.3)	
SI039	－16	2	土	玉	100%	2.9	2.3	13.0	
SI039	－17	2	土	玉	100%	3.0	2.3	14.5	
SI039	－18	2	土	玉	20%	2.7	2.0	(4.3)	
SI053	－19	1	土	玉	100%	3.2	2.0	9.6	
SI065	－20	52	土	不明	80%	6.6	3.2	(69.1)	
SI080	－21	6	土	不明	10%	5.5	4.5	(57.0)	羽口?

木質が良好に残る。

3　竪穴住居跡出土装身具（第51図，図版34，第３表）

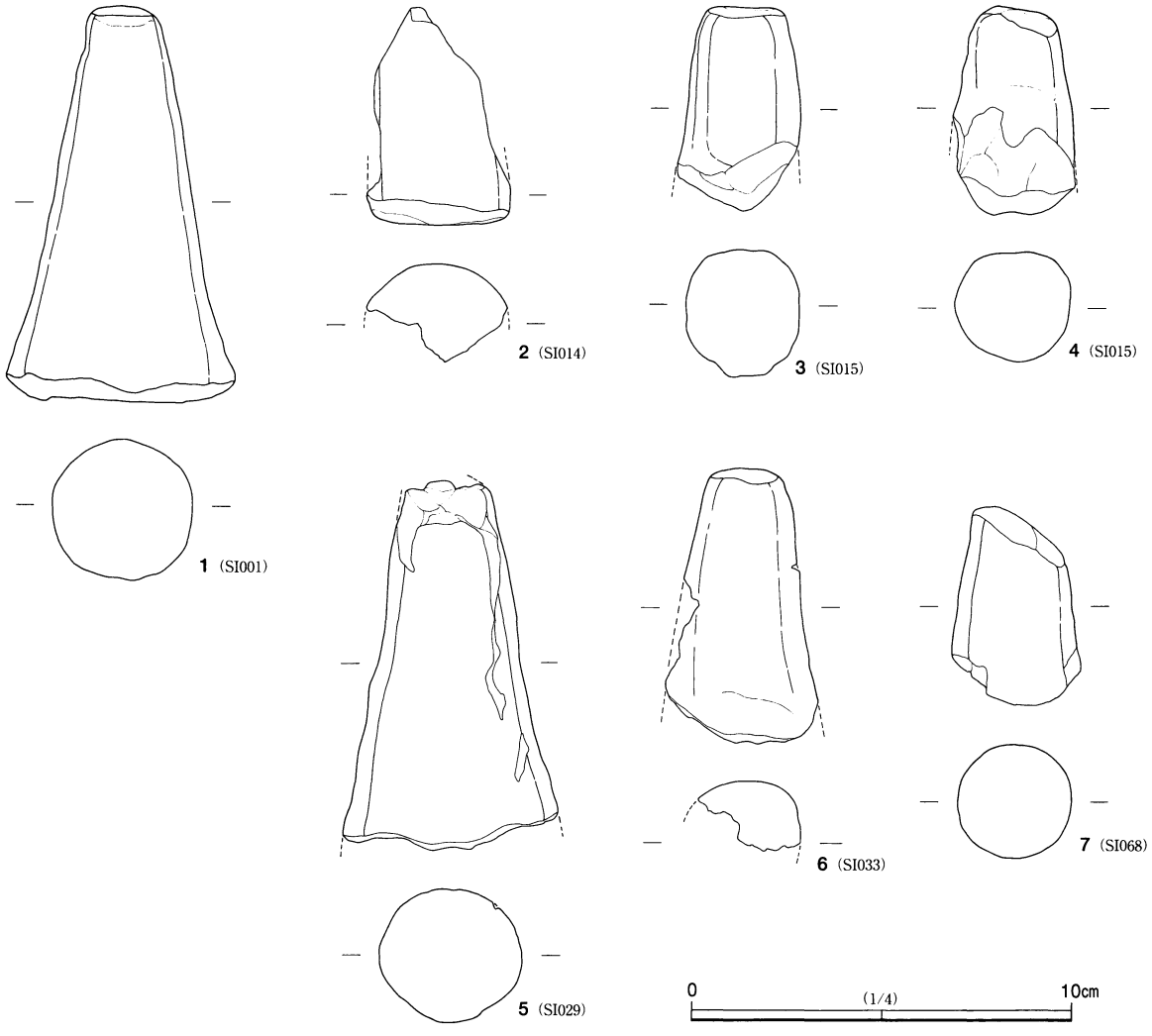
17・18は金銅装の耳環である。外径1.95cmと1.59cmを測り，全体に小形である。金箔は良好に確認される。

4　竪穴住居跡出土石製品（第52図，第４表）

２・３は滑石製の紡錘車である。２は全体に扁平で，最大幅4.8cmを測る。丁寧に研磨されるが，側面には線状に擦痕が観察される。３は完形品で，最大幅3.7cm，高さ1.9cm，重さ36.3gを測る。各面とも丁寧な研磨が加えられる。６は勾玉片である。部分的な遺存のため詳細は不明であるが，穿孔が認められる。11は滑石製の臼玉で，小形品である。

5　竪穴住居跡出土土製品（第52図，第４表）

１は鈴の模造品であろう。ほぼ完形で，頂部には穿孔が施される。下端部にはスリットが観察される。胎土中に小砂粒を多く含む。４・５は紡錘車で，４は薄手，５は厚手での造りである。５は丁寧にナデ調整され，焼成も良好である。７・８は粗雑な造りの勾玉である。全体にナデ調整が施され，黒褐色の色調を呈する。９・10は小玉で黒褐色の色調を呈し，粘性の強い胎土で焼成される。砂粒はほとんど含まれな



第53図　竪穴住居跡出土支脚

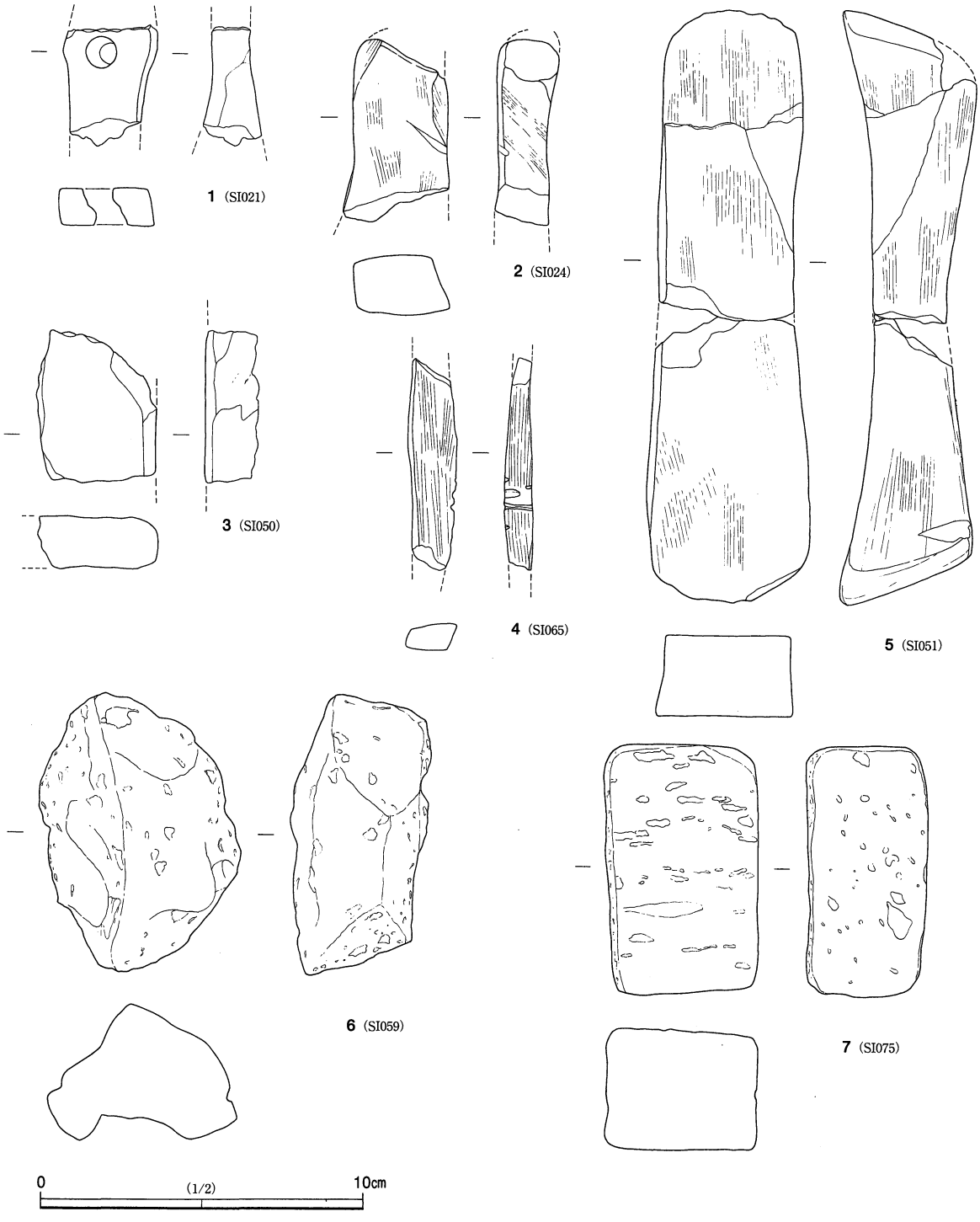
い。12～19は土玉である。球形に近いタイプ（12・13），楕円形に近いタイプ（15～18），縦長の長方形に近いタイプ（14・19）に分類できる。頂部には穿孔時の粘土の盛り上がりが観察されるものが多い。20・21は性格不明である。全体に造りは粗雑である。

6　竪穴住居跡出土支脚（第53図）

1は完形品で，全長21.2cm，最大幅12.2cmを測る。他は，上半部ないし下半部を欠損するものである。

7　竪穴住居跡出土砥石・軽石

1～5は砥石である。1は上下を欠損するが，4面とも使用による摩耗が激しい。上部には1か所穿孔が施される。2・4には，細かい条線状の擦痕が明瞭に観察される。5は大型品で，片面が良く使い込まれているため，船底状に湾曲している。2・4同様細かい条線状の擦痕がみられる。6・7は軽石である。6は全体に不整形を呈するが，7は直方体状に丁寧に整形されている。



第54図　竪穴住居跡出土砥石・軽石

第２節　掘立柱建物跡

本遺跡からは５棟の掘立柱建物が調査区西側に検出されている。ほとんどが東西棟で小規模なものとなるが，唯一SB001規模が大きく注目される。

SB001（第55・56図，図版26）

調査区西端，2E－65付近に所在する。SB002と北側の柱穴と部分的に重複するが，土層状況等からSB002に切られていることが伺える。規模は桁行12.0m，梁行6.4mを測り，４間×３間のほぼ東西棟である。棟方向の方位はN－77°－Eを指す。柱穴の掘り方は径１m以上，深さ0.5m～１mの不整な円形を基本としているが，南側柱穴の掘り方内に柱の当たりが２か所確認砂されることから，建て替えがあったことが考えられる。各柱穴の底面には，1辺20cm～40cmほどを測る方形に近い柱の当たりが確認される。また，部分的に柱の抜き取りも行われていたようである。桁行長は40尺,柱間寸法は６尺と９尺，梁行長は21尺，柱間寸法は６尺と８尺である。面積は76.8㎡を測る。

出土土器（第56図）

出土土器は少ないが，西側柱穴列の北から２本目の柱穴掘り方内より１の須恵器杯蓋が出土している。推定口径15.4cmと比較的大きく，口縁部がほぼ垂直に折り返される。摘み部分を欠損しているが，擬宝珠状の摘みが付くものと思われる。天井部上半には回転ヘラケズリが施される。砂粒の混入はそれほど多くないが，白色針状物が含まれる。

SB002（第55図）

SB001と南側コーナーの柱穴で重複するが，本遺構の方が新ものと思われる。規模は桁行7.52m，梁行3.76mを測る。棟方向の方位はN－77°－Eを指す。柱穴の掘り方は小さく，径0.4m前後，深さ0.3m前後円形を呈する。３間×１間の企画で，桁行は25尺，柱間寸法は８尺と９尺，梁行長は12.5尺である。面積は28.3㎡を測る。

本遺構からの出土遺物は確認されなかった。

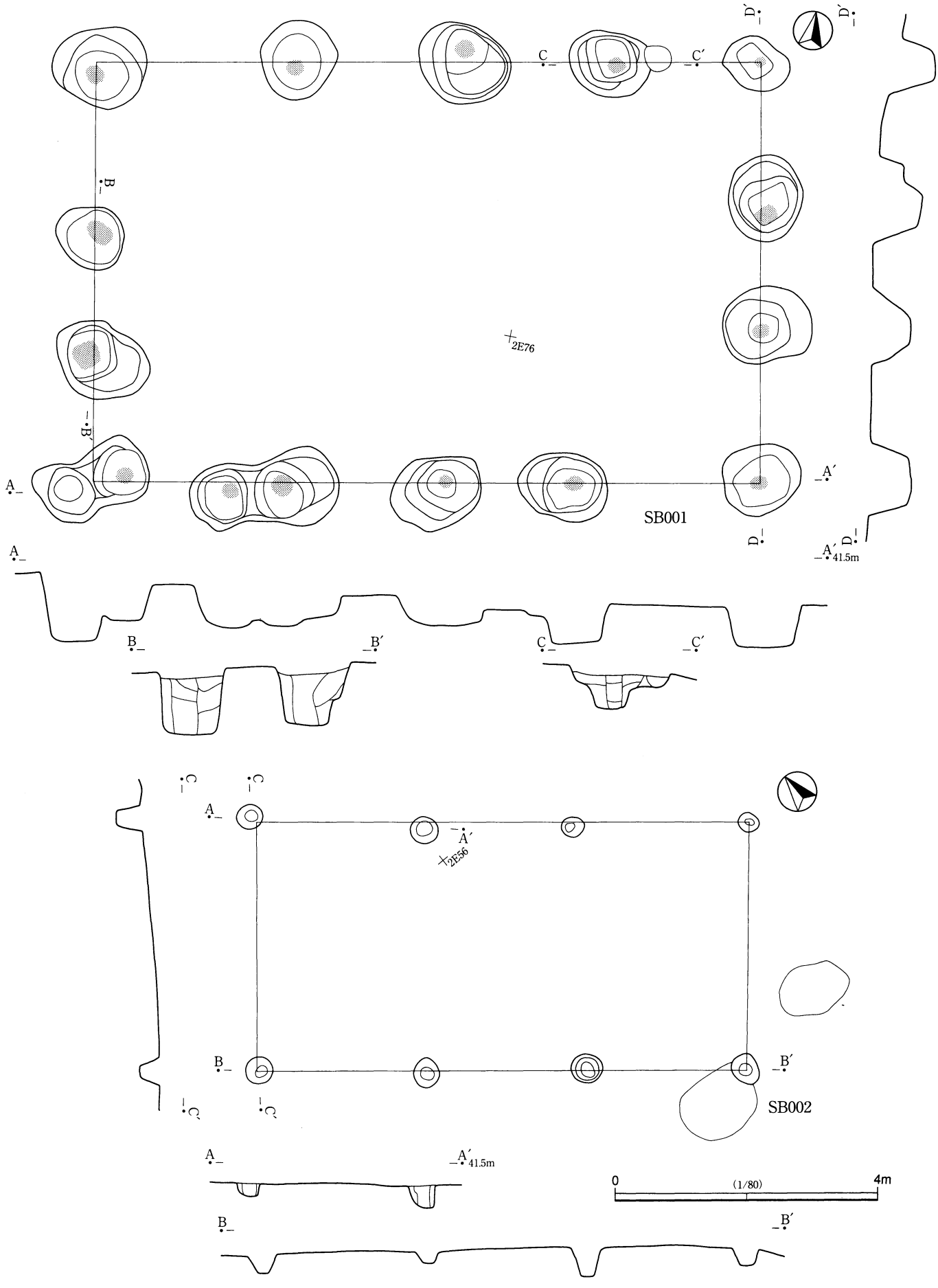
SB005（第57図）

調査区北東側，2E－20に位置する。南東コーナーでSD007と重複するが，遺構の状況より，SD007に切られていることが想定される。規模は桁行5.72m，梁行3.7mを測る。棟方向の方位はN－87.5°－Eを指し，ほぼ東西棟となる。柱穴の掘り方はややばらつきがあり，径約0.5m～0.7m，深さ0.3m～0.7m程の円形を呈する。西側中央の柱穴は確認されなかった。また，各柱穴の底面には径15cmほどの柱の当たりが観察される。平面企画は３間×２間になると思われ，桁行長は19尺,柱間寸法はややばらつきがあり６尺前後，梁行長は12尺強，柱間寸法６尺である。面積は21.2㎡を測る。

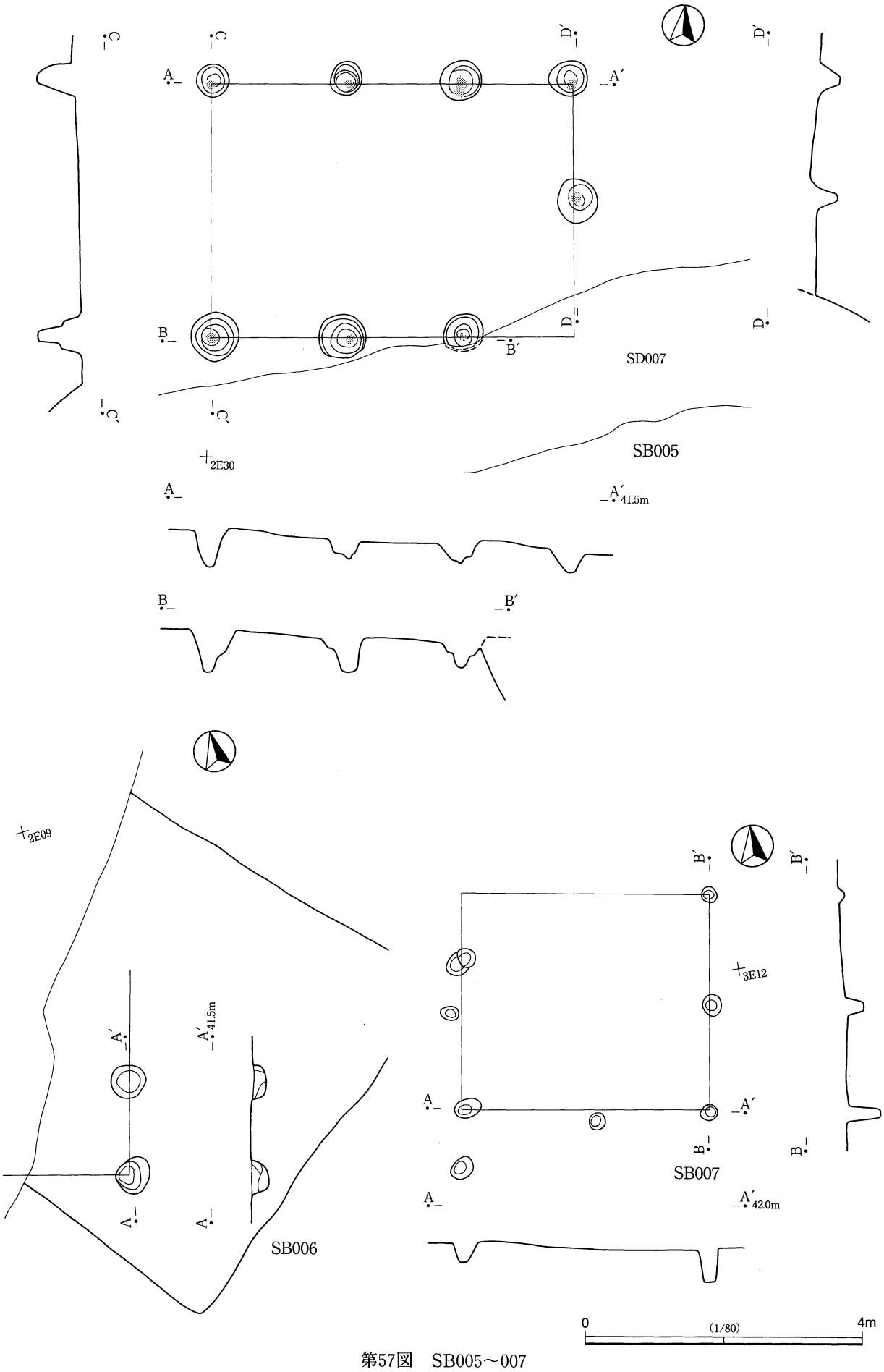
本遺構からの出土遺物は確認されなかった。

SB006（第57図，図版27）

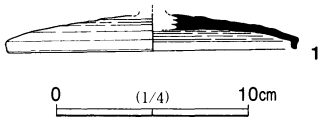
調査区北端，2E－09に位置し，SI044を切り込んで構築される。柱の掘り方２本を検出したのみで，主体は調査区外に延びると思われる。竪穴住居跡の覆土中に乗り込まれているため検出が困難で，北側に続く柱穴は本来存在していたものと考えられる。ただ，南側は遺構外で，柱穴が存在していなかったため，



第55図　SB001・002



第57図　SB005～007



第56図　SB001出土土器

建物の南東コーナー部分に相当するものであろう。柱穴の掘り方は，径0.5mほど，深さは20cm前後を測り，円形となる。

本遺構からの出土遺物は確認されなかった。

SB007（第57図）

調査区中央，3E－41付近に位置する。柱穴の並びに統一性があまり認められないが，掘立柱建物跡と判断した。規模は桁行3.6m，梁行3.2mを測る。棟方向の方位はN－82.5°－Wを指し，ほぼ東西棟となる。柱穴の掘り方は全体に小さく，径約0.2m～0.4m，深さ0.1m～0.5m程の円形を呈する。柱筋にのらない柱穴や検出されなかった柱穴もあるが，平面企画は2間×2間になると思われる。桁行長は12尺,柱間寸法はややばらつきがあり6尺前後，梁行長は10.5尺，柱間寸法5.3尺である。面積は11.5㎡ときわめて小規模である。

本遺構からの出土遺物は確認されなかった。

第5表　掘立柱建物跡観察表

遺構番号	棟方位	規模	柱穴規模(cm)		桁行×梁行(m)	柱間寸法		面積(㎡)	備考
			径	深さ		桁行(cm，尺)	梁行(cm，尺)		
SB001	N－77°－E	4間×3間	110～140	52～103	12×6.4	6尺，9尺	6尺，8尺	76.8	抜き取りあり
SB002	N－49°－W	3間×1間	32～48	20～44	7.52×3.76	8尺，9尺	12.5尺	28.3	SB001を切る
SB005	N－87.5°－E	3間×2間	48～73	33～65	5.72×3.7	6尺前後	6尺	21.2	SD007に切られる
SB006	－	－	50～60	18～23	－	－	4．5尺	－	SI044を切る
SB007	N－82.5°－W	2×2間	23～41	13～48	3.6×3.2	6尺前後	5.3尺	11.5	

第3節　土坑

本遺跡からは，11基の土坑が検出されている。伴う土器が出土していないため時期の明確でないものも存在するが，それらも含めてここでは古墳時代から奈良時代の土坑として扱うこととした。

SK006（第58図）

調査区東端，2E－67付近に所在する。長軸1.5m，短軸1.0mを測る不整形を呈する。確認面からの掘り込みは0.4mである。覆土底面近くにはハードロームブロック主体の土が流れ込み，上層には焼土粒や炭化粒を含むが，自然堆積と思われる。

遺物の出土はなかった。

SK010（第58図，図版27）

調査区中央，3D－48付近に所在し，SI034の北東壁に接する。径2.7mの略円形を呈し，確認面からの深さ1.0mを測る。階段状に掘り込まれていることから，井戸状遺構になる可能性がある。覆土全体にロームブロックやローム粒を多く含むことから，廃棄段階で埋め戻されたものと思われる。

遺物の出土はなかった。

SK015（第60・61図，図版33）

調査区北側，3D－06付近に所在する。SI053ほぼ全体をを掘り込んで構築されている。平面形はSI053の床面上で確認されているが，本来の規模は覆土上面に存在すると思われ，そこで推定すると，径4.0mの円形を呈するようである。深さについては，危険を伴うことから1.7mほど調査したのみで，さらに深く掘り込まれている。階段状に掘り込まれていること，井戸枠を支える4本のピットが壁を掘り込んで確認されていることから井戸状遺構になるものと思われる。覆土はSK010同様全体にロームブロックやローム粒を多く含んでおり，やはり廃棄段階で埋め戻されたものと思われる。

出土土器

覆土中より古墳時代の土師器が出土している。本遺構は，古墳時代後期の竪穴住居跡を切って構築されていることから，これらの土器は流れ込みで，SI053に伴うものである。1は口縁部が内傾，2・3はやや外反するタイプの杯で，いずれも内外面赤彩される。調整もほぼ同様で，内面ナデ，外面ヘラケズリ後丁寧なナデが施される。1は推定口径14.8cm，器高3.8cm，2は推定口径14.1cmを測る。2は底部が若干突出気味になっており，高杯になる可能性もある。3はほぼ完形で，口径15.2cm，器高4.3cmを測る。4は鉢の底部であろうか。

SK016（第58・61図，図版33）

調査区中央，3E－42に所在し，SI017の床面で検出されたが，攪乱が激しいため新旧関係は不明である。SI017出土土器とほぼ同様の時期と考えられる土器が出土していることから，SI017に伴う土坑かもしれない。長軸1.6m，短軸1.1mを測る長楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは50cmほどである。覆土は自然堆積の様相を示す。

出土土器

西壁に沿った覆土中層より5の杯が出土している。推定口径13.4cm，器高4.7cmを測る。作りは比較的丁寧で，内外面とのナデ調整が加えられ，平滑に仕上がっている。内外面とも赤彩がみられる。

SK020（第58図）

調査区中央付近，33－36に所在し，SI041と重複する。切り合い関係から本遺構の方が新しい所産であると考えられる。長軸1.4m，短軸1.2mを測る楕円形を呈する。確認面からの掘り込みは0.5mほどである。覆土全体にロームブロックがみられることから，本土坑は埋め戻された可能性が高い。

出土土器

覆土中に6の杯片が検出された。推定口径13.0cmを測り，内外面とも赤彩が加えられる。

SK021（第59・61図）

調査区東端，2E－54付近に所在し，SI059と重複する。土層等からの新旧関係は不明であるが，出土土器から本土坑の方が新しくなるものと思われる。二段に掘り込まれ，長軸2.3m，短軸1.9mを測る不整形を呈する。一段深く掘り込まれる部分は長方形状となる。確認面からの掘り込みは1.5mほどとかなり深い。覆土全体にローム粒及びロームブロックが多く含まれることから，本土坑は埋め戻された可能性が高い。

出土土器

覆土中に7・8の杯が出土している。いずれも小破片であるが，胎土や調整技法等から同一個体と考えられる。推定口径15.0cmと比較的大形で，盤状の形態を示すようである。内外面とも丁寧に調整され，きわめて平滑に仕上がっている。口縁部内面は，弱い稜が形成され，沈線状の凹みが巡っている。体部内面には放射状の暗文，底部内面には螺旋状の暗文が観察される。その特徴から，畿内産土師器と思われる。

SK023（第59・61図）

調査区南西側，4D－08付近に所在し，SI071及びSD009と重複する。土層等から，SI071より新しく，SD009より古い時期のものと思われる。全体にすり鉢状に掘り込まれ，径4.0m程を測る略円形状を呈する。確認面からの掘り込みは2.1mとかなり深い。覆土全体にローム粒及びロームブロックが多く含まれることから，本土坑は埋め戻された可能性が高い。全体の形状等から，本土坑は井戸状遺構と考えられる。

出土土器

覆土中から9の須恵器の蓋片が出土している。推定口径15.5cmを測る。摘み部を欠くが小さな宝珠状摘みが付くものであろう。口縁端部は若干折り返した痕跡が認められる程度である。胎土中の砂粒の混入は少なく，天井部外面に自然釉がみられる。

SK024（第58図）

調査区北西側，3C－52に所在し，南側が若干調査区外に延びる。長軸1.6m，短軸1.0mほどを測る隅丸長方形状を呈する。確認面からの掘り込みは1.5mとかなり深い。

遺物の出土はなかった。

SK025（第58図）

調査区北東側，1E－63に所在する。開口部は，長軸1.3m，短軸0.7mほどを測る長楕円形状を呈するが，底面が西側に延びており，オーバーハングの状況となる。確認面からの掘り込みは0.6mである。

遺物の出土はなかった。

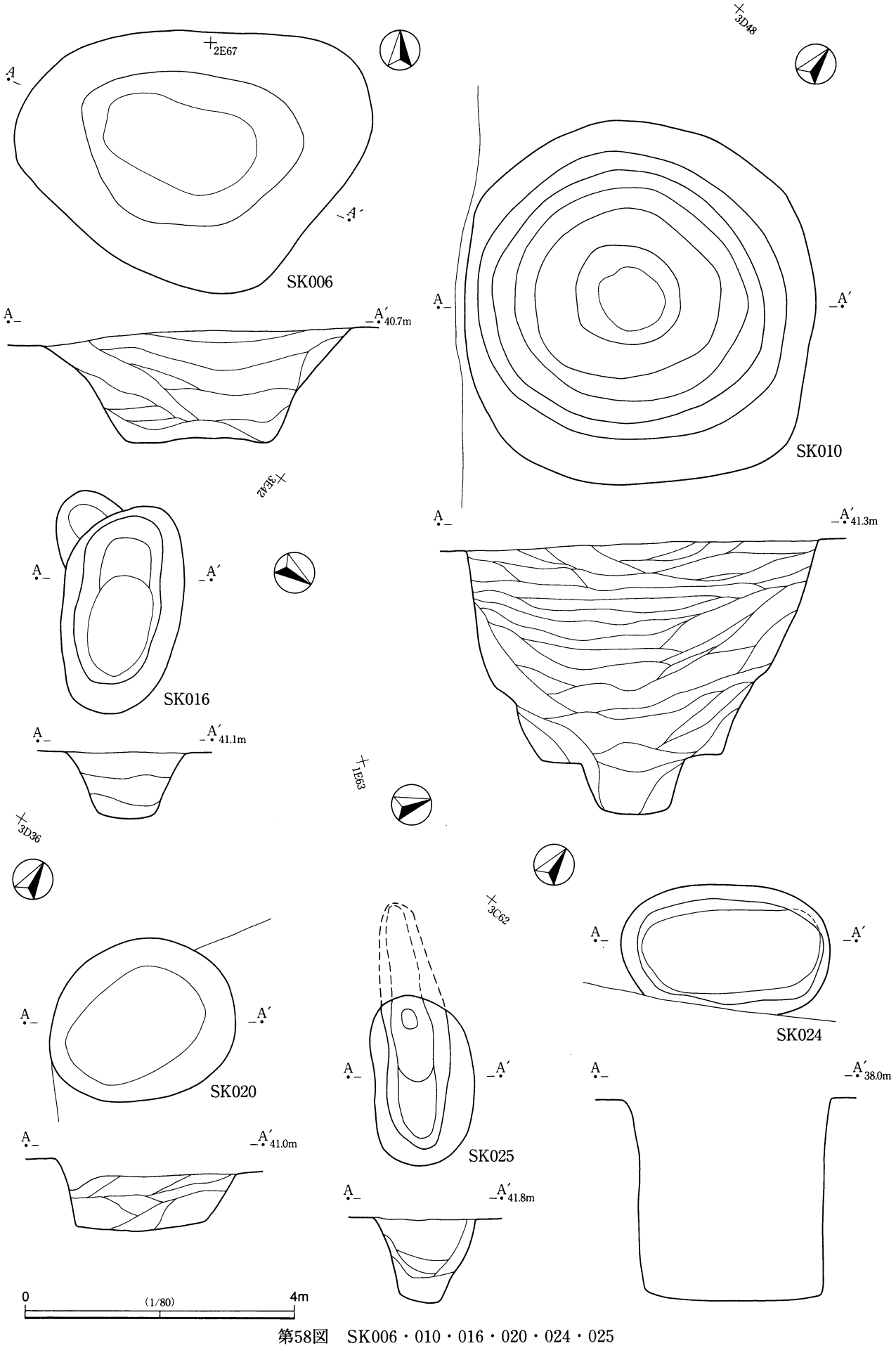
SK026（第60図）

調査区北東側，1E－63に所在し，東側が一部調査区内となる。長軸1.5mほどを測る楕円形状を呈し，北側に向かって徐々に低くなる。確認面からの掘り込みは0.4mほどである。覆土中にローム粒やロームブロックを多く含むことから，埋め戻された可能性が高い。

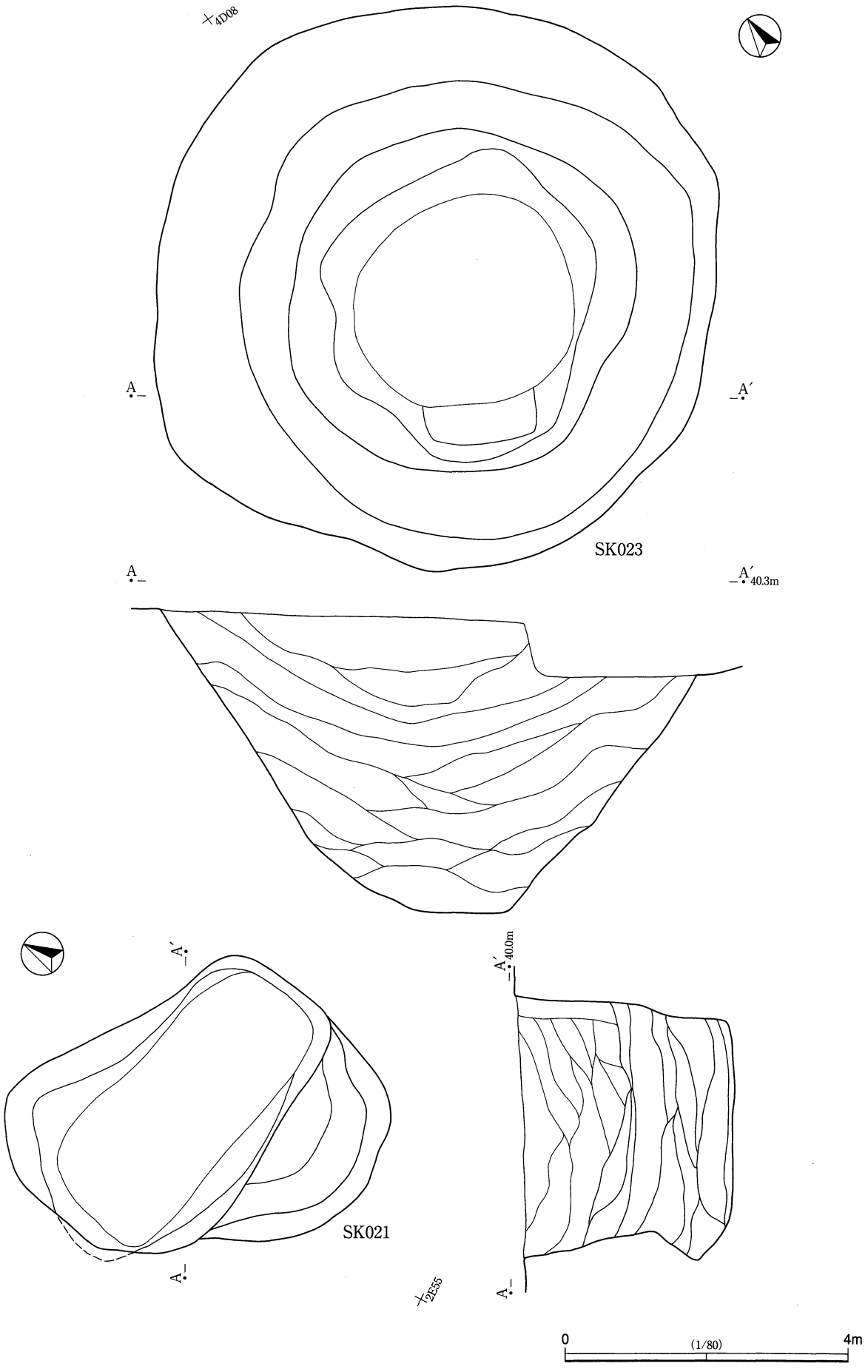
遺物の出土はなかった。

SK027（第60・61図，図版33）

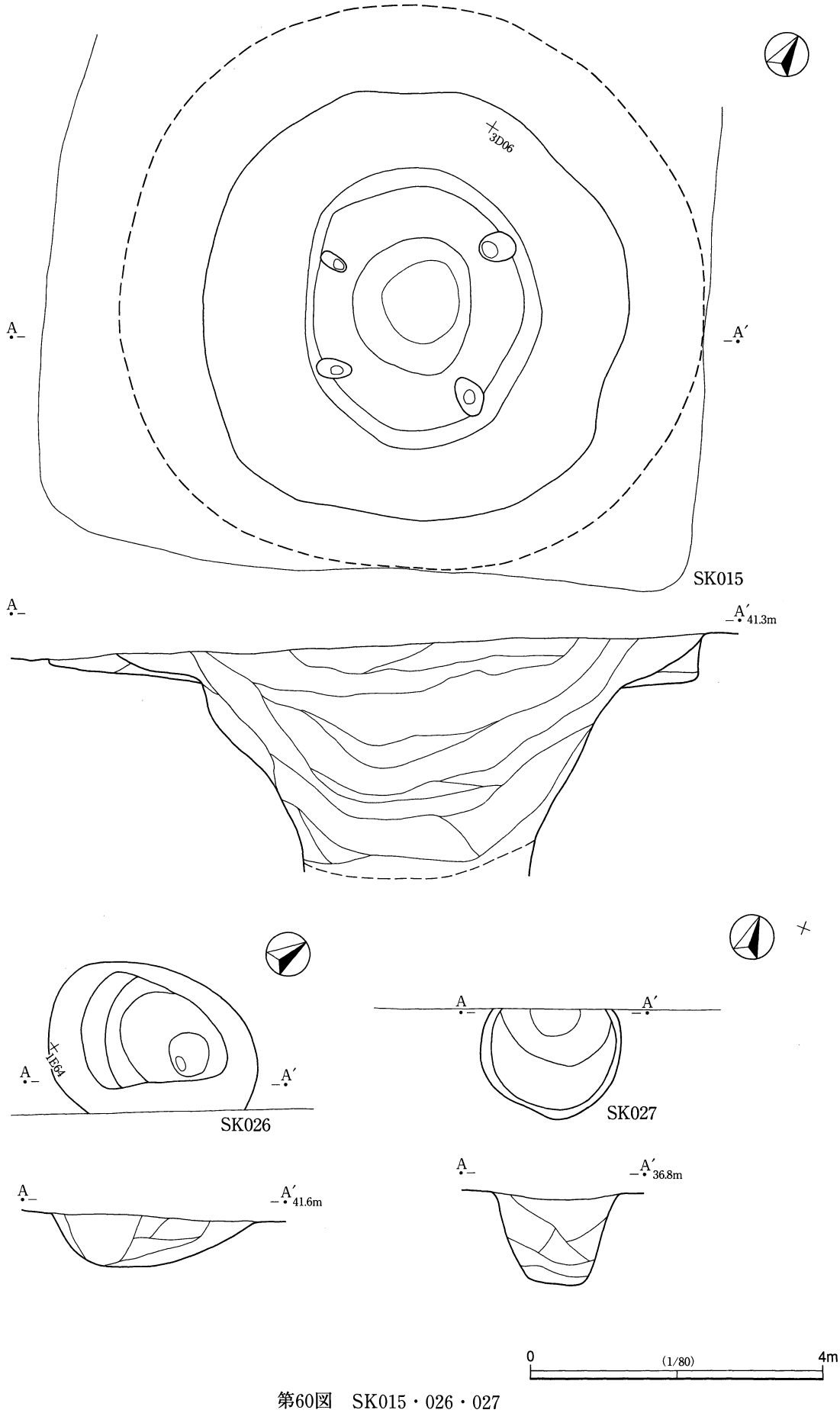
調査区北西側，3B－68に所在し，北側が一部調査区内となる。径約1.0mの円形を呈すると思われる。北側底面が一段深くなる。確認面からの掘り込みは0.6mほどである。覆土中にローム粒やロームブロックを多く含むことから，埋め戻された可能性が高い。



第58図　SK006・010・016・020・024・025



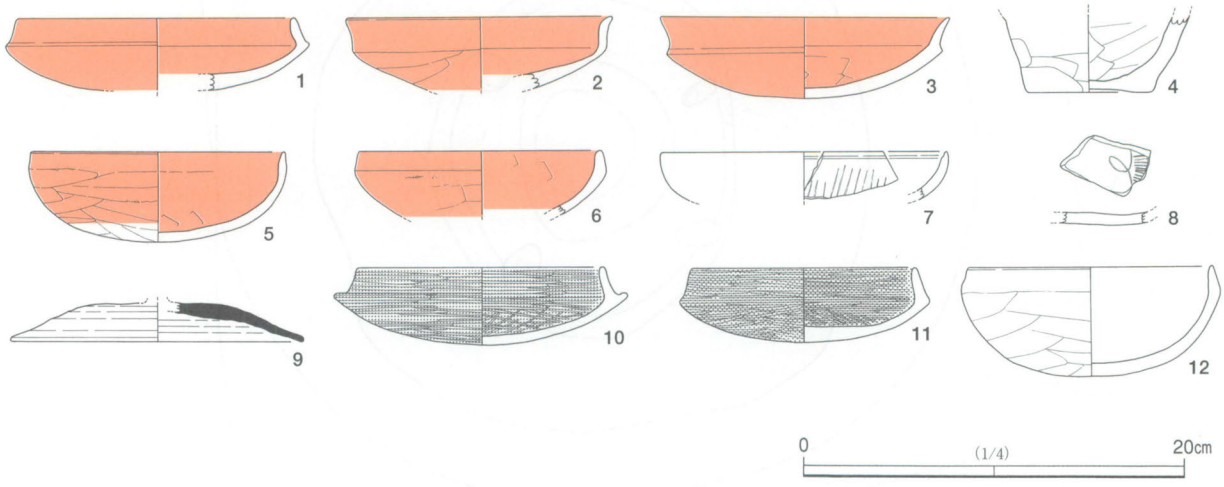
第59図　SK021・023



第60図　SK015・026・027

出土土器

覆土中から３点の杯が検出された。10・11は口縁部が内傾するタイプで，内外面とも丁寧なミガキ調整が施され，黒色処理される。胎土中の砂粒の混入も少なく，焼成も良好である。10は推定口径13.2cm，器高4.2cm，11は完形で，口径12.0cm，器高3.9cmを測る。12は椀状を呈するものである。推定口径13.0cm，器高5.7cmを測り，丁寧に仕上げられる。口縁部外面に部分的な黒斑が観察される。



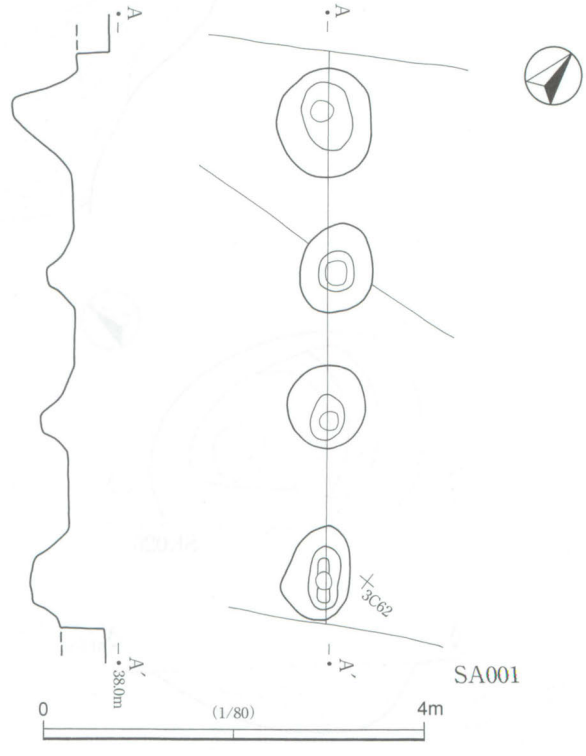
第61図　SK015・016・017・020・021・023・027出土土器

第４節　柵列状遺構

SA001（第62図）

調査区北西側，3C－51付近に所在し，SI081と重複する。SI081の覆土を掘り込んでおり，本遺構の方が新しい時期の所産と思われる。掘立柱建物跡の可能性もあるが，相対する柱穴が確認されていないことから，柵列状遺構と判断した。調査区内では４本の柱穴が検出され，その方位はN－37°－Wを指す。掘り方は，径１ｍほどの略円形を呈し，確認面からの深さは両側が0.5ｍ前後，以外は0.3ｍ前後と一定ではない。柱間も４尺～６尺とばらつきがある。

遺物の出土はなかった。



第62図　SA001

第５節　溝状遺構

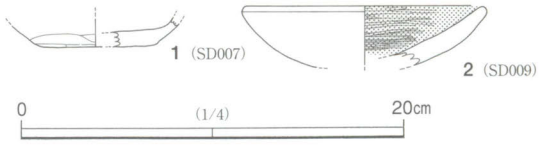
本遺跡からは，６条の溝状遺構が検出されている（第４図遺構配置図参照）が，いずれも時期や性格等は不明といわざるを得ない。ただ，SD007はSB005の柱穴に切られており，SB005より古い時期と考えられる。調査区内では，長さ20mほどを確認しているが調査区外に続くものである。幅は約２m，深さ0.6mで，しっかりとした掘り込みである。８世紀前半の掘立柱建物跡であるSB001と類似する方位を指しており，この時期の区画溝となる可能性も考えられる。

出土土器（第63図）

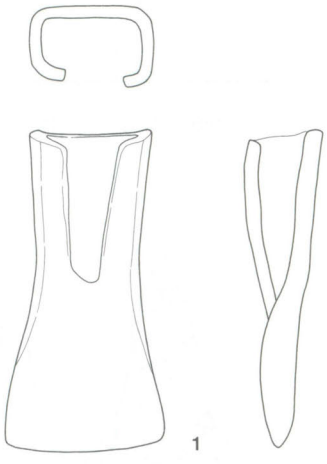
遺物の出土は少ない。１はSD007出土の杯で，底部のみの遺存である。体部下端から底部全面に手持ちヘラケズリが施されるロクロ土師器である。２はSD009出土の高杯の杯部となろう。内面に黒色処理が施される。

出土鉄製品（第64図）

１は鉄製の袋状鉄斧である。全長8.3cm，刃部幅4.2cmを測る。



第63図　SD007・009出土土器

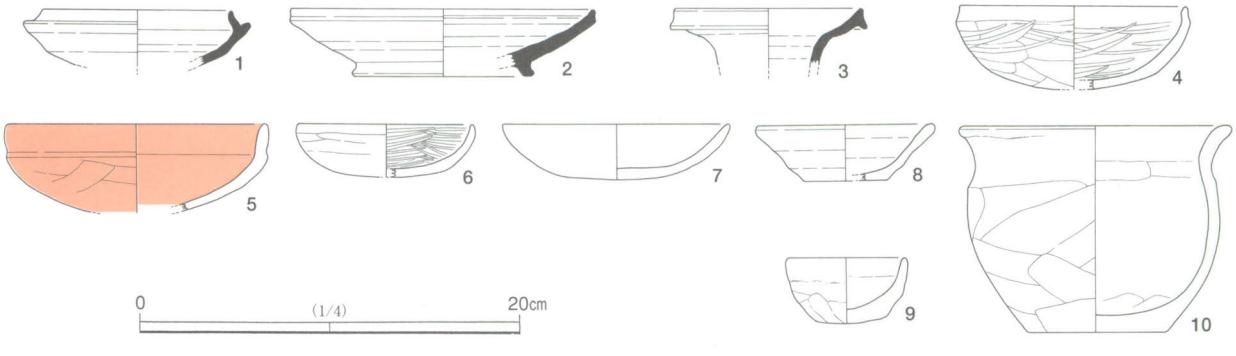


第64図　SD007出土鉄斧

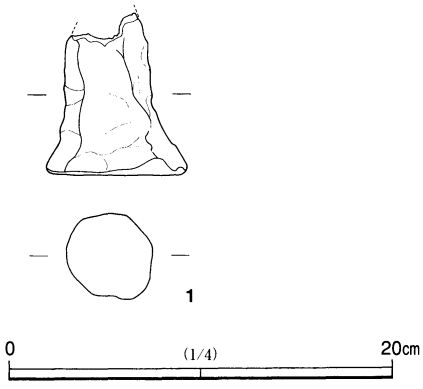
第６節　グリッド出土遺物

土器（第65図）

１は須恵器の杯身で，推定口径10.0cmを測る。胎土中に小砂粒を多く含む。２は高台付皿で，推定口径16.0cmと大きくなる。高台は底部周縁に貼り付けられる。全体に摩耗が著しい。３は長頸壺の口縁部片である。内外面に自然釉が観察される。４～７は丸底状となる杯である。５には内外面赤彩が施され，6の体部内面には丁寧なミガキ調整が加えられる。７は盤状を呈するものであろう。８はロクロ整形の杯で，底部は回転糸切り無調整となる。９は手捏ね土器で，外面に黒斑がみられる。10は完形の甕で，口径14.4cm，器高10.cmを測る。ヘラケズリは幅広で，ナデは丁寧である。胎土中に小砂粒を多く含み，二次焼成によるススの付着がみられる。



第65図　グリッド出土土器



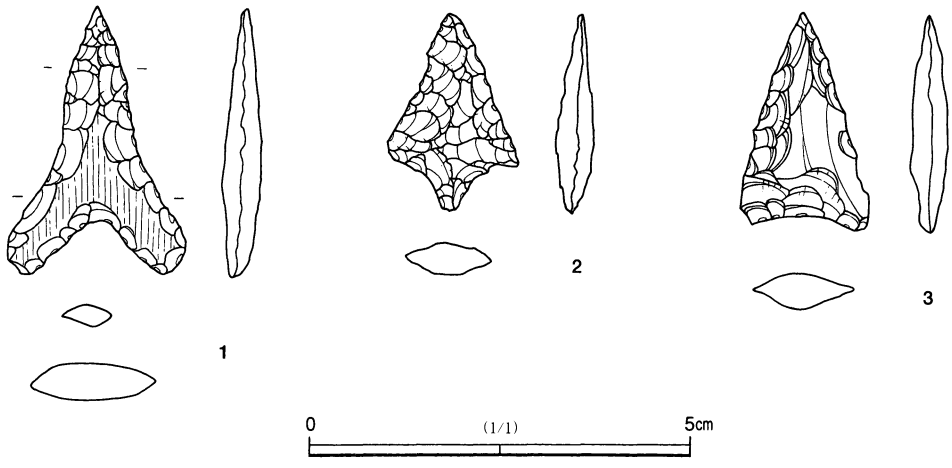
第66図　グリッド出土支脚

支脚（第66図）

1は小形の支脚で，全体に造りは雑である。指によるナデ調整が顕著で，器面の凹凸が激しい。

石鏃（第67図）

1は安山岩製で，抉りが深いタイプである。剥離部分以外の両側の平坦面は研磨されている。いわゆる部分磨製石鏃となろう。全長3.2cm，最大幅2.1cmを測る。2はチャート製で，基部が突出するタイプである。いわゆる有茎石鏃となる。全長2.3cm，最大幅1.6cmを測る。3は黒曜石製で，基部はほぼ平坦である。全長2.5cm，最大幅1.5cmを測る。



第67図　グリッド出土石鏃

第3章　まとめ

第1節　出土土器について

本遺跡は，古墳時代後期から奈良時代にかけての集落であり，竪穴住居を主体として掘立柱建物が伴っている。ここでは，主に竪穴住居跡から出土した土器の変遷を考察したうえで，集落の動向について考えてみる。

出土土器

第1期（6世紀前半）　SI017・SI025・SI054

第2期（6世紀中葉）　SI021・SI035・SI065・SI080

第3期（6世紀後半）　SI023・SI029・SI039・SI074・SI077・SI081

第4期（7世紀前半）　SI10・SI14・SI026・SI028・SI041・SI044・SI046・SI058・SI060・SI068 SI073・SI076

第5期（7世紀中葉）　SI009・SI015・SI020・SI024・SI027・SI051・SI059

第6期（7世紀後半）　SI013・SI016・SI018・SI033・SI040・SI047・SI052・SI061・SI069・SI072・SI075

第7期（8世紀前半）　SI001・SI004・SI005・SI008・SI011・SI022・SI030・SI032・SI034・SI053・SI062・SI063・SI064

第1期

本遺跡の出現時期を示す土器群は6世紀前半と考えられる。該期には，SI017とSI054の2軒の竪穴住居跡に良好なセットがみられる。杯は，口縁部が長く，体部が半球形状に深くなるタイプが多い。平均口径は13.7cmを測り，器高は平均5.1cmとなる。口径を器高で割った径高指数は平均2.55である。また，内外面赤彩される資料が多いのも特徴である。

高杯は，SI054で1点のみの出土であるが，半球形状の杯部に裾が広がる柱状の脚部が付くタイプである。甕は全体に球形胴を呈する。

第2期

基本的に第1期と大きな差はないが，杯にいくつかのバリエーションがみられるようになる。口径も最大16cmから最小11.8cmとばらつきが認められる。平均口径は13.6cm，器高は4.6cm，径高指数は2.9cmを測り，第1期の杯よりも口径に比して器高が低くなる傾向にある。赤彩の杯は少なくなり，黒色処理されるものが姿を現すようになる。高杯の資料も増加してくる。口縁部が外反する杯部に短い脚部が付くタイプで，内面黒色処理，外面赤彩が施される。第3期にみられる高杯の祖形になると思われる。甕は球形胴に近いものが多いが，やや長胴を呈するものもみられる。杯の形状は前代を受け継ぐ形で認められること，高杯の脚部が長脚とならない点などから本期は6世紀中頃と考えられる。

第3期

この時期になると，資料数が増加してくる。杯には口縁部下端に強い稜を有する須恵器模倣のタイプに加えて，明瞭な稜を持たずに口縁部が立ち上がる浅い椀状のタイプも多くなる。特徴的なのは，内外面黒

色処理される東北系の土師器杯がSI029から2点出土したことである。房総における東北系土師器杯の出現は6世紀後半と考えられていることから，これらの土器はその出現段階に属すると思われる。この段階の杯の平均口径は13.1cm，器高は4.2cmと前代に比較して，口径・器高とも小さくなり，平均の径高指数は3.2と口径に比べて器高が浅くなる傾向が指摘できる。高杯は，前代までの短脚のタイプに加えて長脚のものが出現するようになる。甕は，球形胴のタイプが残るものの，主体は長胴となるが，形状的にはバラエティーが豊富である。この段階に胴部外面をヘラミガキするいわゆる「常総型甕」がセットの中に含まれるようになる。

杯の口径指数が前代より大きい数値を示すこと，すなわち口径に比べて器高が浅くなる傾向が強くなること，長脚の高杯や東北系の土師器杯，常総型甕の出現などから，本期は6世紀後半段階に比定できよう。

第4期

この段階の土師器杯の法量は，前段階となる第3期とそれほど変わらず，平均口径12.9cm，器高4.3cm，径高指数3.1を測る。ただ，全段階に存在していた明瞭な稜を有する模倣杯が少なくなり，形骸化した稜を持つ杯が主体となる。また，浅い椀状の杯が目立つようになる。高杯は長脚が少なくなり，短脚が主体となってくる。甕は球形胴を呈するものがほとんどなく，長胴甕が多くなる。また，この段階になってSI028例のように須恵器の杯が出現するようになる。

土師器杯に新しい様相がみられることや，短脚の高杯が多くなってくること，須恵器の杯身が法量的に湖西の加賀山第2地点1号窯とほぼ同様であることなどから，本期は7世紀前半段階に相当すると考えられる。

第5期

本期の資料数は全時期を通して最も多い。土師器杯は平均口径11.4cm，器高3.9cm，径高指数2.9cmを測る。前段階に比較して，口径が極端に小さくなり，器高も浅くなる。また，径高指数が小さくなることより，杯が全体に小形となり，扁平なものが少なくなることを示している。杯の形状からみると，いわゆる模倣杯がほとんど姿を消し，椀状のタイプが主体となる。高杯は，土器のセットの中に占める割合が少なくなり，すべて短脚となる。この段階になると，前段階に出現した須恵器が多くみられるようになる。特に，SI020とSI059では，まとまった出土が確認されている。杯の法量が10cm～10.5cmの範囲内にあり，前段階より小さくなる。

本期は，前段階までの様相とは異なり，杯の小型化が目立つようになり，この杯群に伴うように須恵器の共伴が確認される。一方，少ないながら前段階に様相を引き継ぐ土器のセットもあり，これらには須恵器の共伴がほとんどみられないのも特徴である。前者は後続する7世紀後半以降の祖形となるものであり，後者は古墳時代的な伝統的な土器のセットと考えられる。本期は須恵器の法量等から7世紀中頃と想定されるが，土器の様相からすると一つの画期となる段階と思われる。

第6期

この段階になると，前期の前者とした小形杯の小形化が進むようになる。土師器杯は，平均口径11.0cm，器高4.1cm，径高指数2.7cmを測る。この数値から導き出される傾向は，口径が小さくなり，器高がやや深くなる器形が主体となることを示している。いわゆる椀状の器形が半球形状に近くなってくる。中には，小さな平底状を呈するものもみられる。須恵器はSI033のセットの中にみられる。その中の摘みの付くカエリ蓋は，口径11cm前後で，器高がやや深くなる。飛鳥Ⅳの時期の畿内産土師器杯を出土した成田市大袋山

王第2遺跡B地区63号住居跡のセットの中に摘みの付くカエリ蓋が多量に認められるが，それと比較すると，口径・器高ともやや大きい。飛鳥Ⅳの年代を西暦680年頃とすると，それよりは本期の須恵器蓋はやや古くなるものであろう。短脚の高杯も少ないながら存在している。

以上のような土器の様相から，本期は第5期に後続する7世紀後半と考えるのが妥当と思われる。

第7期

本遺跡の集落の最終段階であるが，資料数的には前段階と比べてもあまり変わらない。本期の土師器杯は，前段階の小形化した椀状のタイプから大きく変化し，大形化するようになる。平均口径13.3cm，器高4.6cm，径高指数2.9cmを測ることから，全体に扁平な器形が多くなってくる。房総では，7世紀末から8世紀初頭にかけて皿状の大形の杯が出現する傾向が指摘されており，本遺跡でも同様の状況が考えられる。須恵器の占める割合も比較的多く，前段階までは1軒の住居に集中する傾向が強かったが，この時期ではほとんどの住居に認められる。杯身は高台の付くタイプがほとんどで，その高台も底部の周縁に付くものが多く，高台付杯のなかでも古い様相を呈している。また，蓋は扁平な擬宝珠状の摘みが付く折り返し口縁のタイプとなる。これらの土器はきわめて律令的なセットとして捉えられるものであるが，前段階から引き続き古墳時代的な短脚の高杯が含まれている。通常，このような高杯は7世紀段階で消滅するものであるが，本遺跡では律令的な土器のセットの中に存在している。この状況は，おそらく本遺跡を含む上総北東部の地域的な特徴であるかもしれない。

このような土器の様相から，本期は8世紀前半頃に想定できよう。

第2節　集落の変遷について

第1節で述べたように，本遺跡の集落内から出土した土器の様相から，6世紀前半から8世紀前半までの約200年間にわたって集落が形成されたことが想定された。ただし，台地全面を調査した結果ではないため，明確な集落の変遷は捉えられないが，ここでは，調査範囲内に限って時期を追って7期に分類した集落がどのような展開をしていたのかを各時期ごとに検討してみる。

まず，第1期とした6世紀前半には，散漫な分布で3軒の竪穴住居が営まれる。床面積40㎡以上の比較的大形の住居と5㎡程度のきわめて小規模な住居で構成される。第2期になると4軒の竪穴住居が第1期同様散漫な状況で分布している。SI065のように床面積56㎡を測る大形の竪穴住居2軒と床面積9.5㎡を測るSI021に代表される小形の竪穴住居に分けられる。次の第3期になると，集落が徐々に大きくなり，6軒の竪穴住居が構築される，前時期までと同様単位としてまとまった様相はあまり感じられない。ただ，西側のSI077とSI081，東側のSI029とSI023がグループとして設定できるかもしれない。

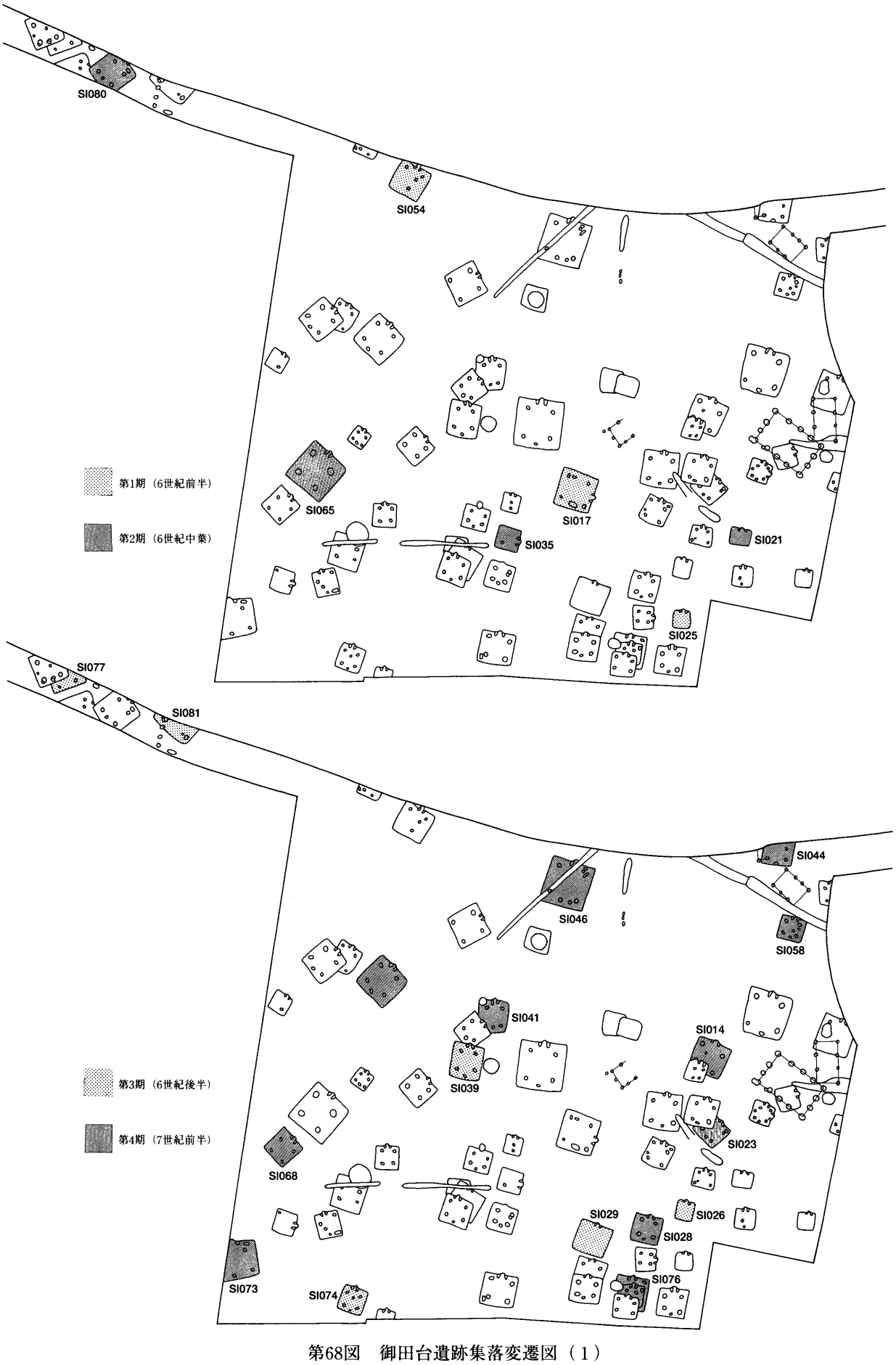
第4期になると集落規模が大きくなり，12軒の竪穴住居が認められるようになる。この段階になると，調査区西側と東側の大きく2つのグループに分けられるようである。西側のグループに属するSI046は，床面積57.1㎡と本期では最大の住居であるが，この住居だけはやや離れた位置に構築されている。第3期までは雑然とした住居配置であったのが，本期になって集団ごとのエリアが存在してくるようになったものと思われる。また，床面積の平均を第3期と比較すると，第3期が21.9㎡，第4期が23.7㎡とやや大形化してくる。

第5期になると調査区内の軒数はやや少なくなり，総数7軒を数える程度である。ただ，第4期にあった2つのエリアのうち，東側のみに集中するようになる傾向が強いことから，東側の調査区外に同時期の

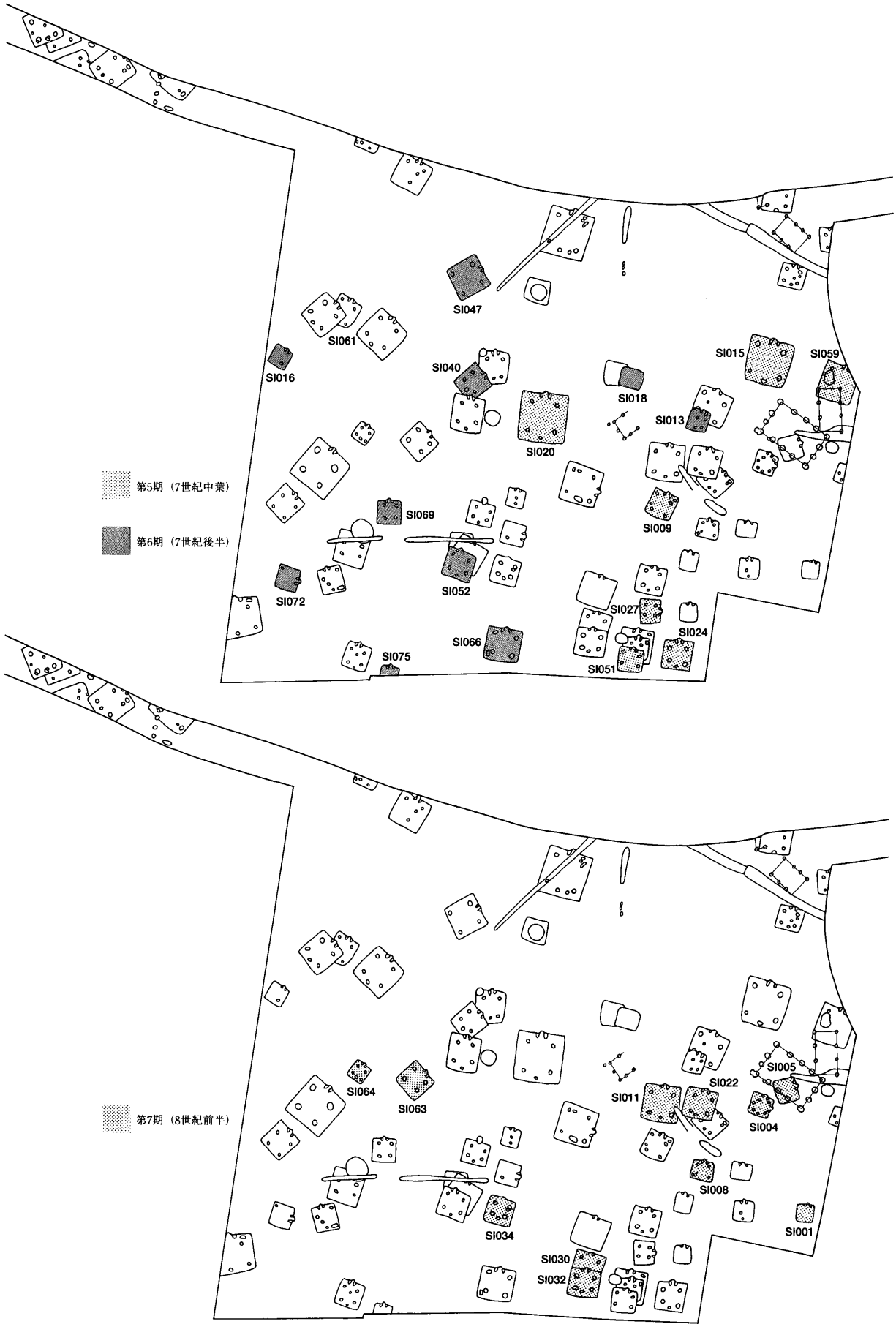
集落が展開することが想定され，決して集落規模が小さくなることではないと思われる。本期は，本集落最大床面積61.9㎡を測るSI020に代表されるように住居が大形化してくる。平均床面積は30.5㎡を測る。この中で，最大規模のSI020はエリアの西端に12軒だけ離れて存在しており，多量の須恵器を含む多くの土器が出土しており，特異な印象を受ける竪穴住居である。第4期にも最大規模の竪穴住居が離れて存在していたことと性格的に関連することが想定される。第6期は，住居の分布範囲が前期に比べて全体に西側に移るようになる。この段階になると，これまで大形化傾向を示してきた竪穴住居が急激に規模を縮小してくる。平均床面積は16.1㎡で，最大でもSI047の33.8㎡である。本集落の最後の時期である第7期は，竪穴住居13軒と調査範囲内では軒数は最も多く，その分布も比較的広い範囲を占めている。平均床面積は18.3㎡とやはり小形のものが主体である。この時期には，竪穴住居以外に掘立柱建物が営まれている。掘立柱建物の帰属時期は供伴遺物がほとんどないため明確ではないが，SB001の柱掘り方内から出土した須恵器の杯蓋は8世紀前半と想定され，本期の掘立柱建物と考えても差し支えなかろう。また，軸方向を同じくするSB005も本期に含まれる可能性が高いと思われる。SB001は，3間×4間，柱間の面積76.8㎡を測る大形の建物である。このような規模の建物は一般集落内ではあまり存在しないものであり，特殊な性格を有しているものと考えられる。具体的な性格については断定できないが，8世紀前半という時期から考えると，官衙的な性格が予想されるが，本集落ではまとまった建物がないため，官衙となる可能性は少ないと思われる。となると，有力者の居館的な性格を有する建物となる可能性がと思われる。他の建物については不明といわざるを得ない。

台地全面の調査ではないため，明確な集落変遷は提示できないが，調査範囲内の時期ごとの様相から，最後に全体の変遷をまとめておく。6世紀前半に出現した集落は，第4期である7世紀前半に集落規模が拡大し，規模的には最終段階である第7期まで同様に展開している。ただ，住居の規模をみると，第6期（7世紀後半）から急激に小さくなり，住居の構造的にはこの段階に大きな変化があったようである。出土遺物のうち，須恵器の供伴が7世紀前半頃に確認され，その後7世紀中頃から最終段階に至るまで比較的多くの須恵器の存在が確認される。東海系の須恵器が主体であることから，おそらく7世紀前半段階に新たな集団が入植し，集落規模も大きくなったものと思われる。そして，7世紀後半に，伝統的な古墳時代的大形の竪穴住居が姿を消し，その流れの中で，8世紀前半に大形の掘立柱建物を含む集落が形成されていったのであろう。

この集落が，8世紀前半に急に終息してしまう背景には，どのような状況があるのであろうか。これまで，古墳時代以降の房総の集落には，大きく6世紀中頃から集落が形成され，奈良・平安時代まで継続する「伝統的」集落と，8世紀前半から新たに集落が形成される「計画的」集落に分けられるが，本集落のように，6世紀から8世紀前半まで営まれる集落はあまりみられないものである。ただ，本遺跡の近くに位置する三田遺跡は，5世紀から8世紀前半にかけての大集落であり，8世紀中頃以降の遺構は存在していない。このようにみると，本遺跡のような変遷をする集落は，芝山地域の特徴なのかもしれないし，8世紀以降計画的に営まれる集落の母体としての性格を有していた可能性も考えられよう。



第68図　御田台遺跡集落変遷図（1）



第69図　御田台遺跡集落変遷図（2）

写　真　図　版

遺跡周辺航空写真（平成５年１月22日撮影）

図版2

遺跡航空写真
（北西から）

遺跡航空写真
（南西から）

遺跡航空写真
（南東部分）

SI001全景

SI002全景

SI003全景

図版4

SI004全景

SI008全景

SI009全景

SI010全景

SI010カマド付近
遺物出土状況

SI013全景

SI014全景

SI015全景

SI016全景

SI017全景

SI017遺物出土状況

SI017貯蔵穴付近
遺物出土状況

SI018全景

SI019全景

SI020全景

SI021全景

SI022全景

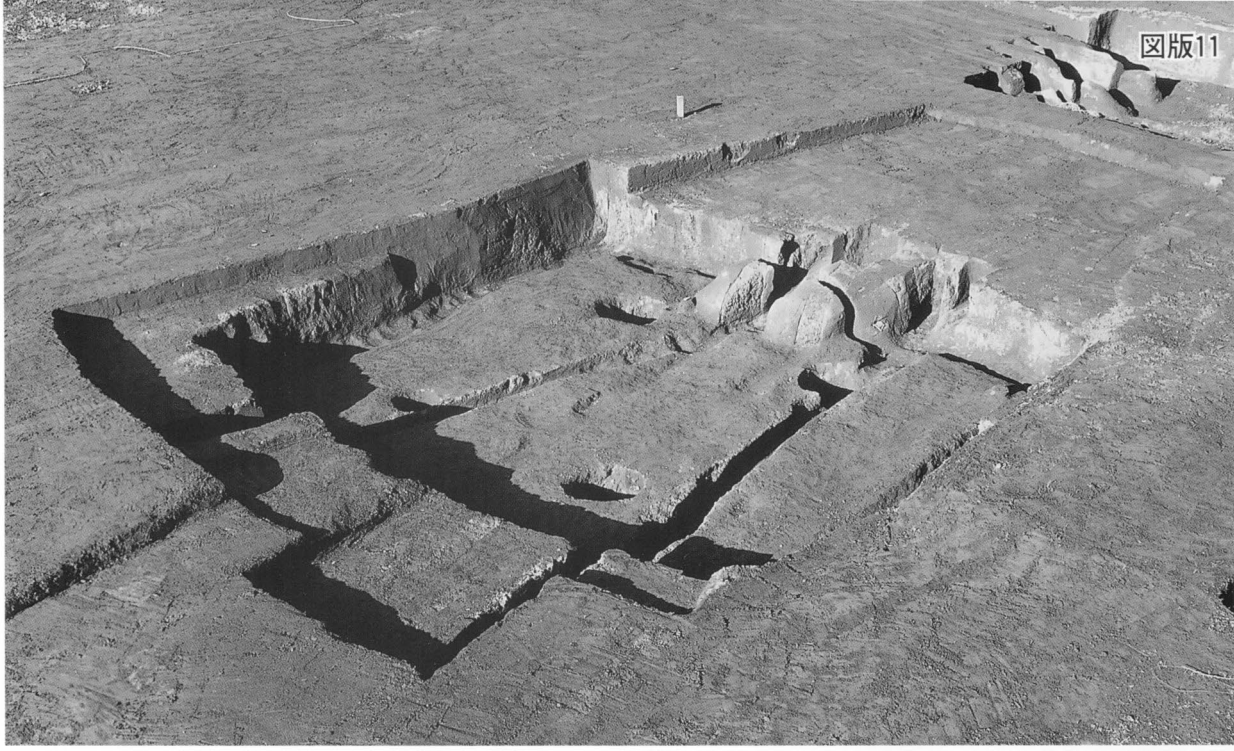
SI023全景

図版10

SI024全景

SI025全景

SI026全景



SI027全景

SI028全景

SI029全景

図版12

SI029カマド付近
遺物出土状況

SI030・032全景

SI031全景

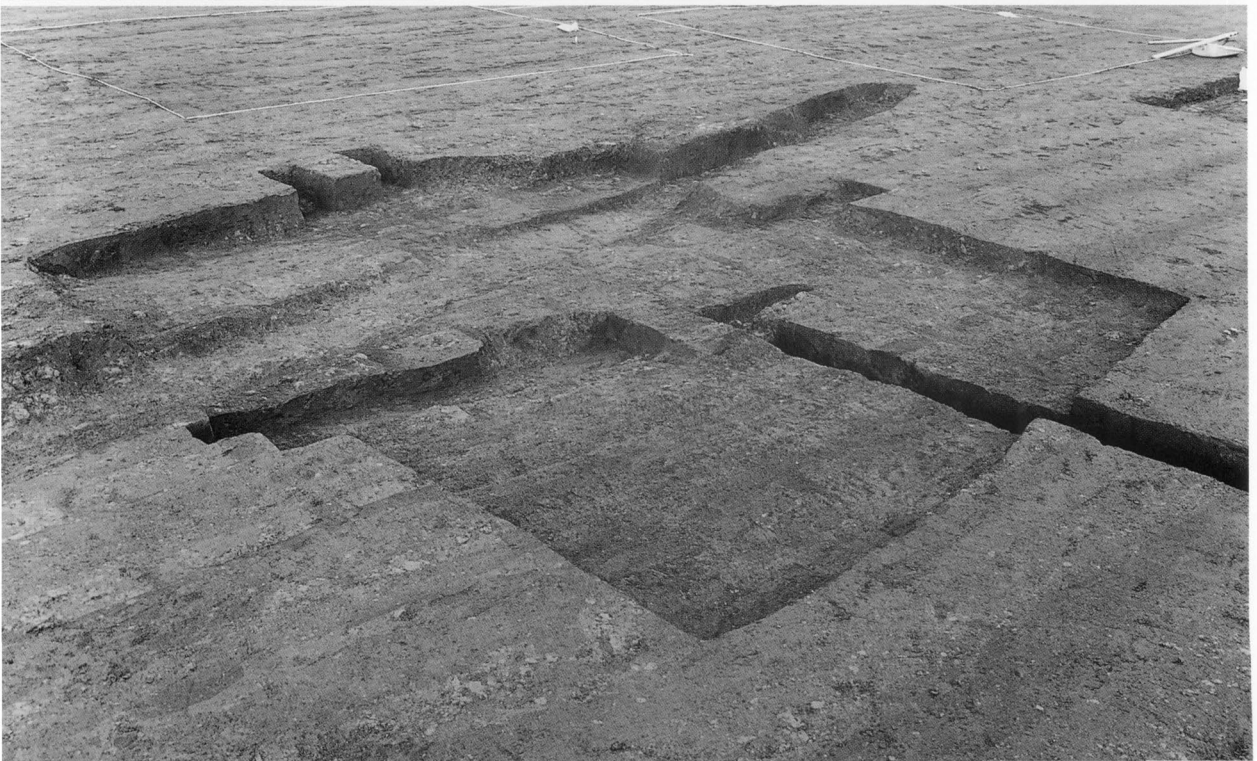
SI033全景

SI033カマド状況

SI034全景

SI035全景

SI037全景



SI038全景

SI039全景

SI039カマド付近
遺物出土状況

SI040全景

SI041全景

SI042全景

SI044全景

SI046全景

SI047全景

SI050全景

SI051・028全景

SI052全景

SI053・SK015全景

SI054全景

SI055全景

SI058全景

SI059全景

SI061全景

SI062全景

SI063全景

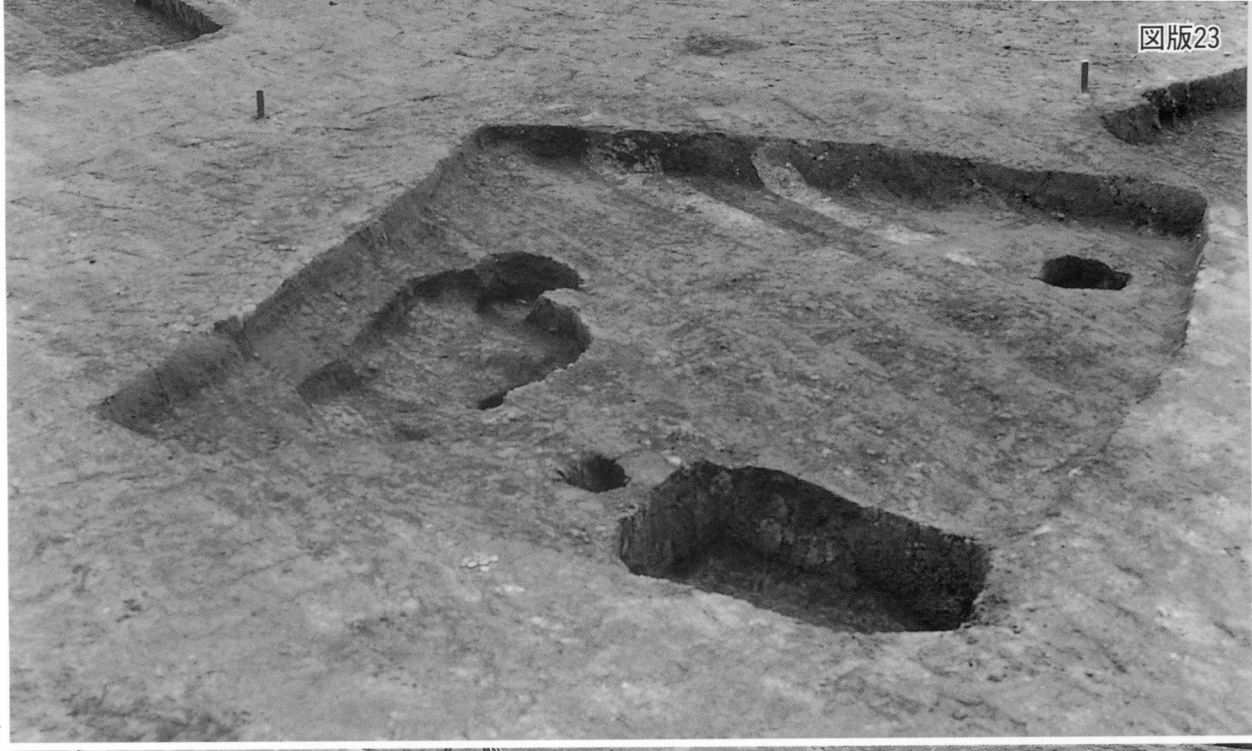
SI064全景

SI065・068全景

SI068全景

SI069全景

SI070全景



SI071全景

SI072全景

SI073全景

SI074全景

SI075全景

SI076全景

SI077・082全景

SI078全景

SI080全景

SI081全景

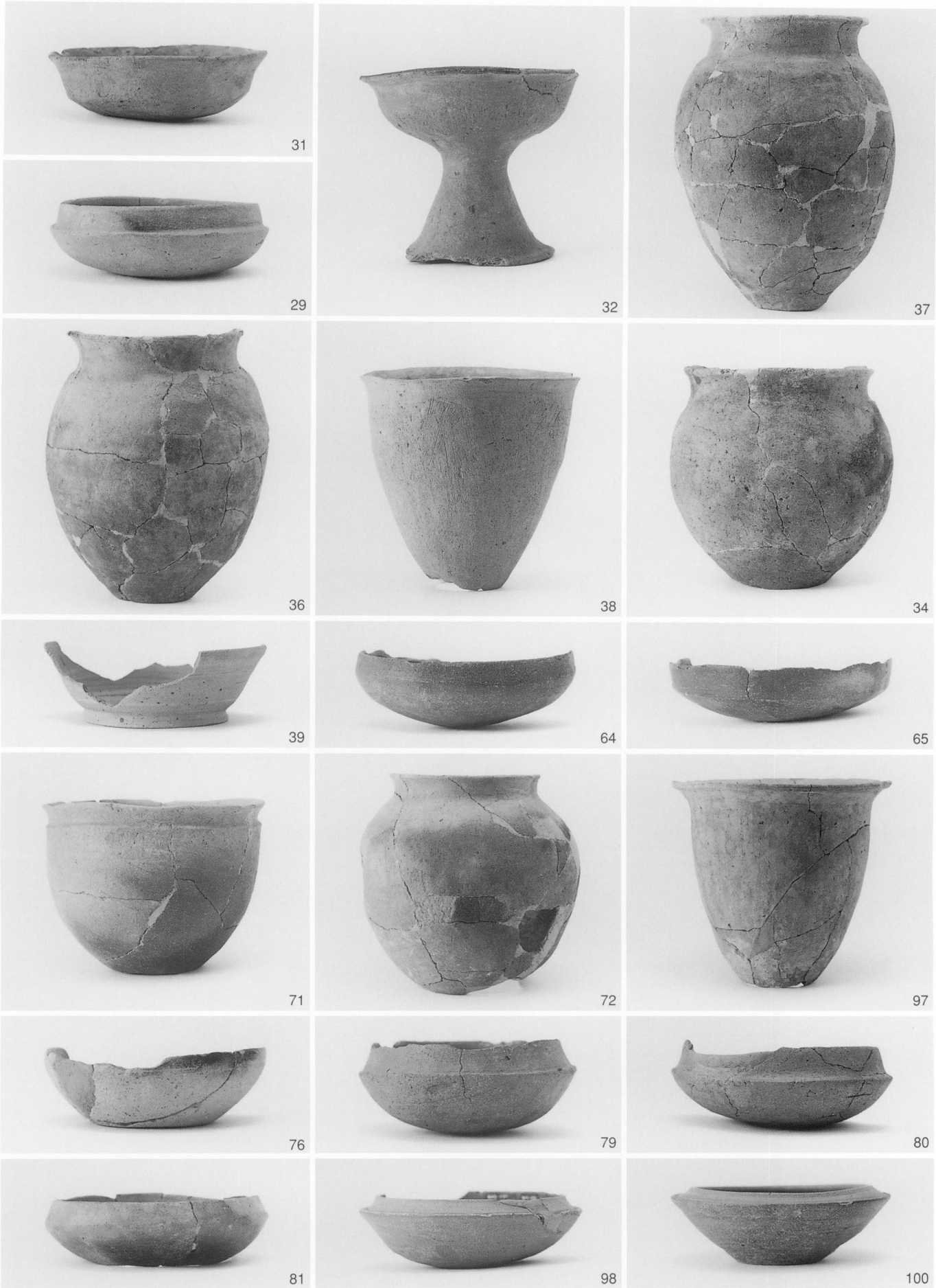
SI082全景

SB001全景

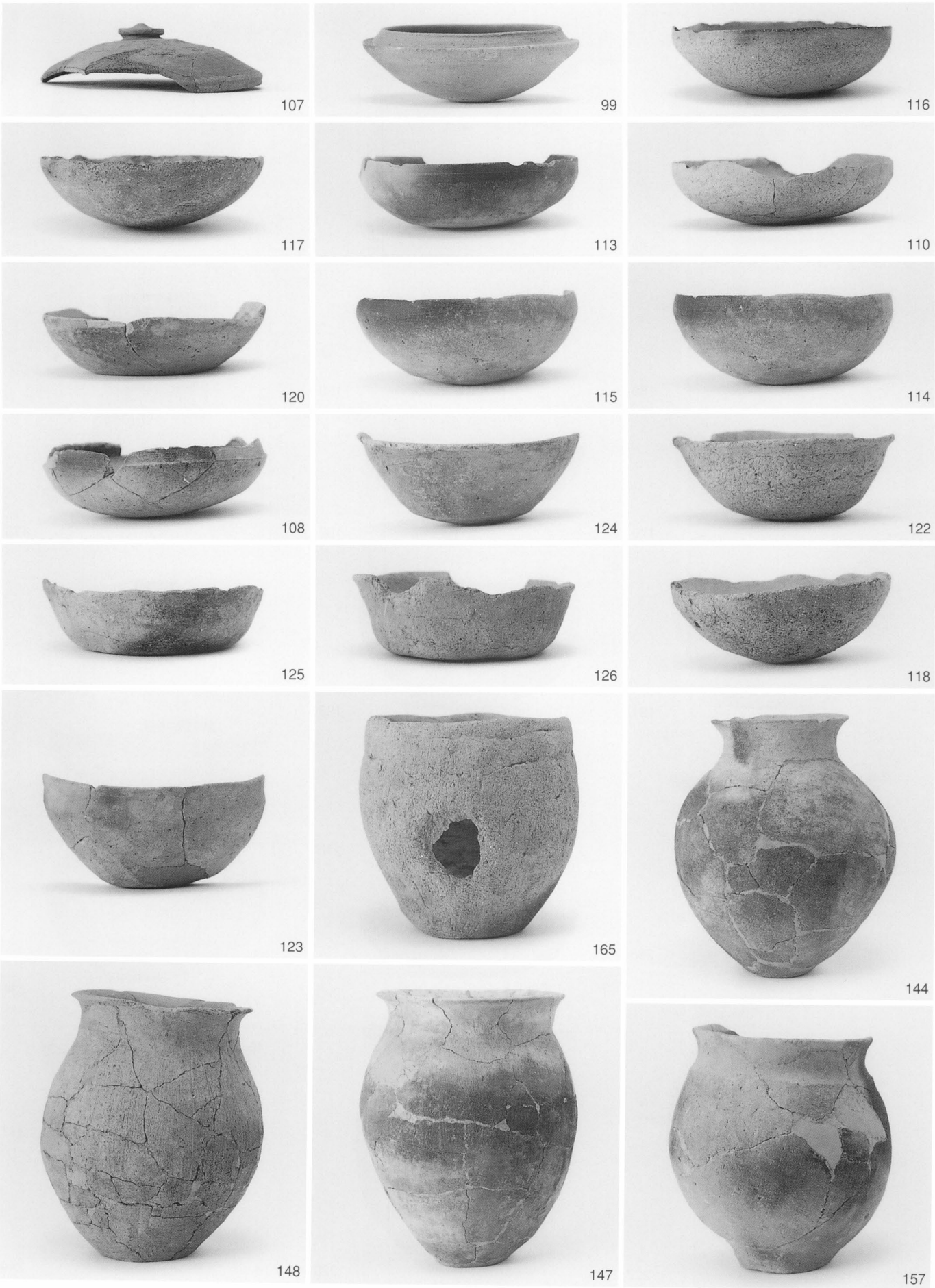
SB006全景

SK010全景

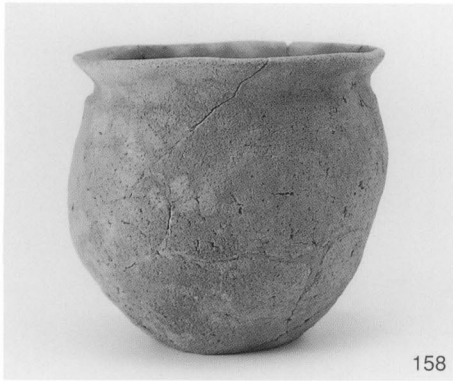
SD007全景



竪穴住居跡出土土器（1）


107
99
116
117
113
110
120
115
114
108
124
122
125
126
118
123
165
144
148
147
157

竪穴住居跡出土土器（2）


158

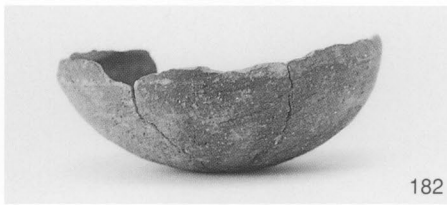
159

164

166

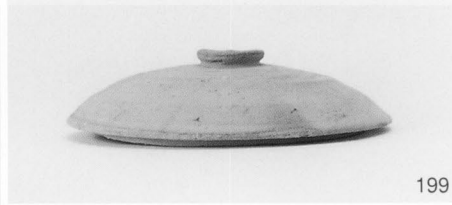
175

170


182

191

190


199

206

210

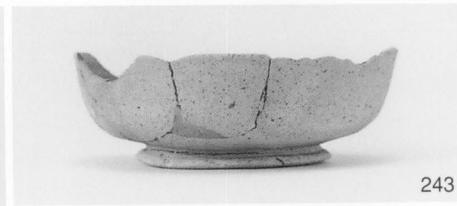
216

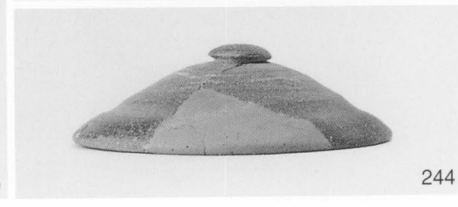
223

224

227

228


243


244

竪穴住居跡出土土器（3）

251

248

277

274

270

278

279

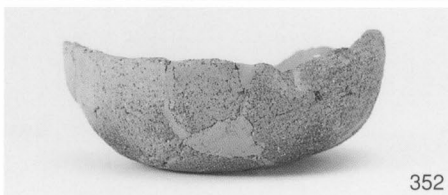
281

282

283

326

351

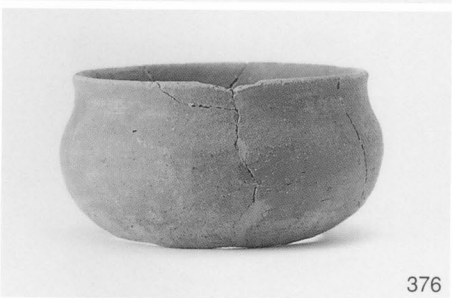

352

359

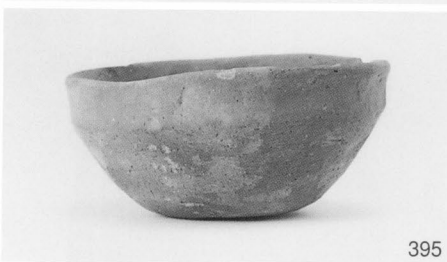
369

370

379


376

377

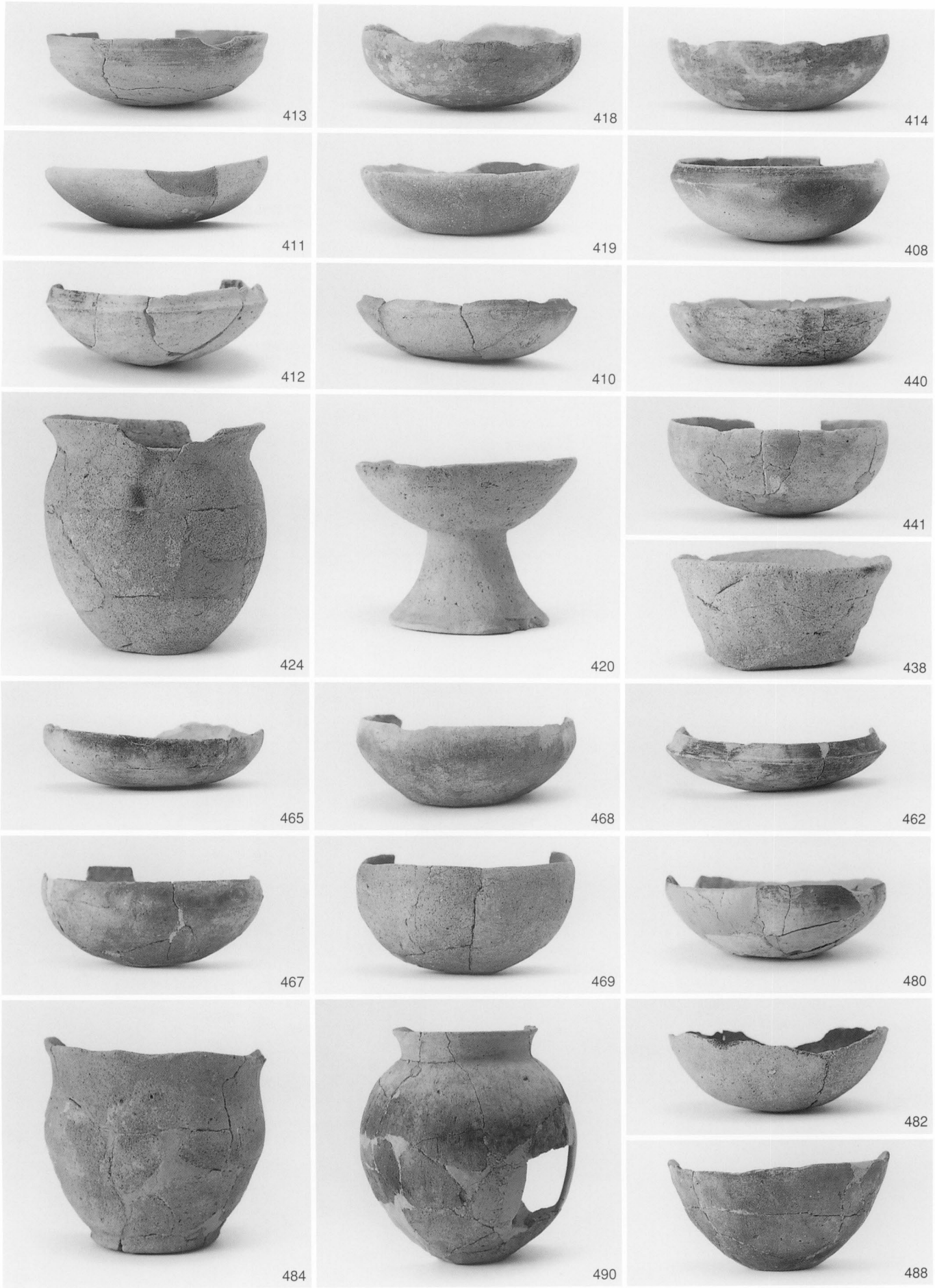

395

389

381

400

竪穴住居跡出土土器（4）


413
418
414
411
419
408
412
410
440
424
420
441
438
465
468
462
467
469
480
484
490
482
488

竪穴住居跡出土土器（5）

510

516

3

520

528

5

511

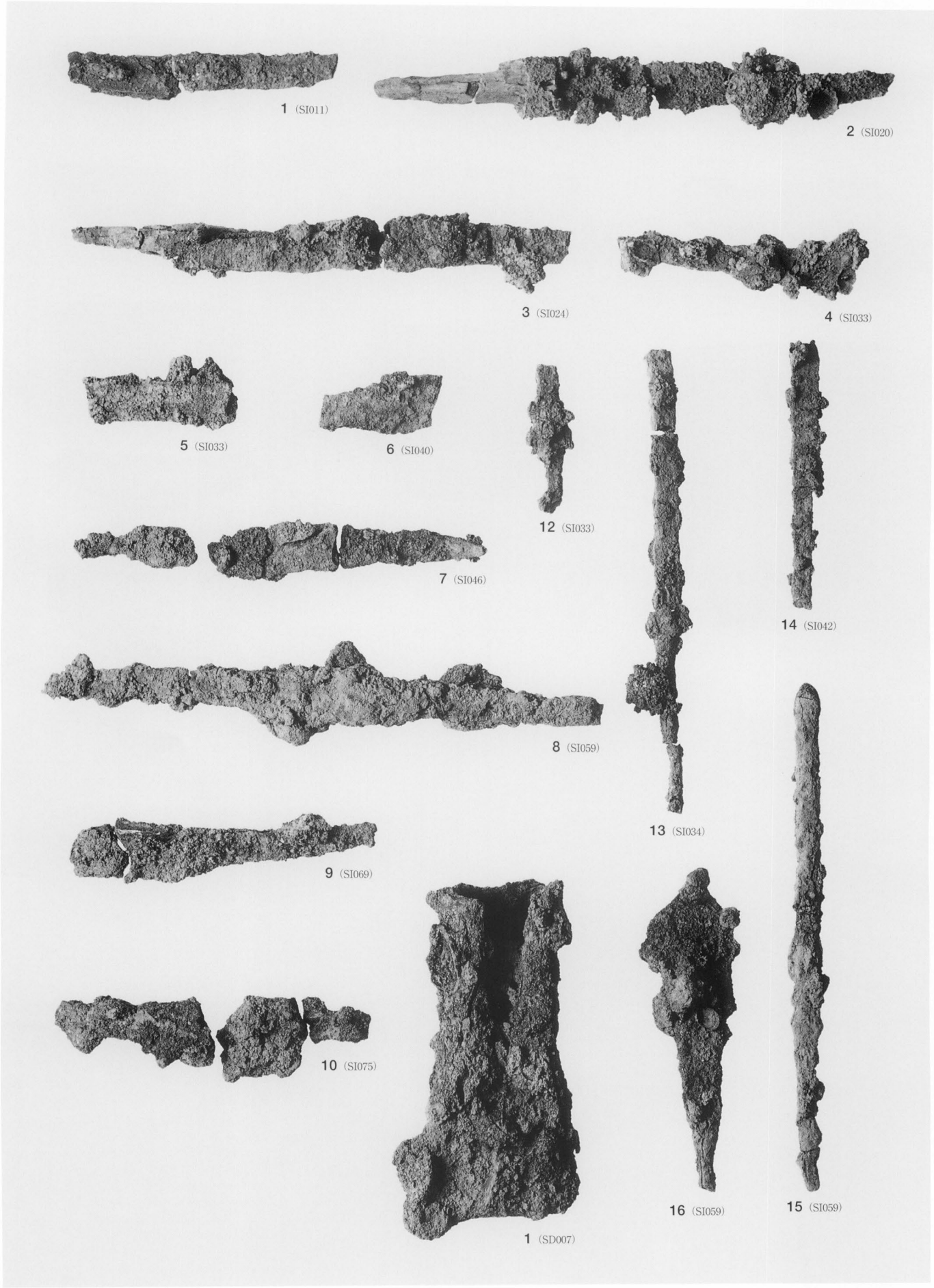
512

13

12

14

竪穴住居跡出土土器（6）


1 (SI011)
2 (SI020)
3 (SI024)
4 (SI033)
5 (SI033)
6 (SI040)
12 (SI033)
7 (SI046)
14 (SI042)
8 (SI059)
13 (SI034)
9 (SI069)
10 (SI075)
1 (SD007)
16 (SI059)
15 (SI059)

出土鉄製品

報告書抄録

ふりがな	しばやままちみだいいせき
書名	芝山町御田台遺跡
副書名	代替地用地内埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第488集
編著者名	栗田則久
編集機関	財団法人千葉県文化財センター
所在地	〒284－0003　千葉県四街道市鹿渡809－2　TEL 043－422－8811
発行年月日	西暦2004年3月25日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
御田台遺跡（みだいいせき）	千葉県山武郡芝山町（ちばけんさんぶぐんしばやままち）小池元高田荒追（こいけもとたかだあらおい）1357 ほか	409	020	35度 41分 24秒	140度 25分 11秒	20010801～ 20020329	10,135㎡	代替地用地造成による

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
御田台遺跡	集落	古墳時代 奈良時代	竪穴住居跡　69 掘立柱建物跡　5 土坑 溝状遺構	土師器，須恵器，砥石，鉄製品，支脚，紡錘車	大形の掘立柱建物跡１棟

千葉県文化財センター調査報告第488集

芝山町御田台遺跡

— 代替地用地内埋蔵文化財調査報告書 —

平成16年3月25日発行

編　　集　　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　　新東京国際空港公団
成田市木の根字神台24
新東京国際空港内

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　　刷　　株式会社　正　文　社
千葉市中央区都町1－10－6